

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ジッセンジョシガクエン 学校法人 実践女子学園								
フリガナ大学の名称	ジッセンジョシダイガク 実践女子大学 (Jissen Women's University)								
大学本部の位置	東京都日野市大坂上四丁目1番地の1								
大学の目的	本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学の精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを實踐し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	生活科学部では、食物、栄養、健康、衣服、もの、住まい、ライフスタイル、幼児・保育に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的としており、現代生活学科では、特に現代生活の問題を構造的に捉えクリエイティブに解決できる人材の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	生活科学部 [Faculty of Human Life Sciences] 現代生活学科 [Department of Studies on Lifestyle Management] 計	年	人	年次人	人	学士 (生活科学)	年月 第年次	東京都日野市大坂上四丁目1番地の1	
		4	60	-	240		平成26年4月 第1年次		
			60	-	240				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	平成26年4月 実践女子大学収容定員増（平成25年3月認可申請提出済） 平成26年4月 名称変更 実践女子短期大学 → 実践女子大学短期大学部（平成25年4月届出済）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	生活科学部現代生活学科	57科目	28科目	4科目	89科目	124 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	生活科学部 現代生活学科	人	人	人	人	人	人	人
			3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	8 (8)
		計	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	8 (8)
	既設分	文学部 国文学科	12 (13)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	16 (17)	0 (0)	49 (49)
		英文学科	9 (9)	2 (2)	4 (4)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	56 (56)
		美学美術史学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	50 (50)
		生活科学部 食生活科学科	17 (19)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	24 (26)	0 (0)	35 (35)
		生活環境学科	10 (10)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	40 (40)
		生活文化学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	42 (42)
		人間社会学部 人間社会学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	20 (20)
	現代社会学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	16 (16)	
	計	75 (78)	24 (24)	11 (11)	7 (7)	117 (120)	0 (-)	308 (308)	
合計		78 (81)	26 (26)	12 (12)	7 (7)	123 (126)	0 (0)	316 (316)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		45 (45)	49 (49)	94 (94)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)	0 (0)	7 (7)					
	そ の 他 の 職 員		44 (44)	0 (0)	44 (44)					
	計		96 (96)	49 (49)	145 (145)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	32,295㎡	4,758㎡	0㎡	37,053㎡	実践女子短期大学と共用				
	運 動 場 用 地	10,740㎡	0㎡	9,353㎡	20,093㎡					
	小 計	43,035㎡	4,758㎡	9,353㎡	57,146㎡					
	そ の 他	859㎡	1,996㎡	16,606㎡	19,461㎡					
	合 計	43,894㎡	6,754㎡	25,959㎡	76,607㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計		実践女子短期大学と共用			
		27,392㎡ (35,406㎡)	25,804㎡ (25,804㎡)	0㎡ (0㎡)	53,196㎡ (53,196㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	93室	40室	42室	7室 (補助職員6人)	1室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		生活科学部現代生活学科		6 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む		
	現代生活学科	25,744 [4,196] (25,744 [4,916])	2,566 [236] (2,566 [236])	6契約、366 [366] タイトル (6契約、366 [366] タイトル)	238 (238)	0 (0)	0 (0)			
	計	25,744 [4,196] (25,744 [4,916])	2,566 [236] (2,566 [236])	6契約、366 [366] タイトル (6契約、366 [366] タイトル)	238 (238)	0 (0)	0 (0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		6,762㎡	559	699,000						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
		2,245㎡	テニスコート 4面 卓球場							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		695千円	1,277千円	1,892千円	2,471千円	—千円	—千円	
		図書購入費	484千円	986千円	1,971千円	2,975千円	3,942千円	—千円	—千円	
	設備購入費	1,598千円	4,154千円	19,492千円	2,234千円	2,935千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,300千円	1,020千円	1,020千円	1,020千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金収入、私立大学経常経費補助金、資産運用収入、事業収入等							
大 学 の 名 称		実践女子大学								
学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
文学部		年	人	3年次人	人		倍		東京都日野市大坂上四丁目1番地の1 (平成26年4月から東京都渋谷区東一丁目1番地49)	
国文学科		4	110	13	478	学士(文学)	1.21	昭和40年度		

既設大学等の状況	英文学科	4	110	13	478	学士 (文学)	1.22	昭和40年度	
	美学美術史学科	4	90	8	388	学士 (文学)	1.16	昭和60年度	
	生活科学部						1.16		
	食生活科学科	4	185	4	613	学士 (生活科学)	1.10		
	食生活科学科 管理栄養士専攻	4	70	2	266	学士 (生活科学)	1.10	昭和41年度	
	食生活科学科 食物科学専攻	4	75	2	307	学士 (生活科学)	1.10	昭和41年度	
	食生活科学科 健康栄養専攻	4	40	-	40	学士 (生活科学)	1.32	平成25年度	東京都日野市大坂上四丁目1番地の1
	生活環境学科	4	80	2	332	学士 (生活科学)	1.24	昭和40年度	
	生活文化学科	4	85	4	359	学士 (生活科学)	1.19		
	生活文化学科 生活文化専攻	4	40	2	172	学士 (生活科学)	1.28	平成19年度	
	生活文化学科 幼児保育専攻	4	45	2	187	学士 (生活科学)	1.11	平成19年度	
	人間社会学部						1.15		
	人間社会学科	4	100	10	470	学士 (人間社会学)	1.15	平成16年度	東京都日野市大坂上四丁目1番地の1 (平成26年4月から東京都渋谷区東一丁目1番地49)
	現代社会学科	4	100	10	310	学士 (人間社会学)	1.10	平成16年度	
	文学研究科						0.19		
	国文学専攻 (博士後期課程)	3	3	-	9	博士 (文学)	0.00	昭和44年度	
	国文学専攻 (博士前期課程)	2	10	-	20	修士 (文学)	0.20	昭和41年度	東京都日野市大坂上四丁目1番地の1 (平成26年4月から東京都渋谷区東一丁目1番地49)
	英文学専攻 (修士課程)	2	6	-	12	修士 (文学)	0.00	昭和41年度	
	美術史学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	修士 (文学)	0.16	平成23年度	
	美術史学専攻 (博士前期課程)	2	6	-	12	修士 (文学)	0.58	平成4年度	
	生活科学研究科						0.41		
	食物栄養学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (食物栄養学)	0.16	平成17年度	
	食物栄養学専攻 (博士前期課程)	2	6	-	12	修士 (食物栄養学)	0.41	昭和41年度	東京都日野市大坂上四丁目1番地の1
生活環境学専攻 (修士課程)	2	6	-	12	修士 (生活科学)	0.66	平成元年度		
人間社会研究科						0.14			
人間社会専攻 (修士課程)	2	7	-	14	修士 (人間社会)	0.14	平成22年度	東京都日野市大坂上四丁目1番地の1 (平成26年4月から東京都渋谷区東一丁目1番地49)	

大学の名称		実践女子短期大学								
学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度		所在地
		年	人	年次 人	人		倍			
日本語コミュニケーション学科		2	80	—	160	短期大学士 (日本語コミュニケーション学)	1.25	昭和27 年度		東京都日野市神明 一丁目13番地の1
英語コミュニケーション学科		2	100	—	200	短期大学士 (英語コミュニケーション学)	0.83	昭和27 年度	(平成26年4月から 東京都渋谷区東一 丁目1番地49)	
食物栄養学科		2	—	—	80	短期大学士 (食物栄養学)	—	昭和25 年度		
附属施設の概要		<p>名称 文芸資料研究所（文学部附置） 目的 文学研究 所在地 東京都日野市大坂上四丁目1番地の1 設置年月 昭和54年5月 規模等 建物面積80.71㎡（校舎内）</p> <p>名称 外国語教育研究センター 目的 外国語教育の充実と発展 所在地 東京都日野市大坂上四丁目1番地の1 設置年月 平成16年4月 規模等 建物面積144.16㎡（校舎内）</p>								
										※平成25年度より学生募集停止

教育課程等の概要

(生活科学部現代生活学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	実践入門セミナー	1前	2				○		3	2	1				兼2
	実践キャリアプランニング	2前・後	2				○								兼4
	インテグレートッド・イングリッシュ	1前	2				○								兼1
	情報リテラシー基礎 a	1前	1				○								兼1
	情報リテラシー基礎 b	1後	1				○								兼1
	小計 (5科目)	—	7	1	0		—		3	2	1	0	0	兼8	—
実践アドバンスト科目	キャリアデザイン	3前		2			○								兼1
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2			○								兼1
	インターンシップ演習	3前		1				○							兼1
	インターンシップ	3休		1							○				兼1
	キャリア開発実践論	3後		2				○							兼1
	キャリア実践演習	4前		2				○							兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2				○							兼1
	伝統文化の精神と実践	2後		2				○							兼1
	女性と職業	2前・後		2				○							兼1
	リーディング・スキルズ	1前		1				○							兼4
	TOEICリーディング	2後		1				○							兼3
	リスニング・スキルズ	1前・後		1				○							兼4
	TOEICリスニング	2後		1				○							兼2
	スピーキング・スキルズ	1前・後		1				○							兼2
	ビジネス・イングリッシュ	2後		1				○							兼2
	フランス語 1 a	1前		1				○							兼3
	フランス語 1 b	1後		1				○							兼3
	ドイツ語 1 a	1前		1				○							兼4
	ドイツ語 1 b	1後		1				○							兼4
	中国語 1 a	1前		1				○							兼3
	中国語 1 b	1後		1				○							兼3
	韓国語 1 a	1前		1				○							兼1
	韓国語 1 b	1後		1				○							兼1
	フランス語 2 a	2前		1				○							兼1
	フランス語 2 b	2後		1				○							兼1
	ドイツ語 2 a	2前		1				○							兼1
	ドイツ語 2 b	2後		1				○							兼1
	中国語 2 a	2前		1				○							兼3
	中国語 2 b	2後		1				○							兼3
	韓国語 2 a	2前		1				○							兼1
	韓国語 2 b	2後		1				○							兼1
	海外語学研修 a	1休		2					○						兼1
	海外語学研修 b	1休		2					○						兼1
	海外語学研修 c	1休		2					○						兼1
	海外語学研修 d	1休		2					○						兼1
	情報リテラシー応用 a	1前・後		2				○							兼1
	情報リテラシー応用 b	1前・後		2				○							兼1
	情報リテラシー応用 c	1後		2				○							兼1
	情報リテラシー実践 a	1前・後		2				○							兼1
	情報リテラシー実践 b	1前・後		2				○							兼1
	情報リテラシー実践 c	1前・後		2				○							兼1
	実践プロジェクト	2前・後		2				○							兼1
	小計 (42科目)	—	0	60	0		—		0	0	0	0	0	兼33	—
共通教育科目	教養教育科目	哲学入門 a	1前		2			○							兼2
		哲学入門 b	1後		2			○							兼2
		現代の哲学 a	1前		2			○							兼1
		現代の哲学 b	1後		2			○							兼1
		倫理学入門 a	1前		2			○							兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通教育科目	教養教育科目	法学	1前・後		2		○									兼1		
		法と生活	2前・後		2		○									兼1		
		政治学 a	1前		2		○									兼1		
		政治学 b	1後		2		○									兼1		
		経済学 a	1前		2		○									兼1		
		経済学 b	1後		2		○									兼1		
		日本経済論 a	1前		2		○									兼1		
		日本経済論 b	1後		2		○									兼1		
		日本史 a	1前		2		○									兼1		
		日本史 b	1後		2		○									兼1		
		西洋史 a	1前		2		○									兼1		
		西洋史 b	1後		2		○									兼1		
		東洋史 a	1前		2		○									兼1		
		東洋史 b	1後		2		○									兼1		
		地理学	1前		2		○									兼1		
		社会学 a	1前		2		○									兼1		
		社会学 b	1後		2		○									兼1		
		ジェンダー論 a	1前・後		2		○									兼1		
		ジェンダー論 b	1後		2		○									兼1		
		社会保障論	2前		2		○									兼1		
		数学の世界	1前		2		○									兼1		
		統計の世界	1後		2		○									兼1		
		物理の世界	1後		2		○									兼1		
		化学の世界 a	1後		2		○									兼1		
		化学の世界 b	2前		2		○									兼1		
		生物の世界	1前		2		○									兼1		
		生命と環境	1後		2		○									兼1		
		科学思想史	1後		2		○									兼1		
		環境科学	1前		2		○									兼1		
		環境と産業技術 a	1前		2		○									兼1		
		環境と産業技術 b	1後		2		○									兼1		
		くらしの人間工学	1後		2		○									兼1		
		身体運動の科学 a	1前		2		○									兼1		
		身体運動の科学 b	1後		2		○									兼1		
		スポーツ文化論	1前・後		2		○									兼1		
		健康運動実習 a	1前・後		1					○						兼4		
		健康運動実習 b	1前・後		1					○						兼4		
		基礎スポーツ実習 a	1前・後		1					○						兼1		
		基礎スポーツ実習 b	1前・後		1					○						兼2		
		基礎スポーツ実習 c	1前・後		1					○						兼1		
		基礎スポーツ実習 d	1前・後		1					○						兼1		
		健康体力科学演習	1前・後		1					○						兼1		
		ヘルスプロモーション実践実習 a	1前・後		1					○						兼1		
		ヘルスプロモーション実践実習 b	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ基礎科学実習 a	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ基礎科学実習 b	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ健康科学実習	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ応用科学実習	1前・後		1					○						兼1		
			小計 (107科目)	—	0	201	0	—				1	0	0	0	0	兼50	—
		共通教育科目	オープン講座	オープン講座 a	1前・後		2		○								兼1	
オープン講座 b	1前・後				2		○								兼1			
オープン講座 c	1前・後				2		○								兼1			
オープン講座 d	1前・後				2		○								兼1			
オープン講座 e	1前・後				2		○								兼1			
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—				0	0	0	0	0	兼5	—		
共通教育科目小計 (159科目)		—	7	272	0	—				3	2	1	0	0	兼91	—		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門総合科目	ビジネスプランニング	1後	2				○		1	1							
	現代生活学	2後	2				○		1								
	プロジェクト演習a	2後		2				○	1	2	1						
	プロジェクト演習b	3後		2				○	1	2	1						
	ゼミナール	3	4					○	3	2	1						
	ファイナルプロジェクト	4	4					○	3	2	1						
	小計(6科目)		—	12	4	0		—	3	2	1	0	0				
専門基礎科目	生活技術	家庭経営a(食生活)	1前		2			○								兼1	
		家庭経営b(衣環境)	1前		2			○								兼1	
		家庭経営c(育児・介護)	1後		2				○							兼1	
		基礎メディア技術	1前		2				○			1					
		プレゼンテーション技法	1前		2				○			1					
		フィールドリサーチ	1後		2					○	1	1				兼1	
		統計とモデリング	1後		2					○		1					
	生活教養	現代社会を読み解くa(政治と経済)	1前		2				○								兼1
		現代社会を読み解くb(生活と産業)	1前		2				○		1						
		現代社会を読み解くc(文化と市場)	1後		2				○	1							
		現代社会を読み解くd(科学技術と社会)	1後		2				○		1						
	生活教養基礎	コミュニティ概論	1後	2					○	1							
		環境科学概論	1前	2					○		1						
		メディア社会概論	1後	2					○			1					
小計(14科目)			6	22	0		—	3	1	1	0	0		兼5			
グレートブックス・セミナー	グレートブックスセミナー1	1前	2					○	2								
	グレートブックスセミナー2a	2・3・4前		2				○	1								
	グレートブックスセミナー2b	2・3・4後		2				○	1								
	小計(3科目)			2	4	0		—	2	0	0	0	0		兼0		
自立社会と自立生活	地域文化形成論	2・3後		2				○	1								
	コミュニティ経済演習	2・3前		2				○		1							
	自立生活論a(健康)	2・3前		2				○	1								
	自立生活論b(消費者)	2・3後		2				○		1							
	自立生活論c(安全と保障)	2・3後		2				○							兼1		
	少子高齢化社会	2・3前		2				○	1								
	グローバル社会	2・3後		2				○	1								
	地域エネルギー論	2・3前		2				○		1							
	地域エネルギー論演習	3後		2						1							
	地域食料論	2・3前		2				○		1							
	地域食料論演習	3後		2						1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	生活産業創出論	2前		2		○			1							
	環境マーケティング論a	2・3前		2		○			1						兼1	
	環境マーケティング論b	2・3前		2		○									兼1	
	環境マーケティング論演習a	2・3後		2			○		1							
	環境マーケティング論演習b	2・3後		2			○								兼1	
	エコビジネス演習	3後		2			○			1						
	環境工学及び調査	2・3前		2		○				1						
	環境マネジメント論	2・3後		2		○									兼1	
	環境経済学	2・3前		2		○				1						
	環境思想a	3前		2		○				1					隔年	
	環境思想b	3前		2		○				1					隔年	
	環境思想演習	3後		2			○			1						
	生活ビジネスa (グリーンビジネス)	2・3前		2		○				1						
	生活ビジネスb (コミュニティビジネス)	2・3前		2		○				1						
	生活ビジネスc (マイクロビジネス)	2・3後		2		○				1						
	生活産業史	2・3後		2		○					1					
	社会責任論	2・3後		2		○									兼1	
	女性社会論a	3前		2		○				1						
	女性社会論b	3後		2		○					1					
	メディアと生活	メディア生活学a	2・3前		2		○			1						
		メディア生活学b	2・3後		2		○					1				
		メディアアート論a	2・3後		2		○			1						隔年
		メディアアート論b	2・3後		2		○			1						隔年
		映像制作演習a	2・3前		2			○		1						隔年
		映像制作演習b	2・3前		2			○								兼1 隔年
		メディアテクノロジー演習a (Web)	2・3前		2			○				1				
		メディアテクノロジー演習b (データ)	2・3前		2			○		1						
		メディアテクノロジー演習c (開発)	2・3前		2			○								兼1
メディア生活経営論a		3前		2		○			1							
メディア生活経営論b		3後		2		○			1							
メディア生活経営論演習a		3後		2			○		1							
メディア生活経営論演習b		4前		2			○		1							
情報セキュリティ社会		2・3前		2		○					1					
広告とメディア		2・3後		2		○			1							
	小計 (45科目)		0	90	0			—	3	2	1	0	0	兼4		
キャリア形成	ライフ・プランニング	2前		2		○									兼1	
	ビジネス・マナー	2後		2			○								兼1	
	ビジネス・スキルa	2前		2			○								兼1	
	ビジネス・スキルb	3後		2			○								兼1	
	企業研究a	2後		2			○								兼1	
	企業研究b	3前		2			○								兼1	
		小計 (6科目)		10	2	0			—	0	0	0	0	0	兼4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職関連科目	家庭経営論	1後		2		○				1					兼1
	家族関係論	3前		2		○									兼1
	衣料学	2前		2		○									兼1
	衣料学演習	2後		2			○								兼1
	衣服製作実習a	3前		1				○							兼1
	衣服製作実習b	3後		1				○							兼1
	衣服製作実習c	3後		2				○							兼1
	栄養学	2後		2		○									兼1
	食物学	3前		2		○									兼1
	調理学及び実習	3前		2				○							兼1
	住居学	2前		2		○									兼1
	看護学	2前		2		○									兼1
	育児学	3前・3後		2		○									兼1
	保育学	3前		2		○									兼1
	家庭工学	3後		2		○									兼1
	小計 (15科目)		0	26	0				0	0	0	0	0	0	兼13
専門科目小計 (89科目)		—	30	148	0				3	2	1	0	0	0	兼18
合計 (248科目)		—	37	420	0				3	2	1	0	0	0	兼106
学位又は称号		学士 (生活科学)			学位又は学科の分野			家政学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
共通教育科目36単位 (必修7単位、選択29単位)、専門必修科目30単位、専門総合科目及び専門基礎科目の選択科目から14単位を含み専門科目76単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限: 24単位 (半期))							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要

(生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	実践入門セミナー	1前	2						3		1				
	実践キャリアプランニング	2前・後	2												兼2
	インテグレート・イングリッシュ	1前	2												兼4
	情報リテラシー基礎 a	1前	1												兼1
	情報リテラシー基礎 b	1後	1												兼1
	小計(5科目)	-	7	1	0	-	-	-	3		1	0	0		兼8
実践アドバンスト科目	キャリアデザイン	3前		2											兼1
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2											兼1
	インターンシップ演習	3前		1											兼1
	インターンシップ	3休		1											兼1
	キャリア開発実践論	3後		2											兼1
	キャリア実践演習	4前		2											兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2											兼1
	伝統文化の精神と実践	2後		2											兼1
	女性と職業	2前・後		2											兼1
	リーディング・スキルズ	1前		1											兼4
	TOEICリーディング	2後		1											兼3
	リスニング・スキルズ	1前・後		1											兼4
	TOEICリスニング	2後		1											兼2
	スピーキング・スキルズ	1前・後		1											兼2
	ビジネス・イングリッシュ	2後		1											兼2
	フランス語 1 a	1前		1											兼3
	フランス語 1 b	1後		1											兼3
	ドイツ語 1 a	1前		1											兼4
	ドイツ語 1 b	1後		1											兼4
	中国語 1 a	1前		1											兼3
	中国語 1 b	1後		1											兼3
	韓国語 1 a	1前		1											兼1
	韓国語 1 b	1後		1											兼1
	フランス語 2 a	2前		1											兼1
	フランス語 2 b	2後		1											兼1
	ドイツ語 2 a	2前		1											兼1
	ドイツ語 2 b	2後		1											兼1
	中国語 2 a	2前		1											兼3
	中国語 2 b	2後		1											兼3
	韓国語 2 a	2前		1											兼1
	韓国語 2 b	2後		1											兼1
	海外語学研修 a	1休		2											兼1
	海外語学研修 b	1休		2											兼1
	海外語学研修 c	1休		2											兼1
	海外語学研修 d	1休		2											兼1
	情報リテラシー応用 a	1前・後		2											兼1
	情報リテラシー応用 b	1前・後		2											兼1
	情報リテラシー応用 c	1後		2											兼1
	情報リテラシー実践 a	1前・後		2											兼1
	情報リテラシー実践 b	1前・後		2											兼1
	情報リテラシー実践 c	1前・後		2											兼1
	実践プロジェクト	2前・後		2											兼1
小計(42科目)	-	0	60	0	-	-	-	0	0	0	0	0		兼33	-
共通教育科	教養教育科	哲学入門 a	1前		2										兼2
		哲学入門 b	1後		2										兼2
		現代の哲学 a	1前		2										兼1
		現代の哲学 b	1後		2										兼1

目	目	倫理学入門 a	1前	2							兼2
		倫理学入門 b	1後	2							兼2
		現代倫理学 a	1前	2							兼1
		現代倫理学 b	1後	2							兼1
		美学 a	1前	2							兼1
		美学 b	1後	2							兼1
		社会思想史 a	1前	2							兼1
		社会思想史 b	1後	2							兼1
		中国の思想 a	2前	2							兼1
		中国の思想 b	2後	2							兼1
		西洋思想史 a	1前	2							兼1
		西洋思想史 b	1後	2							兼1
		仏教思想史 a	2前	2							兼1
		仏教思想史 b	2後	2							兼1
		キリスト教概論 a	1前	2							兼1
		キリスト教概論 b	1後	2							兼1
		文学概論	1前	2							兼1
		日本の文学 a	1前	2							兼1
		日本の文学 b	1後	2							兼1
		日本の文学 c	1前	2							兼1
		日本の文学 d	1後	2							兼1
		フランス文学 a	1前	2							兼1
		フランス文学 b	1後	2							兼1
		ドイツ文学 a	1前	2							兼1
		ドイツ文学 b	1後	2							兼1
		児童文学論 a	1前	2							兼1
		児童文学論 b	1後	2							兼1
		比較文学 a	1前	2							兼1
		比較文学 b	1後	2							兼1
		女性と文学	1前・後	2							兼1
		比較文化論 a	1前・後	2				1			兼1
		比較文化論 b	1後	2				1			兼1
		生活文化論 a	1前	2							兼1
		生活文化論 b	1後	2							兼1
		出版文化論 a	1前	2							兼1
		出版文化論 b	1後	2							兼1
		食文化論	1前・後	2							兼1
		衣文化論	1前	2							兼1
		文化人類学 a	1前	2							兼1
		文化人類学 b	1後	2							兼1
		メディア論 a	1前	2							兼2
		メディア論 b	1後	2							兼2
		情報文化論 a	1前	2							兼1
		情報文化論 b	1後	2							兼1
		世界の美術	1前	2							兼1
		心理学概論	1前・後	2							兼2
		心理学 a	1前	2							兼3
		心理学 b	1後	2							兼2
		発達心理学 a	1前	2							兼1
		発達心理学 b	1後	2							兼1
		教育学 a	1前	2							兼1
		教育学 b	1後	2							兼1
教育史 a	1前	2							兼1		
教育史 b	1後	2							兼1		
日本国憲法	1前・後	2							兼1		
共通教育科目	教養教育科目	法学	1前・後	2						兼1	
		法と生活	2前・後	2						兼1	
		政治学 a	1前	2						兼1	
		政治学 b	1後	2						兼1	
		経済学 a	1前	2						兼1	
		経済学 b	1後	2						兼1	
		日本経済論 a	1前	2					兼1		
		日本経済論 b	1後	2					兼1		

	日本史 a	1前	2											兼1	
	日本史 b	1後	2											兼1	
	西洋史 a	1前	2											兼1	
	西洋史 b	1後	2											兼1	
	東洋史 a	1前	2											兼1	
	東洋史 b	1後	2											兼1	
	地理学	1前	2											兼1	
	社会学 a	1前	2											兼1	
	社会学 b	1後	2											兼1	
	ジェンダー論 a	1前・後	2											兼1	
	ジェンダー論 b	1後	2											兼1	
	社会保障論	2前	2											兼1	
	数学の世界	1前	2											兼1	
	統計の世界	1後	2											兼1	
	物理の世界	1後	2											兼1	
	化学の世界 a	1後	2											兼1	
	化学の世界 b	2前	2											兼1	
	生物の世界	1前	2											兼1	
	生命と環境	1後	2											兼1	
	科学思想史	1後	2											兼1	
	環境科学	1前	2											兼1	
	環境と産業技術 a	1前	2											兼1	
	環境と産業技術 b	1後	2											兼1	
	くらしの人間工学	1後	2											兼1	
	身体運動の科学 a	1前	2											兼1	
	身体運動の科学 b	1後	2											兼1	
	スポーツ文化論	1前・後	2											兼1	
	健康運動実習 a	1前・後	1											兼4	
	健康運動実習 b	1前・後	1											兼4	
	基礎スポーツ実習 a	1前・後	1											兼1	
	基礎スポーツ実習 b	1前・後	1											兼2	
	基礎スポーツ実習 c	1前・後	1											兼1	
	基礎スポーツ実習 d	1前・後	1											兼1	
	健康体力科学演習	1前・後	1											兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 a	1前・後	1											兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 b	1前・後	1											兼1	
	スポーツ基礎科学実習 a	1前・後	1											兼1	
	スポーツ基礎科学実習 b	1前・後	1											兼1	
	スポーツ健康科学実習	1前・後	1											兼1	
	スポーツ応用科学実習	1前・後	1											兼1	
	小計 (107科目)	-	0	201	0	-	1	0	0	0	0	0	0	兼50	-
オープン講座	オープン講座 a	1前・後	2											兼1	
	オープン講座 b	1前・後	2											兼1	
	オープン講座 c	1前・後	2											兼1	
	オープン講座 d	1前・後	2											兼1	
	オープン講座 e	1前・後	2											兼1	
	小計 (5科目)	-	0	10	0	-	0	0	0	0	0	0	0	兼5	-
共通教育科目小計 (159科目)		-	7	272	0	-	4	0	1	0	0	0	0	兼91	-
専門基礎分野 (必修科目)	公衆衛生学 a	2前	2				1								
	公衆衛生学 b	2後	2				1								
	健康管理論	1前	2				1								
	栄養疫学実習	3後	1						1						
	解剖生理学 a	1前	2											兼1	
	解剖生理学 b	1前	2											兼1	
	栄養生理学	1後	2				1								
	生化学 a	1前	2				1								
	生化学 b	1後	2				1								
	臨床医学概論	1後	2				1								
	感染と防御	1前	2				1								
	解剖生理学実験	2前	1												兼1
	生化学実験	2前	1				1								

食へ物と健康	食品学 a	1後	2					1									
	食品学 b	2前	2					1									
	調理学	2後	2					1									
	食品機能論	3後	2					1									
	食品加工学 a	3前	2					1									
	食品衛生学 a	3前	2					1									
	食品学実験 a	3前	1					1									
	食品衛生学実験	3後	1					1									
	食品加工学実習	4後	1					1									
	調理学実験	1前	1					1									
	基礎調理 1	1後	1					1									
	基礎調理 2	2前	1					1									
	小計 (25科目)	-	41	0	0	-		9	0	1	0	0	兼3	-			
	基礎栄養学	基礎栄養学	1前	2					1								
基礎栄養学実習		4前	1					2								オムニバース	
応用栄養学	栄養マネジメント論	2前	2					1									
	ライフステージ栄養学 a	2後	2					1									
	ライフステージ栄養学 b	3前	2					1									
	栄養マネジメント実習	3前	1							1							
栄養教育論	ライフステージ栄養学実習	3後	1							1							
	栄養教育総論	1後	2					1									
	栄養教育各論 a	2前	2					1									
臨床栄養学	栄養教育各論 b	2後	2					1									
	栄養教育論実習 a	3前	1					1									
	栄養教育論実習 b	3後	1					1									
	臨床栄養学 a	2前	2					1									
	臨床栄養学 b	2後	2					1									
公衆栄養学	臨床栄養管理学総論	2前	2							1							
	臨床栄養管理学各論	2後	2							1							
	臨床栄養学実習 a	2後	1					1									
	臨床栄養管理実習	3前	1							1							
	公衆栄養学 a	2後	2							1							
	公衆栄養学 b	3前	2							1							
給食経営管理論	公衆栄養学実習 a	3後	1							1							
	給食経営管理 a	1後	2							1							
	給食経営管理 b	2前	2							1							
総合演習	給食マネジメント実習	2	2							1							
	総合演習 a	4前	1					1									
	総合演習 b	4前	1					1									
	総合演習 c	4前	1					2									
臨地実習	総合演習 d	4前	1					3									
	校外給食実習	3	1							1							
専門分野へ選択必修科目	臨地実習	臨地実習	3	2				1		1						オムニバース	
	公衆栄養学実習 b	3	1					1		1						オムニバース	
	調理学実習 a	4後	1													兼1	
	調理学実習 b	3前	1													兼1	
小計 (4科目)	-	0	4	0	-		1	0	2	1	0	兼2	-				
その他の科目 (選択科目)	微生物学	1前	2					1								兼1	
	バイオテクノロジー概論	1後	2													兼1	
	基礎無機化学	1後	2					1									
	基礎有機化学	1前	2					1									
	食事摂取基準論	1前	2							1	1					オムニバース	
	食品学実験 b	2前	1							1							
	食品分析学	2後	2													兼1	
	社会福祉論	2後	2													兼1	
	食品加工学 b	3後	2					1									
	毒性学	3前	2					1									

教 育 課 程 等 の 概 要

(生活科学部食生活科学科食物科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通教育科目	実践入門セミナー	1前	2						3	1						
	実践キャリアプランニング	2前・後	2													兼2
	インテグレートッド・イングリッシュ	1前	2													兼4
	情報リテラシー基礎 a	1前	1													兼1
	情報リテラシー基礎 b	1後	1													兼1
	小計(5科目)	-	7	1	0				3	1	0	0	0			兼8
実践アドバンス科目	キャリアデザイン	3前		2												兼1
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2												兼1
	インターンシップ演習	3前		1												兼1
	インターンシップ	3休		1												兼1
	キャリア開発実践論	3後		2												兼1
	キャリア実践演習	4前		2												兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2												兼1
	伝統文化の精神と実践	2後		2												兼1
	女性と職業	2前・後		2												兼1
	リーディング・スキルズ	1前		1												兼4
	TOEICリーディング	2後		1												兼3
	リスニング・スキルズ	1前・後		1												兼4
	TOEICリスニング	2後		1												兼2
	スピーキング・スキルズ	1前・後		1												兼2
	ビジネス・イングリッシュ	2後		1												兼2
	フランス語 1 a	1前		1												兼3
	フランス語 1 b	1後		1												兼3
	ドイツ語 1 a	1前		1												兼4
	ドイツ語 1 b	1後		1												兼4
	中国語 1 a	1前		1												兼3
	中国語 1 b	1後		1												兼3
	コリア語 1 a	1前		1												兼1
	コリア語 1 b	1後		1												兼1
	フランス語 2 a	2前		1												兼1
	フランス語 2 b	2後		1												兼1
	ドイツ語 2 a	2前		1												兼1
	ドイツ語 2 b	2後		1												兼1
	中国語 2 a	2前		1												兼3
	中国語 2 b	2後		1												兼3
	コリア語 2 a	2前		1												兼1
	コリア語 2 b	2後		1												兼1
	海外語学研修 a	1休		2												兼1
	海外語学研修 b	1休		2												兼1
	海外語学研修 c	1休		2												兼1
	海外語学研修 d	1休		2												兼1
	情報リテラシー応用 a	1前・後		2												兼1
	情報リテラシー応用 b	1前・後		2												兼1
	情報リテラシー応用 c	1後		2												兼1
	情報リテラシー実践 a	1前・後		2												兼1
	情報リテラシー実践 b	1前・後		2												兼1
	情報リテラシー実践 c	1前・後		2												兼1
	実践プロジェクト	2前・後		2												兼1
小計(42科目)	-	0	60	0					0	0	0	0	0		兼33	-
共通教育科	哲学入門 a	1前		2												兼2
	哲学入門 b	1後		2												兼2
	現代の哲学 a	1前		2												兼1
	現代の哲学 b	1後		2												兼1

	日本史 a	1前	2												兼1	
	日本史 b	1後	2												兼1	
	西洋史 a	1前	2												兼1	
	西洋史 b	1後	2												兼1	
	東洋史 a	1前	2												兼1	
	東洋史 b	1後	2												兼1	
	地理学	1前	2												兼1	
	社会学 a	1前	2												兼1	
	社会学 b	1後	2												兼1	
	ジェンダー論 a	1前・後	2												兼1	
	ジェンダー論 b	1後	2												兼1	
	社会保障論	2前	2												兼1	
	数学の世界	1前	2												兼1	
	統計の世界	1後	2												兼1	
	物理の世界	1後	2												兼1	
	化学の世界 a	1後	2												兼1	
	化学の世界 b	2前	2												兼1	
	生物の世界	1前	2												兼1	
	生命と環境	1後	2												兼1	
	科学思想史	1後	2												兼1	
	環境科学	1前	2												兼1	
	環境と産業技術 a	1前	2												兼1	
	環境と産業技術 b	1後	2												兼1	
	くらしの人間工学	1後	2												兼1	
	身体運動の科学 a	1前	2												兼1	
	身体運動の科学 b	1後	2												兼1	
	スポーツ文化論	1前・後	2												兼1	
	健康運動実習 a	1前・後	1												兼4	
	健康運動実習 b	1前・後	1												兼4	
	基礎スポーツ実習 a	1前・後	1												兼1	
	基礎スポーツ実習 b	1前・後	1												兼2	
	基礎スポーツ実習 c	1前・後	1												兼1	
	基礎スポーツ実習 d	1前・後	1												兼1	
	健康体力科学演習	1前・後	1												兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 a	1前・後	1												兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 b	1前・後	1												兼1	
	スポーツ基礎科学実習 a	1前・後	1												兼1	
	スポーツ基礎科学実習 b	1前・後	1												兼1	
	スポーツ健康科学実習	1前・後	1												兼1	
	スポーツ応用科学実習	1前・後	1												兼1	
	小計(107科目)	-	0	201	0	-		1	0	0	0	0	0	0	兼50	-
オープン講座	オープン講座 a	1前・後	2												兼1	
	オープン講座 b	1前・後	2												兼1	
	オープン講座 c	1前・後	2												兼1	
	オープン講座 d	1前・後	2												兼1	
	オープン講座 e	1前・後	2												兼1	
	小計(5科目)	-	0	10	0	-		0	0	0	0	0	0	0	兼5	-
共通教育科目小計(159科目)		-	7	272	0	-		4	1	0	0	0	0	0	兼91	-
基礎科目	フードコーディネーター論	1後	2					1								
	フードマネジメント論	2後	2					1								
	フードスペシャリスト論	3前	2					5								私二バス
	小計(3科目)	-	6	0	0	-		6	0	0	0	0	0	0	兼0	-
栄養学	食生活教育論	1後	2							1						
	基礎栄養学	1後	2												兼1	
	栄養生理学	2後	2												兼1	
	生化学 a	2前	2												兼1	
	生化学 b	2後	2												兼1	
	ライフステージ栄養学 a	2後	2												兼1	
	ライフステージ栄養学 b	3前	2					1								
	公衆栄養学 a	3前	2					1								
小計(8科目)	-	16	0	0	-		3	0	1	0	0	0	0	兼2	-	

保育学	3前・後		2										兼1	
育児学	3前・後		2				1							
卒業論文	4	6					14	2	1					
小計(25科目)	-	10	41	0	-		14	2	1	0	0	兼12	-	
専門科目小計(69科目)	-	59	67	0	-		14	3	2	0	0	兼21	-	
合計(127科目)	-	66	339	0	-		15	3	2	0	0	兼112	-	
学位又は称号	学士(生活科学)		学位又は学科の分野			家政学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
共通教育科目28単位(必修7単位、選択21単位)、専門必修科目59単位を含み専門科目合計76単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期))						1学年の学期区分				2学期				
						1学期の授業期間				15週				
						1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(生活科学部食生活科学科健康栄養専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通 教育 科目	実践入門セミナー	1前	2						1	1						
	実践キャリアプランニング	2前・後	2													兼2
	インテグレートッド・イングリッシュ	1前	2													兼4
	情報リテラシー基礎 a	1前	1													兼1
	情報リテラシー基礎 b	1後	1													兼1
	小計(5科目)	-	7	1	0				1	1	0	0	0			兼8
実践 アド バン ス ス ト 科 目	キャリアデザイン	3前		2												兼1
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2												兼1
	インターンシップ演習	3前		1												兼1
	インターンシップ	3休		1												兼1
	キャリア開発実践論	3後		2												兼1
	キャリア実践演習	4前		2												兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2												兼1
	伝統文化の精神と実践	2後		2												兼1
	女性と職業	2前・後		2												兼1
	リーディング・スキルズ	1前		1												兼4
	TOEICリーディング	2後		1												兼3
	リスニング・スキルズ	1前・後		1												兼4
	TOEICリスニング	2後		1												兼2
	スピーキング・スキルズ	1前・後		1												兼2
	ビジネス・イングリッシュ	2後		1												兼2
	フランス語 1 a	1前		1												兼3
	フランス語 1 b	1後		1												兼3
	ドイツ語 1 a	1前		1												兼4
	ドイツ語 1 b	1後		1												兼4
	中国語 1 a	1前		1												兼3
	中国語 1 b	1後		1												兼3
	コリア語 1 a	1前		1												兼1
	コリア語 1 b	1後		1												兼1
	フランス語 2 a	2前		1												兼1
	フランス語 2 b	2後		1												兼1
	ドイツ語 2 a	2前		1												兼1
	ドイツ語 2 b	2後		1												兼1
	中国語 2 a	2前		1												兼3
	中国語 2 b	2後		1												兼3
	コリア語 2 a	2前		1												兼1
	コリア語 2 b	2後		1												兼1
	海外語学研修 a	1休		2												兼1
	海外語学研修 b	1休		2												兼1
海外語学研修 c	1休		2												兼1	
海外語学研修 d	1休		2												兼1	
情報リテラシー応用 a	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー応用 b	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー応用 c	1後		2												兼1	
情報リテラシー実践 a	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー実践 b	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー実践 c	1前・後		2												兼1	
実践プロジェクト	2前・後		2												兼1	
小計(42科目)	-	0	60	0					0	0	0	0	0		兼33	-
共通 教育 科	哲学入門 a	1前		2												兼2
	哲学入門 b	1後		2												兼2
	現代の哲学 a	1前		2												兼1
	現代の哲学 b	1後		2												兼1

学位又は称号	学士（生活科学）	学位又は学科の分野	家政学
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
共通教育科目 24 単位（必修 7 単位、選択 17 単位）、専門必修科目（専門科目・健康栄養科目）62 単位を含み、合計 90 単位以上を修得し、124 単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：24 単位（半期））		1 学年の学期区分	2 学期
		1 学期の授業期間	15 週
		1 時限の授業時間	90 分

教 育 課 程 等 の 概 要

(生活科学部生活環境学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
共通 教育 科目	実践入門セミナー	1前	2						3	1						
	実践キャリアプランニング	2前・後	2													兼2
	インテグレートッド・イングリッシュ	1前	2													兼4
	情報リテラシー基礎 a	1前	1													兼1
	情報リテラシー基礎 b	1後	1													兼1
	小計(5科目)	-	7	1	0				3	1	0	0	0			兼8
実践 アド バン スト 科目	キャリアデザイン	3前		2												兼1
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2												兼1
	インターンシップ演習	3前		1												兼1
	インターンシップ	3休		1												兼1
	キャリア開発実践論	3後		2												兼1
	キャリア実践演習	4前		2												兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2												兼1
	伝統文化の精神と実践	2後		2												兼1
	女性と職業	2前・後		2												兼1
	リーディング・スキルズ	1前		1												兼4
	TOEICリーディング	2後		1												兼3
	リスニング・スキルズ	1前・後		1												兼4
	TOEICリスニング	2後		1												兼2
	スピーキング・スキルズ	1前・後		1												兼2
	ビジネス・イングリッシュ	2後		1												兼2
	フランス語 1 a	1前		1												兼3
	フランス語 1 b	1後		1												兼3
	ドイツ語 1 a	1前		1												兼4
	ドイツ語 1 b	1後		1												兼4
	中国語 1 a	1前		1												兼3
	中国語 1 b	1後		1												兼3
	コリア語 1 a	1前		1												兼1
	コリア語 1 b	1後		1												兼1
	フランス語 2 a	2前		1												兼1
	フランス語 2 b	2後		1												兼1
	ドイツ語 2 a	2前		1												兼1
	ドイツ語 2 b	2後		1												兼1
	中国語 2 a	2前		1												兼3
	中国語 2 b	2後		1												兼3
	コリア語 2 a	2前		1												兼1
	コリア語 2 b	2後		1												兼1
	海外語学研修 a	1休		2												兼1
	海外語学研修 b	1休		2												兼1
海外語学研修 c	1休		2												兼1	
海外語学研修 d	1休		2												兼1	
情報リテラシー応用 a	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー応用 b	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー応用 c	1後		2												兼1	
情報リテラシー実践 a	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー実践 b	1前・後		2												兼1	
情報リテラシー実践 c	1前・後		2												兼1	
実践プロジェクト	2前・後		2												兼1	
小計(42科目)	-	0	60	0					0	0	0	0	0		兼33	-
共通 教育 科	哲学入門 a	1前		2												兼2
	哲学入門 b	1後		2												兼2
	現代の哲学 a	1前		2												兼1
	現代の哲学 b	1後		2												兼1

	インテリアコーディネート演習	4前		2										兼1	
	小計(21科目)	-	0	41	0	-		3	1	0	0	0	0	兼5	-
住環境デザイン科目群	建築概論	1前		2				1							
	住居学	1前		2				1							
	住居デザイン論	1後		2				1							
	住環境デザイン論	2前		2				1							
	建築デザイン論	3後		2				1							
	生活空間計画	3前		2				1							
	設計製図基礎	2前		2				1							
	建築・インテリアCAD	2後		1										兼1	
	生活空間設計製図1	3前		2				1							
	生活空間設計製図2	3後		2				1							
	生活空間設計製図3	4前		2				2							
	建築構造	1後		2										兼1	
	建築施工	2後		2										兼1	
	建築・インテリア構法	2前		2				1							
	材料力学	3前		2										兼1	
	住環境・設備学	3後		2				1							
	福祉住環境論	2後		2				1							
	環境心理学	2前		2				1							
	建築法規	4前		2				1							
	デザインワークショップ	3後		2				1							
	小計(20科目)	-	0	39	0	-		3	0	0	0	0	0	兼4	-
教職関連科目	調理学及び実習	3後		2										兼1	
	栄養学	1後		2										兼1	
	食品学	3前		2										兼1	
	衣料学	2前		2										兼1	
	衣料学演習	2後		2										兼1	
	衣服制作実習 a	2前		1										兼1	
	衣服制作実習 b	2前		1										兼1	
	衣服制作実習 c	3後		2										兼1	
	生活学原論	1前・後		2										兼1	
	生活経営論	2前・後		2										兼1	
	家族関係論	3前・後		2										兼1	
	保育学	3前・後		2										兼1	
	育児学	3前・後		2										兼1	
	看護学	2前・後		2										兼1	
家庭工学	2前・後		2										兼1		
	小計(12科目)	-	0	28	0	-		0	0	0	0	0	0	兼11	-
専門科目小計(104科目)		-	10	201	0	-		8	2	0	0	0	0	兼31	-
合計(202科目)		-	17	473	0	-		9	2	0	0	0	0	兼122	-
学位又は称号	学士(生活科学)			学位又は学科の分野			家政学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
共通教育科目28単位(必修7単位、選択21単位)、専門必修科目10単位を含み専門科目合計76単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(半期))							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(生活科学部生活文化学科生活文化専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 教育 科目	実践入門セミナー	1前	2						1	1	2	1			
	実践キャリアプランニング	2前・後	2												兼2
	インテグレートッド・イングリッシュ	1前	2												兼4
	情報リテラシー基礎 a	1前	1												兼1
	情報リテラシー基礎 b	1後	1												兼1
	小計(5科目)	-	7	1	0	-	-	1	1	2	1	0	兼8	-	
実践 アド バン スト 科目	キャリアデザイン	3前		2											兼1
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2											兼1
	インターンシップ演習	3前		1											兼1
	インターンシップ	3休		1											兼1
	キャリア開発実践論	3後		2											兼1
	キャリア実践演習	4前		2											兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2											兼1
	伝統文化の精神と実践	2後		2											兼1
	女性と職業	2前・後		2											兼1
	リーディング・スキルズ	1前		1											兼4
	TOEICリーディング	2後		1											兼3
	リスニング・スキルズ	1前・後		1											兼4
	TOEICリスニング	2後		1											兼2
	スピーキング・スキルズ	1前・後		1											兼2
	ビジネス・イングリッシュ	2後		1											兼2
	フランス語 1 a	1前		1											兼3
	フランス語 1 b	1後		1											兼3
	ドイツ語 1 a	1前		1											兼4
	ドイツ語 1 b	1後		1											兼4
	中国語 1 a	1前		1											兼3
	中国語 1 b	1後		1											兼3
	コリア語 1 a	1前		1											兼1
	コリア語 1 b	1後		1											兼1
	フランス語 2 a	2前		1											兼1
	フランス語 2 b	2後		1											兼1
	ドイツ語 2 a	2前		1											兼1
	ドイツ語 2 b	2後		1											兼1
	中国語 2 a	2前		1											兼3
	中国語 2 b	2後		1											兼3
	コリア語 2 a	2前		1											兼1
	コリア語 2 b	2後		1											兼1
	海外語学研修 a	1休		2											兼1
	海外語学研修 b	1休		2											兼1
海外語学研修 c	1休		2											兼1	
海外語学研修 d	1休		2											兼1	
情報リテラシー応用 a	1前・後		2											兼1	
情報リテラシー応用 b	1前・後		2											兼1	
情報リテラシー応用 c	1後		2											兼1	
情報リテラシー実践 a	1前・後		2											兼1	
情報リテラシー実践 b	1前・後		2											兼1	
情報リテラシー実践 c	1前・後		2											兼1	
実践プロジェクト	2前・後		2											兼1	
小計(42科目)	-	0	60	0	-	-	0	0	0	0	0	兼33	-		
共通 教育 科	哲学入門 a	1前		2											兼2
	哲学入門 b	1後		2											兼2
	現代の哲学 a	1前		2											兼1
	現代の哲学 b	1後		2											兼1

		女性社会論演習 a	4前	2					1						
		女性社会論演習 b	4後	2					1						
		小計(10科目)	-	0	20	0	-		2	1	1	0	0	兼2	-
文化と社会		メディアアート論 1	2前	2					1						
		メディアアート論 2	2後	2					1						
		生活経済論 a	2前	2					1						
		生活経済論 b	2後	2					1						
		生活経済論演習 a	2前	2					1						
		生活経済論演習 b	2後	2					1						
		メディア技術論	2前	2							1				
		メディア技術論演習 a	2前	2							1				
		メディア技術論演習 b	2後	2							1				
		コミュニケーション論	3前	2							1				
		レジャー社会論 1	3前	2							1				
		レジャー社会論 2	3後	2							1				
		社会責任論	3前	2											兼1
	小計(13科目)	-	0	26	0	-		2	0	2	0	0	兼1	-	
総合領域		地球環境論 a	1前	2											兼1
		地球環境論 b	1後	2											兼1
		メディア経営論 a	2前	2							1				
		メディア経営論 b	2後	2							1				
		環境技術論 a	2前	2											兼1
		環境技術論 b	2後	2											兼1
		環境マーケティング論 a	2前	2				1							
		環境マーケティング論 b	2前	2											兼1
		環境マーケティング論演習 a	2後	2				1							
		環境マーケティング論演習 b	2後	2											兼1
		地域経営論 a	3前	2											兼1
		地域経営論 b	3後	2											兼1
		地域経営論演習 a	3前	2											兼1
		地域経営論演習 b	3後	2											兼1
		メディア経営論演習 a	3前	2				1							
		メディア経営論演習 b	3後	2				1							
		環境技術論演習 a	3後	2											兼1
		環境技術論演習 b	3後	2											
	環境会計学	3後	2											兼1	
	小計(19科目)	-	0	38	0	-		1	0	1	0	0	兼3	-	
専門展開・応用科目	方法と技術	映像制作技術	2前	2					1						
		ネットワーク技術論 1	2前	2							1				
		ネットワーク技術論 2	2後	2							1				
		原書講読 a	2前	2					1						
		原書講読 b	2後	2					1						
		心理測定研究法 1	2前	2											兼1
		心理測定研究法 2	2後	2											兼1
		生活文化史演習 1	3前	2					1						
		生活文化史演習 2	3後	2					1						
		比較生活文化論 1	3前	2					1						
		比較生活文化論 2	3後	2					1						
		心理学基礎実験 1	3前	2						1					兼1
		心理学基礎実験 2	3後	2						1					兼1
	小計(13科目)	-	0	26	0	-		2	1	1	0	0	兼1	-	
文化諸領域		教育学概論	1前	2					1						
		教育制度論	1後	2					1						
		生涯発達心理学 a	1前	2					1						
		生涯発達心理学 b	1後	2					1						
		健康科学論	1前	2					1						
		保育原理 1	1前	2						1					
		保育原理 2	1後	2						1					
		社会福祉論	1後	2					1						

教 育 課 程 等 の 概 要

(生活科学部生活文化学科幼児保育専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通教育科目	実践入門セミナー	1前	2						1	1	2	1		
	実践キャリアプランニング	2前・後	2											兼2
	インテグレートッド・イングリッシュ	1前	2											兼4
	情報リテラシー基礎 a	1前	1											兼1
	情報リテラシー基礎 b	1後	1											兼1
	小計(5科目)	-	7	1	0				1	1	2	1	0	兼8
実践アドバンスト科目	キャリアデザイン	3前		2										兼1
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2										兼1
	インターンシップ演習	3前		1										兼1
	インターンシップ	3休		1										兼1
	キャリア開発実践論	3後		2										兼1
	キャリア実践演習	4前		2										兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2										兼1
	伝統文化の精神と実践	2後		2										兼1
	女性と職業	2前・後		2										兼1
	リーディング・スキルズ	1前		1										兼4
	TOEICリーディング	2後		1										兼3
	リスニング・スキルズ	1前・後		1										兼4
	TOEICリスニング	2後		1										兼2
	スピーキング・スキルズ	1前・後		1										兼2
	ビジネス・イングリッシュ	2後		1										兼2
	フランス語 1 a	1前		1										兼3
	フランス語 1 b	1後		1										兼3
	ドイツ語 1 a	1前		1										兼4
	ドイツ語 1 b	1後		1										兼4
	中国語 1 a	1前		1										兼3
	中国語 1 b	1後		1										兼3
	韓国語 1 a	1前		1										兼1
	韓国語 1 b	1後		1										兼1
	フランス語 2 a	2前		1										兼1
	フランス語 2 b	2後		1										兼1
	ドイツ語 2 a	2前		1										兼1
	ドイツ語 2 b	2後		1										兼1
	中国語 2 a	2前		1										兼3
	中国語 2 b	2後		1										兼3
	韓国語 2 a	2前		1										兼1
	韓国語 2 b	2後		1										兼1
	海外語学研修 a	1休		2										兼1
	海外語学研修 b	1休		2										兼1
	海外語学研修 c	1休		2										兼1
	海外語学研修 d	1休		2										兼1
	情報リテラシー応用 a	1前・後		2										兼1
	情報リテラシー応用 b	1前・後		2										兼1
	情報リテラシー応用 c	1後		2										兼1
	情報リテラシー実践 a	1前・後		2										兼1
	情報リテラシー実践 b	1前・後		2										兼1
	情報リテラシー実践 c	1前・後		2										兼1
	実践プロジェクト	2前・後		2										
	小計(42科目)	-	0	60	0				0	0	0	0	0	兼33
共通教育科	哲学入門 a	1前		2										兼2
	哲学入門 b	1後		2										兼2
	現代の哲学 a	1前		2										兼1
	現代の哲学 b	1後		2										兼1

	倫理学入門 a	1前	2									兼2
	倫理学入門 b	1後	2									兼2
	現代倫理学 a	1前	2									兼1
	現代倫理学 b	1後	2									兼1
	美学 a	1前	2									兼1
	美学 b	1後	2									兼1
	社会思想史 a	1前	2									兼1
	社会思想史 b	1後	2									兼1
	中国の思想 a	2前	2									兼1
	中国の思想 b	2後	2									兼1
	西洋思想史 a	1前	2									兼1
	西洋思想史 b	1後	2									兼1
	仏教思想史 a	2前	2									兼1
	仏教思想史 b	2後	2									兼1
	キリスト教概論 a	1前	2									兼1
	キリスト教概論 b	1後	2									兼1
	文学概論	1前	2									兼1
	日本の文学 a	1前	2									兼1
	日本の文学 b	1後	2									兼1
	日本の文学 c	1前	2									兼1
	日本の文学 d	1後	2									兼1
	フランス文学 a	1前	2									兼1
	フランス文学 b	1後	2									兼1
	ドイツ文学 a	1前	2									兼1
	ドイツ文学 b	1後	2									兼1
	児童文学論 a	1前	2									兼1
	児童文学論 b	1後	2									兼1
	比較文学 a	1前	2									兼1
	比較文学 b	1後	2									兼1
	女性と文学	1前・後	2									兼1
	比較文化論 a	1前・後	2			1						兼1
	比較文化論 b	1後	2			1						兼1
	生活文化論 a	1前	2									兼1
	生活文化論 b	1後	2									兼1
	出版文化論 a	1前	2									兼1
	出版文化論 b	1後	2									兼1
	食文化論	1前・後	2									兼1
	衣文化論	1前	2									兼1
	文化人類学 a	1前	2									兼1
	文化人類学 b	1後	2									兼1
	メディア論 a	1前	2									兼2
	メディア論 b	1後	2									兼2
	情報文化論 a	1前	2									兼1
	情報文化論 b	1後	2									兼1
	世界の美術	1前	2									兼1
	心理学概論	1前・後	2									兼2
	心理学 a	1前	2									兼3
	心理学 b	1後	2									兼2
	発達心理学 a	1前	2									兼1
	発達心理学 b	1後	2									兼1
	教育学 a	1前	2									兼1
	教育学 b	1後	2									兼1
	教育史 a	1前	2									兼1
	教育史 b	1後	2									兼1
	日本国憲法	1前・後	2									兼1
共通 教育 科目	法学	1前・後	2									兼1
	法と生活	2前・後	2									兼1
	政治学 a	1前	2									兼1
	政治学 b	1後	2									兼1
	経済学 a	1前	2									兼1
	経済学 b	1後	2									兼1
	日本経済論 a	1前	2									兼1
日本経済論 b	1後	2									兼1	

	日本史 a	1前	2																		兼1		
	日本史 b	1後	2																			兼1	
	西洋史 a	1前	2																			兼1	
	西洋史 b	1後	2																			兼1	
	東洋史 a	1前	2																			兼1	
	東洋史 b	1後	2																			兼1	
	地理学	1前	2																			兼1	
	社会学 a	1前	2																			兼1	
	社会学 b	1後	2																			兼1	
	ジェンダー論 a	1前・後	2																			兼1	
	ジェンダー論 b	1後	2																			兼1	
	社会保障論	2前	2																			兼1	
	数学の世界	1前	2																			兼1	
	統計の世界	1後	2																			兼1	
	物理の世界	1後	2																			兼1	
	化学の世界 a	1後	2																			兼1	
	化学の世界 b	2前	2																			兼1	
	生物の世界	1前	2																			兼1	
	生命と環境	1後	2																			兼1	
	科学思想史	1後	2																			兼1	
	環境科学	1前	2																			兼1	
	環境と産業技術 a	1前	2																			兼1	
	環境と産業技術 b	1後	2																			兼1	
	くらしの人間工学	1後	2																			兼1	
	身体運動の科学 a	1前	2																			兼1	
	身体運動の科学 b	1後	2																			兼1	
	スポーツ文化論	1前・後	2																			兼1	
	健康運動実習 a	1前・後	1																			兼4	
	健康運動実習 b	1前・後	1																			兼4	
	基礎スポーツ実習 a	1前・後	1																			兼1	
	基礎スポーツ実習 b	1前・後	1																			兼2	
	基礎スポーツ実習 c	1前・後	1																			兼1	
	基礎スポーツ実習 d	1前・後	1																			兼1	
	健康体力科学演習	1前・後	1																			兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 a	1前・後	1																			兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 b	1前・後	1																			兼1	
	スポーツ基礎科学実習 a	1前・後	1																			兼1	
	スポーツ基礎科学実習 b	1前・後	1																			兼1	
	スポーツ健康科学実習	1前・後	1																			兼1	
	スポーツ応用科学実習	1前・後	1																			兼1	
	小計 (107科目)	-	0	201	0						1	0	0	0	0	0						兼50	-
オープン講座	オープン講座 a	1前・後	2																			兼1	
	オープン講座 b	1前・後	2																			兼1	
	オープン講座 c	1前・後	2																			兼1	
	オープン講座 d	1前・後	2																			兼1	
	オープン講座 e	1前・後	2																			兼1	
	小計 (5科目)	-	0	10	0						0	0	0	0	0	0						兼5	-
	共通教育科目小計 (159科目)	-	7	272	0						1	2	2	1	0							兼91	-
専門基礎科目	生活文化学概論	1前	2									1											
	生活文化史 1	2前	2								1												
	生活文化史 2	2後	2								1												
	生活文化論演習	3	2								8	3	3										
	卒業論文	4	6								8	3	3										
	小計 (5科目)	-	14	0	0						8	3	3	0	0							兼0	-
専門選択科目	保育	保育原理 1	1前	2								1											
	保育	保育原理 2	1後	2								1											
	教育に関す	教育学概論	1前	2							1												
	教育に関す	教育制度論	1後	2							1												
	教育に関す	教育学演習 a	2前	2							1												
	教育に関す	教育学演習 b	2後	2							1												
	教育に関す	教育思想史	3前	2							1												

基礎理論	生涯発達心理学 a	1前	2					1			
	生涯発達心理学 b	1後	2					1			
	学習心理学序説	1後	2				1				
	社会福祉論	1後	2				1				
	子どもの保健 1 a	2前	2				1				
	子どもの保健 1 b	2後	2				1				
	生涯発達心理学演習 a	2前	2						1		
	生涯発達心理学演習 b	2後	2						1		
	児童家庭福祉論	2前	2				1				
	社会的養護	2前	2								兼1
	教育心理学	3後	2					1			
	保育者論	3前	2								兼1
	臨床心理学概論	3前	2						1		
	教職論	4前	2				1				
	相談援助	4前	1				1				
	家庭支援論	4後	2				1				
	小計(23科目)	-	0	45	0	-	4	2	1		兼2
保育・教育の対象・内容・方法	保育表現技術 a (音楽)	1	1								兼1
	保育表現技術 b (図画工作)	1	1						1		兼1
	保育表現技術 c (体育)	1後	1					1			
	保育表現技術 d (言語)	1後	1					1			
	保育内容 a (総論)	2前	1								兼1
	保育内容 b (健康)	2後	1								兼1
	保育内容 c (人間関係)	2後	1								兼1
	保育内容 d (こどば)	2後	1					1			
	保育内容 e (環境)	2前	1								兼1
	保育内容 f (表現)	2前	1								兼1
	社会的養護内容	3前	1								兼1
	保育相談支援	4前	1								兼1
	保育方法論	2後	2								兼1
	乳児保育	3	2								兼1
	子どもの食と栄養	3	2				1				
	子どもの保健 2	3前	1								兼1
	障害児保育	3	2								兼1
	保育課程論	3前	2								兼1
	教育課程編成の実際	3後	2								兼1
	教育課程論	1前	2				1				
	国語	1前	2				1				
	社会	3前	2								兼1
	算数	2前	2								兼1
	理科	3前	2				1				
	生活	3前	2					1			兼1
	音楽	2前	2								兼1
	図画工作	2後	2							1	
	家庭	3前	2								兼1
	体育	2前	2				1	1			兼1
	初等教科教育法(国語)	1後	2				1				
	初等教科教育法(社会)	3後	2								兼1
	初等教科教育法(算数)	2後	2								兼1
初等教科教育法(理科)	3後	2				1					
初等教科教育法(生活)	3後	2				1					
初等教科教育法(音楽)	2後	2								兼1	
初等教科教育法(図画工作)	2前	2								兼1	
初等教科教育法(家庭)	3後	2								兼1	
初等教科教育法(体育)	2後	2					1				
道徳の指導法	2後	2								兼1	
特別活動の指導法	2前	2				1					
教育方法・技術	1後	2				1					

比較生活文化論 2	3後	2					1							
生活文化史演習 1	3前	2					1							
生活文化史演習 2	3後	2					1							
女性社会論 a	3前	2						1						
女性社会論 b	3後	2					1						兼1	
社会責任論	3後	2												
メディア技術論演習 a	2前	2							1					
メディア技術論演習 b	2後	2							1					
女性社会論演習 a	4前	2						1						
女性社会論演習 b	4後	2					1							
小計 (34科目)	-	0	68	0	-		3	1	1	0	0		兼4	-
専門科目小計 (125科目)	-	14	246	0	-		8	3	3	1	0		兼24	-
合計 (254科目)	-	21	518	0	-		8	3	3	1	0		兼115	-
学位又は称号	学士 (生活科学)		学位又は学科の分野			家政学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
共通教育科目 20 単位 (必修 7 単位、選択 13 単位)、専門必修科目 14 単位を含み専門科目合計 86 単位以上を修得し、124 単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限: 24 単位 (半期))						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			15 週					
						1 時限の授業時間			90 分					

授 業 科 目 の 概 要			
(生活科学部現代生活学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践入門セミナー	実践女子大学、実践女子短期大学の学生として学んでいく上での必要不可欠な基本的知識や技能を身につけること、また社会について視野を広げて卒業後の将来について考えることを目的としています。各クラスは所属学科の専任教員が担当し、少人数のセミナー方式で、以下の項目を学んでいきます。	
	実践キャリアプランニング	激しく移り変わる社会を見据えながら、自らのキャリアを考え、デザインし、そして未来に向けたキャンパスライフの設計をして貰います。 しかし女性のキャリアは実に多岐にわたっており、単純に方向性を示せるものではありません。その判断材料としての事例紹介や、ロールモデルに登場して貰うことにより、より現実的な社会を知って貰いたいと思っています。そして同時に、今、求められている「社会人基礎力」を養えるような授業形態にしていきます。	
	インテグレートッド・イングリッシュ	(英文) The purpose of this one-semester course is to help incoming students improve their general communication skills through a variety of multi-skills language modules. (和訳) この授業は、日本人教員とネイティブスピーカーの教員が組になって週2回の授業を実施し、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティング、語彙、発音、文法などの学習を通して、新入生の一般的な英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。	
	情報リテラシー基礎 a	レポートや論文など本学での学習活動、書類や資料の作成など実社会での業務の基本となる情報リテラシーを学びます。本学における情報環境とコンピュータ・インターネットの基本について理解すること、課題解決型学習によってWord、Excelの基本的なスキルを身につけることが目標です。	
	情報リテラシー基礎 b	情報リテラシー基礎 a で学んだ内容をより深く、高度に行えるように実践的な課題をこなすことでその理解とスキルをブラッシュアップし、定着させることが目標です。また、作成した課題をPower Pointで発表することによってプレゼンテーション・スキルの習得も目指します。	
実践アドバンスト科目	キャリアデザイン	今の厳しい就職戦線に勝ち抜き、かつ社会で長く輝く女性になるために、必要な知識・スキルは何であるか、又、社会は何を求めているのか、を深く考え、教室と言う小さなラボを通し、自ら考え、チームでディスカスし、発表するという学生参加型双方向コミュニケーション授業を行います。 社会で多く使われているWorld Cafe方式の授業にすることにより、社会人基礎力が自然と身につくようにします	
	グローバル・キャリアデザイン	この講座では、キャリアデザインaをさらに発展させ、イキイキと働くための具体的なヒントを提示します。就活対策のための講座ではありませんが、納得のいく進路選択をするための視点や、能力開発に取り組みます。自分の殻を破り、大きく成長するきっかけになる講座を目指します。この講義を終えたときには、働くことにワクワクし、大変な時代を生き抜くための強さとしなやかさ、知性を身につけていることでしょうか。意欲のある学生の参加を期待します。	
	インターンシップ演習	産業界で求められる人材とは「主体的に行動し、自己責任の観念に富んだ想像力あふれる人」と言われるが、このような人材を育てるための実践的な教育の場がインターンシップである。社会を実体験することにより、想像していた社会とのギャップに気づき、新たな学習目標を設定し、社会人基礎力の更なる向上を目指すきっかけとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 実践アドバンス科目	インターンシップ	産業界で求められる人材とは「主体的に行動し、自己責任の観念に富んだ想像力あふれる人」と言われるが、このような人材を育てるための実践的な教育の場がインターンシップである。社会を実体験することにより、想像していた社会とのギャップに気づき、新たな学習目標を設定し、社会人基礎力の更なる向上を目指すきっかけとする。	
	キャリア開発実践論	就職後、即戦力として活躍できるようになるため、社会人として必要な常識・情報・知識・スキルを学ぶ。一方的に聞くのではなく、自ら考える場面も多く取り入れたい。実際に社会で活躍している先輩達に登壇して貰い、生きた社会の情報を伝えて貰う。	
	キャリア実践演習	大学で多くの学問を学びそして社会で貢献する前に、立ちをはかるのが、就職活動と言う大きな壁です。この講座では、如何にこの難関を突破するのか、そしてそのために必要な情報と具体的なスキルを身につけて貰います。しかし就職活動は、その場限りの一過性の手段ではありません。単なる対策ではなく、その奥にある社会や企業の考え方を考えながら方法を一緒に模索します。	
	国際理解とキャリア形成	グローバル化する現在においては、日本国内でのキャリアだけを考えるとはいられなくなっている。キャリア形成においても、企業内の公用語が英語になるなど変化が激しくなっている。人口、経済活動、国際政治、文化交流、自然環境などを理解するとともに、自分のキャリアをどのように構築するかを模索する。	
	伝統文化の精神と実践	代表的な伝統文化の講義と演習を通し「本物を体で感じ覚える」をテーマに、日本の伝統文化の精神とは何か、そこにつながる儀礼文化・有職故実（古来のきまり事）の年中行事・歳時記を学び、学祖下田歌子先生の「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、社会に対応できるマナー・教養を身につけた「大人の女性」の出発点になる事为目标に学習する。	
	女性と職業	女性の社会進出は、なぜ起こったのでしょうか。女性を取り巻く労働環境は、どのように変化しているのでしょうか。女性の社会進出が進むと、どのような事態が起こるのでしょうか。何故、多くの女性はライフサイクルに応じて、働き方を変えるのでしょうか。これらの疑問について明らかにするとともに、働く女性を支援するための制度や政策について、海外の事例も含めて学びます。	
	リーディング・スキルズ	英語の文章を正しく理解するために必要な基本的な知識と技術を習得します（精読）。また、さまざまな分野の文章に触れ、英語で書かれた文章をより身近なものとし、英文を読むことへの抵抗感をなくします（多読）。	
	TOEICリーディング	TOEICは、英語運用能力を表すのに利用される機会が多く、英語資格試験として多くの学校企業等で活用されています。TOEIC初心者から中級者で、スコアアップを目指す人を対象とします。教科書の内容に則してTOEICテストの概要を把握し、英語の構文や文法の理解を深めます。	
	リスニング・スキルズ	リスニングをコミュニケーションに必要な要素のひとつととらえた聴くことに専念するのではなく、他の3要素（話す、読む、書く）を取り入れたタスクをしながらリスニング力を伸ばしていきます。まずは英語を聴くこと、使うことに慣れるよう、教科書にあるいろいろな場面での会話を中心に学習していきます。特に基本的な会話表現の習得や目的にあったリスニングのし方（主題をつかむ、詳細を聴き取る、推測をする）を身につけます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 実践アドバンスト科目	TOEICリスニング	TOEICは、英語運用能力を表すのに利用される機会が多く、英語資格試験として多くの学校企業等で活用されています。TOEIC初心者から中級者で、スコアアップを目指す人を対象とします。特に英語独特のリズムやスピードに慣れることを重視し、単語からフレーズへと発展させていきます。	
	スピーキング・スキルズ	The purpose of the Speaking Skills course is to teach students English communication skills in a variety of daily situations. This is a one-semester course. スピーキング・スキルズの目的は、毎日の様々な状況でどのように英語で表現し、会話を行っていくか、具体的な状況を想定しながら、日常で使われる英語を学びます。	
	ビジネス・イングリッシュ	企業のグローバル化に対応できるビジネスセンスを習得し、様々な課題に自ら考え、対応できる思考力を培います。 英語による、自社紹介、企画、提案と3回に渡るプレゼンテーションやE-mailでの伝達力、交渉・企画力、問題処理力など実務力として求められるコミュニケーション力を状況別に培います。	
	フランス語1 a	分かりやすいフランス語会話が主体の教科書を使いながらもフランス語を体系的に理解しフランス語の基礎力をつけることを目的とします。フランス語の音の美しさ、構造の論理性を楽しみながらフランスの文化にも触れましょう。新しい世界が開けてくるかもしれません。	
	フランス語1 b	フランス語aで学んだ現実感のある会話にさらに日常生活で遭遇するであろう場面での基本となる会話を積み重ねながら、オーラルコミュニケーションができることを目指します。また同時にひとりの基本的な文法も身につけてある程度の書き言葉にも馴れ、簡単な文を読み書くことも目指します。	
	ドイツ語1 a	ドイツの文化や社会に親しみながら、ドイツ語の初級文法と会話力を身に着ける授業です。はじめに発音とあいさつからはじまり、基本的な文法項目（ドイツ語検定5級および一部は4級に対応）や辞書の引き方などをしっかり学びます。「読む・聞く・書く・話す」というコミュニケーションにおける4つの力を大切にしながら、簡単な文章（平叙文・疑問文）、簡単な自己紹介や相手のことを尋ねる表現などの基本的な会話を理解できるようにすることが目標です。	
	ドイツ語1 b	ドイツ語の基本的な文法知識および会話（主として独検4級レベルに対応）を学びます。ドイツ語の文章を理解して、短いテキストの読解や日常的な会話ができるようになることが目標です。文法では、助動詞を用いた表現や分離動詞、過去形、現在完了形など、動詞の位置を基盤としたドイツ語特有の文構造（枠構造）を中心に説明していきます。また、読解では、コンサートチケットの予約やレストランの会話など日常生活に根差した会話ができるようにします。	
	中国語1 a	初心者を対象に、発音と「四声」を勉強しながら、文字や単語を覚え、中国語と日本語の相違点を理解します。短文の練習を通して、中国語の基本文法を身につけます。簡単な日常会話を話せることを目標にします。	
	中国語1 b	中国語の初級レベルの習得を目標にする。まず、発音と四声をきちんと教える。簡単な文法、基本文型を判りやすく説明する。覚えるために繰り返して練習させる。復習しながら、授業を進めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 実践アドバンスト科目	コリア語 1 a	隣国韓国の公用語である、ハングルを初歩から学びます。ハングルの読み書きおよび簡単な日常会話に必要な単語・表現をマスターすることを目標とします。	
	コリア語 1 b	コリア語aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。	
	フランス語 2 a	フランスにいつか行ってみたい、フランス語がどんな言語か少しでも知りたい、と思えば、この授業が答えです！フランス語の文法とフランス語学習の第一歩となるような教科書を使います。毎週ビデオを見て、フランスの著名なスポットを見ましょう。全くの初心者向けの授業です。	
	フランス語 2 b	フランスにいつか行ってみたい、フランス語がどんな言語か少しでも知りたい、と思えば、この授業が答えです！フランス語の文法とフランス語学習の第一歩となるような教科書を使います。毎週ビデオを見て、フランスの著名なスポットを見ましょう。全くの初心者向けの授業です。	
	ドイツ語 2 a	簡単なドイツ語で書かれたテキストを使いながら、ドイツの文化や社会のありようについてくわしく学んでいきます。特に異文化理解における基本となる生活文化に焦点をあてて、ドイツの自然環境や食生活、住生活、休暇制度などを取り上げます。日本とは異なる生活文化をもつドイツに興味をもってもらい、ドイツへの関心を維持しながら、ドイツ語を学んでもらうのが狙いです。	
	ドイツ語 2 b	簡単なドイツ語で書かれたテキストを用いながら、現代のドイツやオーストリアの文化や社会についてくわしく学んでいく授業です。音楽や映画、文学、クリスマスなどの年中行事といった私たちにととても身近なテーマを中心に、日本とは異なる文化を持つドイツやオーストリアに興味を持ってもらい、関心を維持しながら、ドイツ語を学んでもらうことが狙いです。	
	中国語 2 a	中国語初級を履修した学生を対象に、今まで取得した文法と文型を復習しながら、長文の勉強を行います。また、四字成語を通して、中国の文化と日本文化との繋がりを理解してもらい、短文作りや簡単な会話の練習をも取り入れる。	
	中国語 2 b	中国語初級を履修した学生を対象に、今まで取得した文法と文型を復習しながら、長文の勉強を行います。また、四字成語を通して、中国の文化と日本文化との繋がりを理解してもらい、短文作り、簡単な会話の練習をも取り入れる。中国語検定試験に役立つような授業を目標としている。	
	コリア語 2 a	コリア語1a・bで既習した文法知識をもとに、初級から中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、コリア語a・bに比べて会話の練習と韓国文化の理解に重点を置きます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 実践アドバンス科目	コリア語 2 b	コリア語2aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高めます。そして韓国の文化への理解をもさらに深めていきます。	
	海外語学研修 a	この研修は、「生活・文化・習慣の異なる国の人とのコミュニケーション」「コミュニケーションの手段としての言語」に焦点を当てた実用英会話を中心に学びます。授業は各国からの学生と共に受けるステップクラスが中心となります。ステップクラスの一環として様々なフィールドトリップ等も組み立てられ、授業の他に行われるカンパセーションプラクティスとともに、ワシントン大学の学生と交流するよい機会となっています。宿泊はホームステイのため、英語を習得するには最良の環境です。	
	海外語学研修 b	サセックス大学が外国人向けに実施する英語プログラムに参加します。研修初日にクラス分けテストを行います。午前中は小グループに分かれて、英語コミュニケーションを中心にリスニング、英文法、英作文、語彙などを含めた英語表現能力を高める授業が行われ、午後は選択科目（英文学、ビジネス英語、発音、ドラマなど）から興味のある授業を自由に選んで受けることができます。様々な国からの学生が集まるクラスの中で英語で積極的に自分の意見を述べコミュニケーションを取る方法を学びます。	
	海外語学研修 c	中国語を1年程度学んだ人を対象として授業のカリキュラムが組まれています。本学の学生のみを対象としたオリジナルプログラムですので、学生一人一人の進歩に合わせた授業が行われます。このプログラムでは、発音と四声の本場の中国でしっかりと修得し、買い物や自己紹介、ちょっとしたおしゃべりなどの簡単な日常会話ができるようになることを目標にしています。また、授業の一環として中国の世界遺産の見学などを予定しています。宿泊はキャンパス内にある留学生寮またはホテル等の宿泊施設を予定しています。	
	海外語学研修 d	この研修は、韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることを目的としています。檀国大学校が主催する夏期韓国語・文化集中プログラムに参加します。午前のクラスでは韓国語を集中的に学び、午後のクラスでは様々な内容の韓国文化（韓国の料理、映画、工芸、歴史、伝統音楽・ダンス、テコンドー等）を体験します。	
	情報リテラシー応用 a	コンピュータ上で自由に画像の作画/描画・合成/編集ができるようになります。アドビ・フォトショップとアップル・マッキントッシュ (Mac) ~という本格的なソフト&ハードを用いて、CGならではの手法や技術、理論を学んでいきます。	
	情報リテラシー応用 b	「スマホ」や「SNS」の普及によって、インターネットの世界は、より身近なモノになりました。まずは既存のプラットフォームを活用し、インターネットを流れる情報の収集や編集方法について批判的・体験的に学習します。また、既存のウェブサイトのデザイン上の工夫について探索・研究する中で、ネットを利用する経験価値の向上を目指す経験デザインの考え方を学びます。	
	情報リテラシー応用 c	この科目では、1. コンピュータ・システムにおけるデータベースの役割を学ぶ、2. AccessやMySQLのデータベース操作を通して、データベースへのデータの追加、抽出、集計ができるようになる、3. データベースの設計の考え方を理解する、ことを目標として授業を行なっていきます。	
	情報リテラシー実践 a	化学実験でも、生物実験でも実験で得られたデータは統計処理が欠かせません。ヒトを使った試験では、試験区と対照区の間有意の差があるかは検定が必要です。病気の診断では、各種検査データを解析する必要があります。それにも統計的手法が使われます。本科目では、市販の統計ソフトを使用して、各種の手法を学びます。教材には、できるだけ身近な実例を使って、理解しやすい授業を工夫しています。卒論のデータ処理や、社会に出てから遭遇する様々な場面に役立つことを目指します。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	実践アドバンス科目	情報リテラシー実践 b	研究内容や作品を多くの人にわかり易く説明するためのプレゼンテーション能力は、デザインの分野では特に重要です。文字は最小限にして、視覚化された情報、画像や動画を主体とした効果的なプレゼンテーションを行うには、画像処理や2D、3D・CAD、動画なども含めたアプリケーションの活用が有効になります。この授業では、パワーポイント、フォトショップ、イラストレーター、スケッチアップ等のアプリケーションを基礎から教え、効果的なプレゼンテーションを創ることができるようになることを目標とします。	
		情報リテラシー実践 c	本授業は、情報室での演習と講義を通して、社会人として必要な、情報セキュリティの基礎を学びます。演習では、セキュリティ上の攻撃に使われるクロスサイトスクリプティングやリーバスポロキシ、ネットワークキャプチャツール、パスワードクラッキングツールなどを動作させ、セキュリティ上の脅威を理解するとともに、それらに対する対策方法について学びます。また、講義では、情報セキュリティの基本概念、基盤技術、個人情報保護法や著作権法などの関連法規について学びます。	
		実践プロジェクト	情報リテラシー基礎、情報リテラシー応用、情報リテラシー実践で学んだデータ処理やプレゼンテーション技法を、実際の企画書の作成や企業レポート作成などに応用していきます。グループに毎にテーマを決め、様々なツールをどのように活用するか自主的に考えることとします。	
教養教育科目	哲学入門 a	哲学は長い伝統をもち、西洋の多くの学問の原点となる学問である。哲学は古代ギリシアにおいて、我々を取り巻く自然に対する素朴な疑問として生まれ、しだいに精緻な議論を進展させ、自然から人間へとその領域を広げつつ、多くの学問領域へと細分化していった。今日の多様な学問の多くは、直接、間接に哲学から派生したと考えられている。西洋の学問全体の土台とも言うべき古代ギリシアの自然哲学にまで遡って、その発生と展開の過程をたどり、西洋思想の根底に横たわる自然観・人間観に対する理解を深めることを目指したい。		
	哲学入門 b	今日の我々にとって常識として定着している諸々の思想の中には、長い哲学の歴史を通じて育まれたものが少なくない。哲学の歴史を振り返ることで今日の様々な思想がどのような起源を持つものであるかを理解して、我々が日頃常識と見なしていることの妥当性を問い直し、これまであまり深く考えてみることをなかつた様々な事柄について、自分自身で根本的に考えることを目標とした。		
	現代の哲学 a	現代哲学を、近代の主観性の哲学・意識の哲学の破綻の結果生じたものという観点から、歴史的展開によりつつ考察する。デカルトに始まる近代哲学が、人間自身をすべての出発点とし、確実性という基準を使ってそれ以外のすべて（自然、他者、身体など）を自分のものとして支配、所有する運動だと言えどすれば、現代の哲学はそれを批判し乗り越えようとする試みだと言えどしよう。だが、両者は人間自身という出発点を共有し、いわば同じ地平に立っているため、現代哲学の近代哲学に対する批判は単純に成功しているとは言えない。つまり、人間は人間中心主義を脱することができるのか。こうしたことを考察したい。		
	現代の哲学 b	現代の言語と心の哲学。現代哲学の主要な特徴は言語が最大のテーマになったことである。言語とは何か（事物、観念など）の代わりであり、言語以前の思考を伝達するための補助手段にすぎないというのが伝統的な言語観であったのに対して、現代的な言語観では、言語があるからこそ人間は世界を合理的に理解できるのであり、言語は単なるモノの代用品ではなく、貨幣によく似た交換のためのツール・システムであると理解されている。伝統的言語観はどのように現代の革命的言語観に変わったのか、そしてその結果、言語に相関する心はどのように捉えられるようになったのか、こうしたことを考察し、言語の社会性について理解を深めたい。		
	倫理学入門 a	倫理学の創始者と言われるソクラテス以来の倫理思想の系譜をたどりつつ、西洋の倫理観の柱となっていると思われるいくつかの典型的な倫理思想を紹介し、その相互の関係を考えるとともに、それらを具体的な個々の状況に当てはめて、我々の身近な問題とのかかわりで理解していくように努めたい。複雑で困難な多くの問題を抱える現代の社会において、これらの倫理思想についての理解が、自己の生き方について考える際の指標になることを期待したい。		

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	倫理学入門 b	現代の倫理学上の諸問題を考える上で重要な素材を提供してくれるヘレニズム期から中世にかけての倫理思想を中心に、西洋の倫理思想の系譜をたどり、古来多くの思想家が取り組んできた倫理学の普遍的な課題を明らかにしていきたいと思う。キリスト教における倫理思想を論じる際には、そのような課題の一つである自由意志の問題を取り上げ、この問題がどのように扱われて今日に至っているかを解説したいと思う。	
	現代倫理学 a	日本語の「倫理」とは倫（仲間）をつくる道理という意味で、明治に作られた翻訳語だが、元のギリシャ語のエトスは、故郷、故郷での振る舞い方、道徳意識という意味であるから、<ある場所での振る舞い方>を内容にしている。その「場所」が、時代を追って広がって、家族family、氏族clan、部族tribeと広がって、近代はネイションnation（国民、民族）が人々の交流圏になって、国民nation（民族）規模のルールができてきている。だが、さらに外国の会社との交際ルール（倫理のグローバル化）、自然環境との交流ルール（環境倫理）、次世代との交流ルール（世代間倫理）にまで課題が広がっている。現代倫理学 a では、国民国家とそれ以後の新自由主義にいたる道筋を主に取り上げて、そのキーワードと着眼点を紹介していく。	
	現代倫理学 b	現代倫理学 b では、<善を知る>という古代ギリシャの熟知主義の立場をまず紹介する。その「知ってふるまう」<主人の自由>が、「知る権利」など現代の民主主義の問題につながっていることを取り上げる。次に、<利害>や<感情>を重んじる近代イギリスの感情主義の倫理思想を紹介していく。現代を支えている自由主義・功利主義・新自由主義の根底にある利害・感情重視の英国系の思想を取り上げて、経済と倫理を結び着眼点を紹介する。その時代背景、限界（政治体制の違い）、対立的な立場（指導者主義と民間主義）を取り上げる。	
	美学 a	本講義では「美学」について一般的に総括的に、その「何であるか」について論じ、「美学」の学的探求自体を歴史的にも体系的にも吟味してゆきたい。上記の体系的な説明の後、「美の哲学」としての美学を論究することとしたい。その内容は「美とは何か」という根本的な問いを徹底的に洞察することにある。それは自然美もあれば芸術美もある。また精神的な美もあれば物的な美もある。更には、儂さや悲壮などのように「美的なもの」「美意識」など感性的領域にも展開してゆく概念である。これを考えていきたい。	
	美学 b	西洋近代は「美学」における探求を、「芸術」に集中させてきた。そこから「芸術は美しい」という言説が規範化してきたが、しかし、大戦前後からその考え方は崩れ、今や、芸術は美と無縁であり、むしろ一般的に感性を刺激する事象であるという考え方が学究的な場に浸透してきた。このような状況において「美学」の学的可能性はどのようなものとなるのであろうか。「美学」は、もはや「美しき芸術」や「（芸術の起源としての）宗教」から一層離れた学的探求へと進んでいくのであろうか。それとも別の考え方もありうると見るべきであろうか。このあたりを具体的な作品事象を紹介しつつ考えてみたい。近代的な「芸術」の概念を出発点にしつつ現代的な課題にも応える内容を提供していきたい。	
	社会思想史 a	「国民nation」とか「民族nation」という二字熟語が以前からあった印象があるが、実際に人々が母語（の文化・伝統）に結集したのは、17世紀イギリスのピューリタン革命に始まっている。その「国民国家」が、18世紀の仏革命、また19世紀の明治維新につながっていった。中世人の「荘園」意識を、あらたに一言語圏の「生まれnationによる国家state」（民族国家・国民国家）に造り替えて産業社会を作ったという流れを理解させることを、主な目的にしている。最初に、古代の都市国家、中世のイスラムを簡単に紹介して、次に西欧近代の国民国家へ進んでいく。	
	社会思想史 b	日本の近代化との関わりで、西欧の社会思想が輸入された様子をおつかう。まず、江戸時代の農村（の若者組の自治）、金納地租による農村の階層分化、養蚕による地方の興隆、武士系の右翼、自由民権、北一輝などを紹介していく。また、ドイツの国家主義や、英米系の功利主義や、ソ連系のマルクス主義（共産主義）や、国民社会主義（national socialism, National Sozialismus, ナチズム）やファシズムなどの国際的な動向と関連をもつ様子を紹介する。次に戦後に移り、冷戦期の日本の高度成長時代の状況や、世界的に左翼的な傾向が強かった1970年代を紹介する。さらに、冷戦以後に新自由主義が世界的に採用された動きを紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共用 教育科目	教養 教育科目	中国の思想 a	中国文化のいろいろな局面を〈病〉という視点から通史的に概観する。 神話の時代…神話のなかの医療文化 古代…扁鵲の治療世界 漢…淳于意の治療世界 三国（魏）…華佗の治療世界 北朝…仏図澄の治療世界 南朝（西晋）…王叔和の治療世界 南朝（東晋）…葛洪の治療世界	
		中国の思想 b	中国文化のいろいろな局面を〈病〉という視点から通史的に概観する。 唐…大唐の医療文化：『杜子春』に見る医療 宋…銭乙の治療世界 元…陳実功の治療世界 明…李時珍の治療世界 清…葉桂の治療世界 清…王清任の治療世界 民国…魯迅の治療世界 現代…白求恩の治療世界、郭林の治療世界	
		西洋思想史 a	現代の我々の人間や社会に対する考え方は、西欧近代の思想家によって形成された人間と社会に関する思想にその基礎を置いている場合が少なくない。我々が何事かについて考え判断する際に、17世紀から19世紀にかけて、西欧近代の思想家たちによってはぐまれた人間観を学んでおくことは、有益な指針になると思われる。現代人にとっての基礎教養とも言うべき西欧近代の思想家たちの人間観をできるだけ平易に解説したいと思う。	
		西洋思想史 b	現代の我々の人間や社会に対する考え方は、西欧近代の思想家によって形成された人間と社会に関する思想にその基礎を置いている場合が少なくない。我々が何事かについて考え判断する際に、17世紀から19世紀にかけて、西欧近代の思想家たちによってはぐまれた人間観を学んでおくことは、有益な指針になると思われる。現代人にとっての基礎教養とも言うべき西欧近代の思想家たちの人間観をできるだけ平易に解説したいと思う。西洋思想史 a と西洋思想史 b は、授業内容に連続性をもたせるように配慮する。	
		仏教思想史 a	世界的規模の宗教は、多くの人々のアイデンティティとなり、また伝わった地域の特性や文化により様々に変容されて受容されてきた。インドに興った仏教がどのように変容して日本に伝わり、形成されたのかを探る。宗教思想は一見難解で取り付きにくそうだが、可能な限り分かりやすく解説するので、それらを自分なりに理解する努力を通じて、評価し、批判し、あるいは受容するなど判断力を養うことを目指す。 前期では、主にインド大乘仏教の歴史を中心に、日本仏教の基本となった思想を概観する。	
		仏教思想史 b	主に日本への仏教伝来からはじまり、今日の日本仏教を形成した主要各派の思想と教理の特色と変遷を、歴史的な流れにそって概観し、日本人の仏教受容とその宗教意識、日本文化への影響と形成を視点に、日本人にとっての仏教あるいは宗教とは何かを考えることを目標とする。	
		キリスト教概論 a	世界中の人々に最も読まれている聖書はユダヤ＝キリスト教の信仰の書であり、信仰の表現の多様性を有する文学的形式においてもすぐれて重要な書物である。聖書の神観、人間観、自然観は豊かな物語世界を通して美術・音楽の題材と関連づけられ、普遍的価値を与え続けている。聖書を貫いている神と人間との対話による歴史形成の精神と生きる意味を神のリアリティに基づく物語の成立と解釈を通して理解し、学んでいく。	
		キリスト教概論 b	キリスト教の歴史的展開を学ぶ。聖書に基づく、神観・人間観・世界観がどのように理解され、解釈され、表現されてきたのか、時代の制約と特質を考察しつつ、現代にいたるまでのキリスト教が伝えてきた価値意識、思想的影響と文明の形成を辿る。永遠の真理の規範と変遷する歴史的現実の諸問題との対応関係を考察する。	
		文学概論	この講義では、毎回さまざまなジャンルから、古来〈名文〉といわれてきた作品を取りあげていきます。それぞれの背景を探りながら内容を分析し、朗読してよく味わい、「文学って何だろう」という問題についても考えていきたいと思ひます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	日本の文学 a	この授業では、王朝貴族たちの日常の動作について学び、王朝貴族の生活習慣と文化についての理解を深めます。また、物語本文に見られる「しぐさ」「ふるまい」に注目し、それらが物語にどのような効果をもたらしているのかを考察します。登場人物である王朝貴族たちが、様々な動作をする物語を楽しんで読むことと同時に、「しぐさ」「ふるまい」という切り口を意識しながら物語を読むことで、高校までの「古文」の授業とは異なる、「国文学研究」的なものの考え方の一端に触れることを目標とします。	
	日本の文学 b	この授業では、王朝恋愛物語から、様々な「禁忌の恋」「許されない恋」を取り上げ、読んでいきます。甘美でアイロニカルな「禁忌の恋」「許されない恋」の物語を楽しんで読むと同時に、それらの恋がどの程度、本当に「禁忌」であり「許されな」かったのか、あるいは史実や、実在した王朝貴族たちの「恋愛事情」と開わりがあるのか、などについても考えます。「フィクション」である王朝恋愛物語と、実在した平安貴族たちの恋愛の間にある「距離」（「恋愛」はそのままでは「恋愛物語」にはならない！ということ）を理解することを最終的な目標とします。	
	日本の文学 c	江戸時代の代表的作家、井原西鶴の『西鶴諸国ばなし』を読みます。本書には狐の復讐話、死んだ娘が生き返る話、天狗の話など、諸国の奇談全35話が収められています。西鶴作品の世界を楽しみながら読んでみましょう。教材には現代語訳付きの資料を配付しますので、古語・古典文法等の知識は問いません。古典文学作品の世界に触れることを目標にします。	
	日本の文学 d	江戸時代の代表的作家、井原西鶴の『好色五人女』を読みます。本書は、但馬屋お夏と手代清十郎との密通、八百屋の娘お七と寺小姓吉三郎との恋など、当時よく知られていた五つの恋愛事件を題材に、西鶴が五人の女の運命を描いた作品です。西鶴作品の世界を楽しみながら読んでみましょう。	
	フランス文学 a	20世紀フランス文学の中の三人の女性作家の作品を取り上げる。ヨーロッパは20世紀には二度の世界大戦を経験し、また世界は驚異的な発展を遂げた。フランスの女性作家も世の中の変化を先取りしたり、体現したりしている。「人は女に生まれるのではない、女になるのだ。」と著書『第二の性』に書き、フェミニズム運動の旗手とされたボーヴォワール、弱冠十九歳で『悲しみよこんにちは』を発表しセンセーションを巻き起こしたサガン、小学校教師の娘として仏領インドシナに生まれ、八十一歳で死ぬまで小説に映画製作に活躍したデュラス。この三人の世界を書物及び映像で探求する。	
	フランス文学 b	日本人に愛され、また日本人が衝撃を受け続けている二冊のフランス文学作品『星の王子さま』『異邦人』を取り上げる。1900年に生まれたサンテグジュペリ。生後数か月の時に父が第一次大戦で戦死したカミュ。パイロットでもあったサンテグジュペリは第二次大戦終盤の1944年7月に偵察飛行に飛び立ちそのまま行方不明に。カミュは戦時中のパリで『異邦人』を発表、作品はすぐに話題作となる。その後生まれ故郷アルジェリアの独立をめぐる独立戦争が起こりカミュは苦悩する。サンテグジュペリは20世紀の前半、カミュは父の第一次大戦の戦死から第二次大戦を経てアルジェリア戦争まで、ともに時代に翻弄され、時代と格闘し、人々に影響を与え続ける作品を残す。	
	ドイツ文学 a	ヨーロッパの中心部を占めるドイツ語圏の文化にじかに触れましょう。詩や小説はもちろん、歌曲や映画にしても翻訳ではなく原語であるドイツ語での表現に接することには大きな意味があります。最初のうちは言葉のリズムや独特の発音を意識して欲しいと思います。それが異なる文化の手触りなのです。映画「未完成交響楽」を題材にしてドイツ語の発音とリズムを学びます。素朴な詩のリズムがシューベルトの歌曲に変わるスリリングな場面が楽しめます。ドイツ語を初めて学ぶ人にも理解できる進み方をします。	
	ドイツ文学 b	初めは映画を参考にして家族の問題や国家とのかかわりについて考えてゆきたいと思います。また前期のドイツ語と文化aで使った教科書「魅力あふれるドイツの町」を続けて使いドイツ語の文法もだいたい学び終わらしましょう。	
	児童文学論 a	児童文学にはさまざまなジャンルとテーマがあります。また子どもの年齢に応じて赤ちゃん絵本から長編創作児童文学まで幅広い年齢層を対象としています。児童文学論aでは、それぞれの特徴を作品を通して具体的に考えていきます。まず昔話を通して物語の基本構造を学び、児童文学の基本条件から読者年齢による分類と特徴を見ていきますが、とくにファンタジーについては詳しく調べていきたいと思います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	児童文学論 b	日本児童文学の流れを主に見ていきます。日本の児童文学は近代になってから、さまざまな考えかたをもとに変化しながら、今日にいたっています。児童文学論bでは、明治時代の書かれた童話から現代の最先端の児童文学までを展望していきます。それぞれの時代を映してきた作家の作品論を中心に、欧米の作品とも比較しながら解説し、児童文学とはなにか、読み継がれてきた魅力はなにかをさぐります。	
	比較文学 a	文学を読み、その領域を帰納的に概観し、そこから派生する概念の枠組みに照らして文学を比較検討する。ミメシス、曖昧の問題、解釈学、古典、作家の意図、叙事詩、詩型、小説、物語論、ミリュールなど文学の基本的な範疇と定説および学術用語を概説する。文学の背後にある言葉の秩序を学び、批評的発見の展開を確認し、言語芸術の可能性を探る。優れた文学批評は比較文学の実践であり、文学を学術的対象として研究する上で必須となる体系的知識を通時的かつ共時的に考察する。	
	比較文学 b	文学を読み、その領域を帰納的に概観し、そこから派生する概念の枠組みに照らして文学を比較検討する。ジャンル、文体論、アレゴリー、アイロニー、イマジスト、異化作用、ポストコロニアル文学、メタフィクション、アリュージョンなど文学の基本的な範疇と定説および学術用語を概説する。文学の背後にある言葉の秩序を学び批評的発見の展開を確認し、言語芸術の可能性を探る。優れた文学批評は比較文学の実践であり、文学を学術的対象として研究する上で必須となる体系的知識を通時的かつ共時的に考察する。	
	女性と文学	「女性と文学」という言葉からは、色々な切り口を提示することができますが、この授業では、女性読者と文学の関係を探ることを目的とします。 その具体例として、太宰治という作家と、女性読者の関係を考えてみたいと思います。小説のみならず、雑誌や映画など、様々なメディアに目を向け、そこに浮かび上がるイメージとしての太宰治の意味や、そのイメージの受け手として想定された女性読者の存在に潜む問題を検討しましょう。	
	比較文化論 a	本講では、西洋古典の最高峰とされ、イタリア・ルネサンスの精神的支えともなったダンテ『神曲』を取り上げる。この物語の展開を追いながら、深い思想性に満ちた古典の言葉の中に、西欧社会の礎にあるものの考え方を学ぶと同時に、宗教の差異を超えて、人類普遍に通じる価値をとらえていく。あわせて、ダンテの言葉にインスピレーションを受けて創造された芸術世界のいくつかを鑑賞し、古典の楽しみから広がる文化性豊かな暮らしの姿を描いていく。古典の言葉と芸術をつなぐ豊かさを知り、自らの心豊かな生き方への視点を習得することを目標とする。	
	比較文化論 b	比較文化論 b では、日本文化の柱ともいえる『源氏物語』を、比較文化論 a で扱う西洋古典の最高峰・ダンテ『神曲』との好対照として取り上げる。ものあはれに満ちた『源氏物語』の言葉と芸術世界を味わいながら、物語のこまやかな展開の実際を楽しむと同時に、万葉・古事記の世界にも触れ、背後に流れる日本古来の考え方・感受性への見方を深める。グローバル化社会の中で、自らの依って立つ文化アイデンティティを確かなものとすると同時に、異文化を見つめる視点を培い、文化性豊かな暮らしの創造の一助とする。	
	生活文化論 a	デザインされたモノやブランドのイメージは、人々のライフスタイルに大きな影響を与えます。それは、製品への信頼であったり、ブランドへのあこがれの場合もあるでしょう。本講義では、産業を通して提供される様々なモノやコトの意図や価値を、デザインという視点から、分かりやすく解説します。これは、現代の企業活動を理解する助けにもなるはずです。	
	生活文化論 b	デザインというと、産業が生み出す様々な商品が思い浮かびます。これは、現代デザインの大きな成果です。一方で、人々の生活文化が生み出すデザインも存在します。本講義では、生活者の文化が生み出すデザインを様々な視点から考えていきます。これは、大量生産と大量消費を目的とした産業デザインとは、全く異なるデザインの価値です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	出版文化論 a	<p>デジタル化の急速な進展に伴い、出版形態は今変革期を迎えています。「出版文化」をこれを支える印刷技術とともにその歴史を紐解いてみると、書籍、雑誌に限らず、版画や地図、広告、新聞など様々な印刷・出版物が世に生み出され、私たちは、これらの印刷・出版物から、言語や社会、文化、風俗、科学、芸術など幅広い情報や知識を得る恩恵を受けてきました。それは、「伝えたい」「知りたい」といった欲求と、印刷と結びつくことで可能となったのです。</p> <p>この授業では、印刷・出版の歴史を学ぶとともに、これまで培ってきた文字や画像による表現技術や手法、そしてこれらが社会、文化の発展に果たしてきた役割や意義について考察します。</p>	
	出版文化論 b	<p>本を所有する理由の一つに「デザインに惹かれた」ということがあります。このことは、電子書籍が普及しつつある現在、紙の本を所有する理由としてこれまで以上に重要なキーワードになるのではないのでしょうか。</p> <p>他の分野のデザインと同様に本のデザインもまた、その形にいたるまでの様々な理由が存在しますが、コンピューターと編集ソフトで作業が進められる現代では、なかなかそれが見えないのが実情です。</p> <p>この授業では、まず、本はどのようにして現在のようなたずまいを持つようになったのか、タイポグラフィ、印刷、製本の歴史をたどります。そして最終的には現代の日本のブックデザインを考察します。</p>	
	食文化論	<p>食文化の歴史を辿り、成立過程の社会・文化的背景について学ぶ。日本と同じ東アジア食文化圏に属する韓国の食文化と比較することにより、日本の食文化の特質についても考える。現在の食へと至る歴史を踏まえた上で、今後の食のあり方について考える力を養う。</p>	
	衣文化論	<p>「衣＝ファッション」について、フランス、そして日本を中心に、その歴史を踏まえて、それぞれの時代に表出してきたファッションの背景にある社会的・文化的背景について学ぶ。各時代を追いながら、ファッションをリードする国でのファッションの形成の特徴、現代のファッションを捉える上での様々な視点についても学ぶ。</p>	
	文化人類学 a	<p>文化人類学は、私たちの属している社会とは異なる文化をもった社会との比較研究を通して、「文化とは何か」という問題に迫ろうとする学問である。本講義では写真や映像、様々な資料を使用し、文化を多様な角度からとらえ「文化とは何か」を考察する。またこれらの作業を通して、私たちの文化像を再考するとともに、世界を多様な側面から捉える視点を養うことを目的とする。</p>	
	文化人類学 b	<p>文化人類学は、私たちの属している社会とは異なる文化をもった社会との比較研究を通して、「文化とは何か」という問題に迫ろうとする学問である。本講義では写真や映像、様々な資料を使用し具体的な事例を通じて多様に存在する「世界観」や「社会のあり方」を考察する。これらの作業を通して、私たちの文化像を再考するとともに世界を多様な側面から捉える視点を養うことを目的とする。</p>	
	メディア論 a	<p>この授業では、歴史的なパースペクティブからメディア論的な考え方を身につけることを目指します。各回の授業では、写真、映画、新聞、本、パソコン、ケータイといったメディアを一つまたは複数取り上げ、その歴史を概説します。「メディア論a」では主に歴史を扱いますが、常に現代のメディア状況との関係に注目しながら、歴史を紹介していきます。現代において当たり前存在しているメディアにも歴史があり、さまざまな技術的、社会的な条件のなかでダイナミックに変化してきました。その結果として現代があります。メディアの歴史を知ることで、現代のメディアに対する感受性を深め、これからのメディアの変化を読み解き、使いこなしていく上でのヒントを見つけて欲しいと考えています。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	メディア論 b	この授業では、前半でメディア論の基本的な考え方を、後半で現代のメディア文化の諸相を概説します。後半の授業では、現代のメディア文化に関するトピックを毎回一つ取り上げ、海外の事例も含めて紹介していきます。「メディア論b」ではあくまで現代的な事象を中心に扱いますが、現代のメディア文化を理解するために、その都度、関連するメディアの歴史の概説を行います。メディア論的な視点を学ぶことで、現代社会を読み解き、日常的なメディアのあり方を批判的に捉え直す方法を身につけて欲しいと考えています。	
	情報文化論 a	情報社会と呼ばれる現代において、様々なメディアやそれを用いたコミュニケーションは私たちの日常生活に欠かせないものとなっている。本講義では、情報文化を考える際の基本概念である「コミュニケーション」をキーワードとして、そのプロセスと様々な種類のコミュニケーションを論じながら、現代の情報文化について考えて	
	情報文化論 b	情報社会と呼ばれる現代において、様々なメディアやそれを用いたコミュニケーションは私たちの日常生活に欠かせないものとなっている。本講義では、メディアが歴史的にどのように情報文化を創りあげてきたか、そして社会や人々の心理にどのような影響を与えてきたかについて、「メディア」をキーワードとしながら論じていく。また、昨今の新たなメディア状況の変容と社会とのかかわりをもとに、今後メディアや情報文化がどのように変化していくかを考察していく。	
	世界の美術	西洋美術の歴史を学びます。この授業ではヨーロッパ絵画が多様に展開した17世紀から、美術の概念が大きく変わった20世紀の作品を絵画を中心に見てゆきます。美術作品は時代を映す鏡であるという視点から、作品の芸術的側面だけでなく、各時代の社会や考え方にも触れ、西洋文化全体についても概観します。	
	心理学概論	私たちは生活のなかで、自分の周囲の状況を認識・理解しながら思考し判断をして、行動していています。この講義では、心理学とはどのような学問か、心理学はさらにどのような分野に分かれているのかを紹介したあと、特に基礎心理学の各分野のなかから興味をもちやすいトピックスをとりあげ、デモンストレーションなども交えながら、その分野に関する基本的な知見から最新の研究成果までを紹介していきます。講義を通して、心理学という学問、人間の心のはたらきや行動に対する理解を深めていくことを目的としています。	
	心理学 a	テーマは心理学入門です。心理学とはどのような学問なのか、そして心理学の知識を実際の生活にどう役立てていくのか考えていきます。心理学の簡単な歴史から始まって、心理学の広がりについて説明します。その次に皆さんが興味を持ちそうな性格、人間関係、恋愛などのトピックスを取り上げ、科学的な方法論に基づく心理学についての理解を深めることを目標にします。さらに、自己理解に役立ててもらおうことを目指します。	
	心理学 b	テーマは「夢見と臨床心理学」です。私の研究の専門領域である「夢見」とカウンセリングや精神分析についてのさまざまな最新の心理学的な研究を日常的な体験に照らし合わせながら紹介していきます。前半は臨床心理学について説明します。心の不調の種類とその対応方法について話します。夢見に関しては、睡眠に関すること、夢とは何か、なぜ夢を見るのかといったことを、臨床心理学に関しては精神分析やカウンセリング、心理療法についても簡単に触れます。	
	発達心理学 a	人間の発達とは、誕生から死に至る過程において生じる一連の出来事である。成人すると成長は終わりではなく、身体や心は一生を通じて変化し続け、絶えず発達している。本講義では、乳幼児期の発達について、身体的、心理的变化に関する基礎知識を学ぶことを目的とします。発達初期の重要性に重点を置き、胎児から乳児期、そして幼児期の身体的・心理的発達に関する過程から発達初期の重要性を学びます。さらに、発達障害児に関する理解も深めることを目的とします。	
	発達心理学 b	人間の身体的、心理的变化による発達過程に関する基礎知識を学ぶことを目的とします。成人すると成長は終わりではなく、身体や心は一生を通じて変化し続け、絶えず発達しています。本講義では、児童期から老年期まで段階について発達の基礎的な知識と心理的側面に関する理解を深めることを目的とします。青年期以降は身体的発達よりも心理的発達に焦点を置き、アイデンティティ獲得から職業生活、親になること、など環境的变化に適応する人間の心理的变化に関する発達過程について知識を習得してください。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	教育学 a	教育学と聞くと、学校教育をイメージする人が多いと思う。しかし、教育は私たちの日常的な行為である。親子、友人、夫婦、社員間など、どこでも意図的もしくは無意図的な営みとして教育的行為が見られる。 私たちがだれにでも、やみがたい知的好奇心や向上心がある。そこで、すべての人にとって、より日常的な営みは自己教育・学習であろう。本来の自己実現は自分一人の問題ではなく、人類共通の普遍的・歴史的課題であるという認識をもって、自然・社会との調和的関係性の変革の中に、自分自身の自己更新を目指して身をおくことである。このようなスタンスに立って、すべての人のための教養(culture)としての教育学についての意義や原理に対する基礎理解を目標に下記の内容を学習する。	
	教育学 b	「ゆとり」教育路線が頓挫してしまった。しかし教育を、大学までの短いスパンで考えず、もっとライフサイクルという大きな流れの中で、「ゆとり」をもって自分らしく、しかも社会に役立つ有意義な人生を、一人ひとりが見出せるような教育・社会環境を生み出す必要がある。 真に個人と個性を尊重し、日本国憲法第26条が示す「その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利」という教育の理想を、現実において進展させなければ、国民のQOL(生活の質)の向上は図れない。このようなスタンスに立ち、文化=教養(culture)としての教育事象に対する基礎・基本の理解を目標に、特に現代の教育問題を題材にして下記の内容を学習する。	
	教育史 a	本講義は、教育に関する諸課題を歴史的に問題とし、同時に当該時代の歴史的事象との関連における知見を得ることで、市民としての教養の涵養を目標とする。今年度は、今日においても重要な問題である「民主主義」を欧米諸国の歴史を辿るなかで、「教育における民主主義」をテーマに、以下に掲げる諸問題を講述する。本講義は、共通科目ではあるが、教育問題や歴史に関心がある学生と、特に教職に関係する課程や学科の学生諸君の履修を推奨する。	
	教育史 b	本講義は、教育の諸課程を歴史的に問題とし、同時に当該時代の歴史的事象との関連において市民としての教養の涵養を目標とする。今年度は、現代において極めて問題とされ、また顕著な課題となっている「少数者の問題」を欧米諸国の歴史を辿るなかで論じ、特に以下に掲げる「教育における少数者の問題」について講述する。本講義は、共通科目ではあるが、教育問題や歴史に関心があり、特に教職に関係する課程や学科の学生諸君は履修するのが望ましい。	
	日本国憲法	日本国憲法が保障する基本原理(国民主権・基本的人権の尊重・平和主義)とはどのようなものか。本講義では、とりわけ、基本的人権を中心に学んでいきたい。また、ビデオを鑑賞して憲法について考えてもらいたいと思います。	
	法学	国民の生活を規律する「法(法律)」について学んでいきます。社会生活をおくるために必要な規範としての法の存在と、法の本質、目的、形式、効力、解釈などについて学ぶ。法を学ぶ上で、社会における出来事などとの関係についても適宜触れていく。	
	法と生活	みなさんは毎日の生活のなかで、自分が「女性」であることを、どのくらい意識して過ごしていますか。「保護から平等へ」とのスローガンのもと、男性と女性の間には存在する法律上のさまざまな障壁は徐々になくなりつつあります。ですが、今もなお、私たちは「男とは…、女とは…」と無意識のうちに区別したり、こだわったりしがちです。なぜ、そうなるのでしょうか。この授業では、「女性」という観点から法律をみることによって、社会で何が問題になっていて、どのようにその問題を克服すべきなのか、ともに考えます。	
	政治学 a	政治についての基本的な知識と思考方法を身につける。 政治学のアイデンティティー 政治の世界 政治体制と変動 政治、経済、福祉 政治制度と政治過程 公共政策と行政	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	政治学 b	「政治学 a」に引き続いて、政治についての基本的な知識と思考について学んでいきます。 政党と政党制 政治意識と政治文化 集権と分権 国際政治 グローバル・プロブレマティーク 政治学の潮流	
	経済学 a	人・物・金が国境を越えて自由に移動するグローバル化時代。競争原理の活用、市場メカニズムなどという言葉がよく聞かれるが、それはどういうことを意味するもので、私たちの日常生活とどのような関わりがあるのかを考えていく。	
	経済学 b	日本経済はこの20年すっかり成長力を失って、近年ではマイナス成長も記録している。それによって国内総生産（GDP）は減少し物価が下がりつつ失業が増えてきた。この授業では、これら社会的経済変数がどのように決まるかを教え、将来の方向を考えていく。そしてそれに対応して私たち自身がどのような暮らし方をすべきか考えていく。	
	日本経済論 a	戦後日本の経済は、「日本型」ともいわれる特徴的な形をとって発展してきた。そしてその発展の故に「日本型」のシステムは効率性を失って日本経済は長期にわたる停滞を余儀なくされ、新しいシステムが求められるようになった。「日本経済論」は、この過程を辿ることによって日本経済の特徴を明らかにし、その延長上に将来の方向を求めようとするものである。 このような内容を説明するためには、少なくとも通年の講義を必要とするが、「日本経済論 a」では、この半世紀の大きな曲がり角になった1970年代初めまでを内容とする。しかしそれは、ただ古い昔話ではなく現在と密接なつながりを持っていることを知ってもらいたい。	
	日本経済論 b	戦後日本の経済は、「日本型」ともいわれる特徴的な形をとって発展してきた。そしてその発展の故に「日本型」のシステムは効率性を失って日本経済は長期にわたる停滞を余儀なくされ、新しいシステムが求められるようになった。「日本経済論」は、この過程を辿ることによって日本経済の特徴を明らかにし、その延長上に将来の方向を求めようとするものである。このような内容を説明するためには、少なくとも通年の講義を必要とするが、「日本経済論 b」では、この半世紀の大きな曲がり角になった1970年代以降を内容とする。大きな曲がり角を経てきた日本を実感してもらいたい。	
	日本史 a	日本列島には地域によってさまざまな文化が存在し、それゆえに豊かであった。しかし「日本」とはどの地域をさすのか、わたしたちが「日本文化」と認識しているものは何なのか。日本の範囲は時代によって異なったり、観念的に考えられている「日本文化」とは明治維新以降、文化の均質化によって政治的に作られたものである。地域文化の差異性こそが重要なのだということに気がついてもらいたい。原子時代からの日本列島の歴史を概観しつつ、日本人とは何か、「日本文化」とは何かを考える。	
	日本史 b	差別はこれまでの日本文化を特徴づける重要な要素である。この講義では、いわゆる「賤民」とされてきた人々の歴史と、差別に反対する運動の歴史をとりあげる。部落「間」差別は、過去の問題でも西日本だけに存在するものでもない。また差別されている人々にとってだけの問題ではなく、内閣同和対策審議会の答申にいうように、その差別の解消は「国の責務であり、国民的課題」である。差別する側、差別の存続を許している側の問題なのである。現在の差別の実態はどうか、芸能にたずさわったり、社会にとって不可欠な技術を持っている人々がなぜ差別されるようになったのかという歴史をふまえて、差別撤廃の展望をさぐる。	
	西洋史 a	本講義は、西洋世界の歴史についての基礎的知識を得ること、および、西洋史の教養を身につけることを目標とする。 現代のヨーロッパから、近代、近世、中世のヨーロッパ、また地中海世界について学びます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	西洋史 b	本講義は、ヨーロッパ近現代の歴史を概観し、20世紀という時代について考える。とくに二つの世界大戦に目を向け、第一次世界大戦から第二次世界大戦までのヨーロッパの政治と社会を概観する。	
	東洋史 a	アジアの歴史から、できるだけ多くの時代・地域・分野の問題をとりあげます。王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事のような日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を知ることによって、アジアの歴史の多様な側面とその歴史によってはぐくまれてきた多彩な文化に対する理解を深め、視野をひろげてもらえれば、また、いろいろな史資料から歴史の「なぜ」を解き明かしていく過程にふれることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養い、歴史を知る意義について考えてもらえれば、幸いです。	
	東洋史 b	アジアの歴史から、できるだけ多くの時代・地域・分野の問題をとりあげる。王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事のような日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を知ることによって、アジアの歴史の多様な側面とその歴史によってはぐくまれてきた多彩な文化に対する理解を深め、視野をひろげてもらえれば、また、いろいろな史資料から歴史の「なぜ」を解き明かしていく過程にふれることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養い、歴史を知る意義について考えてもらえれば、幸いです。	
	地理学	本授業のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解」である。グローバル化が進む現代社会において、多様な人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。そこで、授業ではまず、地理学の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地理学の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料を用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察していくことを行う。	
	社会学 a	この授業では、社会学に特徴的な問いの立て方を「ソシオロジカル・シンキング (SI)」と呼び、古典を紐解きつつ、その定石を解説します。授業の目標としては、以下の2つを設定します。ひとつは、社会学の古典に関する基礎知識を得ること。いまひとつは、それらを参考に、みなさん自身がオリジナルな問いを立てられるようになることです。	
	社会学 b	前期開講の「社会学 a」では、ソシオロジカル・シンキング (社会学的な問いの立て方) の初歩を古典から学びました。この授業では、社会問題をめぐる議論を社会学的に分析する方法を学びつつ、一歩進んだソシオロジカル・シンキングであるメタシンキングの習得を目指します。授業の目標としては、以下の2つを設定します。ひとつは、社会学的な論争分析に関する基礎知識を得ること。いまひとつは、それらを応用して、みなさん自身がオリジナルな問いを立てられるようになることです。	
	ジェンダー論 a	1. ジェンダーの問題を考えるにあたって、知っておかなければならない概念や用語とフェミニズム、男性学の理論についての解説。 2. 近代家族と男女の役割の形成について理解する。 3. 「美」「性」と「医」「生殖」の関係と管理、近代的身体観の成立を、男女の方向性の違いに着目してみていく。 4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツという概念について、国家による人口政策の変遷とその問題点を検討する過程を通して理解する。 5. 美容医療や生殖技術の問題点や是非論を整理する。	
	ジェンダー論 b	「性」は、私たちにとって身近であるにもかかわらず／あるからこそ、思いのほか自覚的に語り考える対象とはならない不思議なテーマです。こういう一見自明な対象は、学問的な「捉え返し」の妙味が見え易いテーマでもあります。一方、この社会の中での女性やセクシュアルマイノリティへの差別の現状を踏まえると、「性」は解決すべき具体的な諸問題を含んだ、シリアスかつ緊急の考察を要するテーマでもあります。本講義では、「性」に関するさまざまな議論の蓄積の間を駆け抜けながら、学問的楽しさと正しさが交錯する地点で「性」を考える視座を身につけてもらいます。最終的には、「性」に関する自分自身の問題を本講義の知見をもとに考察できるようにしてもらおうことが目標となります。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	社会保障論	私たちの気がつかないところで、社会保障制度は機能している。病気になって受診する場合、皆さんは保険証を持って病院に行く。医療保険制度は、いちばん身近な社会保障制度である。他にも、昨今話題の年金制度、雇用保険、労災保険や介護保険等の社会保険制度、そして生命保険、損害保険等の民間保険分野との関連性も含め、民主主義社会の根幹をなす制度の一つである社会保障制度を概観していくこととする。	
	数学の世界	身近にある数のとらえ方や扱い方、物事を一般化する抽象化の方法、論理的にものを考える力などを中心に、日常生活でも役に立つ数学を学びます。SPIテスト等で扱うような簡単な計算の練習もします。	
	統計の世界	統計学の基礎を中心に、日常生活で経験する具体例を通じて、エクセルの利用方法と統計の考え方に親しむ。 数式にとらわれず、日常生活と関連の深い例を取り扱う。データの処理等には、エクセルを活用する。	
	物理の世界	自然界を構成する最小の基本単位は素粒子です。例えば原子内にある陽子や中性子はクォークという素粒子が結合してできています。また光は光子という素粒子です。こうした素粒子の世界を理論と現象の両側面から概説します。原子よりも小さい極微の粒子が対象となりますが、それはまた宇宙の始まりについても知見を与えてくれます。素粒子に関連した未解決の問題とその研究状況も紹介します。自然に対する知識を深めると共に、物理学の考え方を理解することが目標です。	
	化学の世界 a	身の回りのさまざまな化学物質（食品素材、工業製品、天然物、無機物など）の性質を理解し、また自然の法則を理解するには化学の知識が必要ですが、高校の化学は暗記と計算が中心の面倒な科目という印象が強いかもしれません。そこで、この講義では「受験の化学」から離れ、生活の中の身近な現象、物質、科学技術のトピックスを取り上げて、物質の科学である化学・生化学の観点からの理解を深めることを目標とします。	
	化学の世界 b	身の回りのさまざまな化学物質（食品素材、工業製品、天然物、無機物など）の性質を理解し、また自然の法則を理解するには化学の知識が必要ですが、高校の化学は暗記と計算が中心の面倒な科目という印象が強いかもしれません。そこで、この講義では「受験の化学」から離れ、身近な現象や物質を取り上げながら、物質の科学である「化学」について基本的な考え方を学びます。 この講義では、高校で化学を十分に履修しなかった場合や理解が不十分だと思われる場合に有用な、基礎化学（高校の化学Ⅰ）の履修項目を取り上げます。	
	生物の世界	現在、地球上には原核生物から真核生物まで、数千万種類にもおよぶ生物が生息している。かつては、これらの生物は一見計り知れないほどの多様な構造と機能を持つように見えたが、現代生物学はこの多様性の中に、ほとんど唯一ともいえる共通した生命の型があることを明らかにしてきた。本講では、地球上に登場した唯一の生命の型とはどのようなものであり、どのようにして誕生したかについて学び、生物の世界を作り上げてきた歴史と基本原理を理解し、学生自らの生命観・世界観構築の一助とする。	
	生命と環境	この地球上では生物は単独の種のみであるいは個体のみで生きていくことは不可能です。多くの生物種の集団の中で、互いに共存しあい、共生しあって初めて生きていくことができます。生命の基本的機能はすべての生物に共通と考え、生命の持つこの基本機能を分子レベルでさぐることにより、地球上の生命の尊さを理解できるものと考えます。この講義では生物がもつ基本機能としての、外界つまり環境の要因と交流の仕方を分子レベルで見つめてみます。環境要因として基本的な〔水〕、〔大気〕、〔光〕を取り上げます。それぞれの環境要因と生物の関係を説明できることを目標とします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	科学思想史	各々の時代の科学思想は、同時代の科学者の活動に少なからぬ影響を及ぼしてきたと同時に、科学自体の発展と密接に伴われてきたといえる。科学が人間社会の主要な一部分となり、我々の日常生活に不可欠な要素となった現代では、科学思想の意味内容は自然現象の解釈の仕方に留まらず、科学技術に接する際の我々の姿勢や、科学技術が抱える問題に対する意思決定の様式までも含むようになった。授業を通して受講者が先人の残した科学思想を知り、将来起こり得る科学技術の新たな課題に接した際に主体的な態度でそれに臨めるようになるための一助としてくれれば望ましい。	
	環境科学	先ず生命の起源および人類の進化について論じる。次に、いろいろな環境要素を取り上げ、人類との関わり、近年の研究例、技術的課題等について論じる。	
	環境と産業技術 a	本学の教壇に立って8年目になります。私は魚類学・河川環境論・魚道などを研究テーマとしていますが、講義題名には余りとらわれず分かりやすく話題提供をしていきたいと思ひます。大学の燎広場はなぜ雨の日でも歩き易いのか、魚が住んでる田んぼの米はなぜ高く売れるのかなど、身近な環境の話題から本質を考へていきます。私自身が苦手な難しい数式や化学式などを必要とせず、易しい内容で展開します。“知識でなく柔軟な考へ方を広める”ことがこの科目の最大の目標ですので、専門外の学生さんもどうか気楽に受講してください。	
	環境と産業技術 b	「環境と産業技術 a」に引き続いて“知識でなく柔軟な考へ方を広める”という視点から、以下の話題を展開したいと思ひます。それ以外でも受講生の皆さんからの希望には応えたいと思ひます。	
	くらしの人間工学	日常生活（家庭・くらし）のなかで、私たちはモノを使っています。手で持っているボールペン・携帯電話、電車の切符を買う時のスイッチや案内画面、インターネットを利用した社会サービスなど、非常に多くの道具・電気機器・システムに囲まれています。くらしの人間工学では、安全で快適なくらしをしていくために“くらし”における電気・機械の基礎と人間行動について講義します。	
	身体運動の科学 a	ヒト生体の構造と機能について運動と関連して学習する。運動生理学の基礎、身体における機能、ヒトの動きとバイオメカニクス、筋力や全身持久力のためのトレーニング法などを学びます。	
	身体運動の科学 b	運動における科学的知識（生理学・社会学・心理学）を理解し、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識を身につけます。特に、女子学生に関心の高いテーマを取り上げ、学生たちが積極的に運動に関わるきっかけとなる授業を目指します。具体的には、身体の構造を理解し、健康を維持するための運動の種類や内容・計画のたて方、安全で効果的なトレーニングの方法、さらに、運動における心理学的効果や運動を採択・継続・および停止を予防するための行動変容モデルおよび心理的指導方法を解説します。また健康運動だけではなく、さまざまな競技における障害や医学的知識を紹介し、運動を行う現場での実態を例にあげて授業を進めていきます。	
	スポーツ文化論	スポーツは今や、テレビ、ラジオ、インターネットといったさまざまなメディアと絡み合い、巨大な市場を産みだす文化装置として、私たちの暮らしのなかに溶け込んでいる。Jリーグ、ワールドカップサッカー、日本プロ野球、MLB（メジャー・リーグ・ベースボール）、NFL（ナショナル・フットボール・リーグ）、オリンピック、大相撲、ブンデス・リーグ等々さまざまな大会が開催され、スポーツニュースでは「感動！」と称して毎日のようにその結果と映像が放映されている。この講義では、スポーツという文化現象を、政治、経済、歴史、社会的視点から広範に考察し、スポーツを「考へる」ことで、スポーツのあるべき姿はどのようなものか、その文化的発展に寄与しうる批判能力を養うことを目標として授業を行います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 教養教育科目	健康運動実習 a	省力化やIT革命が進行するなか、スポーツは人類が健康で豊かに生活するために欠かせない文化になりました。この授業では、各種スポーツを実践し、社会人になるための健康管理能力の向上、健康・体力の増進、運動習慣の形成、仲間づくりなどをめざして、身体活動の意義やスポーツ環境づくりの必要性について理解し、生涯スポーツ実践に向けたスポーツの魅力と楽しみ方について学習します。	
	健康運動実習 b	人生をよりよく過ごすためには、こころとからだの健康が大切である。この授業では、いろいろな健康運動を通して、自己の身体、健康、体力に関心を持ち、日常生活における積極的な身体活動の必要性を理解するとともに、仲間と安全に楽しく活動するための方法を身につけ、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。	
	基礎スポーツ実習 a	フェンシングは、昔から伝わる武技が現在のようにスポーツ化したもので、その身体活動を通じて健全な心身の育成、人格の陶冶をはかるもので日本の武士道と同様、中世の騎士道に基づいた礼を重んずるスポーツです。練習・試合の前には必ず正しい動作で挨拶します。フェンシングの良さは、華麗なプレイ、頭脳的なかけひき、スピーディな試合運びと科学的なテクニックにあり、ヨーロッパでは、女性にも教養と美容のためのスポーツとして好まれており、また子供のマナー習得のためにも取り入れられています。本授業では、ルールが簡単で誰にもわかりやすいエペ種目を実施いたします。	
	基礎スポーツ実習 b	いろいろなダンス・エクササイズの実践を通して、美しい姿勢や動きについて考えながら基本的なからだの動かし方を習得するとともに、非言語コミュニケーション能力を高める。毎回の授業前半に、ストレッチ、アイソレーション、コアトレーニングなどの基本エクササイズによって十分にウォーミングアップを行うので、自分のからだと対話しながら、その日の体調や微妙なからだの変化を感じとって欲しい。学期の後半には、前半に行った動きやステップを組み合わせたダンス作品（コンビネーション）を実習、撮影し、客観的に鑑賞批評する。	
	基礎スポーツ実習 c	この授業では、「運動障害と予防」と「救急救命」を前半に、後半には、科学的理論にもとづいた「エクササイズ」の具体的な運動処方について学習する。運動障害は、内科的な障害と整形外科的な障害に分けて講義・実技を行う。後半の授業では、呼吸循環系を改善し、全身持久力を高めるためのエクササイズを学習する。心臓の鼓動、呼吸のリズムなどを感じながら運動を行い、生体機能を理解する。	
	基礎スポーツ実習 d	実践女子大学におけるなぎなたの歴史と全日本なぎなた連盟の歴史的背景を考察し、なぎなたの特性を理解し、正確な基本技を修得する。なぎなたの礼儀作法からはじまり、構え、打ち方などの基本技を用いた連続技や打ち返しなどに発展させる。	
	健康体力科学演習	この授業では、各種の運動・スポーツを実践し、運動強度や運動量（エネルギー代謝）について理解を深めます。そして、自分が運動をすることのみにとどまらず、家族、さらには、教育現場や大学・地域のクラブ活動など身近なスポーツ愛好者のために運動プログラム作成の支援を可能とする運動処方の理論・実践について学習します。各種身体機能の測定、日常生活習慣記録測定や心拍数の測定、さらには食生活記録などのデータを集積し、体力や日常活動状況について分析します。その上で、目的に合わせた身体づくり（運動不足対策、健康的ダイエット、体力増強など）、生活習慣づくりをめざします。	
	ヘルスプロモーション実践実習 a	自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）の向上のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。女子大学生の高い関心事はダイエットのようである。しかし、過度な食事制限によりこころとからだに悪影響を及ぼしている姿をよく見かける。まず自分のからだをいろいろな角度から知り、本当にダイエットが必要なのか確認する。そして、運動でエネルギー消費する方法について実習し、「美」について考えながら自分に適した運動プログラムを作成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養教育科目	ヘルスプロモーション実践実習 b	自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）の向上のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、生涯にわたり自分で健康管理ができるようにすることを目標とする。 日常生活、労働、スポーツ、レクリエーションなどの動作は、人、物、場と関わりながら行われる。なかでも物と関わる動作が多いことから、いろいろな「道具」を使った体操や、仲間と楽しく行えるレク・スポーツを実習し、その運動特性や効果について考える。また、目的別に運動プログラムを作成し、個人またはグループで実践実習する。	
	スポーツ基礎科学実習 a	本授業では、健康運動実践指導者養成の基本的な学習（講義）とトレーニングスキル実習を行う。運動指導に最低限しつようなレジスタンスエクササイズ（実習）を行う。トレーニングを通して、自分自身の筋力向上や高齢者の体力向上について考察する機会を持つ。体力向上を目標にした、ラケットスポーツを行う。	
	スポーツ基礎科学実習 b	この授業では基本的な運動処方とトレーニング処方について学習する。自分の体組成と体力を確認し、自分のあった運動処方を作成する。運動クラブに入っている方は弱点を補うためのトレーニング処方を作成し、自ら実施する。	
	スポーツ健康科学実習	健康や体力づくりを目的とした運動の特性や効果について理解を深め、その運動を安全かつ効果的に実践指導できる能力を身につけることを目標とする。 エアロビックダンスを中心に、健康、体力づくりを目的とした運動の理論と実践を相互に検討しながら、グループによる実践指導実習を繰り返し行う。	
	スポーツ応用科学実習	この授業では、生涯を通じて自己の身体を健康管理できる運動の知識ならびに実践する能力を身につけていく。また、科学的理論に則したトレーニングプログラムを作成し、他者に対して運動処方できる資質を習得することを目標とする。	
オープン講座	オープン講座 a	消費社会後のこれからの社会において、企業と生活者の関係はどのようなものになるのでしょうか。待ったなしの課題である環境問題を背景に、「公正」や「共生」などの概念が産業を論じる上でも新たな軸となりつつあります。ブランド経営の先駆者であり、CSR活動においても先進企業である、「資生堂」の企業活動を具体事例としながら、これからの社会と人間像について多面的に探求します。	
	オープン講座 b	代表的な伝統文化の講義と演習を通し「本物を体で感じ覚える」をテーマに、日本の伝統文化の精神とは何か、そこにつながる儀礼文化・有職故実（古来のきまり事）の年中行事・歳時記を学び、学祖下田歌子先生の「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、社会に対応できるマナー・教養を身につけた「大人の女性」の出発点になる事を目標に学習する。	
	オープン講座 c	大学で多くの学問を学びそして社会で貢献する前に、立ちちはだかるのが、就職活動と言う大きな壁です。この講座では、如何にこの難関を突破するのか、そしてそのために必要な情報と具体的なスキルを身につけて貰います。しかし就職活動は、その場限りの一過性の手段ではありません。単なる対策ではなく、その奥にある社会や企業の考え方を考えながら方法を一緒に模索します。	
	オープン講座 d	来年度に社会人になる方を対象にした授業です。 就職後、即戦力として活躍できるようになるため、社会人として必要な常識・情報・知識・スキルを学ぶ。一方的に聞くのではなく、自ら考える場面も多く取り入れたい。実際に社会で活躍している先輩達に登壇して貰い、生きた社会の情報を伝えて貰う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	オープン講座 e	現代日本社会が抱える、「高齢化社会」「格差社会」などの多様な社会問題について、社会学、心理学、教育学、経営学などの視点を踏まえながら、それらの問題が発生する社会制度、社会環境、人間生活など多方面から分析、検証を行う。単なる事例の紹介にとどまらず、学生とともに分析を行い、社会人として生きていく知恵を身につけられるよう、授業を運営する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門総合科目	ビジネスプランニング	組織の単なる一員ではなく主体的な成員となることが求められるこれからの社会では、企業人はもちろん市民一人ひとりにとって、事業を構想し計画する能力が大切となる。企業会計の仕組みに基づいた収益計画の立て方をベースとして、さらに環境的側面、社会的側面を加えた、持続可能な事業計画づくりを学ぶ。基礎学習、事例研究の後、グループで事業計画を競うビジネスプラン・コンペティションを行う。	
	現代生活学	生活に必要な基礎技術と生活に根ざした価値・文化を背景として、現代の状況に応じた「新しい生活学」を構想する。「ネットワークとして捉えられる社会と生活」(メディア)、「環境制約に対応する産業と生活」(環境)、「持続可能で自立的な社会と生活」(自立)の、現代の生活を考える3つの軸について概念や理論を学びながら、現実の社会現象をそれらの相互関係として捉える見方を身につけてゆく。現代生活学科における学びの、基礎(1・2年次)から応用(3・4年次)への橋渡しをする総合的科目である。	
	プロジェクト演習a	問題発見-解決型のプロジェクト型学習に、少人数グループで取り組む。自分たちで課題を設定するものと、企業・行政・NPO・NGOからの課題提示に応えるコラボレーション型の2種類のパターンがある。コラボ型では、研究成果の発表には課題を提示した学外の人々を審査員に加える。各プロジェクトには、学術領域に対応した方法論が設定され、講義型科目で学んだ知識や理論を、実際に適用して試みることが試みられる。自ら学ぶこと、仲間と取り組むこと、発表することのおもしろさを体験する。	
	プロジェクト演習b	問題発見-解決型のプロジェクト型学習に、少人数グループで取り組む。自分たちで課題を設定するものと、企業・行政・NPO・NGOからの課題提示に応えるコラボレーション型の2種類のパターンがある。コラボ型では、研究成果の発表には課題を提示した学外の人々を審査員に加える。各プロジェクトには、学術領域に対応した方法論が設定され、講義型科目で学んだ知識や理論を、実際に適用して試みることが試みられる。自ら学ぶこと、仲間と取り組むこと、発表することのおもしろさを体験する。	
	ゼミナール	各所属ゼミでは、少人数グループによるプロジェクト型学習を通じて、自ら考え行動する自主的な学びの姿勢、仲間と一緒に調査・立案する組織運営など、実践的な研究・問題解決能力を身につける。問題の構造的な分析や解決策の立案においては、どのような方法論(専門的な知識・技術)によってのぞむかが、各自の特異性・専門性に相当する。所属ゼミナールの教員の指導により、実践的な展開を通じて、学術研究の知識・理論・技術を各人が自分のものとして深めてゆく。	
	ファイナルプロジェクト	卒業学年では、在学中に繰り返し経験してきたプロジェクト型学習の最終段階として、少人数グループによる創造型プロジェクト研究に取り組む。実社会を対象として自分で問題を発見し、調査によって対象を明らかにし、解決策(政策、組織、ビジネス、商品・サービス等)づくりへ結びつく研究計画を立案し遂行する。その上で、実践につながる知力の育成という大学での学びの完成を目指して、卒業論文に取り組む。	
	専門基礎科目	家庭経営a(食生活)	食品学の観点から食品の成分や物理的・化学的性質に触れ、栄養学の観点から健康の維持に役立つ栄養素の役割について講述する。また、食文化の観点から、食材の調理方法、盛り付け方、食卓の整え方、食事のマナーなどについても触れる。
家庭経営b(衣環境)		国内外における伝統的衣生活文化について学ぶと共に、現代のファッションの動向についても講述する。衣服や化粧が他人に与える心理的影響、状況に応じた衣服の選び方といった社会的な要素についても触れる。	
家庭経営c(育児・介護)		子どもに対する基本的な知識(心やからだの発育・発達過程等)を得ると共に、実際の育児に役立つスキルについて一通り講述する。また、待機児童問題、育児ストレス等の育児に纏わる社会的問題についても触れる。さらに、少子高齢化社会におけるライフスタイルと職業、介護保険制度の仕組み、介護予防の方法や在宅介護など、介護に関連した話題を講述する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎科目	基礎メディア技術	情報検索やデータ収集はもとより、インターネットと情報機器は今日欠くことのできないメディアとなり、機器やサービスは絶え間ない進歩を続けている。様々なデジタル機器、各種のデータフォーマット、OS、接続規格など、つながるものが多種・多層になった新たな社会環境への対応力が問われている。本質的なことへの理解と移り変わるものの柔軟な活用、目的に応じて自在にネットワークを構築し使いこなすための技術と知識を学ぶ。	
	プレゼンテーション技法	変化を特徴とする現代社会では、事業創造や変化が至るところで常態化している。そのなかで、コンセプトをわかりやすく表現し、人々を思考やイメージのうえでとりまとめてゆく、プレゼンテーションの技法が重要なものとなっている。情報の構造化、ビジュアルデザイン、時間的展開、心理・認知の仕組み、そしてデバイスの活用など、理論から具体的な機器操作まで、体系的に学ぶ。	
	フィールドリサーチ	生活領域の研究は、現実の社会や文化を対象とするものである。実地を通して知るためには、調査・コミュニケーションなど実践的な技法とともに、問題を定義する学的フレームワーク、分析・解釈の方法論が必要であり、さらに得たことを表現し展開する手法が重要になる。教室から街へ出たり、企業など組織を訪問する、インタビュー取材を行う、各種の機器を活用するなど、自身の経験を通じて実践的に学ぶ。	
	統計とモデリング	人は物事を理解するとき、ただ情報をインプットしているのではなく、頭の中にあるモデルに従って個別のデータを構造化している。モデルをつくることは、日常生活のありかたや社会の仕組みから、科学的探求、芸術的表現の領域まで、現状の理解と未来の創造のために重要なことである。統計的なデータを読み取るための基本的な枠組みから、未来予測のためのシミュレーション、また近年注目されているビッグデータ処理について学ぶ。	
	現代社会を読み解くa(政治と経済)	インターネットが世界を覆う今日、生活がグローバルな経済活動によって成り立っていることは誰もが知ることであるが、インターネットの発達は一方で、NGOなど市民にとって新しい政治参加の方法も生み出したり、地域主体の経済活動を促進する基盤づくり出してもいる。生活の質の向上という見地からの政策の評価や立案、また身近な活動参加など、生活者と政治の関わりの再構築について学び、生活者視点に基づく経済への新しい視点を育てる。	
	現代社会を読み解くb(生活と産業)	今日の生活者の多くが、一方では企業人として産業に関わっている。生産と消費が対立的に捉えられるようなモデルは既に現実ではない。生活者視点が産業の行為者の中に自然に巻き込まれるようなあり方が目指されている。生活産業やCSRなどのテーマは直接的にそれを問うものであるが、高齢化社会と福祉、子育てと教育、地産地消など、社会の仕組みの変化とそれを担う新しい産業づくりがいっそう重要となっている。広く産業と生活の関係を問い直す。	
	現代社会を読み解くc(文化と市場)	幸福を追求するという社会目標の達成のために、経済成長という手段を追求してきた結果、大きな問題が生み出されたことが広く問われている。市場の特徴がモノの消費から価値・イメージの消費にかわり、流行に流されるような消費のサイクルは速度をいっそう速めている。幸福の実現と経済成長が一致するものではないことは誰の目にも明らかである。市場原理を生活と文化の視点から作り直すことが必要である。レジャー産業化などの社会現象をはじめ、価値観と思想、文化史、憲法の理念など、幅広く検討する。	
	現代社会を読み解くd(科学技術と社会)	私たちの家庭生活の現実、巨大なエネルギーや複雑な機械、高度に合成された化学物質など、科学技術の所産によって作り上げられている。生態系の一部からそう離れていなかったかつての生活実態とは大きくかけ離れたものとなっている。賢い生活者であるためには、基礎的な科学知識を持つことだけでなく、科学的マインドによって生活を捉える姿勢も必要である。生活の科学者であることを学ぶ。	
	コミュニティ概論	国内外の各地において、地域政府やNPOが主体となり、市民や商店さらに企業を巻き込んで、様々な規模や手法によってまちづくりが取り組まれている。代表的な事例や特徴的なものを紹介し、その展開や課題を分析しながら、まちづくりについて総合的に理解できるように学ぶ。地域の問題解決、活性化、文化の維持育成など、具体的な課題解決に向けてどのように主体を形成してゆくのか、プロジェクトの立案にも取り組む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	環境科学概論	地球環境問題について、現在の自然科学からの分析をベースに、産業、生活、政治、国際関係、さらに文化からの視点を加え、問題の全体像を見わたせるようにする。地球環境問題はあるひとつの見方と方策によって解決できるものではなく、各専門領域からの研究を重ねながら、それらを現実的な状況のもとに総合してゆく、多角的なアプローチによらねばならない。大学で今後どのような科目を選択し、学んでゆくか、全体を捉えた上で、各人が自分の道を考えるための、基礎・出発点ともなる。		
	メディア社会概論	従来社会は、経済、法、政治、宗教を中心軸とし、さらに学問や芸術の要素を加えて研究されてきた。しかし発達した情報ネットワークを基盤として、様々なセクター（企業や行政、NPO/NGO、学校、市民など）が多様な領域で結びついた現代の世界では、コミュニケーションや象徴の働きに基づいて社会の成り立ちや秩序、変遷を動的に捉える方法の方がより有効であると考えられる。社会をメディアとみなして研究するアプローチを学ぶ。		
グレートブックス・セミナー	グレートブックスセミナー1	グレートブックス・セミナーは、古典読書を基盤として、論理的な思考、わかりやすい発言、互いに理解を深めてゆく建設的な議論の仕方を学んでゆくシステムである。真理、善、美、自由、平等、正義、愛、幸福、生と死、宗教、法律、平和、国家、格差等、各期ごとにひとつの中心概念を設定し、その概念について論じた古典テキストを順に読みながら、少人数教室で議論を行ってゆく。人類の知的遺産である古典テキストから考え方を学び、討論を通じて現実問題に知を応用する仕方を学ぶ。		
	グレートブックスセミナー2a	一年次に学んだ古典読書と討議の経験を深めてゆく。対象は2-4年生として、学年にとらわれず、知的な議論の場を楽しむ。各教室でとりあげる中心概念とテキストはそれぞれ異なり、メンバーも替わるので、議論の内容は多様なものとなるが、まったく自由なカジュアルな談話の場ではなく、常に柱となる中心概念、議論の基盤となる古典テキストに基づくメンバー相互の知的成長の場である。議論への知的な参加、議論の場を知的にリードする方法を経験的に学ぶ。		
	グレートブックスセミナー2b	一年次に学んだ古典読書と討議の経験を深めてゆく。対象は2-4年生として、学年にとらわれず、知的な議論の場を楽しむ。各教室でとりあげる中心概念とテキストはそれぞれ異なり、メンバーも替わるので、議論の内容は多様なものとなるが、まったく自由なカジュアルな談話の場ではなく、常に柱となる中心概念、議論の基盤となる古典テキストに基づくメンバー相互の知的成長の場である。議論への知的な参加、議論の場を知的にリードする方法を経験的に学ぶ。		
専門教育科目	自立社会と自立生活	地域文化形成論	地産地消は食料とエネルギーの問題だけでなく、人間社会の基本的な価値の問題である“生の喜び”の観点からも検討されなければならない。経済と同じくグローバル化してきた教育とレジャーの問題を通じて、社会の地域化の方向性を検討する。	
		コミュニティ経済演習	文化史から見た地域経済の特徴は、市場取引に加えて互酬を含むことである。歴史・比較文化研究の成果を踏まえながら、地域通貨などの具体的な事例を参照して、特定の地域を対象とした地域経済圏の再構築について立案する。	
	自立生活論a（健康）	心身共に健康であることは万人の願いであるが、それはどのような仕組みによって支えられているのか。発展してきた医療と保険の制度にも負のサイクルの拡大が論議されるなど、社会的な見直しが必要となっている。健康を、個人の責任と社会制度の支援によって考えるだけでなく、家族や共同体社会など関係的に捉えてゆくことも、特に心の健康の問題では重要である。健康について総合的に考える枠組みを学ぶ。		
	自立生活論b（消費者）	企業が消費者視点からの事業経営を重視するようになってきたことに対応して、積極的に生産に関与する消費者像（プロシューマー）も論議されてきたが、その一方で、生産消費のサイクルに取り込まれない自立した生活者としてのライフスタイルを確立することも、いっそう重要であるとの認識も高まっている。生活の質の向上と消費の拡大とを一致させる見方を脱して、新たなライフスタイルを築くために、実証的データに人間学的考察を加えながら、消費についての構造的研究を行う。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	自立生活論c (安全と保障)	生活を営む上では、様々なリスクを想定することが必要である。病気や事故、犯罪、災害、あるいは失業などの経済的リスクなど。社会は全体として個人のリスクを軽減するような制度や法を整備してきたが、他人任せにしないで自主的にリスク対応を図ることも、生活の経営の立場からは大切なことである。防犯や保険についてのビジネス、事故や災害を避けるための情報収集など、生活のリスク・マネジメントについて学ぶ。	
	少子高齢化社会	人口動態についての統計的データから、少子高齢化社会へのさらなる進行は明らかな事実である。人口増と経済成長を前提とした従来の社会制度の中には、すでに破綻しつつある例も少なくない。現実に合わせて新たな社会のかたちを構想し実践してゆく必要がある。特に教育・レジャーの領域など、新たな枠組みの創造に取り組みやすい領域もある。データや理論的理解をもとに、実践へと結びつけてゆく手法を学ぶ。	
	グローバル社会	グローバル化は、経済の成長とともに社会問題の拡大において捉えられる、現代の現実である。人口、経済活動、国際政治、文化交流、自然環境など、状況を多面的に捉えながら、問題が私たちの暮らしと社会にどのように結びついているのかを、なるべく具体的に考えてゆく。グローバル化と対極にある、ローカル化の考えや政策も参照しながら、これからの生活と社会を考え、構想する姿勢を形成する。	
	地域エネルギー論	太陽光やバイオマスなど、再生可能エネルギーの利用はどこまで可能なのか。地域のエネルギー自立のために現在取り得る手段と今後の可能性は。エネルギー資源についての包括的な調査データに基づいて、再生可能エネルギーによる持続可能な社会づくりについての可能性を探究する。	
	地域エネルギー論演習	現実にエネルギーの地域自立はどこまで可能なのか。スマート・シティ、スマート・タウン、スマート・コミュニティのような都市行政と産業の取り組み事例から、小規模発電やバイオマスを利用した地域的な取り組みなど、具体的な事例を調査して研究報告書としてまとめる。	
	地域食料論	化石燃料、金属資源、地下水の採掘限界が近づく時、地域的な食糧自給は可能なのか。現代の食料生産の複雑な相互関係構造を明らかにしながら、地産地消を可能とする条件、そのための新たな技術と社会制度について検討する。	
	地域食料論演習	地産地消やスローフード、ロハスなど、食品と地域性についての社会的関心は高まっているが、地域の食料的自立の可能性といった、客観的で包括的な研究はまだ不十分な段階である。産業としての農業の条件、気候や農耕に必要な資源、地域の歴史や人口動態など、現状調査から将来に向けた政策提言まで、具体的なケースを想定した研究にチームで取り組む。	
環境と生活産業	生活産業創出論	生活は、産業にとっての市場であるだけでなく、新しい産業が生まれてゆく母体である。いかに売れる商品を作るかではなくて、何が大切か、本当に必要なものは何か、問題はどこにあるのか、どのようにして解決するのかという、価値の研究にはじまり具体的な解決へと結びつけるアプローチが必要である。特に、資源・環境問題や国際関係の変化により従来の産業構造が覆されている現代の状況では、新しい価値観に基づくビジネスの創造の場として、生活への総合的研究の必要性が増している。衣食住に関する新産業、ビジネスモデルの転換、女性向け新産業、生活産業のトレンドと将来像についての事例分析を含む。	
	環境マーケティング論a	マーケティングは、企業（およびNPO）の事業活動のうちで、顧客志向で行われることすべて（企画、製造、提供、コミュニケーション、支援等）を意味する幅広い概念である。企業の社会的責任CSRを軸として、社会の不正問題、地域の課題、家族関係、労働の意義など、現代社会の矛盾の様々な側面にも目を向けながら、環境社会づくりの主要な担い手としての企業活動のあり方について事例を参照しながら論じる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 環境と生活産業	環境マーケティング論b	持続可能な社会づくりのためには、既存企業の産業活動を改善してゆくだけでなく、従来とは異なる目的・方法を備えた、新しい事業主体が生まれ発展してゆくことが必要である。社会や組織の問題解決を目指し、多様な主体との協働によって新しい事業を創造する、社会起業と呼ばれる活動はその現れである。社会をよりよきものとするためのイノベーションはどのようにして実現してゆくのか。新事業創造のための基礎的な理論に加え、ケース・スタディ、グループ・ディスカッション、ゲストを迎えた討議などを行う。	
	環境マーケティング論演習a	企業とのコラボレーション研究： 具体的な企業の取り組み事例をもとにして、課題解決や成果をより発展させることに結びつく事業企画づくりに取り組む。プロジェクトチーム方式で進め、事業企画の内容を競い合うコンペ形式も取り入れ、実践的に進める。	
	環境マーケティング論演習b	企業とのコラボレーション研究： 具体的な企業を対象として、環境報告書づくりに取り組む。仮想の環境担当部署として、プロジェクトチーム方式で研究を進める。報告書の内容を競い合うコンペ形式も取り入れ、実践的に進める。	
	エコビジネス演習	企業とのコラボレーション研究： 環境社会への対応を軸として、企業の抱える問題解決を目指して調査研究・企画開発を行う。仮想の企画担当部員としてプロジェクトチーム方式で研究を進める。企画プレゼンテーションなど、コンペ形式も取り入れて実践的に進める。	
	環境工学及び調査	一般に工学の領域では、地域的な条件を乗り越えるための技術開発を目指す方向性から、地域の特性に沿った個別最適化を目指す方向性へと、技術のトレンドが変わってきている。土木、建築、機械、エネルギー、食料生産など、地域に適合した技術の動向を学ぶとともに、地域の特性を科学的に理解するための調査手法についても学ぶ。	
	環境マネジメント論	持続可能な社会への移行をテーマとして、環境、経済、社会の3つの側面からの総合的な研究アプローチを行う。その中心としてビジネスの役割および遂行原理について検討する。ビジネスの持続可能性から、環境と融合した産業社会のあり方を考える： 1. 環境経済学、2. 環境ビジネス、3. 低炭素化事業(法制度、投資効果)、4. 企業の取組事例、5. 地域経済の形成。	
	環境経済学	今日、企業活動を資源・エネルギー消費や汚染・廃棄物排出など、環境問題に対する対応の観点から、客観的にそのパフォーマンスを評価する仕組みが生まれ、法的規制にもつながるようになってきた。環境会計と呼ばれるその手法を学ぶとともに、環境社会に対応するために企業はどのように取り組むべきか、科学技術、法律、事業連携、コミュニケーションなど、課題状況を包括的に整理する。	
	環境思想a	技術は単に手段ではなく、一種の知であるとしたのはアリストテレスである。ハイデッガーはテクネーの批判的解釈を通じて、現代社会の本質的問題構造を提示した。環境問題を論じるにあたっての基礎的フレームワークとして、ハイデッガーからヨナスを経由した現代の技術の哲学・倫理学を学ぶべきだろう。科学的に得られる知見を政治的判断へと繋げるときに、本質的な理解が必要とされるからだ。	隔年
	環境思想b	原子力、遺伝子工学、ナノテクノロジーなど、先端的科学技術がもたらすものには現状の困難な社会課題の解決の道とともに、いっそう困難な問題を生じさせるという危険とがあり、社会的議論を通じて合意に至ることが大変に難しい状況を生じさせている。技術と象徴とともに扱う存在論としての風土学は、専門化した個別学的アプローチのアポリアを打開するための道を切り開く。具体的な環境・社会問題を取り上げて論じてゆく。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 環境と生活産業	環境思想演習	環境問題の解決には、工業製品の生産・流通・消費の技術の革新とともに、従来とは異なるものの考え方や生活、社会の仕組みが必要とされている。産業やライフスタイルの基礎にある、人間と社会、自然に対する基本的な考え方・思想について探求する。全員に共通する主要なテキストとともに、各人がそれぞれ先端的な研究領域に個別に取り組むこととする。	
	生活ビジネスa (グリーンビジネス)	環境問題に対応する技術(グリーンテクノロジー)の潮流を学ぶ。環境科学(問題分析)、環境工学(対応技術)の最新動向を分析しながら、環境対応産業(解決のための方策)の現状と可能性を検討する。また、技術イノベーションを背景とした新たなビジネスの誕生と、支援する仕組み(法制度、金融、環境技術の市場化、規格・資格など)について包括的に整理する。目的としての生活社会の改善に結びついてはじめて、技術は産業として現実化する。生活を基点とした新しい環境ビジネスの可能性を考える。	
	生活ビジネスb (コミュニティビジネス)	医療や福祉の領域に代表されるように、多くの先進国でも、地域財政の裏付けのない公共政策には、もはや頼ることができないという現実が問題となっている。一方で、家族や隣人との助け合いを持続的なものとしてゆくために、ビジネスの仕組みを積極的に取り入れることも試みられている。コミュニティビジネスを起業し持続的に経営するためにはどのようなことが必要なのか。コミュニティビジネスの経営学を学ぶ。	
	生活ビジネスc (マイクロビジネス)	生活現場に根ざした商品・サービスは、企業が取り組むには規模が小さすぎるものも少なくない。従来は仕組みではビジネスとしての経済効率が一定の規程に達しないのである。その一方、情報技術とインターネットの発達により、柔軟な個人・組織の連携により、小規模な生産・流通の仕組みを速やかに作り上げ稼働させることも可能となってきた。生活者基点の小さなビジネスを、最先端の技術・ネットワークによって効率的に生み出す手法を学ぶ。	
	生活産業史	地域の生活の営みから生まれた産業の歴史をたどることは、地域の風土に根ざした生活文化を理解することである。グローバルな市場システムによって実現されている現代の生活を見直し、持続可能な社会、持続可能なライフスタイルを実現するためには、民俗学、人類学の見地を活かした、生活産業史の研究が不可欠である。特定の地域を対象とした事例研究も紹介する。	
	社会責任論	社会責任Corporate Social Responsibility (CSR) は、今日の企業経営における重要な課題のひとつである。もともと地域的に営まれる産業であれば、地域社会の一員として行動することは自然なあり方であるが、広域的・グローバルに活動する現代企業の場合、市場の合理性のみが突出しがちで、結果として人間、社会、自然環境の取奪に結びつく傾向がある。新たな企業経営手法であるCSRの取り組み事例については、企業ゲストを迎えた紹介・分析も行う。	
	女性社会論a	自然環境、社会、人間など複合的な危機を迎えた今日の社会において、これからの社会を目指す際の方向性として、“女性性”を特徴とする傾向が強くなってきた。循環型のシステム作り、地域社会の重視、家庭の復権など、従来の社会の発展原理とは明らかに異なる傾向が明らかである。女性社会の中心価値とは何か、どのようなプロセスを経て実現されてゆくの、価値と文化の比較研究を通して探求する。	
	女性社会論b	女性社会の原理と現れについて、仕事と家庭の関係の歴史の変遷を経済学的に分析することから明らかにする。何を社会が目的とし、その制度や仕組みによって家庭と個人、家族や子どもとの関係および人生観がどのように変化してきたのか。これまでの社会分析をもとにこれからの社会について構想する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メディアと生活	メディア生活学a	私たちの目に映るものはただ視覚情報として受け取られるのではなく、意味ある何ものかとして私たちの前に現れる。全ては私たちが属する社会の、表象の意味関係・体系のもとで、生き生きと立ち現れてくるのである。文芸・テキストの解釈技術をベースとして、社会現象や権力の構造も視野に入れながら、表象としての世界を探求する。	
	メディア生活学b	人間の歴史は、現状をどのようなものとして捉えるかという世界観や、この先に何を指そうとするかという理想に基づいて展開してきたものと見ることができ、そのような世界観や理想は、具体的な組織形態や技術の媒介によってはじめて社会的現実となったのである。この媒介作用(メディア)に注目した社会学の方法について学ぶ。	
	メディアアート論a	私たちは何を“見て”いるのか、見ることにおける“本らしさ”とは何か。代表的なアニメ作品や映画作品を分析したり、古典的な絵画作品を体系的に捉え直すことを通じて、見ることと認識、表現の関係を探求する。	隔年
	メディアアート論b	人間の視覚器官の働きと認知の仕組み、技術の発達と産業および社会の変化、文化としての風景と都市景観の変遷など、美的対象としての視野の問題を核としながら文化学としてのメディアの問題を深く掘り下げてゆく。	隔年
	映像制作演習a	映像収録技術の飛躍的な発達は、身近な機器を使って劇場用クオリティの作品をつくりだすことさえ可能にした。個人の発想、技術、やる気、クリエイティビティこそが決定的な力を持つ時代を迎えている。作品制作を通じて、モノづくりの基本的な構造を知るとともに、具体的な技術を身につける。	隔年
	映像制作演習b	コンピュータを使わない映像制作現場がほとんどあり得なくなった今日、コンピュータ・グラフィックスとアニメーションの技術は、今日の映像処理一般において広範囲に利用されている。作品制作を通じて、映像編集の基本的な技術であるCGおよびアニメーション、そしてコンピュータを利用した作曲・演奏法を学ぶ。	隔年
	メディアテクノロジー演習a (Web)	世界を覆うコンピュータ網に、携帯電話もつながるようになった。すでにWebは世界中の人々が情報をやりとりするためのコミュニケーション・プラットフォームである。さらに、各種センサーや位置情報システムなど、従来のコミュニケーション機器とは異なる機械がつながりだしている。一人ひとりの人間が、いつでもどこにいても強力なコンピュータパワーの支援を受けることができるようになった今日、生活・社会・文化の視点から、新たなサービスや社会制度につながる技術の可能性と問題について探求する。	
	メディアテクノロジー演習b (データ)	生きた巨大なデータベースとも言えるインターネットに、人はいつでも接続できるようになった。学習、生活、仕事など、社会の様々な場面の違いに応じて、データをどう収集しまとめ上げ、利用するのか。学習理論や地域社会論、業務システムなどを参照しながら、情報の活かし方を学ぶ。さらに、産業や政治において注目されている、ビッグデータと呼ばれる巨大なデータの流れを解析する新たな手法についても学ぶ。	
	メディアテクノロジー演習c (開発)	インターネットの世界の革新と拡大には、オープンソースソフトウェアが大きな働きをしてきた。その歴史を知るとともに、現在も進行中のオープンソースプロジェクトを例に、コミュニティ形成、プロジェクトの編成と運営、そしてグローバルな開発モデルやライセンス管理について研究する。実際のオープンソースのプロジェクトへの参加体験もしながら、今後の可能性について探求する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 メディアと生活	メディア生活経営論a	今日、経営を考える際に、考え方の枠組みの上での主要な対象が、組織から事業へと変わってきている。組織を変わらぬ資源とし、それをどう経営するかという課題設定をするのではなく、事業遂行の最適化の見地から、組織もその変動要素のひとつと見るような変化である。マーケティングの基礎理論をベースに、自律分散協調システムに代表されるメディア構造をモデルとした事業経営論を学ぶ。	
	メディア生活経営論b	メディア構造をモデルとした事業経営論を基礎として、現実の社会事例をもとに新たな事業企画の立案に取り組む。企業との連携も取り入れ、現実のビジネス事例からの資料をもとに、分析と企画を進める。最終プレゼンテーションでは、企業人からの評価・アドバイスも加え、より実践的なものとする。	
	メディア生活経営論演習a	政府、企業を補完する社会セクターとして、NGO、NPOの存在は社会に欠かせないものとなってきた。NPOの経営は基本的に、企業の経営手法と変わらないものであるが、連携という面でいっそう先進的な面を持つ。成功したNPO、モデルとなる事例を分析しながら、メディア的経営の理論について学ぶ。	
	メディア生活経営論演習b	社会の問題解決、社会変革に役立てるような事業はどのようなものであるのか。特にネットワークの事業実現、メディア的経営理論をベースにして、社会事業の創造の立案・計画づくりに取り組む。プランを効果的に伝えるプレゼンテーションも重要である。先進的な社会起業家の事例を分析するだけでなく、自分がそれを行うつもりで企画に向かうことが望まれる。	
	情報セキュリティ社会	情報セキュリティは、個人的なITリテラシの問題である以上に、企業・行政を含めた社会的課題である。社会は共同体の持続のため、安全を保証する仕組み・制度・構造を築くものであるが、情報が経済の主要な要素となるとき、新たなリスク領域も生じたのである。リスク回避のための個人的な対応技術・知識を学ぶとともに、情報が富とリスクとなる新たな社会構造についての認識を深める。	
	広告とメディア	経済成長の過程では、マスメディアの発達とともに産業の花形としてみられてきた広告も、経済成長の伸びの鈍化やメディアの多様化によって、その姿は様変わりしつつある。広告とはいったどのような社会機能を担うのか、また新しいメディア状況において今後どのように展開してゆくと考えられるのか、理論的考察とともに現状分析、技術発展の展望をふまえて探求する。	
キャリア形成	ライフ・プランニング	仕事と家庭の両立、地域・社会との協働のあり方の事例を紹介すると共に、様々なライフスタイルを持つOGの講演会等により自立する女性像の呈示することにより、学生個々人が多様なライフプランを描けるようになるベースを養う。それらの知識に基づき、一生のスパンでのライフプランニングについて考える。	
	ビジネス・マナー	社会人に相応しいマナーを身につけることを目標とする。挨拶、おじぎ、言葉遣い、身だしなみなどの基礎知識を身につけ、実践できるようにする。また、自己紹介や討論の場での主張の仕方などを体験することで、コミュニケーション能力を向上させる。	
	ビジネス・スキルa	ビジネス文書やe-mailの書き方、報・連・相といった言葉に代表される社会人としてのコミュニケーションスキルを学ぶ。また、社会人としての振る舞いのあり方、就業に関する注意事項等にも触れる。	

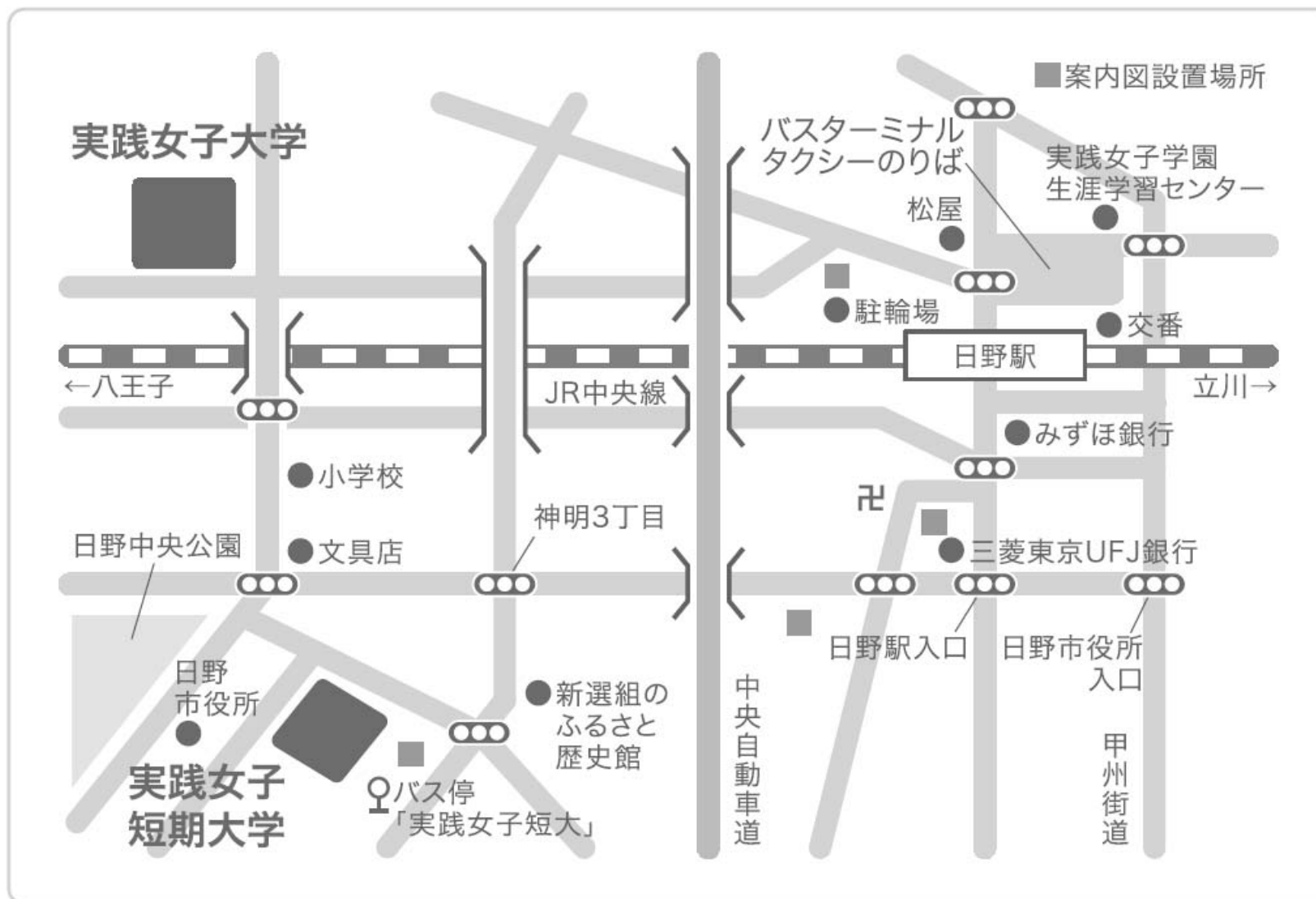
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア形成	ビジネス・スキルb	仕事の進め方をイメージさせ、その過程で必要となるロジカルシンキング、文書作成、コミュニケーションのスキルを磨く。	
	企業研究a	企業の経営理念、求める人材像、顧客、競合などの情報を各人が収集し、レポートを作成する。それを用いたプレゼンテーションおよびディスカッションにより、企業への理解を深める。	
	企業研究b	自身の希望を明らかにするワークを実施する。それに基づいた企業研究・業界研究（SWOT分析等）を通じて、企業・業界への理解を深める。OG訪問等を通じて、Webや書籍では得られない情報を入手すると共に、社会人としてのマナー・心構え等を身につける機会とする。	
教職関連科目	家庭経営論	生活経営とは、①家族や地域社会の人間関係をどのように作りあげ、②金銭（カネ）・時間（トキ）・生活財（モノ）などの生活資源をどのように合理的に配分し、③人生80年時代の生涯生活をどのように計画的に設計し、④環境にやさしいライフスタイルをどのように創造していくかを考えることによって、生活の福祉向上をめざす生活の営みのことである。この授業では、その為の基礎的知識をできるだけ総合的に理解することを目的とする。	
	家族関係論	人の一生と家族・家庭生活、その福祉の問題について分析的に捉える中で、家族関係の法則性について明らかにする。また、家族の「多様化」や「私事化」「個別化」「個人化」の中、様々な家族の問題等が取りざたされているが、これらの問題をどのように捉え、どのようにそれらに対応していくか、受講生一人一人の問題意識を基に分析を試みることで、家族の意義を明らかにする。	
	衣料学	現代社会における衣生活の現状を把握した上で、衣生活にかかわる被服材料の性質をよく知り、衣料品の購入や被服の製作に際し、素材の観点から適切な選択ができる能力を培う。 また、健康で快適な衣生活を行うための衣料品の日常的なケアの基本を学習する。併せて、環境に配慮した消費行動を考える。	
	衣料学演習	衣料学で学習した基本的なテキスタイル素材の諸性質や機能、染色や洗濯などの重要なテーマについて実験や実習を通して理解を深める。	
	衣服製作実習a	衣服設計の基礎的技法とその応用方法の習得をテーマとする。スカート制作によって個人に適合したパターン、素材の選択、各種用具の取り扱い方、平面である布地を立体化する縫製ぎほう被服の構成理論や基本技術を習得する。中学校・高等学校の家庭科の授業を念頭に置き、人体計測の方法、パターンの作成と展開、裁縫用具やミシンの使用方法、基本的な裁縫技術を習得することで、衣服を作る一連の過程を理解する。	
	衣服製作実習b	日本の民族衣装である着物に直線を基調とした平面構成の衣服という特徴がある。この授業では、着物の実物製作を通じ、和裁に特徴的な用具の洗濯、裁断法、縫い合わせ方などを学習する。最後に、制作物の着装実習を行い、着付けについて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職関連科目	衣服製作実習 c	被服の構成理論や基本技術を習得する。中学校・高等学校の家庭科の授業を念頭に置き、人体計測の方法、パターンの作成と展開、裁縫用具やミシンの使用方法、基本的な裁縫技術を習得することで、衣服を作る一連の過程を理解する。	
	栄養学	健康の維持管理には適切な栄養摂取が重要である。ここでは、栄養素の種類、消化器の仕組み、ビタミンやミネラルの働き、メタボリックシンドロームやアレルギーなどの病気と栄養の関わりといった話題を取り上げ、講述する。	
	食物学	食品には、生命維持の側面と生活に潤いを与える「おいしさ」の側面がある。ここでは、栄養・調理・加工のプロセスと関わる食品の特性を物理的・化学的・生物学的に捉え、総合的に理解する。	
	調理学及び実習	「食」を対象とし、調理操作技術を向上させる。料理を献立として捉え、日本・中国・西洋料理の献立形式に基づいて、実際に調理できるようにする。	
	住居学	住居は人の生き方に直接かかわりますが、あまりにも身近なため問題意識をもって見ることはありません。本講では生活者の視点から、各問題を整理し、よりよい生活を目差してすぐれた知性を養いたいと思います。また近年の高齢社会や環境との調和、都市での集合住宅についても学びます。	
	看護学	目標： 1. 自分及び家族の健康の維持・促進のための基礎知識を学ぶ。 2. 救急及び介護に必要な基礎知識を学ぶ。 テーマ： ①女性の健康、②健康と生活習慣病、③救急法、④高齢者と介護学習の成果としては、健康診断への主体的参加、介護体験での知識の活用、救急法の活用、自分の健康管理を目指す。	
	育児学	育児学は子どもの健全な成長と発達を支え、望ましい社会人に育成するための実践の学問である。そのために必要な育児理念、保育者のあるべき態度、保育知識、家庭生活のあり方、子どもの身体的心理的特性、社会で注目されている病気の基本事項を理解する。	
	保育学	保育とは、子どもを保護し育てることである。保育学では「子どもは社会で育つ」という視点に立って、乳幼児が守られ、育ていく過程と、それを支える社会の仕組みを学ぶ。児の側に立って、今の子どもたちの保育環境にどのような困難があるのだろうか。育てる側に立って、今日なぜ「子育て支援」ということが叫ばれるのだろうか。子どもたちが健やかに育つ社会を、受講生自身も担う者と自覚し、取り上げる今日的課題にも向き合い、理解を深めることを目指す。	
	家庭工学	身近な家庭で使われる電気・機械器具の基本動作原理と、いろいろな家庭電気製品の仕組みを理解する。これら家庭の機械化・電化がもたらす豊かな生活向上を我々が享受するには、さらに安全な使い方による危険防止に努め、環境への配慮などが必要であることを学ぶ。授業ではできるだけ具体的な内容について講義する。	

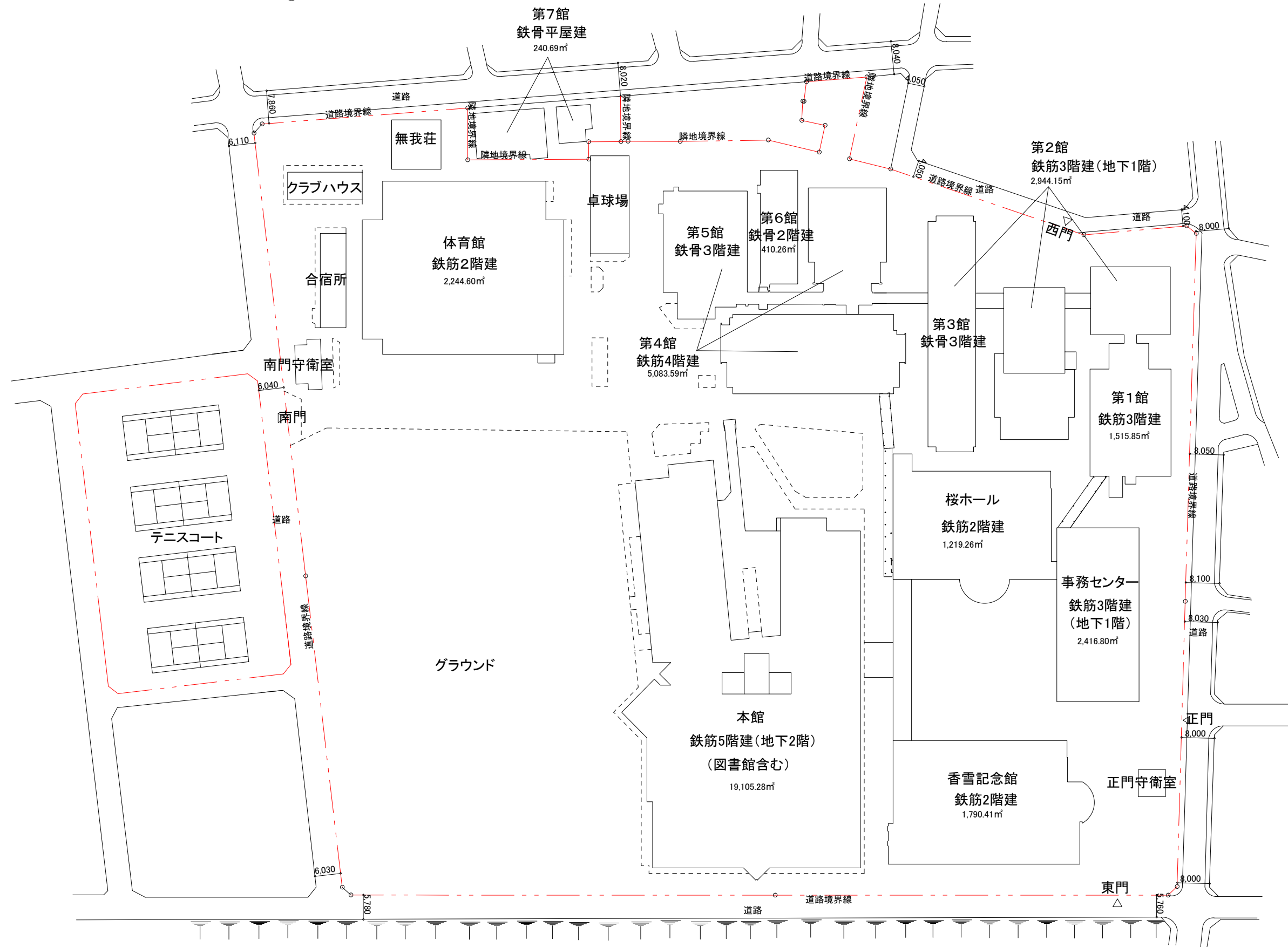
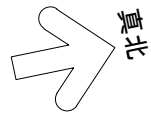
都道府県内における位置



最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



JR 日野駅から 900m 徒歩 14分



実践女子大学学則

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを實踐し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。
- 第 2 条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検、評価を行うこととする。
- 2 前項の点検、評価の方法等については、別に定める。

第 2 章 大学院、学部、学科等の組織、目的

- 第 3 条 本学に文学部、生活科学部、人間社会学部をおき、修業年限は各 4 年とする。
- 2 文学部に国文学科、英文学科、美学美術史学科をおく。
- 3 生活科学部に食生活科学科、生活環境学科、生活文化学科、現代生活学科をおき、食生活科学科には管理栄養士専攻、食物科学専攻、健康栄養専攻を、生活文化学科には生活文化専攻と幼児保育専攻をおく。
- 4 人間社会学部に人間社会学科、現代社会学科をおく。
- 5 学生は、8 年を超えて在学することはできない。
- 第 4 条 本学に大学院をおく。
- 2 大学院に関する事項は、別に定める。
- 第 5 条 文学部及び文学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。
- 2 文学部では、日本、東洋、西洋の文学、言語、美術の各分野における幅広い学識を授け、現代社会に寄与しうる人材の育成に努めることを目的とする。
- 3 国文学科では、日本文学を体系的、理論的、総合的に研究し、日本語の本質と変遷を解明することにより、日本文化の進展に寄与しうる人材を育成することを目的とする。そのため、研究の対象を広げることにも努め、古典を重視するとともに近代現代の文学、さらにはそれらに大きな影響を与えた中国の思想と文学に深く配慮し、現代の我々の言語生活に直結する歴史的課題にも留意した教育を實踐する。
- 4 英文学科では、大学生としてのしっかりとした基礎の上に英語の運用能力を養成し、英語圏文化に関する幅広い知識と教養を身につけることにより、知的好奇心を備え、主体的に国際化社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
- 5 美学美術史学科では、日本、東洋、西洋各地域の美術史と美学及び日本芸能史について、幅広い知識と教養を身につけ、美術の実技を学ぶことも含めて、芸術についての総合的な理解力と自己表現力を養い、芸術、文化とそれを生み出した社会に対する理解と洞察力を備えた人材の育成を目的とする。
- 第 6 条 生活科学部及び生活科学部各学科・専攻の教育研究上の目的は次のとおりとする。
- 2 生活科学部では、食物、栄養、健康、衣服、もの、住まい、ライフスタイル、幼児・保育に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的とする。
- 3 食生活科学科では、社会で必要とされる健康と栄養、食と暮らしのスペシャリストを育成する。さらに、食関連の職業に就いたときに活躍できる能力と、取得した資格に相応しい実力の養成を目的とする。

- (1) 管理栄養士専攻
食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、管理栄養士として、また、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
- (2) 食物科学専攻
食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、フードスペシャリスト、家庭科教員、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
- (3) 健康栄養専攻
食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。

- 4 生活環境学科では、衣服、もの、住まいに関する広い学識を授け、専門性を要する職業に就いたときに活躍できる能力の養成を目的とする。
- 5 生活文化学科では、生涯にわたる人の発達についての理解に基づき、家族・家庭、保育・教育に関する専門性をもって活躍できる能力の養成を目的とする。さらに、人の生活を探究し、生活課題を主体的に解決する実践的態度を備え、生活の充実向上を図ることのできる人材を育成する。

- (1) 生活文化専攻
生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえ、社会の変化に伴う家庭生活と家庭経済、家族の抱える対人的問題や心身の健康などの生活課題について、心理学的視点から理解、考察し、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

- (2) 幼児保育専攻
家族とともにある子どもの発達を理解し、子どもと家族を総合的に支援する観点から、必要な基本的知識・技能・態度を身につけた保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の育成を目的とする。

- 6 現代生活学科では、現代生活の問題を構造的に捉えクリエイティブに解決できる人材の育成を目的とする。

- 第 7 条 人間社会学部及び人間社会学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。
- 2 人間社会学部では、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指す。
 - 3 人間社会学科では、社会に対する学としての社会学、人間行動・人間関係・心理に対する学としての心理学を基礎にしつつ、現代の高度化された産業・消費・ビジネス社会への適応、及び課題解決能力の開発のために、また、人と人、人と社会の円満な関係を築きあげることのできる能力の養成を目的とする。
 - 4 現代社会学科では、社会人に求められる幅広い知識・技能及び教育・社会や企業社会、コミュニケーションを中心とする専門的な知識・理論を活用し、現代社会の企業・地域社会を理解し、その活動や問題を把握し取り組む能力を習得させ、企業組織・地域社会で活躍し貢献できる実務能力を有する人材の養成を目的とする。

第 8 条 文学部の学生定員を次のとおりとする。

学 科	入 学 定 員	編入学定員(第3年次)	収 容 定 員
国 文 学 科	110 名	9 名	458 名
英 文 学 科	110 名	9 名	458 名
美学美術史学科	90 名	2 名	364 名

第 9 条 生活科学部の学生定員を次のとおりとする。

学 科	専 攻	入 学 定 員	編入学定員(第3年次)	収 容 定 員
食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	—	280名
	食物科学専攻	75名	—	300名
	健康栄養専攻	40名	—	160名
生活環境学科		80名	2名	324名
生活文化学科	生活文化専攻	40名	2名	164名
	幼児保育専攻	45名	—	180名
現代生活学科		60名	—	240名

第 10 条 人間社会学部の学生定員を次のとおりとする。

学 科	入 学 定 員	編入学定員(第3年次)	収 容 定 員
人間社会学科	100名	—	400名
現代社会学科	100名	—	400名

第 11 条 本学に大学教育研究センター、外国語教育研究センターをおく。

- 2 大学教育研究センターに関する規程は、別に定める。
- 3 外国語教育研究センターに関する規程は、別に定める。

第 12 条 本学文学部に文芸資料研究所を附置する。

- 2 文芸資料研究所に関する規程は、別に定める。

第 3 章 授 業 科 目

第 13 条 授業科目は、各学科共これを必修科目と選択科目とに分け、学年の始めに定める。

第 14 条 文学部・生活科学部・人間社会学部の共通教育科目は、別表第1のとおりとする。

第 15 条 文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科の専門科目は、別表第3のとおりとする。

- 2 生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻、同食物科学専攻、同健康栄養専攻、生活環境学科、生活文化学科生活文化専攻、同幼児保育専攻、現代生活学科の専門科目は、別表第4のとおりとする。
- 3 人間社会学部人間社会学科、現代社会学科の専門科目は、別表第5のとおりとする。

第 16 条 教育職員免許状取得希望者、図書館司書、学校図書館司書教諭資格取得希望者及び博物館学芸員資格取得希望者は、学部学科で定めた授業科目以外に、教職は別表第6、司書は別表第7、司書教諭は別表第8、学芸員は別表第9の授業科目を履修しなければならない。

- 2 本学の各学科において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学 部	学 科	取得できる教育職員免許状の種類		
文 学 部	国 文 学 科	中学校教諭	1種免許状	国 語
		高等学校教諭	1種免許状	国 語・書 道
	英 文 学 科	中学校教諭	1種免許状	外国語(英語)

		高等学校教諭	1種免許状	外国語(英語)	
	美学美術史学科	中学校教諭	1種免許状	美術	
		高等学校教諭	1種免許状	美術	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	栄養教諭	1種免許状	
		食物科学専攻	中学校教諭	1種免許状	家庭
			高等学校教諭	1種免許状	家庭
		健康栄養専攻	栄養教諭	2種免許状	
	生活環境学科		中学校教諭	1種免許状	家庭
			高等学校教諭	1種免許状	家庭
			高等学校教諭	1種免許状	情報
	生活文化学科	生活文化専攻	中学校教諭	1種免許状	家庭
			高等学校教諭	1種免許状	家庭
		幼児保育専攻	幼稚園教諭	1種免許状	
			小学校教諭	1種免許状	
現代生活学科		中学校教諭	1種免許状	家庭	
		高等学校教諭	1種免許状	家庭	
人間社会学部	人間社会学科	中学校教諭	1種免許状	社会	
		高等学校教諭	1種免許状	公民	
	現代社会学科	中学校教諭	1種免許状	社会	
		高等学校教諭	1種免許状	公民	

- 3 管理栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第15条別表第4に定める所定の授業科目を履修し、国家試験を受験しなければならない。
- 4 栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻又は同健康栄養専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第15条別表第4に定める「栄養士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。
- 5 一級建築士又は二級建築士試験の受験資格を取得しようとする者は、生活環境学科に在籍し、建築士法に定める必要な単位を修得しなければならない。
- 6 保育士の資格を取得しようとする者は、生活文化学科幼児保育専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第14条別表第1及び第15条別表第4に定める「保育士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。

第4章 履修方法、単位算定

第17条 学生は、履修しようとする授業科目を毎学年又は毎学期の始めに登録しなければならない。登録していない授業科目には単位を与えない。

第18条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この限りでない。

第19条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
 - (1) 講義・演習については、15時間をもって1単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30時間をもって1単位とすることができる。
 - (2) 実験、実習及び実技については、45時間をもって1単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30時間をもって1単位とすることができる。
- 3 卒業論文又はこれに代る授業科目は、国文学科では6単位、英文学科では6単位、美学美術史学科では6単位、食生活科学科では6単位、生活環境学科では6単位、生活文化学科では6単位、現代生活学科では4単位、人間社会学科では8単位、現代社会学科では8単位とする。

第 20 条 本学が教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学又は短期大学と協議したところにより、学生が当該の他大学等において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学において修得したものとして認めることができる。
- 3 本学が教育上有益と認めるときは、本学が留学先として適当と認めた外国の大学あるいはこれに相当する高等教育機関において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。
- 4 留学に関する規程は、別に定める。
- 5 1項、2項及び3項において認めることのできる単位数の合計は次条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えないものとし、単位の取り扱いに関しては別に定める。

第 21 条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に大学又は短期大学において修得した単位（第57条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学において修得した単位として前条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えない範囲で認めることがある。なお、単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。

- 2 編入学・転入学の場合は、前項の単位認定とは別に認めることができる。
- 3 単位の取り扱いに関しては、別に定める。

第 5 章 学習評価、卒業の認定

第 22 条 定期試験は、毎年2回各学期の終わりに行う。ただし、休学中の者は試験を受けることはできない。

第 23 条 病気又は事故により試験に欠席したときは、願い出により追試験を許可することができる。

- 2 追試験に関する規程は別に定める。

第 24 条 試験等の評価は、+A・A・B・C・Dの五段階とし、C以上を合格とする。卒業論

文についても同様である。

第 25 条 卒業論文又はこれに代る授業科目の制作物は、専門科目の範囲内で題目を定め、文学部及び人間社会学部は 12 月 20 日までに、生活科学部は 2 月末日までにそれぞれ提出しなければならない。

第 26 条 本学を卒業するためには、4 年以上在学し、次表に定める単位を修得しなければならない。

学部学科		授業科目の区分	共通教育科目	専門科目	選択自由単位	合計
文学部	国文学科		34	70	20	124 単位以上
	英文学科		28	76	20	124 単位以上
	美学美術史学科		28	76	20	124 単位以上
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	20	100	4	124 単位以上
		食物科学専攻	28	76	20	124 単位以上
		健康栄養専攻	24	90	10	124 単位以上
		生活環境学科	28	76	20	124 単位以上
	生活文化学科	生活文化専攻	24	90	10	124 単位以上
		幼児保育専攻	20	86	18	124 単位以上
		現代生活学科	36	76	12	124 単位以上
人間社会学部	人間社会学科		30	82	12	124 単位以上
	現代社会学科		30	82	12	124 単位以上

2 前項の単位修得に関しては、別に定める。

第 27 条 大学に 4 年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に次の学位を授与する。

文学部卒業者 学 士 (文 学)

生活科学部卒業者 学 士 (生活科学)

人間社会学部卒業者 学 士 (人間社会学)

第 28 条 在学 8 年 (休学期間は除く) を超えてなお所定の単位を修得できない者は、これを除籍する。

第 6 章 入学・転部・転科・退学・休学・転学

第 29 条 入学の時期は、学年の始めとする。

第 30 条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校を卒業した者

(2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者

(3) 通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者

(4) 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で

文部科学大臣の指定した者

(5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した、在外教育施設の当該課程を修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第 1 号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第 2 条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定合格者を含む。）

(8) その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18 歳に達した者

第 31 条 次の各号の一に該当する者で、本学への編入学・転入学を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者

(2) 大学に 2 年以上在学した者

(3) 短期大学を卒業した者

(4) その他前各号と同等以上の学力があると本学で認められた者

2 本学学生で転部・転科を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に転部・転科を許可することがある。

第 32 条 入学志願者に対しては、選考試験を行う。その方法は、その都度定める。

第 33 条 入学志願者は、所定の入学願書に入学検定料を添えて願い出なければならない。

第 34 条 選考試験に合格した者は、指定の期日までに入学金その他の納付金を納入しなければならない。また、別に定める期日までに、保証人による保証書を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第 35 条 保証人は、父又は母（父母のない場合は、独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。外国人で父母が日本に居住していない場合は、我が国に在住する独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。）とし、その学生の在学中における経済的負担を含む一切の責任を負うものとする。

第 36 条 保証人の身分に異動があったとき、又は死亡したときには、その旨直ちに届け出なければならない。

第 37 条 学生が病気又は事故によって欠席するときには、その旨届け出なければならない。ただし、欠席が 1 週間以上にわたるときには、保証人の連署を要し、病気の場合には、医師の診断書を添えなければならない。

第 38 条 退学しようとする者又は転学しようとする者は、その理由を具し、保証人の連署で願い出なければならない。

第 39 条 病気又は事故によって、引き続き 3 か月以上学習することができない者は、その理由を具し、保証人の連署で休学を願い出ることができる。

2 休学期間は、通算して 2 年を超えることができない。

第 40 条 休学期間は、第 3 条第 5 項の在学年数に算入しない。

- 第 41 条 休学している者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ願い出て許可を得なければならない。
- 第 42 条 いったん退学した者が再入学しようとするときは、退学後 2 年以内に限り選考のうえ許可することがある。
- 第 43 条 授業料その他の学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納付しない者は、除籍する。

第 7 章 学 費

- 第 44 条 本学の学費は、次のとおりである。ただし、場合によりこれを変更することがある。

1. 入 学 金		280,000 円
2. 授 業 料 (年 額)		700,000 円
3. 実験実習費 (年 額)	生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻	80,000 円
	生活科学部食生活科学科食物科学専攻	60,000 円
	生活科学部食生活科学科健康栄養専攻	70,000 円
	生活科学部生活環境学科	40,000 円
	生活科学部生活文化学科幼児保育専攻	40,000 円
4. 教育充実費 (年 額)		230,000 円
5. 施設設備費 (年 額)		90,000 円

- 第 45 条 授業料の納入期限は、前期分 4 月末日、後期分 10 月末日までとする。
- 第 46 条 授業料その他の学費は、出席の有無にかかわらず、学籍のある間は納めなければならない。ただし、休学期間中の授業料、実験実習費は免除することができる。この場合、次条本文の規定はこれを適用しない。
- 第 47 条 既納の学費は、いかなる理由でも返還しない。ただし、入学時の納入金に限り所定期間内に本人及び保証人の連署による「入学辞退及び納入金返還願」のあるものについては、入学金を差し引いた納入金を返還する。

第 8 章 教職員組織

- 第 48 条 本学に学長をおく。
- 2 学長は大学を統括し、これを代表する。
 - 3 学長は、別に定める規程により選任する。
- 第 49 条 本学に副学長をおく。
- 2 副学長は、学長を補佐し、その業務の一部を担う。
 - 3 副学長は、別に定める規程により選任する。
 - 4 副学長は、学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長の職務を行う。
- 第 50 条 本学に教授、准教授、講師、助教及び助手をおく。
- 2 講師を分けて専任と兼任とする。
 - 3 教授、准教授、講師及び助教の任免は、教授会の議を経て理事会がこれを行う。
- 第 51 条 各学部に学部長をおく。

- 2 学部長は学長を補佐し、その学部を主管する。
- 3 学部長は、別に定める規程により選任する。
- 第 52 条 各学科、課程に主任をおき、教授の中から任命する。
 - 2 主任に関する規程は、別に定める。
- 第 53 条 本学に教授会を設ける。
 - 2 教授会に関する規程は、別に定める。
- 第 54 条 教授会は、必要に応じ委員会を設けることができる。
 - 2 委員会に関する規程は、別に定める。
- 第 55 条 本学に事務職員その他必要な職員をおく。

第 9 章 賞 罰

- 第 56 条 在学中、人格、学術共に優秀な者を教授会の議を経て特待生とし、授業料その他を免除することがある。
- 第 57 条 学長は、学生が学則又は学内規定に違反し、学生の本分に反する行為があると認めるときは、教授会の議を経て懲戒を行うことができる。
 - 2 前項の懲戒は訓告、停学及び退学とし、退学は学生が次の各号の一に該当するときに限る。
 - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められるとき
 - (2) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められるとき
 - (3) 正当な理由なく出席常でないとき
 - (4) 学園の秩序を乱し、その他学生の本分に反したとき

第 10 章 科目等履修生・特別聴講学生・委託生・外国人留学生

- 第 58 条 本学の授業科目の修得を目的として願出のあった者（以下、科目等履修生という。）については、授業に支障のない範囲において選考のうえ科目の履修を許可し、試験に合格した者に、第 19 条に定めるところにより単位を与えることがある。
 - 2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。
- 第 59 条 本学の授業科目の聴講を希望する他大学又は短期大学等の学生があるときは、当該の大学又は短期大学等との協議に基づき所定の手続きを経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。
 - 2 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。
- 第 60 条 委託生として入学又は聴講を希望する者があるときは、その研修しようとする授業科目の教授者、学部長、学長協議のうえ許可するものとする。
 - 2 委託生に関する規程は、別に定める。
- 第 61 条 外国籍を持ち、教育を受ける目的をもって入国し、第 30 条第 4 号又は第 8 号に規定する要件を満たして入学を願出た者は、選考のうえ外国人留学生として入学を許可

- することがある。
- 2 外国人留学生の入学及び履修に関する規程は、別に定める。
 - 3 外国人留学生のために、外国人留学生特設科目として、別表第 10 を設ける。
 - 4 前項の科目を履修し、単位を修得した場合には、共通教育科目の単位に代えることができる。

第 11 章 公開講座

第 62 条 本学は、必要に応じ公開講座を開設する。

第 12 章 学期及び休業日

第 63 条 学年は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第 64 条 1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたるものとする。

第 65 条 学年を分けて、次の 2 学期とする。

前 期 4 月 1 日から 9 月 20 日まで

後 期 9 月 21 日から翌年 3 月 31 日まで

第 66 条 休業日は、次のとおりとする。

日 曜 日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

本学創立記念日（5 月 7 日）

春期休業日 3 月 21 日から 4 月 4 日まで

夏期休業日 7 月 30 日から 9 月 20 日まで

冬期休業日 12 月 21 日から翌年 1 月 7 日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

第 13 章 図書館

第 67 条 本学に図書館を設ける。

- 2 図書館に関する規程は、別に定める。

第 14 章 学生寮

第 68 条 削除

- 2 削除

附 則

- 1 この改正学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 2 章第 3 条及び第 4 条の規定にかかわらず、昭和 61 年度から昭和 74 年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

文 学 部			家 政 学 部			計
国 文 学 科	英 文 学 科	美学美術史 学 科	食 物 学 科		被 服 学 科	
			管理栄養士 専 攻	食物学専攻		
150 名	150 名	100 名	60 名	120 名	120 名	700 名

- 3 第 3 章第 6 条別表(2)家政学部授業科目（被服学科）及び第 7 章第 29 条の規定は、昭和 61 年度入学生から適用し、昭和 60 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 章第 6 条別表(2)家政学部授業科目の食物学科基礎教育科目並びに専門教育科目は昭和 62 年度入学生から適用し、昭和 61 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 5 章第 16 条及び第 7 章第 29 条の規定は昭和 62 年度入学生から適用し、昭和 61 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 章第 5 条別表(1)文学部授業科目の外国語科目並びに英文学科専門教育科目は昭和 63 年度入学生から適用し、昭和 62 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 7 章第 29 条の規定は、昭和 63 年度入学生から適用し、昭和 62 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 章第 5 条別表(1)文学部授業科目の美学美術史学科専門教育科目は平成元年度入学生から適用し、昭和 63 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 7 章第 29 条の規定は平成元年度入学生から適用し、昭和 63 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 章第 5 条別表(1)文学部授業科目中、国文学科「中世近世文学史」、「漢字書法Ⅲ」及び英文学科「比較文化」については、平成 2 年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。

- 3 第3章第5条別表(2)家政学部授業科目並びに第3章第8条別表(3)教職課程授業科目は、平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第7章第29条の規定は平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目の英文学科基礎教育科目及び専門教育科目、美学美術史学科専門教育科目、第3章第8条別表(7)博物館学芸員関係授業科目は、平成3年度入学生から適用し、平成2年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第7章第29条の規定は、平成3年度入学生から適用し、平成2年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成4年4月1日から施行する。ただし、第5章第19条第2項の規定は、平成3年9月24日から適用する。
- 2 第7章第36条の規定は、平成4年度入学生から適用し、平成3年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 第21条及び第7条別表第1、第8条別表第2、第9条別表第3、第11条別表第7並びに第39条の規定については平成5年度入学生から適用し、平成4年度以前の入学生は従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 第7条別表第1、第8条別表第2、第9条別表第3並びに第39条の規定については平成6年度入学生から適用し、平成5年度以前の入学生は従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 第3条、第6条、第7条、第9条、第11条2項、第14条3項、第20条、第21条、第22条2項、第39条及び第7条別表1、第8条別表2、第9条別表3、第11条別表4、別表5、別表6、別表7の規定については平成7年度入学生から適用し、平成6年度以前の入学生については従前の規定による。ただし、生活科学部、食生活科学科管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻および生活環境学科の名称については平成7年度入学生から適用し、平成6年度以前の入学生については平成9年度までの間

は従前どおりとする。

- 3 第6条に規定する入学定員は、平成11年度までの間は次のとおりとする。

生活科学部			
食生活科学科		生活環境学科	生活文化学科
管理栄養士専攻	食物科学専攻		
40名	90名	90名	80名

附 則

- 1 この改正学則は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 第3章第7条別表第1文学部・生活科学部総合教育科目、第8条別表第2文学部専門科目国文学科、英文学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第5章第21条の規定のうち文学部及び生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学生以前の入学生については、従前の規定による。
- 4 第7章第39条の規定については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学以前の入学生については、従前の規定による。ただし、冷暖房費については、平成7年度入学以前の入学生にも適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 第4章第15条2項3項の規定については、平成8年度入学以前の入学生についても適用する。
- 3 第5章第21条の規定のうち生活科学部食生活科学科食物科学専攻、生活環境学科については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度入学以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第7章第39条の規定については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第3章第8条別表第2文学部専門科目国文学科、美学美術史学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻、生活環境学科については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 第7章第39条の規定については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の

入学生については従前の規定による。

- 第3章第8条別表第2文学部専門科目美学美術史学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目生活環境学科については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- この改正学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 第7章第39条の規定については、平成11年度入学生から適用し、平成10年度以前の入学生については従前の規定による。
- 第3章第9条別表第3生活科学部専門科目生活環境学科については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。生活文化学科については、平成11年度入学生から適用し、平成10年度以前の入学生については従前の規定による。別表第6学校図書館司書教諭科目及び単位数については平成11年度から適用する。

附 則

- この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 第5条及び第6条に規定する入学定員は、平成16年度までの間は次のとおりとする。

学 部・学 科		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
文 学 部	国 文 学 科	145名	137名	130名	125名	120名	
	英 文 学 科	145名	137名	130名	125名	120名	
	美 学 美 術 史 学 科	100名	100名	100名	100名	100名	
生 活 科 学 部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	70名	70名	70名	70名
		食物科学専攻	57名	57名	54名	51名	45名
	生 活 環 境 学 科	85名	83名	82名	77名	75名	
	生 活 文 化 学 科	80名	80名	80名	80名	80名	

- 第7章第39条の規定については、平成12年度入学生から適用し平成11年度以前の入学生については従前の規定による。
- 第3章第7条別表第1全学共通科目、別表第2文学部・生活科学部共通科目、第8条別表第3文学部専門科目国文学科、英文学科、美学美術史学科、第9条別表第4生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻、生活環境学科及び生活文化学科については平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。第11条別表第5教職課程科目、別表第8博物館学芸員科目及び単位数については、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- この改正学則は、平成13年4月1日から施行する。

- 2 第3章第8条別表第3文学部専門科目美学美術史学科については平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成14年4月1日から施行する。
2 第6条に規定する入学定員は、平成16年度までの間は次のとおりとする。

	学 部 ・ 学 科	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
生 活 科 学 部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	70名	70名
		食物科学専攻	84名	81名	75名
	生 活 環 境 学 科	87名	82名	80名	
	生 活 文 化 学 科	85名	85名	85名	

- 3 第21条の規定については、平成14年度入学生から適用し、平成13年度以前の入学生については従前の規定による。
4 第39条の規定については、平成14年度入学生から適用し、平成13年度以前の入学生については従前の規定による。
5 第9条別表第4生活科学部専門科目食生活科学管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻については、平成14年度入学生から適用し、平成13年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成15年4月1日から施行する。
2 第3章第8条別表第3文学部専門科目美学美術史学科については平成15年度入学生から適用し、平成14年度以前の入学生については従前の規定による。
3 第3章第11条別表第8博物館学芸員関係授業科目については平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成16年4月1日から施行する。
2 第10条別表第4生活環境学科の授業科目のうち「消費生活学」については平成15年度入学生から適用し、平成14年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成17年4月1日から施行する。
2 第10条別表第4食生活科学科管理栄養士専攻及び食物科学専攻の授業科目のうち「毒性学」については平成14年度入学生から適用し、平成13年度以前の入学生については従前の規定による。
3 第10条別表第5人間社会学科の授業科目については、平成16年度入学生から適用する。

附 則

- 1 この改正学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 11 条第 2 項の規定のうち美学美術史学科については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 10 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

アジアの美術 c	2	アジアの美術 d	2	デザイン史 a	2	デザイン史 b	2
身体文化論 a	2	身体文化論 b	2	絵画入門 a	1	絵画入門 b	1
絵画実習 a	2	絵画実習 b	2	絵画実習 c	2	絵画実習 d	2
デザイン入門 a	1	デザイン入門 b	1	デザイン実習 a	2	デザイン実習 b	2
デザイン実習 c	2	デザイン実習 d	1	デザイン実習 e	1	工芸実習 a	2
工芸実習 b	2	彫刻実習 a	2	彫刻実習 b	2		

- 4 第 10 条別表第 4 食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「生理学」については平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第 11 条別表第 6 教職課程授業科目及び単位数のうち美学美術史学科教育職員免許状に関わる科目については、美学美術史学科平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 6 第 11 条別表第 6 教職課程授業科目及び単位数のうち「教育原理」については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 7 第 11 条別表第 9 博物館学芸員関係授業科目については、平成 16 年度入学生から適用し、平成 15 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 8 第 10 条別表第 1-1 文学部・生活科学部共通科目のうち「韓国語 a」「韓国語 b」については、平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 9 第 10 条別表第 1-2 人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成 16 年度入学生から適用する。

韓国語 A	1	韓国語 B	1	フランス語 A	1	フランス語 B	1
フランス語 C	1	フランス語 D	1	ドイツ語 A	1	ドイツ語 B	1
ドイツ語 C	1	ドイツ語 D	1				

附 則

- 1 この改正学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち幼稚園教諭免許状に関わる科目については、生活文化学科保育士コース平成 17 年度入学生から適用する。
- 3 第 11 条第 2 項の規定のうち生活文化学科幼児保育専攻については、生活文化学科保育士コース平成 17 年度入学生から適用する。
- 4 第 10 条別表第 1-1 文学部・生活科学部共通科目のうち「韓国語会話 a」「韓国語会話 b」については平成 16 年度入学生から適用し、平成 15 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 14 条別表第 1-2 第 5 人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成

18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生については従前の規定による。

健康運動実習 2	1	健康体力科学演習 1	1	ヘルスプロモーション実践実習 2	1	レクリエーションスポーツ 1	1
----------	---	------------	---	------------------	---	----------------	---

- 3 平成18年度入学生及び平成19年度入学生については、第15条別表第3英文学科の授業科目から次の科目を削除する。

セミナー c	1	セミナー d	1	セミナー e	1	セミナー f	1
--------	---	--------	---	--------	---	--------	---

- 4 第15条別表第4食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「健康運動論演習」については、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については従前の規定による。

- 5 第15条別表第5人間社会学科の授業科目のうち次の科目については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については従前の規定による。

心理学研究法 2	2	社会調査方法論 2	2	社会調査実習Ⅰ 2	2	社会調査実習Ⅱ 2	2
認知心理学 2	2	社会科学データ分析 2	2	特別講義 B 2	2		

附 則

- 1 この改定学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第3美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については従前の規定による。

西洋古代・中世美術 a	2	西洋古代・中世美術 b	2	西洋古代・中世美術 c	2	西洋古代・中世美術 d	2
西洋現代美術 a	2	西洋現代美術 b	2	絵画実習 e	2		

- 3 平成20年度入学生については、第15条別表第3美学美術史学科の授業科目から次の科目を削除する。

西洋古代美術 a	2	西洋古代美術 b	2	西洋中世美術 a	2	西洋中世美術 b	2
デザイン実習 e	1						

- 4 第16条別表第9博物館学芸員関係の授業科目のうち「文化財保存学 a」「文化財保存学 b」の単位数については、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1、第15条別表第3、別表第4、別表第6、第16条第2項の規程は、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第26条、第44条の規程については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生について従前の規程による。
- 3 第15条別表第4、及び第15条別表第5は、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については、従前の規程による。
- 4 第16条別表第6教職課程授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成

- 2 1年度以前の入学生については従前の規程による。
- 5 第16条別表第7 図書館司書関係授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規程による。
- 6 第16条別表第9 博物館学芸員関係授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規程による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち、次の科目については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については従前の規程による。

道徳の指導法	講義	2	特別活動の指導法	講義	2
介護支援基礎論	講義	2	介護等体験	実習	1
教育実習指導(幼稚園)	演習	1	教育実習指導(小学校)	演習	1
教育実習 a(幼稚園)	実習	4	教育実習 b(幼稚園)	実習	2
教育実習 a(小学校)	実習	4	教育実習 b(小学校)	実習	2

- 3 平成23年度入学生については、第15条別表第4 生活文化学科幼児保育専攻の科目から次の科目を削除する。

道徳・特別活動の指導法	講義	2	教育実習指導	演習	1
教育実習	実習	4			

- 4 第16条別表第6 教職課程授業科目については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については従前の規程による。
- 5 第49条第1項、第2項及び第4項については、平成25年4月1日から適用する。
- 6 学長の職務の代理及び代行に関しては、平成24年度は従前の規程による。
- 7 平成19年4月11日制定の「学長の職務の代理及び代行に関する規程」は、平成25年3月31日をもって廃止とする。

附 則

- 1 この改正学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第8条、第9条、第10条に規定する編入学定員(第3年次)は、平成25年度及び平成26年度については次のとおりとする。

文学部

	平成25年度	平成26年度
国文学科	13名	13名
英文学科	13名	13名
美学美術史学科	8名	8名

生活科学部

学 科	専 攻	平成 25 年度	平成 26 年度
食生活科学科	管理栄養士専攻	2 名	2 名
	食物科学専攻	2 名	2 名
	健康栄養専攻	—	—
生活環境学科		2 名	2 名
生活文化学科	生活文化専攻	2 名	2 名
	幼児保育専攻	2 名	2 名

人間社会学部

	平成 25 年度	平成 26 年度
人間社会学科	10 名	10 名
現代社会学科	10 名	10 名

- 3 第 19 条、第 26 条、第 44 条の規定については、平成 25 年度入学生より適用し、平成 24 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 3、第 15 条別表第 4、第 15 条別表第 5、第 16 条別表第 6、第 16 条別表第 9 は、平成 25 年度入学生から適用し、平成 24 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則

- 1 この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別表第1

第14条別表第1 共通教育科目

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
実践入門セミナー	演習	2	*
実践キャリアプランニング	講義	2	*
インテグレートッド・イングリッシュ	演習	2	*
情報リテラシー基礎 a	演習	1	*
選択科目			
情報リテラシー基礎 b	演習	1	*
キャリアデザイン	講義	2	
グローバル・キャリアデザイン	講義	2	
インターンシップ演習	演習	1	
インターンシップ	実習	1	
キャリア開発実践論	講義	2	
キャリア実践演習	演習	2	
国際理解とキャリア形成	講義	2	
伝統文化の理解と実践	演習	2	
女性と職業	講義	2	
リーディング・スキルズ	演習	1	
TOEICリーディング	演習	1	
リスニング・スキルズ	演習	1	
TOEICリスニング	演習	1	
スピーキング・スキルズ	演習	1	
ビジネス・イングリッシュ	演習	1	
フランス語 1 a	演習	1	
フランス語 1 b	演習	1	
ドイツ語 1 a	演習	1	
ドイツ語 1 b	演習	1	
中国語 1 a	演習	1	
中国語 1 b	演習	1	
コリア語 1 a	演習	1	
コリア語 1 b	演習	1	
フランス語 2 a	演習	1	
フランス語 2 b	演習	1	
ドイツ語 2 a	演習	1	
ドイツ語 2 b	演習	1	
中国語 2 a	演習	1	
中国語 2 b	演習	1	
コリア語 2 a	演習	1	

コリア語 2 b	演習	1	
海外語学研修 a	実習	2	
海外語学研修 b	実習	2	
海外語学研修 c	実習	2	
海外語学研修 d	実習	2	
情報リテラシー応用 a	演習	2	
情報リテラシー応用 b	演習	2	
情報リテラシー応用 c	演習	2	
情報リテラシー実践 a	演習	2	
情報リテラシー実践 b	演習	2	
情報リテラシー実践 c	演習	2	
実践プロジェクト	演習	2	
哲学入門 a	講義	2	
哲学入門 b	講義	2	
現代の哲学 a	講義	2	
現代の哲学 b	講義	2	
倫理学入門 a	講義	2	
倫理学入門 b	講義	2	
現代倫理学 a	講義	2	
現代倫理学 b	講義	2	
美学 a	講義	2	
美学 b	講義	2	
社会思想史 a	講義	2	
社会思想史 b	講義	2	
中国の思想 a	講義	2	
中国の思想 b	講義	2	
西洋思想史 a	講義	2	
西洋思想史 b	講義	2	
仏教思想史 a	講義	2	
仏教思想史 b	講義	2	
キリスト教概論 a	講義	2	
キリスト教概論 b	講義	2	
文学概論	講義	2	
日本の文学 a	講義	2	
日本の文学 b	講義	2	
日本の文学 c	講義	2	
日本の文学 d	講義	2	
フランス文学 a	講義	2	
フランス文学 b	講義	2	

ドイツ文学 a	講義	2	
ドイツ文学 b	講義	2	
児童文学論 a	講義	2	
児童文学論 b	講義	2	
比較文学 a	講義	2	
比較文学 b	講義	2	
女性と文学	講義	2	
比較文化論 a	講義	2	
比較文化論 b	講義	2	
生活文化論 a	講義	2	
生活文化論 b	講義	2	
出版文化論 a	講義	2	
出版文化論 b	講義	2	
食文化論	講義	2	
衣文化論	講義	2	
文化人類学 a	講義	2	
文化人類学 b	講義	2	
メディア論 a	講義	2	
メディア論 b	講義	2	
情報文化論 a	講義	2	
情報文化論 b	講義	2	
世界の美術	講義	2	
心理学概論	講義	2	
心理学 a	講義	2	
心理学 b	講義	2	
発達心理学 a	講義	2	
発達心理学 b	講義	2	
教育学 a	講義	2	
教育学 b	講義	2	
教育史 a	講義	2	
教育史 b	講義	2	
日本国憲法	講義	2	*
法学	講義	2	
法と生活	講義	2	
政治学 a	講義	2	
政治学 b	講義	2	
経済学 a	講義	2	
経済学 b	講義	2	
日本経済論 a	講義	2	
日本経済論 b	講義	2	
日本史 a	講義	2	

日本史 b	講義	2	
西洋史 a	講義	2	
西洋史 b	講義	2	
東洋史 a	講義	2	
東洋史 b	講義	2	
地理学	講義	2	
社会学 a	講義	2	
社会学 b	講義	2	
ジェンダー論 a	講義	2	
ジェンダー論 b	講義	2	
社会保障論	講義	2	
数学の世界	講義	2	
統計の世界	講義	2	
物理の世界	講義	2	
化学の世界 a	講義	2	
化学の世界 b	講義	2	
生物の世界	講義	2	
生命と環境	講義	2	
科学思想史	講義	2	
環境科学	講義	2	
環境と産業技術 a	講義	2	
環境と産業技術 b	講義	2	
くらしの人間工学	講義	2	
身体運動の科学 a	講義	2	*
身体運動の科学 b	講義	2	*
スポーツ文化論	講義	2	*
健康運動実習 a	実習	1	*
健康運動実習 b	実習	1	*
基礎スポーツ実習 a	実習	1	*
基礎スポーツ実習 b	実習	1	*
基礎スポーツ実習 c	実習	1	*
基礎スポーツ実習 d	実習	1	*
健康体力科学演習	演習	1	*
ヘルスプロモーション実践実習 a	実習	1	*
ヘルスプロモーション実践実習 b	実習	1	*
スポーツ基礎科学実習 a	実習	1	*
スポーツ基礎科学実習 b	実習	1	*
スポーツ健康科学実習	実習	1	*
スポーツ応用科学実習	実習	1	*
オープン講座 a		2	
オープン講座 b		2	

オープン講座 c		2	
オープン講座 d		2	
オープン講座 e		2	

別表第1-2 削除

別表第2 削除

*印：「保育士養成課程」 教養科目 10 単位
以上

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 国文学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
国語学概論 a	講義	2	
国語学概論 b	講義	2	
国文学概論 a	講義	2	
国文学概論 b	講義	2	
古典文学基礎講読 a	講義	2	
古典文学基礎講読 b	講義	2	
近代文学基礎講読 a	講義	2	
近代文学基礎講読 b	講義	2	
漢文学基礎講読 a	講義	2	
漢文学基礎講読 b	講義	2	
国語史 a	講義	2	
国語史 b	講義	2	
漢文学 a	講義	2	
漢文学 b	講義	2	
特殊演習 1	演習	1	
特殊演習 2	演習	1	
卒業論文		6	
選択科目			
国語学史基礎演習 1	演習	2	
国語学史基礎演習 2	演習	2	
国語学基礎演習 1	演習	2	
国語学基礎演習 2	演習	2	
上代文学基礎演習 1	演習	2	
上代文学基礎演習 2	演習	2	
中古文学基礎演習 1	演習	2	
中古文学基礎演習 2	演習	2	
中世文学基礎演習 1	演習	2	
中世文学基礎演習 2	演習	2	
近世文学基礎演習 1	演習	2	
近世文学基礎演習 2	演習	2	
近代文学基礎演習 1	演習	2	
近代文学基礎演習 2	演習	2	

上代中古文学史 a	講義	2	
上代中古文学史 b	講義	2	
中世近世文学史 a	講義	2	
中世近世文学史 b	講義	2	
近代現代文学史 a	講義	2	
近代現代文学史 b	講義	2	
日本文法論 a	講義	2	
日本文法論 b	講義	2	
日本語研究とコンピュータ a	講義	2	
日本語研究とコンピュータ b	講義	2	
日本語研究とコンピュータ c	講義	2	
日本語研究とコンピュータ d	講義	2	
国語表現法 a	演習	2	
国語表現法 b	演習	2	
世界の中の日本文学 a	講義	2	
世界の中の日本文学 b	講義	2	
世界の中の日本文学 c	講義	2	
世界の中の日本文学 d	講義	2	
比較文学論演習 a	演習	2	
比較文学論演習 b	演習	2	
比較文学論演習 c	演習	2	
比較文学論演習 d	演習	2	
書道史	講義	2	
書学概論	講義	2	
国語学研究 a	講義	2	
国語学研究 b	講義	2	
国語学研究 c	講義	2	
国語学研究 d	講義	2	
国語学研究 e	講義	2	
国語学研究 f	講義	2	
国語学研究 g	講義	2	
国語学研究 h	講義	2	
上代中古文学研究 a	講義	2	
上代中古文学研究 b	講義	2	
上代中古文学研究 c	講義	2	
上代中古文学研究 d	講義	2	

上代中古文学研究 e	講義	2	
上代中古文学研究 f	講義	2	
上代中古文学研究 g	講義	2	
上代中古文学研究 h	講義	2	
中世近世文学研究 a	講義	2	
中世近世文学研究 b	講義	2	
中世近世文学研究 c	講義	2	
中世近世文学研究 d	講義	2	
中世近世文学研究 e	講義	2	
中世近世文学研究 f	講義	2	
中世近世文学研究 g	講義	2	
中世近世文学研究 h	講義	2	
近代現代文学研究 a	講義	2	
近代現代文学研究 b	講義	2	
近代現代文学研究 c	講義	2	
近代現代文学研究 d	講義	2	
近代現代文学研究 e	講義	2	
近代現代文学研究 f	講義	2	
近代現代文学研究 g	講義	2	
近代現代文学研究 h	講義	2	
中国文学哲学研究 a	講義	2	
中国文学哲学研究 b	講義	2	
中国文学哲学研究 c	講義	2	
中国文学哲学研究 d	講義	2	
国語学演習 a 1	演習	2	
国語学演習 a 2	演習	2	
国語学演習 b 1	演習	2	
国語学演習 b 2	演習	2	
国語学演習 c 1	演習	2	
国語学演習 c 2	演習	2	
国語学演習 d 1	演習	2	
国語学演習 d 2	演習	2	
上代中古文学演習 a 1	演習	2	
上代中古文学演習 a 2	演習	2	
上代中古文学演習 b 1	演習	2	
上代中古文学演習 b 2	演習	2	
上代中古文学演習 c 1	演習	2	
上代中古文学演習 c 2	演習	2	
上代中古文学演習 d 1	演習	2	

上代中古文学演習 d 2	演習	2	
上代中古文学演習 e 1	演習	2	
上代中古文学演習 e 2	演習	2	
上代中古文学演習 f 1	演習	2	
上代中古文学演習 f 2	演習	2	
中世近世文学演習 a 1	演習	2	
中世近世文学演習 a 2	演習	2	
中世近世文学演習 b 1	演習	2	
中世近世文学演習 b 2	演習	2	
中世近世文学演習 c 1	演習	2	
中世近世文学演習 c 2	演習	2	
中世近世文学演習 d 1	演習	2	
中世近世文学演習 d 2	演習	2	
中世近世文学演習 e 1	演習	2	
中世近世文学演習 e 2	演習	2	
中世近世文学演習 f 1	演習	2	
中世近世文学演習 f 2	演習	2	
近代現代文学演習 a 1	演習	2	
近代現代文学演習 a 2	演習	2	
近代現代文学演習 b 1	演習	2	
近代現代文学演習 b 2	演習	2	
近代現代文学演習 c 1	演習	2	
近代現代文学演習 c 2	演習	2	
近代現代文学演習 d 1	演習	2	
近代現代文学演習 d 2	演習	2	
近代現代文学演習 e 1	演習	2	
近代現代文学演習 e 2	演習	2	
近代現代文学演習 f 1	演習	2	
近代現代文学演習 f 2	演習	2	
中国文学哲学演習 a 1	演習	2	
中国文学哲学演習 a 2	演習	2	
中国文学哲学演習 b 1	演習	2	
中国文学哲学演習 b 2	演習	2	
中国文学哲学演習 c 1	演習	2	
中国文学哲学演習 c 2	演習	2	
中国文学哲学演習 d 1	演習	2	
中国文学哲学演習 d 2	演習	2	
日本語教育学演習 a 1	演習	2	
日本語教育学演習 a 2	演習	2	

日本語教育学演習 b 1	演習	2	
日本語教育学演習 b 2	演習	2	
日 本 事 情	講義	2	
日本語のバリエーション	講義	2	
第二言語習得研究	講義	2	
日本語教授法—初級—	講義	2	
日本語教授法—中級—	講義	2	
日本語教授法演習 a	演習	2	
日本語教授法演習 b	演習	2	
日本語教育文法—初級—	講義	2	

日本語教育文法—中級—	講義	2	
日 本 語 の 音 声	講義	2	
漢 字 書 法 1	演習	1	
漢 字 書 法 2	演習	1	
実 用 書 法 a	演習	1	
実 用 書 法 b	演習	1	
仮 名 書 法 1	演習	1	
仮 名 書 法 2	演習	1	
書 芸 実 習 a	演習	1	
書 芸 実 習 b	演習	1	

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 英文学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
ベーシック・イングリッシュ a	演習	2	
ベーシック・イングリッシュ b	演習	2	
オーラル・イングリッシュ a	演習	1	
オーラル・イングリッシュ b	演習	1	
英文入門セミナー	演習	2	
パラグラフ・ライティング a	演習	2	
パラグラフ・ライティング b	演習	2	
インテンシヴ・リーディング a	演習	1	
インテンシヴ・リーディング b	演習	1	
イギリス文学史 a	講義	2	
イギリス文学史 b	講義	2	
アメリカ文学史 a	講義	2	
アメリカ文学史 b	講義	2	
英語学概論 a	講義	2	
英語学概論 b	講義	2	
プレセミナー	演習	2	
卒論セミナー a	演習	1	
卒論セミナー b	演習	1	
卒業論文		6	
選択科目			
イギリスの文化と社会	講義	2	
アメリカの文化と社会	講義	2	
特別講義	講義	2	
多読演習	演習	2	
児童英語演習	演習	2	
英語圏の詩	講義	2	
英語圏の演劇	講義	2	
女性と英語圏文学 a	講義	2	
女性と英語圏文学 b	講義	2	
イギリス文学・文化講義 a	講義	2	
イギリス文学・文化講義 b	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 a	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 b	講義	2	

女性と言語学	講義	2	
英語音声学	講義	2	
コミュニケーション英語 a	演習	2	
コミュニケーション英語 b	演習	2	
コミュニケーション英語 c	演習	2	
コミュニケーション英語 d	演習	2	
時事英語演習	演習	2	
翻訳演習	演習	2	
イギリス文学・文化講義 c	講義	2	
イギリス文学・文化講義 d	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 c	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 d	講義	2	
英語教育学講義	講義	2	
社会言語学講義	講義	2	
英語史 a	講義	2	
英語史 b	講義	2	
西洋古典入門	講義	2	
西洋古典研究	講義	2	
コミュニケーション英語 e	演習	2	
コミュニケーション英語 f	演習	2	
コミュニケーション英語 g	演習	2	
コミュニケーション英語 h	演習	2	
中世イギリス文学・文化演習 a	演習	2	
中世イギリス文学・文化演習 b	演習	2	
中世イギリス文学・文化演習 c	演習	2	
中世イギリス文学・文化演習 d	演習	2	
近代イギリス文学・文化演習 a	演習	2	
近代イギリス文学・文化演習 b	演習	2	
近代イギリス文学・文化演習 c	演習	2	
近代イギリス文学・文化演習 d	演習	2	
現代イギリス文学・文化演習 a	演習	2	
現代イギリス文学・文化演習 b	演習	2	
現代イギリス文学・文化演習 c	演習	2	
現代イギリス文学・文化演習 d	演習	2	
近代アメリカ文学・文化演習 a	演習	2	
近代アメリカ文学・文化演習 b	演習	2	
近代アメリカ文学・文化演習 c	演習	2	

近代アメリカ文学・文化演習 d	演習	2	
現代アメリカ文学・文化演習 a	演習	2	
現代アメリカ文学・文化演習 b	演習	2	
現代アメリカ文学・文化演習 c	演習	2	
現代アメリカ文学・文化演習 d	演習	2	
英語学演習 a	演習	2	
英語学演習 b	演習	2	
英語学演習 c	演習	2	
英語学演習 d	演習	2	
中世イギリス文学・文化演習 e	演習	2	
中世イギリス文学・文化演習 f	演習	2	

近代イギリス文学・文化演習 e	演習	2	
近代イギリス文学・文化演習 f	演習	2	
現代イギリス文学・文化演習 e	演習	2	
現代イギリス文学・文化演習 f	演習	2	
近代アメリカ文学・文化演習 e	演習	2	
近代アメリカ文学・文化演習 f	演習	2	
現代アメリカ文学・文化演習 e	演習	2	
現代アメリカ文学・文化演習 f	演習	2	
英語学演習 e	演習	2	
英語学演習 f	演習	2	

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 美学美術史学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
日本美術史入門 a	講義	2	
日本近代美術史入門 a	講義	2	
中国美術史入門 a	講義	2	
仏教美術史入門 a	講義	2	
西洋美術史入門 a	講義	2	
西洋近代美術史入門 a	講義	2	
美学入門 a	講義	2	
卒論ゼミ a	演習	1	
卒論ゼミ b	演習	1	
卒業論文		6	
選択科目			
日本美術史入門 b	講義	2	
日本近代美術史入門 b	講義	2	
中国美術史入門 b	講義	2	
仏教美術史入門 b	講義	2	
西洋美術史入門 b	講義	2	
西洋近代美術史入門 b	講義	2	
美学入門 b	講義	2	
基礎演習	演習	2	
日本美術史特講 a	講義	2	
日本美術史特講 b	講義	2	
日本美術史特講 c	講義	2	
日本美術史特講 d	講義	2	
日本近代美術史特講 a	講義	2	
日本近代美術史特講 b	講義	2	
日本近代美術史特講 c	講義	2	
日本近代美術史特講 d	講義	2	
中国美術史特講 a	講義	2	
中国美術史特講 b	講義	2	
中国美術史特講 c	講義	2	
中国美術史特講 d	講義	2	
仏教美術史特講 a	講義	2	

仏教美術史特講 b	講義	2	
仏教美術史特講 c	講義	2	
仏教美術史特講 d	講義	2	
西洋美術史特講 a	講義	2	
西洋美術史特講 b	講義	2	
西洋美術史特講 c	講義	2	
西洋美術史特講 d	講義	2	
西洋近代美術史特講 a	講義	2	
西洋近代美術史特講 b	講義	2	
西洋近代美術史特講 c	講義	2	
西洋近代美術史特講 d	講義	2	
美学特講 a	講義	2	
美学特講 b	講義	2	
美学特講 c	講義	2	
美学特講 d	講義	2	
日本の美術 a	講義	2	
日本の美術 b	講義	2	
日本の美術 c	講義	2	
日本の美術 d	講義	2	
東洋の美術 a	講義	2	
東洋の美術 b	講義	2	
東洋の美術 c	講義	2	
東洋の美術 d	講義	2	
西洋の美術 a	講義	2	
西洋の美術 b	講義	2	
西洋の美術 c	講義	2	
西洋の美術 d	講義	2	
美術と社会 a	講義	2	
美術と社会 b	講義	2	
美術と社会 c	講義	2	
美術と社会 d	講義	2	
民俗芸能 a	講義	2	
民俗芸能 b	講義	2	
民俗学	講義	2	
芸能文化史	講義	2	
デザイン史	講義	2	

デザイン論	講義	2	
身体文化論	講義	2	
メディア芸術論	講義	2	
現代美術論	講義	2	
世界の美術 a	講義	2	
世界の美術 b	講義	2	
アートマネジメント論	講義	2	
アートコミュニケーション論	講義	2	
思想史研究 a	講義	2	
思想史研究 b	講義	2	
文献研究 a	演習	2	
文献研究 b	演習	2	
文献研究 c	演習	2	
文献研究 d	演習	2	
文献研究 e	演習	2	
文献研究 f	演習	2	
美術史実地研究 a	実習	1	
美術史実地研究 b	実習	1	
美術史実地研究 c	実習	1	
日本美術史演習 a	演習	2	
日本美術史演習 b	演習	2	
日本近代美術史演習 a	演習	2	
日本近代美術史演習 b	演習	2	
中国美術史演習 a	演習	2	
中国美術史演習 b	演習	2	

仏教美術史演習 a	演習	2	
仏教美術史演習 b	演習	2	
西洋美術史演習 a	演習	2	
西洋美術史演習 b	演習	2	
西洋近代美術史演習 a	演習	2	
西洋近代美術史演習 b	演習	2	
美学演習 a	演習	2	
美学演習 b	演習	2	
絵画入門 a	実習	1	
絵画入門 b	実習	1	
絵画実習 a	実習	2	
絵画実習 b	実習	2	
絵画実習 c	実習	2	
絵画実習 d	実習	2	
絵画実習 e	実習	2	
デザイン入門 a	実習	1	
デザイン入門 b	実習	1	
デザイン実習 a	実習	2	
デザイン実習 b	実習	2	
デザイン実習 c	実習	2	
デザイン実習 d	実習	2	
工芸実習 a	実習	2	
工芸実習 b	実習	2	
彫刻実習 a	実習	2	
彫刻実習 b	実習	2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科管理栄養士専攻

規則等規定科目	授業科目	授業形態	単位数		備考		
			必修	選択			
専門基礎分野	社会・環境と健康	公衆衛生学 a	講義	2		** a	
		公衆衛生学 b	講義	2		** a	
		健康管理論	講義	2		** a	
		栄養疫学実習	実習	1			
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学 a	講義	2		** b	
		解剖生理学 b	講義	2		** b	
		栄養生理学	講義	2			
		生化学 a	講義	2		** b	
		生化学 b	講義	2		** b	
		臨床医学概論	講義	2			
		感染と防御	講義	2			
		解剖生理学実験	実験	1		** b	
	食べ物と健康	食品学 a	講義	2		** c	
		食品学 b	講義	2		** c	
		調理学	講義	2		** f	
		食品機能論	講義	2		** c	
		食品加工学 a	講義	2		** c	
		食品衛生学 a	講義	2		** c	
		食品学実験 a	実験	1			
		食品衛生学実験	実験	1		** c	
		食品加工学実習	実習	1		** c	
		調理学実験	実験	1		** f	
		基礎調理 1	実習	1		** f	
		基礎調理 2	実習	1			
	専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2		** d
			基礎栄養学実習	実習	1		
応用栄養学		栄養マネジメント論	講義	2			
		ライフステージ栄養学 a	講義	2		** d	
		ライフステージ栄養学 b	講義	2		** d	
		栄養マネジメント実習	実習	1		** e	
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		** e	
栄養教育論		栄養教育総論	講義	2			
	栄養教育各論 a	講義	2		** e		

		栄養教育各論 b	講義	2		** e
		栄養教育論実習 a	実習	1		** e
		栄養教育論実習 b	実習	1		** e
	臨床栄養学	臨床栄養学 a	講義	2		** d
		臨床栄養学 b	講義	2		** d
		臨床栄養管理学総論	講義	2		
		臨床栄養管理学各論	講義	2		
		臨床栄養学実習 a	実習	1		** d
		臨床栄養管理実習	実習	1		** d
	公衆栄養学	公衆栄養学 a	講義	2		** e
		公衆栄養学 b	講義	2		** e
		公衆栄養学実習 a	実習	1		** e
	給食経営管理論	給食経営管理 a	講義	2		** f
		給食経営管理 b	講義	2		** f
		給食マネジメント実習	実習	2		** f
	総合演習 (管理栄養士国家 試験受験資格 4単位必修)	総合演習 a	演習	1		
		総合演習 b	演習	1		
		総合演習 c	演習		1	
		総合演習 d	演習		1	
	臨地実習	校外給食実習	臨地実習	1		** f
		臨床栄養学実習 b	臨地実習	2		** d
(選択必修1単位)	臨地実習 (1単位必修)	臨床栄養学実習 c	臨地実習		1	* d
		公衆栄養学実習 b	臨地実習		1	* e
	食べ物と健康 (1単位必修)	調理学実習 a	実習		1	
		調理学実習 b	実習		1	
その他の科目 (選択科目)		微生物学	講義		2	
		バイオテクノロジー概論	講義		2	
		基礎無機化学	講義		2	
		基礎有機化学	講義		2	
		食品学実験 b	実験		1	
		食品分析学	講義		2	
		食品加工学 b	講義		2	
		毒性学	講義		2	
		食品衛生学 b	講義		2	
		食品物性論	講義		2	
		商業空間デザイン	講義		2	
		食事摂取基準論	講義		2	
		社会福祉概論	講義		2	

高齢者福祉概論	講義		2	
スポーツ栄養学 a	講義		2	
スポーツ栄養学 b	講義		2	
特別講義 a	演習		1	
特別講義 b	演習		1	
特別講義 c	演習		1	
特別講義 d	演習		1	
卒業論文			6	

※1 管理栄養士専攻の学級数（1学級50人以下）は2学級とする。

※2 栄養士資格取得に必要な単位

※※印：「栄養士養成課程」必修科目 66単位

*印：「栄養士養成課程」選択必修科目 1単位以上

a～f は栄養士法施行規則に定める教育内容

a：社会生活と健康

b：人体の構造と機能

c：食品と衛生

d：栄養と健康

e：栄養の指導

f：給食の運営

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科食物科学専攻

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
フードコーディネート論	講義	2	
フードマネジメント論	講義	2	
フードスペシャリスト論	講義	2	
食生活教育論	講義	2	
基礎栄養学	講義	2	
栄養生理学	講義	2	
生化学 a	講義	2	
生化学 b	講義	2	
ライフステージ栄養学 a	講義	2	
ライフステージ栄養学 b	講義	2	
公衆栄養学 a	講義	2	
食品学 a	講義	2	
食品学 b	講義	2	
食品機能論	講義	2	
食品学各論	講義	2	
食品分析学	講義	2	
食品加工学 a	講義	2	
食品加工学 b	講義	2	
調理学 a	講義	2	
調理学 b	講義	2	
調理学実験 a	実験	1	
基礎調理 1	実習	1	
基礎調理 2	実習	1	
食品衛生学 a	講義	2	
食品衛生学 b	講義	2	
感染と防御	講義	2	
基礎無機化学	講義	2	
基礎有機化学	講義	2	
卒業論文		6	
選択科目			
テーブルマネジメント	演習	1	
食品学実験 a	実験	1	

食品学実験 b	実験	1	
食品加工学実習	実習	1	
食品鑑別論	講義	2	
食品物性論	講義	2	
調理学実験 b	実験	1	
調理学実習 a	実習	1	
調理学実習 b	実習	1	
調理学実習 c	実習	1	
公衆衛生学 a	講義	2	
公衆衛生学 b	講義	2	
食品衛生学実験	実験	1	
毒性学	講義	2	
学校健康教育論	講義	2	
微生物学	講義	2	
食商商品学	講義	2	
フードマーケティング論	講義	2	
分子生物学	講義	2	
バイオテクノロジー概論	講義	2	
調理学及び実習	実習	2	
住居学	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
衣服製作実習 a	実習	1	
衣服製作実習 b	実習	1	
家庭経営学	講義	2	
商業空間デザイン	講義	2	
理化学実験	実験	1	
スポーツと健康科学 a	講義	2	
スポーツと健康科学 b	講義	2	
スポーツ医科学実習	実習	1	
生活学原論	講義	2	
社会福祉概論	講義	2	
高齢者福祉概論	講義	2	
家族関係論	講義	2	
保育学	講義	2	
育児学	講義	2	

看	護	学	講義	2	
家	庭	工	学	講義	2

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科健康栄養専攻

規則等規定科目	授業科目	授業形態	単位数		備考	
			必修	選択		
専 門 科 目	社会生活と健康	公衆衛生学 a	講義	2		*
		社会と福祉	講義	2		*
	人体の構造と機能	解剖生理学 a	講義	2		*
		人体の構造と疾病	講義	2		*
		生化学 a	講義	2		*
		生化学 b	講義	2		*
		解剖生理学実験	実験	1		*
		栄養生化学実験	実験	1		*
	食品と衛生	食品学 a	講義	2		*
		食品学 b	講義	2		*
		食品学実験 a	実験	1		*
		食品衛生学 a	講義	2		*
		食品衛生学実験	実験	1		*
	栄養と健康	基礎栄養学	講義	2		*
		食事摂取基準論	講義	2		*
		ライフステージ栄養学 a	講義	2		*
		ライフステージ栄養学 b	講義	2		*
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		*
		臨床栄養学 a	講義	2		*
		臨床栄養学 b	講義	2		*
		臨床栄養学実習 a	実習	1		*
	臨床栄養学実習 b	実習	1		*	
	栄養の指導	栄養指導論 a	講義	2		*
		栄養指導論 b	講義	2		*
		公衆栄養学 a	講義	2		*
		栄養指導実習 a	実習	1		*
		栄養指導実習 b	実習	1		*
	給食の運営	調理学	講義	2		*
		給食計画論	講義	2		*
		給食実務論	講義	2		*
基礎調理		実習	2		*	
給食実務学内実習		実習	2		*	
給食実務校外実習		実習	2		*	

健康 栄養 科目	食計画群	献立学	講義	2		
		食事計画演習	演習	1		
		応用調理	実習	2		
	食育群	食文化と食育	講義		2	
		ライフステージと食育	講義		2	
		食育と調理	実習		1	
		食のリスク管理	講義		2	
	健康支援群	スポーツと健康科学 a	講義		2	
		スポーツと健康科学 b	講義		2	
		スポーツ栄養学 a	講義		2	
		スポーツ栄養学 b	講義		2	
		スポーツ医科学実習	実習		1	
	レベルアップ群	解剖生理学 b	講義		2	
		食品機能論	講義		2	
		臨床栄養管理学	講義		2	
		公衆栄養学 b	講義		2	
	関連科目	微生物学	講義		2	
		バイオテクノロジー概論	講義		2	
		基礎無機化学	講義		2	
		基礎有機化学	講義		2	
分子生物学		講義		2		
理化学実験		実験		1		
食品加工学 a		講義		2		
食品加工学 b		講義		2		
食品加工学実習		実習		1		
食品衛生学 b		講義		2		
毒性学		講義		2		
栄養生理学		講義		2		
食と美容		講義		2		
卒業論文				6		

※1 栄養士資格取得に必要な単位

*印：「栄養士養成課程」必修科目 57 単位

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活環境学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
生活環境学演習	演習	2	
生活環境学セミナー	演習	2	
卒業研究		6	
選択科目			
基礎演習 a	演習	2	
基礎演習 b	演習	2	
基礎演習 c	演習	2	
基礎演習 d	演習	2	
デザイン基礎演習 a	演習	2	
デザイン基礎演習 b	演習	2	
色彩学	講義	2	
色彩設計演習 a	演習	2	
色彩設計演習 b	演習	2	
生理学	講義	2	
統計の基礎	講義	2	
統計の応用	講義	2	
生活環境科学	講義	2	
デザイン史	講義	2	
消費生活学	講義	2	
マーケティング論	講義	2	
消費科学	講義	2	
情報環境論	講義	2	
情報通信ネットワーク概論	講義	2	
情報と職業	講義	2	
コンピュータとプログラミング演習	演習	2	
I C T 基礎演習	演習	2	
繊維高分子材料学	講義	2	
繊維高分子材料実験	実験	2	
テキスタイル材料学	講義	2	
テキスタイル材料実験	実験	2	
機能材料学	講義	2	
テキスタイル管理学	講義	2	

テキスタイル管理実験	実験	2	
染色加工学	講義	2	
被服衛生学	講義	2	
アパレルデザイン基礎実験	実験	2	
アパレルデザイン基礎	講義	2	
アパレル生産	講義	2	
パターン設計論	講義	2	
アパレルデザイン実習 a	実習	2	
アパレルデザイン実習 b	実習	2	
アパレル C A D	演習	1	
アパレルデザイン総合実習	実習	2	
伝統衣服実習	実習	2	
ファッションデザイン論	講義	2	
ファッショングラフィック演習	演習	1	
ファッションビジネスの世界	講義	2	
ファッション文化論	講義	2	
ファッション企画論	講義	2	
ファッションビジネス論	講義	2	
ファッションビジネス演習	演習	2	
衣料管理実習	実習	1	
プロダクトデザイン論	講義	2	
プロダクトデザイン演習	演習	2	
基礎造形論	講義	2	
プロダクトアメニティ演習	演習	2	
情報アメニティ論	講義	2	
ユニバーサルデザイン論	講義	2	
工業デザイン概論	講義	2	
生活機器設計演習	演習	2	
マルチメディアデザイン演習	演習	2	
感性と生活情報システム	講義	2	
人間工学	講義	2	
人間工学実験	実験	2	
生活気候学	講義	2	
生理人類学	講義	2	
生理人類学実験	実験	2	
生活材料学	講義	2	

インテリアデザイン論	講義	2	
インテリアデザイン演習	演習	2	
インテリアグラフィック演習	演習	1	
インテリアコーディネート論	講義	2	
インテリアコーディネート演習	演習	2	
建築概論	講義	2	
住居学	講義	2	
住居デザイン論	講義	2	
住環境デザイン論	講義	2	
建築デザイン論	講義	2	
生活空間計画	講義	2	
設計製図基礎	演習	2	
建築・インテリアCAD	演習	1	
生活空間設計製図1	演習	2	
生活空間設計製図2	演習	2	
生活空間設計製図3	演習	2	
建築構造	講義	2	
建築施工	講義	2	
建築・インテリア構法	講義	2	
材料力学	講義	2	
住環境・設備学	講義	2	

福祉住環境論	講義	2	
環境心理学	講義	2	
建築法規	講義	2	
デザインワークショップ	演習	2	
調理学及び実習	実習	2	
栄養学	講義	2	
食物学	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
衣服製作実習a	実習	1	
衣服製作実習b	実習	1	
衣服製作実習c	実習	2	
生活学原論	講義	2	
生活経営論	講義	2	
家族関係論	講義	2	
保育学	講義	2	
育児学	講義	2	
看護学	講義	2	
家庭工学	講義	2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活文化学科生活文化専攻

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
生活文化概論	講義	2	
生活文化史1	講義	2	
生活文化史2	講義	2	
フィールドワーク1	実習	1	
フィールドワーク2	実習	1	
基礎演習1(言語表現とコミュニケーション)	演習	1	
基礎演習2(科学的思考法とコミュニケーション)	演習	1	
ゼミナール(論理的判断とコミュニケーション)	演習	2	
卒業論文	演習	6	
生活の科学	講義	2	
生涯発達心理学a	講義	2	
生涯発達心理学b	講義	2	
生涯発達心理学演習a	演習	1	
生涯発達心理学演習b	演習	1	
家庭教育論	講義	2	
教育心理学	講義	2	
生活心理概論	講義	2	
生活心理実習	実習	1	
生活心理演習1(調査実習)	演習	2	
生活心理演習2(重点基盤領域)	演習	1	
生活経済論	講義	2	
社会心理学1	講義	2	
家族関係論	講義	2	
人体の構造と機能	講義	2	
健康科学総論(生活と健康)	講義	2	
臨床心理学1	講義	2	
家庭経営論	講義	2	
衣料学	講義	2	
栄養学	講義	2	
住居学	講義	2	
看護学	講義	2	
心理学概説1	講義	2	
心理学概説2	講義	2	
認知心理学a	講義	2	

選択科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
心理学演習1	演習	1	
心理学演習2	演習	1	
心理学研究法1	演習	2	
心理学研究法2	演習	2	
心理学実験・実習1	実習	2	
心理学実験・実習2	実習	2	
心理調査・検査法1	演習	2	
心理調査・検査法2	演習	2	
生活心理研究計画法	演習	2	
生活心理臨床実習(病院等)	実習 演習	2	
生活心理海外研修(国際理解と保育・教育)	演習 実習	4	
人口と生活・社会	講義	2	
生活と法・社会制度	講義	2	
家庭生活と政治経済	講義	2	
消費者安全論	講義	2	
消費者安全論演習	演習	1	
社会心理学2	講義	2	
キャリア心理学	講義	2	
生活・社会とジェンダー	講義	2	
コミュニティ心理学	講義	2	
家族と生涯発達総論(社会変容とライフステージ)	講義	2	
家族と生涯発達各論a	講義	2	
家族と生涯発達各論b	講義	2	
家族と生涯発達各論c	講義	2	
家族社会学	講義	2	
家族心理学	講義	2	
家族心理学演習	演習	1	
家族心理学特論	講義	2	
家族臨床心理学1	講義	2	
家族臨床心理学2	講義	2	
脳と心	講義	2	
健康科学各論a(女性の体と心)	講義	2	
健康科学各論b(疫学から見る健康)	講義	2	

健康科学各論 c (現代医療の課題)	講義	2	
生活と医学	講義	2	
臨床心理学 2	講義	2	
心理療法 1	演習	1	
心理療法 2	演習	1	
生活デザイン入門	講義 実習	2	
衣料学演習	演習	2	
衣服製作実習 b	実習	1	
衣服製作実習 c	実習	2	
食物学	講義	2	

調理学及び実習	実習	2	
保育学	講義	2	
育児学	講義	2	
原書講読 a	演習	1	
原書講読 b	演習	1	
パーソナリティ心理学	講義	2	
認知心理学 b	講義	2	
言語心理学	講義	2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活文化学科幼児保育専攻

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
生活文化学概論	講義	2	
生活文化史1	講義	2	
生活文化史2	講義	2	
生活文化論演習	演習	2	
卒業論文	演習	6	
選択科目			
保育原理1	講義	2	**
保育原理2	講義	2	*
教育学概論	講義	2	**
教育制度論	講義	2	*
教育学演習a	演習	2	
教育学演習b	演習	2	
教育思想史	講義	2	*
保育者論	講義	2	**
教職論	講義	2	
生涯発達心理学a	講義	2	**
生涯発達心理学b	講義	2	*
生涯発達心理学演習a	演習	2	**
生涯発達心理学演習b	演習	2	*
学習心理学序説	講義	2	
教育心理学	講義	2	*
子どもの保健1a	講義	2	**
子どもの保健1b	講義	2	**
子どもの保健2	演習	1	**
児童家庭福祉論	講義	2	**
社会福祉論	講義	2	**
社会的養護	講義	2	**
家庭支援論	講義	2	**
保育表現技術a(音楽)	演習	1	**
保育表現技術b(図画工作)	演習	1	**
保育表現技術c(体育)	演習	1	**
保育表現技術d(言語)	演習	1	**
保育内容a(総論)	演習	1	**
保育内容b(健康)	演習	1	**
保育内容c(人間関係)	演習	1	**
保育内容d(ことば)	演習	1	**

保育内容e(環境)	演習	1	**
保育内容f(表現)	演習	1	**
相談援助	演習	1	**
社会的養護内容	演習	1	**
保育相談支援	演習	1	**
保育方法論	講義	2	
乳児保育	演習	2	**
子どもの食と栄養	演習	2	**
障害児保育	演習	2	**
保育課程論	講義	2	**
教育課程論	講義	2	
教育課程編成の実際	講義	2	
国語	講義	2	
社会	講義	2	
算数	講義	2	
理科	講義	2	
生活	講義	2	
音楽	講義	2	
図画工作	講義	2	
家庭	講義	2	
体育	講義	2	
初等教科教育法(国語)	演習	2	
初等教科教育法(社会)	演習	2	
初等教科教育法(算数)	演習	2	
初等教科教育法(理科)	演習	2	
初等教科教育法(生活)	演習	2	
初等教科教育法(音楽)	演習	2	
初等教科教育法(図画工作)	演習	2	
初等教科教育法(家庭)	演習	2	
初等教科教育法(体育)	演習	2	
道徳の指導法	講義	2	
特別活動の指導法	講義	2	
教育方法・技術	講義	2	
生徒・進路指導論	講義	2	
子どもと英語a	演習	2	*
子どもと英語b	演習	2	*
幼児教育法1	演習	2	*
幼児教育法2	演習	2	*

保育指導の実際	演習	2	
保育実習指導1	演習	2	**
保育実習1a(保育園)	実習	2	**
保育実習1b(児童福祉施設)	実習	2	**
保育実習指導2	演習	1	*
保育実習2a(保育園)	実習	2	*
保育実習2b(児童福祉施設)	実習	2	*
介護支援基礎論	講義	2	
介護等体験	実習	1	
教育実習指導(幼稚園)	演習	1	
教育実習指導(小学校)	演習	1	
教育実習a(幼稚園)	実習	4	
教育実習b(幼稚園)	実習	2	
教育実習a(小学校)	実習	4	
教育実習b(小学校)	実習	2	
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	**
教職実践演習(幼・小)	演習	2	
心理測定研究法1	演習	2	*
心理測定研究法2	演習	2	*
家族社会心理学1	講義	2	*
家族社会心理学2	講義	2	*
家族臨床心理学1	講義	2	*
家族臨床心理学2	講義	2	*
心理学基礎実験1	演習	2	*
心理学基礎実験2	演習	2	*
脳と心	講義	2	
臨床心理学概論	講義	2	
子ども理解とカウンセリング	講義	2	*
ネットワーク社会論	講義	2	*
情報文化概論a	講義	2	
情報文化概論b	講義	2	

生活経済論a	講義	2	
生活経済論b	講義	2	
生活経済論演習a	演習	2	
生活経済論演習b	演習	2	
造形デザイン論1	講義	2	
造形デザイン論2	講義	2	
メディアアート論1	講義	2	*
メディアアート論2	講義	2	*
映像制作技術	演習	2	*
ネットワーク技術論1	講義	2	
ネットワーク技術論2	講義	2	
環境文化論1	講義	2	
環境文化論2	講義	2	
原書講読a	演習	2	
原書講読b	演習	2	
生活装備論1	講義	2	
生活装備論2	講義	2	
生活装備論演習1	演習	2	
生活装備論演習2	演習	2	
コミュニケーション論	講義	2	
比較生活文化論1	講義	2	
比較生活文化論2	講義	2	
生活文化史演習1	演習	2	
生活文化史演習2	演習	2	
女性社会論a	講義	2	
女性社会論b	講義	2	
社会責任論	講義	2	
メディア技術論演習a	演習	2	
メディア技術論演習b	演習	2	
女性社会論演習a	演習	2	
女性社会論演習b	演習	2	

*印:「保育士養成課程」必修科目 52単位

*印:「保育士養成課程」選択必修科目 9単位以上

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 現代生活学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
ビジネスプランニング	演習	2	
現代生活学	講義	2	
ゼミナール	演習	4	
ファイナルプロジェクト	演習	4	
コミュニティ概論	講義	2	
環境科学概論	講義	2	
メディア社会概論	講義	2	
グレートブックスセミナー1	演習	2	
ライフ・プランニング	講義	2	
ビジネス・スキル a	演習	2	
ビジネス・スキル b	演習	2	
企業研究 a	演習	2	
企業研究 b	演習	2	
選択科目			
プロジェクト演習 a	演習	2	
プロジェクト演習 b	演習	2	
家庭経営 a (食生活)	講義	2	
家庭経営 b (衣環境)	講義	2	
家庭経営 c (育児・介護)	講義	2	
基礎メディア技術	講義	2	
プレゼンテーション技法	講義	2	
フィールドリサーチ	講義	2	
統計とモデリング	講義	2	
現代社会を読み解く a (政治と経済)	講義	2	
現代社会を読み解く b (生活と産業)	講義	2	
現代社会を読み解く c (文化と市場)	講義	2	
現代社会を読み解く d (科学技術と社会)	講義	2	
グレートブックスセミナー2a	演習	2	
グレートブックスセミナー2b	演習	2	
地域文化形成論	講義	2	
コミュニティ経済演習	演習	2	
自立生活論 a (健康)	講義	2	

自立生活論 b (消費者)	講義	2	
自立生活論 c (安全と保障)	講義	2	
少子高齢化社会	講義	2	
グローバル社会	講義	2	
地域エネルギー論	講義	2	
地域エネルギー論演習	演習	2	
地域食料論	講義	2	
地域食料論演習	演習	2	
生活産業創出論	講義	2	
環境マーケティング論 a	講義	2	
環境マーケティング論 b	講義	2	
環境マーケティング論演習 a	演習	2	
環境マーケティング論演習 b	演習	2	
エコビジネス演習	演習	2	
環境工学及び調査	講義	2	
環境マネジメント論	講義	2	
環境経済学	講義	2	
環境思想 a	講義	2	
環境思想 b	講義	2	
環境思想演習	演習	2	
生活ビジネス a (グリーンビジネス)	講義	2	
生活ビジネス b (コミュニティビジネス)	講義	2	
生活ビジネス c (マイクロビジネス)	講義	2	
生活産業史	講義	2	
社会責任論	講義	2	
女性社会論 a	講義	2	
女性社会論 b	講義	2	
メディア生活学 a	講義	2	
メディア生活学 b	講義	2	
メディアアート論 a	講義	2	
メディアアート論 b	講義	2	
映像制作演習 a	演習	2	
映像制作演習 b	演習	2	
メディアテクノロジー演習 a (Web)	演習	2	
メディアテクノロジー演習 b (データ)	演習	2	
メディアテクノロジー演習 c (開発)	演習	2	

メディア生活経営論 a	講義	2	
メディア生活経営論 b	講義	2	
メディア生活経営論演習 a	演習	2	
メディア生活経営論演習 b	演習	2	
情報セキュリティ社会	講義	2	
広告とメディア	講義	2	
ビジネス・マナー	演習	2	
家庭経営論	講義	2	
家族関係論	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
衣服製作実習 a	実習	1	

衣服製作実習 b	実習	1	
衣服製作実習 c	実習	2	
栄養学	講義	2	
食物学	講義	2	
調理学及び実習	実習	2	
住居学	講義	2	
看護学	講義	2	
育児学	講義	2	
保育学	講義	2	
家庭工学	講義	2	

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 人間社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
基礎科目	人間社会学総論	講義	2		
	心理学基礎	講義	2		
	社会学概論	講義	2		
	経済学概論	講義	2		
	経営学概論	講義	2		
	法律学	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	社会と統計	講義	2		
基幹科目	人間関係論	講義		2	
	行動科学	講義		2	
	社会心理学	講義		2	
	カウンセリング基礎	講義		2	
	ジェンダー論	講義		2	
	社会言語学	講義		2	
	経営管理論	講義		2	
	キャリアデザイン論	講義		2	
	言語コミュニケーション教育論	講義		2	
	ミクロ・マクロ経済学	講義		2	
	民法概論	講義		2	
	簿記論Ⅰ	講義		2	
	簿記論Ⅱ	講義		2	
	社会調査概論	講義		2	
	社会調査方法論	講義		2	
調査・実験データ処理法	講義		2		
展開・応用科目	認知心理学	講義		2	
	生涯心理学	講義		2	
	学習心理学	講義		2	
	女性心理学	講義		2	
	人格心理学	講義		2	
	健康心理学	講義		2	
	家族社会学	講義		2	
	社会政策論	講義		2	
	都市社会論	講義		2	
	家族法	講義		2	

心理学統計法	講義		2
心理学実験実習Ⅰ	実習		2
心理学実験実習Ⅱ	実習		2
社会調査実習Ⅰ	実習		2
社会調査実習Ⅱ	実習		2
国際政治論	講義		2
会计学総論	講義		2
原価計算論	講義		2
会計監査論	講義		2
金融論	講義		2
財政論	講義		2
保険論	講義		2
流通サービス論	講義		2
産業組織論	講義		2
情報社会論	講義		2
消費者心理学	講義		2
知的財産法	講義		2
企業法	講義		2
社会科学データ分析	講義		2
日本語コミュニケーション基礎	講義		2
日本語コミュニケーション実践	講義		2
異文化理解	講義		2
現代ジャーナリスト論	講義		2
メディア文化論	講義		2
メディア表現論	講義		2
ホスピタリティ論	講義		2
カウンセリング	講義		2
産業カウンセリング	講義		2
コーチング論	講義		2
情報環境論	講義		2
Webコミュニケーション	講義		2
情報ネットワーク	講義		2
関連科目	社会の基礎数学	講義	2
	現代企業論	講義	2
	応用社会心理学	講義	2
	産業心理学	講義	2

	安 全 心 理 学	講義		2
	犯 罪 心 理 学	講義		2
	心 理 学 研 究 法	講義		2
	臨 床 心 理 学	講義		2
	教 育 心 理 学	講義		2
	共 生 支 援 論	講義		2
	社 会 文 化 事 業 論	講義		2
	商 法 概 論	講義		2
	国 際 経 済 論	講義		2
	地 理 学 概 論	講義		2
	特 別 講 義 A	講義		2
	特 別 講 義 B	講義		2
演習科目	演 習 I	演習	2	
	演 習 II A	演習	2	

	演 習 II B	演習	2	
	演 習 III A	演習	2	
	演 習 III B	演習	2	
	演 習 IV A	演習	4	
	演 習 IV B	演習	4	
外国語科目	英語コミュニケーションI	演習	2	
	英語コミュニケーションIIA	演習	2	
	英語コミュニケーションIIB	演習	2	
	中国語コミュニケーションIA	演習		2
	中国語コミュニケーションIIB	演習		2
	中国語コミュニケーションIIA	演習		2
	中国語コミュニケーションIIB	演習		2

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 現代社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
基礎科目	人間社会学総論	講義	2		
	心理学基礎	講義	2		
	社会学概論	講義	2		
	経済学概論	講義	2		
	経営学概論	講義	2		
	法学	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	社会と統計	講義	2		
基幹科目	現代社会論	講義		2	
	人間教育学概論	講義		2	
	人間関係論	講義		2	
	教育心理学	講義		2	
	社会心理学	講義		2	
	行動科学	講義		2	
	カウンセリング基礎	講義		2	
	ジェンダー論	講義		2	
	ミクロ・マクロ経済学	講義		2	
	企業戦略論	講義		2	
	キャリアデザイン論	講義		2	
	キャリアマネジメント論	講義		2	
	簿記論Ⅰ	講義		2	
	簿記論Ⅱ	講義		2	
	民法概論	講義		2	
	商法概論	講義		2	
展開・応用科目	人間形成論	講義		2	
	現代教育論	講義		2	
	教育社会学	講義		2	
	キャリア教育支援論	講義		2	
	女性と労働	講義		2	
	家族社会学	講義		2	
	都市社会論	講義		2	
	共生支援論	講義		2	
	NPO・NGO論	講義		2	
	ダイバーシティ社会論	講義		2	
	社会ネットワーク論	講義		2	
	社会文化事業論	講義		2	

地域社会学	講義		2
行政法	講義		2
社会倫理	講義		2
消費者保護論	講義		2
現代日本経済論	講義		2
現代企業論	講義		2
社会会計論	講義		2
地域経済と社会	講義		2
経済発展と社会	講義		2
中小企業論	講義		2
国際経済論	講義		2
国際企業論	講義		2
マーケティング論	講義		2
消費者心理学	講義		2
安全心理学	講義		2
企業法	講義		2
経済法	講義		2
産業心理学	講義		2
経営心理学	講義		2
人格心理学	講義		2
臨床心理学	講義		2
発達臨床心理学Ⅰ	講義		2
発達臨床心理学Ⅱ	講義		2
異文化理解	講義		2
集団組織コミュニケーション論	講義		2
人事管理論	講義		2
ホスピタリティ論	講義		2
リーダーシップ論	講義		2
カウンセリング	講義		2
産業カウンセリング	講義		2
コーチング論	講義		2
現代ジャーナリスト論	講義		2
関連科目	社会の基礎数学	講義	2
	認知心理学	講義	2
	生涯心理学	講義	2
	学習心理学	講義	2

女性心理学	講義		2
犯罪心理学	講義		2
心理学研究法	講義		2
心理学統計法	講義		2
心理学実験実習Ⅰ	実習		2
心理学実験実習Ⅱ	実習		2
社会調査概論	講義		2
社会調査方法論	講義		2
社会調査実習Ⅰ	実習		2
社会調査実習Ⅱ	実習		2
調査・実験データ処理法	講義		2
社会科学データ分析	講義		2
国際政治論	講義		2
地理学概論	講義		2
特別講義 A	講義		2
特別講義 B	講義		2

演習科目	演習Ⅰ	演習	2	
	演習Ⅱ A	演習	2	
	演習Ⅱ B	演習	2	
	演習Ⅲ A	演習	2	
	演習Ⅲ B	演習	2	
	演習Ⅳ A	演習	4	
	演習Ⅳ B	演習	4	
	外国語科目	英語コミュニケーションⅠ	演習	2
英語コミュニケーションⅡ A		演習	2	
英語コミュニケーションⅡ B		演習	2	
中国語コミュニケーションⅠ A		演習		2
中国語コミュニケーションⅠ B		演習		2
中国語コミュニケーションⅡ A		演習		2
中国語コミュニケーションⅡ B		演習		2

別表第6

第16条別表第6 教職課程授業科目及び単位数
全学部共通

授業科目	授業形態	単位数	備考
教職入門	講義	2	
教育原理	講義	2	
教育原理(栄養)	講義	1	
発達・学習理論	講義	2	
教育制度	講義	2	
教育制度(栄養)	講義	1	
教育課程論	講義	2	
教育課程論(栄養)	講義	1	
教科教育法	国語科教育法	講義	2
	書道科教育法	講義	2
	英語科教育法	講義	2
	美術科教育法	講義	2
	家庭科教育法	講義	2
	情報科教育法	講義	2
	社会科教育法	講義	2
	社会科・公民科教育法	講義	2
国語科教育実践研究(1)	講義	2	
国語科教育実践研究(2)	講義	2	
書道科教育実践研究	講義	2	
英語科教育実践研究(1)	講義	2	
英語科教育実践研究(2)	講義	2	
英語科教育実践研究(3)	講義	2	
美術科教育実践研究(1)	講義	2	
美術科教育実践研究(2)	講義	2	
美術科教育実践研究(3)	講義	2	
家庭科教育実践研究(1)	講義	2	

家庭科教育実践研究(2)	講義	2	
家庭科教育実践研究(3)	講義	2	
情報科教育実践研究	講義	2	
社会科教育実践研究(1)	講義	2	
社会科教育実践研究(2)	講義	2	
公民科教育実践研究	講義	2	
道德教育指導論	講義	2	
道德教育指導論(栄養)	講義	2	
教育方法・技術論	講義	2	
教育方法・技術論(栄養)	講義	1	
生徒指導論	講義	2	
教育相談	講義	2	
教育実習A	講義 実習	5	
教育実習B	講義 実習	3	
栄養教育実習	講義 実習	2	
教職実践演習(中・高)	演習	2	
教職実践演習(栄養)	演習	2	
教職特別講義	講義	2	
介護支援基礎論	講義	2	
介護等体験	実習	1	
教職研究a	講義 演習	2	
教職研究b	講義 演習	2	
教職研究c	講義 演習	2	
教職研究d	講義 演習	2	
教職研究e	講義 演習	2	
児童・生徒栄養教育論(1)	講義	2	
児童・生徒栄養教育論(2)	講義	2	

別表第7

第16条別表第7 図書館司書関係授業科目
全学部共通

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
生涯学習論	講義	2	
図書館概論	講義	2	
図書館情報技術論	講義・演習	2	
図書館制度・経営論	講義	2	
図書館サービス概論	講義	2	
情報サービス論	講義	2	
児童図書館サービス論 a	講義・演習	2	
児童図書館サービス論 b	講義・演習	2	
情報サービス演習 a	演習	1	
情報サービス演習 b	演習	1	

図書館情報資源概論 a	講義・演習	2	
図書館情報資源概論 b	講義・演習	2	
情報資源組織法 1 a	講義・演習	1	
情報資源組織法 1 b	講義・演習	1	
情報資源組織法 2 a	講義・演習	1	
情報資源組織法 2 b	講義・演習	1	
選択科目			
図書館基礎特論	講義	2	
図書・図書館史	講義	2	
図書館施設論	講義	2	
図書館総合演習	講義・演習	2	
図書館実習	講義・実習	2	

別表第8

第16条別表第8 学校図書館司書教諭関係授業科目及び単位数
全学部共通

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
学校経営と学校図書館	講義	2	
学校図書館メディアの構成	講義	2	
学習指導と学校図書館	講義	2	
読書と豊かな人間性	講義	2	
情報メディアの活用	講義 演習	2	

別表第9

第16条別表第9 博物館学芸員関係授業科目

文学部・人間社会学部共通

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
博物館学入門	講義	2	
博物館経営論	講義	2	
博物館資料論	講義	2	
博物館教育論	講義	2	
生涯学習概論	講義	2	
博物館情報・メディア論	講義	2	
博物館展示論	講義	2	
博物館資料保存論	講義	2	
博物館実習1 a	実習	1	
博物館実習1 b	実習	1	
博物館実習2	実習	1	
選択科目			
美術史概論 a	講義	2	
美術史概論 b	講義	2	
工芸史概論 a	講義	2	
工芸史概論 b	講義	2	
文化史概論 a	講義	2	
文化史概論 b	講義	2	
知的財産研究	講義	2	
アート&パブリッシング	講義	2	
パブリック・プログラム研究	講義	2	
保存修復 a	講義	2	
保存修復 b	講義	2	

別表第10

第60条別表第10

外国人留学生特設科目

選 択 科 目			
授 業 科 目	授業形態	単位数	備 考
日 本 文 化 事 情 a	講義	2	
日 本 文 化 事 情 b	講義	2	
日 本 語 a	講義	2	
日 本 語 b	講義	2	
日 本 語 c	講義	2	
日 本 語 d	講義	2	

○実践女子大学教授会規程

第1条 教授会は、学部の全専任教授をもって構成する。ただし、必要ある場合は准教授、専任講師、助教及びその他の職員を加えることができる。

第2条 教授会は、全学教授会と各学部教授会とする。

第2条の2 各学部教授会の運営に関する規程は別に定める。

第3条 全学教授会は学長が招集し、議長となる。1名の書記を置く。書記は、学長これを委嘱する。

2 前項の規定にかかわらず、学長は全学教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。

第3条の2 学部教授会は、学部長が招集し、議長となる。1名の書記を置く。書記は、学部長これを委嘱する。

2 前項の規定にかかわらず、学部長は教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。

第4条 全学教授会及び学部教授会は、構成員の3分の2以上の出席により成立する。

第5条 全学教授会及び学部教授会の議決は、出席者の過半数により決し、可否同数の場合は議長が議決する。

第6条 全学教授会及び学部教授会に幹事若干名を置く。幹事は、事務職員がこれに当たり、議長を助けて議事の進行に当たる。

第7条 全学教授会は、次の事項を審議し、大学の方針を決定する。

- (1) 学長の候補者に関する事項
- (2) 学則の制定に関する事項
- (3) 学科・教育研究の施設の改廃に関する事項
- (4) 教育・研究・運営に関する事項
- (5) その他重要な事項

第7条の2 学部教授会は次の事項を審議し、学部の方針を決定する。

- (1) 学部長の選任に関する事項
- (2) 教授、准教授、講師、助教の任免、昇任、代講等異動に関する事項
- (3) 学科の授業科目編成に関する事項
- (4) 学生の入学・卒業等学生の身分に関する事項
- (5) 学生の試験に関する事項
- (6) 学生の賞罰に関する事項
- (7) 学生の団体活動、その他の学生生活に関する事項
- (8) その他学部教授会で必要と認める事項

第8条 前条第2号の教授の採用及び教授への昇任に関する事項は、教授をもって構成す

る教授会において審議するものとし、准教授の採用及び准教授への昇任については准教授を、講師の採用については講師を、助教の採用については助教を、それぞれ教授会の中に加えることができる。

第 9 条 学長は、大学・短期大学の共通事項を審議するため、合同教授会を開催することができる。

運営方法は全学教授会に準ずる。

附 則(平成 12 年 4 月 1 日)

この改正規程は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 4 月 1 日)

この改正規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 18 年 12 月 6 日)

この改正規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

○実践女子大学生生活科学部教授会運営内規

(根拠)

第1条 実践女子大学学則第53条の規定により、生活科学部教授会運営内規を次のとおり定める。

(構成員)

第2条 生活科学部教授会(以下、教授会と称する。)は、実践女子大学生生活科学部に所属する教授、准教授及び専任講師をもって構成する。

2 教授会が必要と認めるときは、構成員以外の教職員を出席させることができる。

第3条 教授会の議長は、学部長がこの任にあたる。

2 学部長に事故有るときは、予め指名された教員が議長の任にあたる。

(招集)

第4条 教授会は、学部長が招集する。

2 構成員の3分の1以上によって請求があった場合は、その請求があった日から7日以内に教授会を招集しなければならない。

3 教授会の招集は、少なくともその開催の7日前までに、その会議の目的たる事項、日時及び場所を記載した書面をもって構成員に通知しなければならない。ただし、緊急の場合はこの限りではない。

(議決)

第5条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

第6条 構成員は、教授会において、各1個の表決権を有する。

第7条 教授会においては、第4条の規定により、予め通知された事項についてのみ議決することができる。ただし、第9条第1号から第5号に掲げる事項を除き、緊急を要する事項については、この限りでない。

第8条 教授会の議事は、第10条に規定される場合を除き、出席者の表決権の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(教授会の議決事項)

第9条 教授会は、生活科学部に係る次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 学生の試験、入退学、卒業等に関する事項
- (2) 学科・課程に関する事項
- (3) 学部の人事に関する事項
- (4) 学長から諮問があった事項
- (5) 学部運営に係る重要な事項
- (6) その他、教授会が必要と認めた事項

(特別議決事項)

第 10 条 教員の採用及び昇任に係る事項は、別に定める内規によってその議決方法を定める。

(議事録)

第 11 条 教授会の議事については、議事録を作成しなければならない。

2 議事録は、議長が作成し、少なくとも次の事項を記載し、議長及び出席者のうちからその教授会において選任された 2 人以上が署名押印しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 出席者全員の氏名

(3) 議案

(4) 議事の経過の概要とその結果

3 議事録は、事務局に保管し、教授会構成員から請求があった場合は閲覧させなければならない。

(委員会)

第 12 条 教授会の運営を円滑に行うために、委員会を置くことができる。委員会については、教授会の議決を経て、別に定める。

(事務局)

第 13 条 委員会の事務は、大学事務部が行う。

(雑則)

第 14 条 この内規に規定されない教授会の運営についての細部は、その都度、教授会において定める。

第 15 条 この内規の改正は、教授会の議を経なければならない。

附 則

この内規は、昭和 51 年 6 月 24 日から施行する。

附 則(平成 7 年 4 月 1 日)

この内規は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 6 月 9 日)

この内規は、平成 12 年 6 月 9 日から施行する。

附 則(平成 17 年 4 月 1 日)

この改正内規は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 2 月 28 日)

この改正規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 3 月 28 日)

この改正規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 24 年 3 月 23 日)

この改正内規は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

I 学校法人実践女子学園の沿革

学校法人実践女子学園は、明治 32 年（1899 年）に設立された実践女学校並びに女子工芸学校を母体とし、平成 21 年（2009 年）5 月に創立 110 周年を迎えた。現在は、実践女子大学（文学部、生活科学部、人間社会学部）、実践女子大学大学院（文学研究科、生活科学研究科、人間社会研究科）、実践女子短期大学（日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、食物栄養学科）及び実践女子学園中学校、実践女子学園高等学校を設置している。

実践女子大学は、明治 41 年（1908 年）に設置された高等専門部家庭科及び技芸科を母体とし、後の実践女子専門学校を経て、昭和 24 年（1949 年）に実践女子大学（文家政学部）として設置された。昭和 40 年（1965 年）に文家政学部を廃止し、文学部（国文学科、英文学科）、家政学部（食物学科、被服学科）を設置、昭和 41 年（1966 年）に大学院文学研究科、家政学研究科を設置した。その後、文学部に美学美術史学科を増設、家政学部を生活科学部に改組して食生活科学科、生活環境学科及び生活文化学科の 3 学科構成とした。平成 16 年（2004 年）に新たに三つ目の学部として人間社会学部（人間社会学科）を設置する等、各々の時代が求める人材の育成に努めてきた。

II 設置の趣旨及び必要性

実践女子大学生活科学部には、食物・栄養を総合的に扱う食生活科学科、被服・プロダクトデザイン・住居といった身近な環境を扱う生活環境学科、保育や教育・生活文化の面を主に扱う生活文化学科を設置している。

本学が設立以来、長年にわたって培ってきた家政学・生活科学の教育研究の成果において、現代の変化の激しい社会や産業のあり方に対応して、社会や家庭、そして個人の生活がどのようなありかたを問う、またそのありかたを構築していくための視野と認識力、洞察力や判断力をいかに身につけていくかということが、課題として見えてきた。また、文化や情報、物流、人的交流等がグローバル化する 21 世紀社会では、人間生活の具体的な営みの場である地域社会の持続的な発展と再構築が大きな課題となっている。次代を担う若者に、このような新たな時代や社会に対応した新しい生活者として生きていくための教養と実践力を身につけさせる「新しい実学」が求められているのである。

このため本学に、生活者としての女性の視点を活かして現代生活の課題を創造的に解決し、社会の持続的展開や地域の再生を担う新しい人材を育成すること、また、環境社会への対応とコミュニティにおける連帯の方法に対する解決方法を模索している社会に、その解決方法を提示し、運営できる人材を育成する新たな学科を設置することが必要と考えた。

本学は、平成 26 年（2014 年）4 月に文学部及び人間社会学部を渋谷キャンパスに移転す

るが、その後の日野キャンパスにおいても、幅広い生活科学の教育研究分野の拡大を目指し、現代の文化と生活経済を総合的に扱う教育研究部門の開発が急務となった。

以上の点を総合的に検討した結果、生活科学部に新たに現代生活学科を設置し、家政学・生活科学の柱の一つ、家庭・生活経済を主軸として、新しい社会や地域・産業づくりに関する教育研究を実践することとした。

一方、現代生活学科の設置に伴い、従来同領域を一部担ってきた生活文化学科生活文化専攻は、教育課程を精査し、当該専攻における教育研究のさらなる充実を図る。生活文化学科は、平成7年度(1995年度)の学科設置後、平成19年度(2007年度)に生活文化専攻と幼児保育専攻の2専攻にした。生活文化専攻では、情報化社会のメディアに対する理解が深い人材、ならびに長寿社会の家庭生活に心理的側面から資する人材の育成が目指された。そしてその後の社会変容は、「家族・家庭」の問題を深め、生涯発達として捉えられる人の各ライフステージにおける生活課題をより大きなものとしてきた。そこで生活文化専攻では、それらの課題を「家庭生活を営み社会の中で生きること」として捉えなおし、心理学的方法を基礎として分析・考察し、主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的態度を備えた人材の育成へと、教育研究の目的を収斂していくこととする。応じて、生活文化学科生活文化専攻の教育課程を次のように変更する。従来は、卒業論文などの基礎科目に加えて情報文化、地球環境、デザイン、生活経済、心理学基礎、健康・福祉、保育・教育などに関する科目が、「生活文化の基礎と応用」「文化と社会」「総合領域」「方法と技術」「文化諸領域」の5つのカテゴリーの選択科目として配置されてきた。生活文化専攻は、現代生活学科の設置に伴い、生活の営みと人間の生涯発達を総合的に捉え、家族・家庭に関する知識と技術を総合的に習得し、人間関係、生活の安全などの現代の家庭の生活課題を主体的に解決するとともに、生活、家族、健康を心理学的視点から理解できる人材を育成することとし、卒業論文や、人間の生涯にわたる発達について理解するための科目などから構成される基本科目群に加え、基盤領域群として「生活と社会」「家族と社会」「心身の健康」の3領域を、探究領域として「人と生活」領域を、方法基礎領域として「心理」領域を置くことにした。

したがって、生活科学部においては、現行の衣、食、住、保育・児童領域の研究教育内容に加えて、家族・家庭に焦点を当てて心理学的方法で生活課題にアプローチする専攻、そして新しい社会状況に即応した事業創造を目指す現代生活学科の設置により、学部教育体制の充実を図り、生活科学部として層の厚い研究教育が行えるようにする。

Ⅲ 学生の確保の見通しと社会的な人材需要

実践女子大学生活科学部では、これまで食物・栄養学、被服(アパレル)、住居、保育など、家庭経営・生活産業に関する教育研究を展開してきた。このような家政学系としての教育研究業績を踏まえ、さらに今日の情報化や環境問題、グローバル化などの新たな社会変化に対応し、従来の家政学を発展させる新たな学科として、本学は現代生活学科の設置を計画した。現代生活学科では、「自立」+「環境」+「メディア」を基盤として学び、新しい社会状況に即応して産業、行政、地域で活躍する人材を養成する新たな“実学”をめ

ざす。

1. 実践女子大学の入学定員と入学者確保の状況

実践女子大学生生活科学部現代生活学科は、入学定員 60 名、収容定員 240 名と設定した。

入学定員 60 名は、これまで本学及び併設短期大学における各学科の入学定員、収容定員並びに各学科の学生確保の状況に鑑み、学生確保が十分可能である人数として、設定した。

現在本学の各学科の入学定員では生活科学部生活環境学科の 80 名が最少である。また専攻毎に募集をしている学科では、食生活科学科管理栄養士専攻が 70 名、食生活科学科食物科学専攻が 75 名、食生活科学科健康栄養専攻（平成 25 年（2013 年）4 月開設）が 40 名、生活文化学科生活文化専攻が 40 名、生活文化学科幼児保育専攻が 45 名である。文学部各学科、生活科学部各学科・専攻、人間社会学部各学科において、いずれの学科も学生の確保をしてきているところである。これら既設の各学科、専攻の入学定員と志願状況に鑑み、当初の新学科設置構想時点では入学定員を 80 名と想定していたが、18 歳人口の減少期に入っていることから、入学定員を 60 名とすることとした。【資料 1 学則変更による収容定員の変更状況】

また、本学を志願する者のうち、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県 の 1 都 3 県の志願者数が 61%、合格者が 60%、入学者数 60% を占めている。【資料 2 都道府県別志願者・合格者数】

そして、この 1 都 3 県の女子高校生の進学状況は全国平均の 55% を大きく上回っていることから、今後の学生確保は充分できると考える。【資料 3 都道府県別進学率と就職率（平成 23 年度）】

2. 実践女子学園設置の実践女子大学、実践女子短期大学の入学定員、収容定員の見直しの状況

平成 16 年度（2004 年）以後、実践女子学園では大学、短期大学の学部学科の改組等を行う際に、常に入学定員、収容定員の見直しを行ってきた。【資料 4 学校法人実践女子学園設置学校 入学定員・収容定員の移行】

平成 16 年（2004 年）4 月に大学に人間社会学部人間社会学科を設置し、3 学部 7 学科体制とした。この時点で大学の入学定員は、文学部 3 学科で 340 名、生活科学部 3 学科 310 名、人間社会学部 1 学科 140 名の合計 790 名、収容定員は 3,368 名であった。一方、併設の短期大学では、平成 16 年（2004 年）4 月時点で日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科、生活福祉学科、食物栄養学科、4 学科の入学定員は 380 名、収容定員 760 名であり、大学と短期大学の収容定員は 4,128 名であった。

平成 23 年（2011 年）、人間社会学部現代社会学科（入学定員 100 名、収容定員 420 名）を設置する際に、文学部 3 学科の入学定員を各 10 名、人間社会学科の入学定員を 40 名減らすことにより、大学の入学定員が 30 名増、収容定員が 120 名増となった。一方、短期大学生生活福祉学科（入学定員 80 名）の学生募集を停止し、短期大学の収容定員は 160 名減の 600 名となり、大学、短期大学の収容定員は 4,048 名となった。

平成 24 年度（2012 年）には、短期大学日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケ

ーション学科の入学定員を各 20 名減じ、短期大学の収容定員を 520 名とし、大学、短期大学の収容定員は 3,968 名となった。

平成 25 年（2013 年）4 月の大学生生活科学部食生活科学科健康栄養専攻（入学定員 40 名、収容定員 160 名）の設置においては、大学全体の編入学定員 104 名、収容定員 208 名の見直しを行い、大学の収容定員の増は行わず収容定員 3,488 名のままとした。一方、短期大学食物栄養学科（入学定員 80 名、収容定員 160 名）は平成 25 年（2013 年）4 月から学生募集を停止し、大学食生活科学科健康栄養専攻が新たに栄養士養成施設の指定を受けた。これにより短期大学の収容定員は 160 名減の 360 名となり、大学、短期大学の収容定員の合計は 3,848 名となった。

このように、本学園の設置する大学では常に入学定員並びに収容定員の見直しを行いながら学科改組に取り組んできており、また短期大学についても志願者、入学者の状況によって入学定員の削減、学生募集の停止、四年制への移行を行うなど、学生確保の見通しを立てつつ改組を行っている。

過去 5 年間（平成 20 年（2008 年）～平成 24 年（2012 年））の入学者数の変遷では、平成 20 年度（2008 年度）に美学美術史学科及び生活環境学科は入学定員を充足しなかった。これは志願者、受験者とも十分であったものの、合格者の歩留まりが悪かったためであり、その後はすべての学部・学科において、入学者を確保してきている。**【資料 5 実践女子大学入学者数（2008 年度～2012 年度）】**

また、現代生活学科への志願動向を調査すべく、平成 25 年 3 月に本学オープンキャンパスに会場した高校生を対象に実施したアンケートでは、志願先と考えた者の割合が 58.1%あり**【資料 6 実践女子大学現代生活学科に関するアンケート結果】**、また、平成 25 年 3 月 22 日から 26 日に高校生を対象とした Web アンケートの結果では、志願先と考えた者の割合が 17.5%であった。**【資料 7 現代生活学科に関するアンケート（Web アンケート）】**

これらの各種データを総合的に判断すると、現代生活学科の学生募集においても、学生確保は十分にできるものとする。

3. 実践女子大学生生活科学部現代生活学科の人材育成の目的

社会の変化に伴い、家政学、生活科学の分野における地域や社会との繋がり的重要性から、生活、地域、社会、企業の課題を解決するための視野と洞察力、認識力、判断力を身につけることが生活者に求められている。また、グローバル化する 21 世紀社会で、生活者として生きていくための豊かな教養と社会人基礎力を基に、国際的な環境問題、情報化、自立社会を切り口として学び、賢い生活者として生きる力を身につけると共に、これらの知識と技術を生かして、生活に関連した幅広い産業分野で活躍することが求められる。

現代生活学科の専門科目では、生活教養的視点の醸成を基盤とし、現代社会における環境問題と情報化、自立社会を切り口として、課題の解析、解決の手法を修得させる。さらに実践・演習型学習を通じて、応用力と社会人基礎力を涵養し、女性と生活者の視点から、生活ビジネスのニーズを掘り起こし、教育、行政分野や幅広い産業分野において新たなサ

ービスを創造し、社会貢献と自己実現を果たしえる人材の育成を目標とする。

現代生活学科では、上記の人材育成の目的を達成するために、「自立社会と自立生活」「環境と生活産業」「メディアと生活」を教育課程（カリキュラム）の3本の柱として、学生は次の学習を行う。

- 自立社会と自立生活の領域では、持続可能なコミュニティーについて、エネルギー、食料、安全などの様々な切り口から検討し、課題から派生する新しいニーズの発掘と商品・サービスの創造を探る視点を養うと共に、自らの生活のポテンシャルを高めていく。
- 環境と生活産業の領域では、地域や地球の環境とその変化をとらえ、そこから生まれる新たなビジネスや技術イノベーション、マーケティングの手法を学び、環境の改善に資する解決法、社会環境の新たな価値を見出していく力を身につけていく。
- メディアと生活の領域では、現代の生活や社会を、インターネットに代表される情報ネットワークの側面からとらえ、飛躍的に進化するメディア技術を活用し経営、新たなサービスの創造、メディア社会が抱える問題などを学んでいく。

また、教育課程と密接に関係するが、教育方法についても、少人数による授業、演習型授業、グレートブックスセミナーなどを通じて、学生の学習に対する意欲を高めるとともに、授業内での発表の場の構築や、他者の意見を聞くなどの社会人に求められる諸々の知識・技術を修得させることとする。

現代生活学科の構想段階において、今後は「生活に関わるアウトソーシング産業（家事、在宅介護、保育、外食）」「生活者視点による多様なニーズにこたえるカスタマイズドサービス（バリアフリーリフォーム、ツーリズム）」「生活環境に関わる情報提供、コンサルティング（家事・子育てアドバイス、科学技術、食品安全等に関する保護者向教育）」の分野において、生活に関わる商品・サービスを提供していく産業の創出・拡大が期待される。そこでは、“生活者視点”で商品・サービスの企画、営業、提供のできる人材ニーズが高まると考えた。

さらに、未婚率の増加や夫婦共働きの増加により、女性の働き方が変わってきている。従来は、大学卒業後に就職しても、いったん家庭に入った女性その後再び社会で働くことは困難であったが、近年の社会状況の変化により、これらかの社会では仕事と家庭がそれぞれのライフステージにおいて往還するものと推移していくと思われる。

このような社会状況の変化において、目指すべき人材像として、次の4点を設定した。

- 1) 職業人としての専門性と生活者としての視点・知見を活かし、生活産業において活躍し、社会に貢献できる人材（生活産業人材）
- 2) 生活に係る制度や技術の理解に基づき、確かな選択眼と判断を通じ、豊かな生活を送れる人材（賢い生活者）
- 3) 結婚、出産等のライフステージの変化に応じて、仕事と家庭の両立、又は往来のできるエンプロイアビリティの高い人材
- 4) 成熟社会における良識ある市民として、公共性と貢献意識を持って積極的に社会に参画できる人材

女性の生き方や働き方の現状・方向性及びそこで求められる人材や、そうした人材を育てるための大学教育のあり方について、有識者に対して聞き取り調査を行った。聞き取り調査の実施にあたっては「育成する人材」の素案を、甲南女子大学特任准教授、日本女子大学人間社会学部教授、法政大学キャリアデザイン学部教授の3名に提示して聞き取り調査を行った。【資料8 有識者インタビュー調査概要】

有識者からの聞き取りの結果を受け、女性や生活者を取り巻く課題や環境変化の方向性、産業界や雇用機会でも求められる課題や環境変化を解決する能力、日野キャンパスにおける教育機能の発展の方向性を総合的に判断した。

一方、学科の設置計画段階で、現代生活学科を卒業後に想定される就職先の企業等の人事担当者に、最近の大学卒業生に対する評価、女子大学生に対する評価、企業が求める人材、大学の教育に対する期待・要望についてインタビュー調査を行った。【資料9 企業インタビュー調査概要】

聞き取り対象企業は教育産業、金融機関、人材派遣業、製造業（食品）、建設業の5社で、本学の卒業生の就職等でも就職実績があり、かつ現代生活学科卒業生にとって、強い就職希望先となると想定される企業を選択した。

企業インタビューの結果から、企業が求める人材は、「ジェネリックスキル」であり、そのためには大学教育の中でいかにして「生きる力」「生き方・働き方」を学び、「ジェネリックスキル」を身につかせるかが重要であるとの結論を得た。

計画段階における、有識者調査、社会が求める具体的な人材像を形作り、人材育成の目標を策定してきた。

人材育成の目的は、地方自治体や企業の協力を得た学生教育の実践や共同研究の積み重ねに基づくものである。生活科学部は、衣食住に関わる生活産業に人材を送り出してきた。また生活文化学科では、広告、メディア、レジャー産業と連繋した共同研究プロジェクトも数多く実施してきた。このような土壌のもと、企業の社会的責任（CSR）や環境問題対応など、従来の経済成長路線とは異なる企業のあり方についても、企業の上位マネジメントとの合意形成を通じてさまざまな共同研究を、学生を巻き込むかたちで展開してきた。概括してみれば、10年前はCSRをテーマとした共同研究には抵抗感をみせる企業担当者が少なくなかったのであるが、5年ほど前から潮目が変わるように、また近年では企業の側からの新たな参加申込みも多くなるように、状況が変化してきた。

環境問題や地域自立の問題は、資源を過剰に消費する産業体制の持続不可能性への社会的認識の高まりと共に、企業経営の課題としても大きな問題となってきたことが、教育事業のこれまでの取組からも実感としてよく分かるようになってきた。

またその一方で、男女共同参画型社会といわれながらも現実の企業組織のなかで女性が占める位置は、マネジメント上の中核にあるとはいえないものであった。しかし、その点においても近年、企業の側に変化があることが、企業との共同研究に際して、女子学生たちを一貫して事業企画スタッフとして参加させてきた経験からも見て取れる。企業側の女性人材への期待が、女性の目線といったスポット的なものから、分析・企画立案といったスタッフ的な能力へと、確かに変化してきているのである。

生活科学部では、行政とのまちづくり研究、あるいは化粧品、金融、家電、情報機器、ソフトウェア産業、自動車、エネルギー、建設、食品、嗜好品、教育産業、宝飾品など、事業領域を問わずさまざまな企業との協力関係を結び、共同研究や研究授業・演習などを企画・実践してきた。

現代生活学科の育成する人材像はそのような教育研究実践の経験から生まれてきたものであり、教育課程は、それを実現することを目指して編成されたものである。

IV 学部、学科の特色

本学は、平成 7 年（1995 年）に家政学部の名称を生活科学部に変更した。同時に食物学科を食生活科学科に、被服学科を生活環境学科にそれぞれ名称を変更するとともに、新たに生活文化学科を設置して 3 学科からなる学部として教育を行ってきた。食生活科学科では管理栄養士や食品衛生監視員・管理者などの資格を、生活環境学科では衣料管理士や建築士などの資格を、生活文化学科では幼稚園教諭や保育士などの資格を取得できるように実学を中心とした教育研究を行ってきた。

21 世紀の社会では、情報化と社会構造の変化、資源・環境問題の顕在化に伴い、家政学の領域においても、産業と社会構造の変化に対応した家庭生活と個人の生き方について、科学的知見や産業技術そして文化的価値に基づいた再構築を目指す教育研究が必要となっている。

新たに設置する現代生活学科は、本学において培われてきた家政学・生活科学の教育研究における生活価値の探求に基づくものであり、産業や社会のあり方が大きく変化する現代において、これからの社会と家庭、そして自身の生活はどのようにあるべきかという問いの重要性が増すとともに、それに応えるための視野と洞察力、認識力、判断力をいかに身につけていくかという課題も鮮明である。また、情報や文化、物流、人的交流がグローバル化する他方で、確かな実体を持つ地域社会や生活の持続性や再生も大きな課題である。新たな社会を生きる新しい生活者としての教養と実践力を培う、新たな時代の実学が求められている。この新しい社会状況に対応して、現代生活学科では、「自立」＋「環境」＋「メディア」を基軸として学びながら、家庭と生活経済、生活価値の探求に基づいて産業、行政、地域で活躍する人材を育成する。

これらの状況を踏まえ、産業や地域社会における事業経営と密接に結びついた教育研究を志向して、平成 26 年（2014 年）4 月に四つ目の学科として現代生活学科（入学定員 60 名、収容定員 240 名）を設置することとした。

V 学部、学科等の名称及び学位の名称

一般に時代区分としての「現代」は、「近代」を過去としてみてその次にあたる「現在の時代」を意味するが、その内容はおよそ次のように捉えられている。まず非ヨーロッパ圏、特にアジアでは植民地支配からの独立以降を、またヨーロッパでは東西分裂を越えたヨーロッパ統合の運動の時代に相当している。そしてこの捉え方の上では、「近代」がそれぞれの文化体の固有の時代を意味するのではなく、ヨーロッパ的近代のみを意味するものであ

ることが重要である。「現代」とはすなわち、民主化、市場・資本主義、グローバル化などに象徴されるように、実質的にヨーロッパ的近代が世界的規模で拡大した時代を表象するものとして位置づけられるのである。そこで「現代」を考察することは、現実化した普遍的西欧近代のシステムを分析するとともに、そのことによってもたらされた新たな問題状況を明らかにしそれを乗り越える道を探求することである。いわゆる「再帰的近代化」が現代社会の諸側面で求められているのである。

現代生活学科は、上記の意味での現代という問題性に対して、生活価値の実現という見地から問題の総合的な把握と実践的な解決の道を探求する、「新しい生活学」の教育研究を目的とするものである。

この趣旨に沿ったものとして、名称を以下のように定める。

学部の名称	生活科学部	Faculty of Human Life Sciences
学科の名称	現代生活学科	Department of Lifestyle Management
学位の名称	学士(生活科学)	Bachelor of Human Life Sciences

VI 教育課程の編成の考え方及び特色

生活科学部現代生活学科は、生活者としての女性の視点を活かして現代生活の課題をクリエイティブに解決し、地域、社会の新たな展開を担う新しい人材の育成を目的としており、その教育課程は、以下の様な考え方に基づいて編成されている。

1. 教育課程編成の考え方

本学の建学の精神である「女性の自立と自営」を基底に据え、「共存・共生」の精神に支えられた人間観を養い、人間の文化と社会に対する深い洞察力に裏打ちされた実践的な教育・研究を促進することによって、21世紀の社会の要請に応え、貢献できる人材の育成を目指すことにある。

教育課程は、幅広い教養教育を目指す「共通教育科目」と学科の教育理念・目的に沿った「専門科目」によって編成する。

「共通教育科目」は、「実践スタンダード科目」、「実践アドバンスト科目」及び「教養科目」で構成し、4年間にわたり幅広い基礎的な教養と総合的な判断力を身につけるための教育を施す。

「専門科目」では、生活教養的視点の醸成を基盤とし、現代社会における環境問題と情報化、自立社会を切り口として、課題の解析、解決の手法を修得させる。さらに実践・演習型学習を通じて、応用力と社会人基礎力を涵養し、女性と生活者の視点から、生活ビジネスのニーズを掘り起こし、教育、行政をはじめとする幅広い産業分野において新たなサービスを創造し、社会貢献と自己実現を果たす人材を育成することを目標とする。そのために、専門科目の教育課程は「専門総合科目」「専門基礎科目」「グレートブックス・セミナー」「専門教育科目」「キャリア形成」及び「教職関連科目」の群からなるものとし

た。

教育課程編成の上では、学生から見て4年間の学習の目的と、各年次各期の学習の位置づけが分かりやすいように、上記の科目群を構造的に配置した。まず最初に、現代の生活と社会における複雑性と流動性という際だった特徴に対して、充分に対応できる知的基盤を築くことを基本的な学習目的と定めている。一般的な産業社会からの人材ニーズとして、フレキシビリティやコミュニケーション能力と呼ばれているものに相当するのは、構造的な分析能力と相互関係の把握・構築能力である。学術領域では、情報技術に限定しない広い意味でのメディア学がそれにあたる。産業中心にかたちづくられた現代の社会と生活を揺るがす環境問題、またそれに対応する新たな社会と生活づくりの課題も、この構造的・関係的な問題の捉え方を必要としている。その認識から、自立、環境、メディアを3つの学習領域としつつ相互に関係づけて学ぶ課程を編成した。

初年次は、複雑性・流動性という課題領域の特徴を、環境問題やコミュニティ形成のテーマから把握しつつ、相互関係的構造(メディア)としてそれら事象をとらえる視点を醸成する。2年次は3領域を相互に関係づけながら学習を深め、3年次ではゼミナールに所属し指導教員のもとで特定領域に比重を置きながらも、プロジェクト型演習を通してものごとを総合的に取り扱う姿勢を自分のものとしてゆく。4年次は問題発見から解決法・対処の立案、評価まで、研究プロジェクトを主体的に生みだし運営する完成期である。

社会や生活の現実の課題では、ただひとつの専門的な手法で問題解決できる例はむしろ少なく、相互に絡み合うその構造を把握して総合的に対処する力が求められる。3領域を相互に関係づける編成はそれに対応するためのものである。

その一方、移り変わる現象の基底には、人間社会に普遍の価値の領域がある。真善美に象徴される価値の問題は、その社会的で具体的な現れは多様に変遷すれども、人がそれを求めることにおいて変わりはない。そのことは、人類の古典となる文芸作品が明らかにしていることである。古典文芸作品をもとに討議を経験するグレートブックス・セミナーは、フレキシビリティやコミュニケーション能力といった、社会現象の変化・多様性への対応能力の基盤の部分に、確かな下支えとなるもの、人間にとって本当に大切なものは何であるのかを知的に問い、語り合う力を育てるためのものである。

一方、十分な批判力のもとに見るとしても、現代の社会の主要なプレイヤーは企業であり、家庭生活もそれに深く結びつけられている。この企業組織によってなる社会について、十分な認識を持ち、具体的に対応でき、その上で生活価値に基づいた新たな事業を企画する力の育成が目標となる。キャリア形成科目群はこの企業組織固有の特徴を学び、そのなかで主体的に判断・行動できるようにするためのものである。

学生はこれら有機的に結びつけられ配置された科目群を体系的に、また各自の関心と自主性に応じて、学んでゆくことになる。

2. 教育課程の特色

生活科学部現代生活学科では、自立、環境、メディアを切り口として現代生活が抱える

課題とその解決法を学び、またその学習を通じて、社会人基礎力の醸成を行うことを目的として、専門教育科目では、「自立社会と自立生活」「環境と生活産業」「メディアと生活」を3本の柱として、学生は次の学習を行う。【資料10 現代生活学科学びのかたち】

1) 共通教育科目

「共通教育科目」は、「実践スタンダード科目」、「実践アドバンスト科目」及び「教養教育科目」で編成され、複雑化の進行する社会を多角的な視点から総合的に考え、的確に判断できる、心身ともに健やかな人間性を養うための幅広い教養教育を展開する。

①「実践スタンダード科目」群

本学の教育理念を教授するとともに、大学における「学びの目標」の発見と「学びのスキル」を身につけ、実践力のある女性を育成するための基盤となる科目である。「実践入門セミナー」は、大学生活を円滑にスタートさせ、大学で学習していく上で必要不可欠な基本的知識や技能を身につけることを目的とする。「実践キャリアプランニング」では卒業後の将来を見据えた生き方を考え、「インテグレートド・イングリッシュ」と「情報リテラシー」では、国際社会で活動するために必要される英語と情報の処理・活用に関する汎用的スキルを身につけることを目的とする。

②「実践アドバンスト科目」群

「実践スタンダード科目」を展開・発展・進化させる科目群で、学生自身がさらに伸ばしたい知識・能力・スキルの獲得を目指す。特にキャリア教育、外国語教育、情報リテラシー教育に重点を置いた学びの促進を図る。

③「教養教育科目」群

「教養教育科目」は六つの科目群からなる。「女性の生き方」では、キャリア教育をベースにして人生に必要な知識を学ぶ。「人間の文化」では、思想・宗教、文学、歴史・地理、文化、メディアといった文化全般に対する理解力を深める。「生活と社会」では、心理、法律、政治・経済、社会、生活、教育といった側面から人間と社会との関わりについて学ぶ。「自然と数理」では、自然科学と環境科学の理解をとおして自然と人間の真の融合や生命の尊さについて学ぶ。「健康とスポーツ」では、生涯にわたる健康管理の重要性を理解し、生涯スポーツとしての体育実技を通して運動能力を育み、心身ともに健全な市民の育成を促進する。「オープン講座」は、時宜にかなった魅力あるテーマを選んで開講し、学生の社会の動向に対する感受性を高めていく。

専門教育への基盤となると共に、社会の中核となる学士としてまた世界と接する日本の社会人として、人格と品格の基となる豊かな教養を身につける。

2) 専門科目

現代生活学科の専門科目は、現代生活と社会の接点を理解し、現実に改善する技能と態度を習得し、生活者として社会人として活躍するための、基礎から応用への段階的履修編成をもつとともに、基礎科目、専門の3本の柱として「自立社会と自立生活」「環境と生活産業」「メディアと生活」の科目群、および社会人として活躍するための汎用的能力を

育成するための2つの支援的な学科群「キャリア形成」、「グレートブックス・セミナー」および「教職関連科目」で編成され、次の特色をもっている。

①グラデーションをもった基礎から応用への流れ

導入としての専門基礎科目から、研究的な科目である専門教育科目、さらに実践を中心とした専門総合科目という大きな流れと同時に、それぞれの科目群の中でも基礎から応用への流れをくみ、また横断的な実践科目であるプロジェクト科目についても、基礎的なプロジェクト、各領域ごとの演習、実際の社会現場におけるプロジェクトの立案と実行へと、着実に能力を養うための科目の流れとしている。

②演習、実習科目の充実と、専門科目の学習を通じた学士力の養成

1年次に設定した、「現代社会を読み解く」「プレゼンテーション技法」で学んだ知識を活かす技術を身につけると共に、課題発見と解決、評価に向かう態度を、日常の教科の中で習得できる様、ほとんどの領域について講義系科目と演習、実習を対として設定している。

(1) 専門基礎科目

専門基礎科目群は、1，2年次を中心として配当され、専門教育科目、専門総合科目へと学修を進める上での導入となる知識を身につけると共に、学習と社会活動において必要な、考える技術、積極的に取り組む態度を涵養する科目群である。

①生活教養基礎：専門教育科目群で扱う生活科学の3つの領域「自立」「環境」「メディア」について概括を学び、各人が大学において専門性を絞り自分の社会人としても含め道を選んでいく上での基礎としていく。

a)「環境科学概論」では、自然科学、国際関係や文化などの視点も加え全体像を見渡す多元的アプローチを学ぶ。

b)「コミュニティ概論」では、新しい町作りの事例から、地域の問題や文化の維持について概括的に学ぶ。

c)「メディア社会概論」では、現在、政治から文化まで様々な組織がネットワークで結びつけられた社会を、メディアとして動的にとらえる見方を学ぶ。

②生活教養：生活者の視点から、現代の社会現象と社会問題について、少人数で考える。正しい認識によって興味と視野の範囲を広げ、背景を調べて理解することにより、クリティカルに思考し、自分なりの意見をもてる様にする。

「現代社会を読み解く a,b,c,d」それぞれの科目で、生活者の視点からの政策の評価や新しい政治参加の活動、地域主体の経済について考え、経済の成長と幸福の実現の不一致を文化の視点から考え、産業の中に生活者視点を持った新しい産業のあり方を考え、現代生活の中に当然の様にとけ込んでいる科学技術の本質について知り、生活を科学的マインドでとらえる視点を養っていく。

③生活技術：

a)「家庭経営 a,b,c」：生活科学部の中にあって本学科が中心的に位置する家庭経営について、後の専門教育領域の基盤として、現状と課題を学ぶ。食生活について、食品、

身体というよりむしろ家庭経営からの視点において例えば孤食の問題や、食文化の変遷について分析していく。同様に衣、住、保育についても、家族、家庭経営の視点から現代生活の現状と課題を知り、解決法の糸口を探索する。

- b) 「基礎メディア技術」、「プレゼンテーション技法」、「フィールドリサーチ」、「統計とモデリング」は、後の専門教育科目群のいずれの領域についても学び進めるために必要な、理論と技術を習得する科目としての性格を有する。「基礎メディア技術」では情報機器やサービスの利用の仕方、情報データの活用の仕方を学ぶ。「プレゼンテーション技法」では、コンセプトの表現法、デザインや聴き手の心理、認知、デバイスの活用法などを体系的に学ぶ。「フィールドリサーチ」では調査、コミュニケーションの手法を学び、実際に校外に出て、組織訪問、インタビューを行い実践の経験を積む。「統計とモデリング」ではデータの読み取り、ビッグデータ処理を学び、そこからモデルを用いて、構造化を行う訓練を行う。

(2) グレートブックス・セミナー

古今の知の巨人による著作を題材にして、教養教育であると共に、読解、問題認識、考察し、自分の意見を構築し、述べ、建設的に議論を行うという、アクティブな、社会人基礎力を養う態度教育の場である。専門基礎科目としての性格を有し、1年の必修としているが、2～4年も選択で履修し、学年を超えて正義、格差など正解のないさまざまなテーマに取り組んで互いに議論し、生活や社会を取り巻く現状への興味と多角的な視点を育成していく。

(3) 専門教育科目群

専門教育科目群は本学科の専門教育における主要領域である「自立社会と自立生活」「環境と生活産業」「メディアと生活」を知的な3本の柱として現代の生活を科学的に分析する科目群である。生活科学は知識を身につけるだけでは生かされない。ほとんどの科目において講義に対応した形で演習科目を設け、修得した知識を技術として深め、活かす態度を身につける様に構成している。

①「自立社会と自立生活」の領域では、持続可能な社会経営・生活について、エネルギー、食料、安全などの様々な切り口から検討し、課題から派生する新しいニーズの発掘と商品・サービスの創造を探る視点を築くと共に、自らが一員である地域社会と家庭生活の新たなかたちと可能性を見いだしていく。

- a) 「自立生活論 a,b,c」では、現代生活において個人、家庭、地域の自立を考える。消費者の立場から、現下の「生活の向上を消費の拡大に求める生産消費のサイクル」に取り込まれない自立した生活者としてのライフスタイルの確立を考察する。健康の視点においては、健康を身体と心の両面から、個人の責任と社会制度の支援によって考えるだけでなく、家族や共同体社会など関係的に捉えて考える。また、安全と保証の観点からは、生活を営む上で抱える社会的、個人的、経済的等々のリスクについて、認識と把握、情報収集とマネジメントについて学ぶ。

- b) 「地域文化形成論」では、経済と同様に外部に依存したものからは得られない、独自の充足感の観点から、教育、レジャーなども含めて地域文化の方向性を検討する。「コミュニティ経済演習」では、互酬を生む地域経済の特色を知り、歴史、文化に基づいた地域経済の再構築について、ケースを用いて立案する。
- c) 「少子高齢化社会」、「グローバル社会」では、少子高齢化、グローバル化という大きな流れにより、急速に変化する社会について、法律、市場、都市など社会構造面から学ぶとともに、家族や社会に対する意識など文化領域にもたらす影響を分析し、現在および将来の問題とその解決の方向性を考察する。
- d) 「地域エネルギー論」においては、資源エネルギーの調査と将来予測、再生エネルギーの利用と経済性を分析し、演習においてはスマートコミュニティ、小規模発電などの事例を調査し、研究報告を纏める。
- e) 「地域食料論」は、エネルギー、物流の限界の可能性の中で、地産地消を成立させる条件、技術、制度について探求し、「地域食料論演習」においては、具体的な地域を想定して、その歴史、人口動態を含め現状調査から将来に向けての提言までをチームで取り組んでいく。

②「環境と生活産業」の領域では、資源・エネルギー制約が現実化した新たな社会状況をとらえ、問題解決に結びつく新たなビジネスや技術イノベーション、マーケティングの手法を学び、環境問題に対応した新たな社会・産業・生活づくりと、その基底となる新たな価値形成に結びつく力を身につけていく。

- a) 「生活産業創出論」では、産業の対象としての生活を捉える視点から、生活の充実への産業への視点へと、価値転換を図る新たなビジネスのあり方を考える。
- b) 「環境思想 a,b」と「環境思想演習 a,b」においては、技術が単に道具ではなく、人間にとっての世界を捉える見方でもあることを基礎に、近代技術が自然をどのようなものとみなしてきたのか、またそこから生まれた産業社会の根本的な問題性を考察し、その上で新たな技術観・世界観、および人間の行動規範・倫理、そして持続可能な社会像を構想する。
- c) 「環境マーケティング論 a,b」とその「環境マーケティング演習 a,b」では、多様な主体との協働による事業の創造について、理論学習や討論を行い、企業とのコラボレーションにおいて、事業企画と環境報告書作り、環境問題の解決に向けたプロジェクトを行い、さらにコンペティション形式によってその評価を受ける。
- d) 「女性社会論 a,b」においては、成長から持続へ、拡大から地域、家族へと、方向性が転換しつつある社会について、比較研究し、これからの社会について構想する。
- e) 「生活ビジネス a,b,c」では、グリーンテクノロジーの最新動向を分析し、生活を基盤としたビジネスの可能性を考え、また、地域に支えられ、地域活動から生まれたビジネスや、ICTによって可能となったマイクロビジネスについて学ぶ。

③「メディアと生活」の領域では、現代の生活や社会を、インターネットに代表される情

報ネットワーク技術の側面からとらえるだけでなく、産業や社会の構造と人間観が相互関係的構造（メディア的なもの）になることを理解し、メディア技術を用いた経営、新たなサービスの創造、メディア社会が抱える問題などを学んでいく。

- a) 「メディア生活経営論 a,b」と「メディア生活論演習 a,b」では、メディア構造をモデルとした事業経営を学び、新たな事業計画の立案に取り組む。また、NPO,NGOの経営理論を学び、社会の問題解決、社会変革に寄与しうる社会事業の立案、計画作りに取り組む。
- b) 「メディアテクノロジー演習 a,b,c」、「映像制作演習 a,b」では、それぞれ、Webを用いた新たなサービス、インターネットが持つ巨大なデータの収集と解析、オープンソースソフトウェアについて演習を行い、またメディア技術を用いて映像の撮影とCGを用いた作品の制作を体験する。
- c) 「メディア生活学 a,b」においては、社会や組織の形成における媒介としてのメディア、また、社会事象を表象としてとらえ解釈する技術を学ぶ。
- d) 「メディアアート論 a,b」では視覚情報ないし作品の表現と受け手の認識、視覚表現技術の歴史と文化の変遷を学ぶ。
- e) 「情報セキュリティ社会」では、個人情報および財産としての情報が抱えるリスクと、それへの対応の知識と技術を学ぶ。「広告とメディア」では、広告が担う社会機能とメディア技術の発展の中での今後の展開について考える。

(4) 専門総合科目群

本学科の教育課程では、専門基礎科目群、専門教育科目群のそれぞれにおいても、多数の演習を始めとする実践、アクティブラーニング型教育を組んであるが、専門総合科目は現代生活についての理解を、課題の発見から解決方の提示、実施、評価までを「目的を持った問題の解決」というプロジェクトの形で習得する科目群である。最終的には、ファイナルプロジェクトではそれらの集大成としてプロジェクトを企画実施し、卒業論文として纏めていく。

- ①「ビジネスプランニング」ではビジネスの事例研究の後、収益計画をもった持続可能な事業の建て方を学ぶ。
- ②「現代生活学」は本学科の基幹科目であるが、現代生活の特質を概観すると共に包含する課題について学び、後の領域ごとのプロジェクト研究の基盤とする。
- ③「プロジェクト演習 a,b」では自己で立てたまたは与えられた課題について解決法を立案し、他者評価を受ける。
- ④「ゼミナール」では少人数グループで主体的な研究、問題分析をおこない、指導教員各自の専門性に応じて理論と技術をより深く身につけていく。
- ⑤「ファイナルプロジェクト」は、企画型学習の最終段階と4年間の学修の総括として、実社会を対象として、問題の解決策を研究、立案、遂行し、卒業論文として纏める。

(5) キャリア形成群

キャリア形成群は、自己の将来を考え、自立した人間として、また社会に貢献し自己実現をはかるための、より良い社会人としての生き方を学び、職業人としても、生活者としても、社会で活動するための基本的な能力を身につける科目群である。

①「ライフ・プランニング」では、仕事と家庭生活の両立について事例を学ぶと共に、OGの話聞く機会などを通じて、ライフプランニングについて考える。

②「ビジネス・マナー」では、社会人としてふさわしいマナーを学び、身につけ、「ビジネススキル a,b」では、企業や社会での活動の基本となるコミュニケーション、文書作成、連絡、報告の仕方、またロジカルシンキングのスキルについて習得する。

③「企業研究 a,b」では、企業が求める人材像を通じて、自らを評価すると共にそのあり方を求め、企業の構造や活動を分析することを通じて、企業への理解を深める。実際に企業訪問、OG訪問を行い、社会との接触の方法、マナー、コミュニケーションなども実践を通じて学んでいく。

Ⅶ 教員組織の編成の考え方及び特色

現代生活学科の専任教員として、6名を配置した。この6名は、「自立社会と自立生活」、「メディアと生活」、「環境と生活産業」の3分野に各2名(教授1名、准教授又は講師1名)を配置する形を取っており、分野の人数構成、年齢構成に配慮している。

カリキュラムは、主に1年次に配当された基礎科目群を履修することで基礎力を身につけ、主に2・3年次に開講される講義・演習によって3分野の理解を深めると共にグレートブックスセミナー、プロジェクト演習によって思考力・実践力を磨いた上で、3・4年次に開講されるゼミナールおよびファイナルプロジェクトで個人が設定した実践的な課題に取り組むを行うというシステムとなっている。

そのうち、基礎科目群では、周辺領域については他学科もしくは適切な非常勤講師に担当してもらう構想となっているが、3分野の概論科目および学習のベースとなる手法を学ぶ授業科目については専任教員が満遍なく担当する。専門性が必要となる2・3年次の講義・演習は、そのほとんどを各分野の教員2名が担当する。プロジェクト演習は4名の専任教員が、ゼミナール、ファイナルプロジェクトはすべての専任教員が担当し、学科に共通した能力を身につけさせると共に教員の個性を生かして専門性を身につけさせる

教員の学位取得状況は、博士の学位を有する教員が4名、修士の学位を有する教員2名のうち1名が博士課程を満期退学している。学生に実践的な力を身につけてもらうことがカリキュラムの目標であるが、大学教員以外の社会人経験を持つ教員が6名中4名おり、指導の中心的な役割を果たすことができる。

Ⅷ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法の特色

生活科学部現代生活学科は、現代の問題状況を総合的・構造的に捉え、特に生活価値の探

求と実現の見地から解決の道を構想し、産業社会・地域社会および家族の一員として問題解決に実践的に取り組むための知見と能力、意欲を備えた人材の育成を目的としており、その実現のために以下のような教育方法上の特色を持っている。

①総合型の学習構造

現実の社会問題を単一の見方からでなく総合的に捉える能力を学習するために、[視野・枠組みの学習]－[理論・技術の学習]－[実践・総合の学習]という3層構造からなる学習方法を基本とする。

[視野・枠組みの学習]を行うために、「基礎教育科目」では、現代の問題状況を生活価値の探求の見地から捉えるための枠組みを身につけるように、幅広い社会事象を取り上げながら、それらの背景にある現代の社会と生活にある共通の問題構造の理解を中心課題として、現代生活学科の学びの基礎づくりを行う。

[理論・技術の学習]は、現代生活の問題枠組みを捉える3つのコンセプト(自立、環境、メディア)に従った各領域の「専門教育科目」を用意するとともに、各領域の相互関連を重視した授業を行う。

[実践・総合の学習]は、具体的な問題状況を想定して問題の発見・定義・解決方法の構想をプロジェクト型・実践演習型で学ぶプロジェクト科目および演習科目による。特に、プロジェクト科目では、複数の専門領域の知識を総合して現実の問題を捉える姿勢を学ぶ。

②基盤としての教養

本学の伝統である幅広い教養教育を目指す「共通教育科目」と「キャリア形成科目」によって総合型学習の基礎を支え、さらに、古典書籍の読書・討論を行う「グレートブックス・セミナー」を通じて、文化価値概念の認識と共有を深める。

③少人数教育

専任教員全員が3,4年次のゼミナール、ファイナルプロジェクトを担当する。入学定員60名に対し、6名の専任教員がいるので、1ゼミ10名の学生を想定する。

また、専門教育科目においても、演習系の授業科目を多く設けることにより、日常の授業からアクティブラーニングを多用して学生の考える力、積極的に答える態度、発表する姿勢を涵養する。

④継続的なプロジェクト型演習

初年次から始めて年次ごとに開講される多くのプロジェクト型の演習科目は本学科の大きな特色である。企業、NPO、行政等とのコラボレーションも行うこれらの科目は、それまでに培ってきた社会を見る見方や専門的な知識が、現実の社会問題を解決するためにどう働き得るのか、ビジョンと理論の有効性を実践の上で能動的に学んでゆく機会である。また、共に学ぶ学生たちとチームを編成したり、外部の人・組織とコミュニケーションすることは、協働・協調・リーダーシップを体現する機会でもある。

専任教員全員が、それぞれの専門領域を活かしたプロジェクト型演習を担当するほか、3、4年次のゼミナール、ファイナルプロジェクトでも、プロジェクト型の発想と論理の組み立て方を重視する。

⑤ キャップ制

1単位の修得に要する時間を、教室等における教員による授業時間及び学生の教室外における予習・復習の時間を合計して45時間が標準であるところから、学生が1 Semesterに修得する単位数の上限を24単位とする。このキャップ制とSemester制、GPAとを有機的に組み合わせ、学生にとって加重的な同時並行の学習を軽減し、授業内容の確実な理解と修得の促進及び4年間にわたっての継続的な学業生活を実現する。

⑥ キャリア教育

産業と社会を捉える枠組み形成、プロジェクト型の学習、古典を通じた論理的対話、企業・NPO・行政とのコラボレーション授業など、常に社会との関わりの上で知識・技術を学ぶ体制に加えて、ビジネス社会特有の事項を学ぶキャリア形成科目を専門科目に置き、「ライフ・プランニング」「ビジネス・スキル」「企業研究」の各科目を必修科目とした。

(2) 履修指導方法

基礎・専門・総合という層的構造、および問題認識・知的道具立て・実践演習という学習進行を、有機的に結びつけることが現代生活学科の教育課程の特色である。4年間を通じて、以下のような履修モデルを想定している。【資料11 履修モデル】

1年次： 実践スタンダード科目をベースに本学の伝統や基礎教養を学ぶとともに、現代生活学科独自の問題分析枠組みを3つの「概論」を通じて学ぶ。さらに、「グレートブックス・セミナー」により古典教養に基づいた物事の見方考え方、および「ビジネスプランニング」によって現代社会での実践のかたちを経験する。以上の必須科目をベースに、本学の共通教育科目、本学科の専門基礎科目から選択する。

「共通教育科目」(全159科目)

外国語、情報基礎、基礎教養の体系的学習

「専門基礎科目」(全15科目)

生活技術： 家庭経営、情報技術、数理的センスを修得する

生活教養： 社会、文化、生活、技術など、現代社会を生活の価値観で読み解く

生活教養基礎： 現代生活の問題枠組みを3つのコンセプト(自立、環境、メディア)で捉える

「グレートブックス・セミナー」(必修1科目、選択2科目)

価値概念について、古典書籍を通して体系的に、かつ討議を通じて学ぶセミナー学習

*必修： 実践スタンダード科目として「実践入門セミナー」、「インテグレートッド・イングリッシュ」、「情報リテラシー基礎 a」(3科目5単位)

専門総合科目として「ビジネスプランニング」(1科目2単位)

生活教養基礎科目として「コミュニティ概論」、「環境科学概論」、「メディア社会概論」(3科目6単位)

グレートブックス・セミナーとして「グレートブックス・セミナー1」(1科目2単位)

(1年次必修科目計：8科目15単位)

2・3年次：2年次は、必修科目である「現代生活学」を基本的なオリエンテーションとしながら、選択科目である専門教育科目群から自分の関心領域をしだいに深めてゆく。3年次は、ゼミナールに所属するとともに、専門教育科目群のなかが増えてくるプロジェクト型の演習科目を通じて、理論・技術を実践のうちで位置づけてゆく。

「専門教育科目」(全45科目)

以下の3つの領域から、現代社会の問題性を分析し対処を構想する

自立社会と自立生活：近代社会のシステムは、生活を要素分解して分業化・産業化してきた。またそれは同時に、家庭・地域社会を機能分解して広域化・グローバル化してきた。分解・断片化されてきたものを、生活と社会という総体のうちに再統合することが、「自立」の時代的な意味である。

環境と生活産業：資源・エネルギーの限界、自然破壊による環境危機などは、産業社会にとって避けられない問題である。環境制約は産業社会の目標を成長から持続へと変え、さらに縮小のうちに新たな社会発展の道筋を志向する時代と変化しつつある。生活価値からの産業の再創造が課題となる。

メディアと生活：情報技術を手段として身につけるとともに、社会や産業組織がメディア的なものへと構造変化していることを理解し、生活価値の実現の観点から、その問題性ととともに技術の活用を構想する。

「プロジェクト演習」

問題の発見、解決法の構想、計画と実践というプロセスを、チーム学習によって経験する。「専門教育科目」の各領域の演習科目もプロジェクト型で実施される。

「キャリア形成」(6科目)

ビジネススキルや企業研究の学習を通じて、社会人としての将来像をイメージするところから、大学での学習を位置づけ、自身にとっての学習課題を認識する。

「総合型教育科目」

ゼミナール： 少人数のゼミナールに属して、仲間とともに自分自身の学習の完成を目指す経験。

*必修： 実践スタンダード科目として「実践キャリアプランニング」(2年次、1科目2単位)

専門総合科目として「現代生活学」(2年次、1科目2単位)

キャリア形成科目として「ライフ・プランニング」、「ビジネス・スキル a」、「企業研究 a」(2年次、3科目6単位)、「ビジネス・スキル b」、「企業研究 b」(3年次、2科目4単位)

「ゼミナール」(3年次、1科目4単位)

(2年次必修科目計：5科目10単位)

(3年次必修科目計：3科目8単位)

4年次： 現代生活学科での学習の完成期として、自身の3年次までの学習を補うものを専門教育科目から選択学習し、また後進への支援の立場からもプロジェクト型演習に参加するなど、卒業論文に向けて研究を進める。

「総合型教育科目」

ファイナルプロジェクト：

卒業研究・卒業論文に相当。問題発見、研究構想、研究計画・研究実践という、プロジェクト型の発想・進め方で研究論文に取り組む。

*必修： 「ファイナルプロジェクト」(1科目4単位)

学生が以上のようなモデルに従って4年間の学習を進めるに対して、各教員は全員が担当する1年次から4年次までの数多い演習型授業を通じて、個々の学生に対する助言・学習支援体制をとる。また、1-2年次では各学年3名の教員による担任制によって、学生個々人に対応したきめ細かい学習・教育指導を行い、3年次からはゼミナールにて、4年次ではファイナルプロジェクトを通じて、個別研究室を越えた協働プロジェクトも加えて、より個別的で専門的な教育指導を行う。

(3) 卒業要件

現代生活学科の卒業に要する単位数は、124単位とする。そのうち、「共通教育科目」は、

必修科目 4 科目 7 単位を含めて 36 単位以上、「専門科目」は、必修 30 単位、専門総合科目及び専門基礎科目の選択科目から 14 単位を含み、74 単位以上とする。

IX 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

実践女子大学は、平成 26 年（2014 年）4 月の収容定員変更によって、日野キャンパスでは生活科学部（4 学科、収容定員 1,648 名）、渋谷キャンパスでは、文学部（3 学科、同 1,280 名）、人間社会学部（2 学科、同 800 名）の教育研究を展開する。

①校地面積

日野キャンパス（東京都日野市大坂上）には、運動場を含めて 42,541 m²の校地を有している。さらに渋谷キャンパスでは約 2,500 m²の校地を有しており、現代生活学科（入学定員 60 人、収容定員 240 人）による収容定員増に基づく新収容定員 3,728 人においても、1 人当たり 10 m²の大学設置基準上必要な面積を十分に満たしている。

②校舎面積

現在、日野キャンパスには本館、第 1 館、第 2 館、第 3 館、第 4 館、第 5 館、第 6 館、第 7 館、香雪記念館、学生食堂棟、事務センター棟を有し、総校舎面積は、35,167 m²であり、大学設置基準上必要な校舎面積 19,807.88 m²を十分に満たしている。

平成 26 年（2014 年）4 月には、文学部、人間社会学部が渋谷の校地に移転して教育を展開するために、渋谷キャンパスに新たに約 27,000 m²の校舎を建設（平成 26 年 1 月竣工予定）する。日野キャンパス、渋谷キャンパスの校舎総面積は 50,000 m²を超えるものであり、3 学部 9 学科（収容定員 3,728 名）の教育施設としては十分なものである。

平成 26 年（2014 年）の文学部、人間社会学部の移転後には、日野キャンパスの整備を始め、除却対象校舎にある実験室等を本館、第 1 館へ移設、その後第 2 館（約 2,930 m²）、第 3 館（約 5,084 m²）の解体・除却を行う。第 2 館、第 3 館の解体・除却後においても日野キャンパスの校舎は 27,000 m²以上の面積を有する計画である。また教室等の移設計画も授業等に十分配慮して行うものとする。

③教室等の整備

現在の日野キャンパスの教室数は、講義室 41 室、演習室 34 室、コンピュータ演習室 4 室（パソコン設置台数合計 235 台）、情報ラウンジ 1 室（パソコン設置台数 119 台）、LL 教室 1 室などを有しているが、今後、講義室、演習室、コンピュータ演習室などの整備、再配置が計画されている。

また、体育館、茶室等は既存の施設を活用し、「学生ラウンジ」、本館 1 階の学生相談スペース「のんびり」等も引き続き活用する。一方、学生食堂は現在 3 か所が整備されているが、日野キャンパスの在籍者数に応じて、学生食堂は 600 席を要する桜ホール食堂 1 室に集約し、それ以外の食堂は他の用途に活用する構想である。以上のように、今般の収容定員増による学生の増加には 2 校地で充分対応できるように、教育施設を整備していく。

(b) 校舎等施設の整備計画

現代生活学科が教育研究を行う日野キャンパスにおける、平成 26 年度（2014 年度）以降の整備計画を 2 期整備計画と位置付け、平成 24 年度以後、校舎配置等について検討を進めてきている。

ただし、平成 25 年（2013 年）5 月時点で、2 期整備計画の全体は確定していない。昭和 40 年代に建設された旧校舎の除却が先決事項であるため、旧校舎が有する教育機能（講義室、実験室、実習室等）を授業に支障をきたさないように移設するための計画を策定している段階である。日野校地整備の 2 期整備計画は、平成 28 年度(2016 年度)までの第 1 次と平成 28 年度（2016 年度）以後の第 2 次を予定している。

1 次、2 次の計画の概要は次のとおりである。

1. 1 次計画（平成 26 年度から平成 28 年度）

1) 老朽校舎（第 2 館、第 3 館）の実験・実習施設等の移設

①第 3 館の生活文化学科幼児保育専攻で主に使用している保育実習室、音楽室、図工室の機能を、平成 26 年度前期中に第 1 館に移し、平成 27 年度から使用する。

②第 2 館の学友会等の学生団体施設は、本館 5 階の文学部教員研究室として使用していた場所に移し、平成 27 年度から使用する。

2) 老朽校舎（第 2 館、第 3 館）の除却

第 2 館の解体、除却を平成 26 年度後期、第 3 館の解体、除却を平成 28 年度中に行う。

3) 本館各研究室の整備

本館の教員研究室スペースの整備とゾーニングに基づく再配置を、平成 26 年度から平成 27 年度にかけて順次行う。なお、本館の施設整備は、授業に影響がないように長期休暇期間等を利用して行う。

2. 2 次計画：校舎建設等の構想

1 次計画後に、さらなる校舎の建設計画を含めて、整備計画を策定していく。

なお、当初 2 次計画で構想していた、新校舎の建設時期を早めることも計画段階で浮上し、その場合、1 の 2)に記載した老朽校舎の解体時期も早めることとなる。

【資料 1 2 マスタープラン】

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の大学図書館は日野キャンパスに、総面積 3,937 m²、蔵書総冊数は 45 万冊を超えている。さらに、渋谷キャンパスに約 2,800 m²、収容冊数 25 万冊の図書館を備える。

日野キャンパスの図書館では、家政学全般に関する図書 10,171 冊（和書 9,252 冊、洋書 919 冊）の他、社会学に関する図書 12,664 冊（和書 8,988 冊、洋書 3,676 冊）、メディア分野の図書 2,067 冊、環境に関する図書 833 冊等を有している。

渋谷キャンパスの図書館とは、毎日定期便の運行を行うことにより、学生並びに教員は、日野キャンパスにいながらにして、渋谷キャンパスの図書を翌日には日野キャンパスで閲覧・貸し出しを受けられるようにする。

また、関連図書、学術雑誌をさらに拡充し、教育研究に供するものとする。

図書館の機能としては、所蔵資料の多くは開架式の閲覧可能書庫に配架し、閲覧座席数は291席を用意するほか、情報検索用端末を24台、AV資料の視聴用ブースを16席などを整備している。日野キャンパスの収容定員が1640名となることから、閲覧座席数は十分なものとなる。

X 入学者選抜の概要

1. 入学者の受入方針

生活科学部現代生活学科は、少子高齢化、グローバル化の中で激しく変化する現代の生活が抱える課題を広い視野で考え、解決する能力を持ち、柔軟に対応できる自立した女性の育成を目的とする。

受入れる学生像は、現代生活における諸問題、すなわち家庭経営、個人や地域の自立、情報、環境の問題に関心・興味のある学生、賢い生活者として生き、また生活者の視点を活かして社会で活躍できる知識・技能を身につけたいと考えている学生である。

生活科学部現代生活学科では、このような受け入れ学生像のもとで、定員60名として入学者選抜を実施する。

2. 選抜方法と募集人員

入学者選抜の方法は、推薦入試、一般入試、センター試験利用入試及びAO入試を併用して行う。その他に帰国子女、卒業生子女、社会人特別選抜を実施する。

(1) 推薦入試（内部推薦、指定校推薦、公募推薦）

内部推薦入試では、併設の実践女子学園高等学校からの進学者のために実施する。

推薦入試は、指定校推薦、公募推薦を併用する。

推薦入試の選抜方法は、推薦書、志願理由を含めた自己推薦文、面接、小論文の結果を総合的に評価し、可否を決定する。

(2) 一般入試

一般入試では、国語、英語、社会（日本史、世界史）、数学、理科（生物、化学）の組み合わせによる入試を実施し、必須科目、選択科目の合計点により総合的に評価する。

平成26年度は次の通りとする。

I期 2科目型（選択：国語、英語、数学から2科目）

II期 3科目型（必須：国語、英語 選択：日本史、世界史、数学、生物、化学から1科目）

II期 2科目型（選択1：国語、英語から1科目、選択2：日本史、世界史、数学、生物、化学から1科目）

III期 2科目型（選択：国語、英語、数学から2科目）

(3) センター試験利用入試

大学入試センター試験を利用した入試を実施する。センター利用入試では、大学独自の学力試験は行わない。

センター試験の科目のうち、英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科から選択し 3 科目 300 点で判定する。

I 期（選択：英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科から 3 科目（高得点順））

II 期（選択：英語、国語、地理歴史・公民、数学、理科から 3 科目（高得点順））

(4) AO 入試（アドミッションオフィス入試）

AO 入試では、エントリーする段階で次の 5 項目のうち、1 に該当する者としている。

- ①現代生活が抱える種々の課題に興味を持ち、それを解決する力を身につけたいと思う人、
- ②自立した女性になることを目指す人、
- ③ビジネス社会で活躍できる実務能力を身につけたい人、
- ④キャリア形成を図るためのスキルを身につけたい人、
- ⑤コミュニケーション能力を身につけたい人

10 月初旬までにエントリーを行い、エントリー後に、学部専任教員と面談を行い、課題提出を課し、面談結果、課題内容、志願理由を総合的に評価し、内定を発表する。

入学者選抜方法は、入学試験は学部募集定員（60 人）を、推薦入試 40%、一般入試 60% の割合で選抜することとする。

3. 編入学試験

現代生活学科では、3 年次において定員に余裕があれば編入学を行うが、特に定員を設けない。

編入学試験では、英語、小論文、面接、志願理由を総合的に評価し、可否を決定する。

4. その他

(1) 科目等履修生

本学には、科目等履修生制度があり、授業科目の修得を目的として願い出た者について、授業に支障のない範囲において選考のうえ、科目の履修を許可する。

(2) 特別聴講学生

本学では、他大学、短期大学との単位互換協定による、本学の授業科目の聴講を希望する他大学又は短期大学等の学生があるときは、当該大学または短期大学等との協議に基づき所定の手続きを経た場合、特別聴講学生として入学を許可する。

X 管理運営

1. 学部教授会

生活科学部では、学部に係る事項について審議を行うために、生活科学部教授会を設ける。

生活科学部教授会は、生活科学部に所属する専任の教授、准教授、講師をもって構成する。ただし、必要があると認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- ・教員の人事に関する事項
- ・学部の授業科目等カリキュラムに関する事項
- ・学生の入学、休学、復学、卒業等学生の身分に関する事項
- ・学生の試験、学習評価及び単位習得に関する事項
- ・学生の賞罰及び学生支援に関する事項
- ・その他学部の教育、研究及び運営に関する事項

教授会は、原則として毎月第2木曜日を定例の開催日とする。ただし、必要があるときは、臨時に開催することができる。

なお、現代生活学科における検討事項が生じた場合には、学科会議を開催し教授会審議事項について事前に協議を行うものとする。

2. 全学教授会

本学では、学部教授会のほか大学全体にかかる事項があるときは全学教授会を開催する。全学教授会の構成員は、学部の全専任教授をもって構成するが、必要ある場合は准教授、専任講師、助教及びその他の職員を加えることができる。

全学教授会における審議事項は次の事項である。

- ・学長の候補者に関する事項
- ・学則の制定に関する事項
- ・学科・教育研究の施設の改廃に関する事項
- ・教育・研究・運営に関する事項
- ・その他重要な事項

学部教授会、全学教授会のほか、実践女子大学・実践女子短期大学の共通事項を審議するため、合同教授会を開催することができる。

3. その他委員会

学生の教育、学生支援に関する重要事項を決定するために、教授会のほかに下記委員会等を置く。

- ・大学教育研究センター委員会
- ・学生生活支援委員会
- ・自己点検・評価委員会
- ・FD推進委員会
- ・その他

X I 自己点検・評価

1. 実施方法

本学では、自己点検・評価を実施するために、委員会体制をとり実施している。
これまでの自己点検・評価の項目等は次の通りである。

- ・ 大学・学部等の理念・目的・教育目標
- ・ 教育研究組織
- ・ 学士課程の教育内容・方法
教育課程：カリキュラム編成、単位互換、履修科目の区分等
教育方法：教育効果の測定、成績評価の仕組、履修指導、教育改善等
- ・ 修士課程・博士課程の教育内容・方法等
- ・ 学生の受入れ（学生募集方法、入学者選抜方法、定員管理、編入学者等）
- ・ 教員組織
- ・ 研究活動と研究環境
- ・ 施設・設備等
- ・ 図書館及び図書・電子媒体等
- ・ 学生生活（経済的支援、生活相談、就職指導、課外活動）
- ・ 管理運営（教授会、学長・学部長の選任手続き等）
- ・ 財務
- ・ 事務組織

これらの事項について、点検、評価の結果、平成 21 年度より全学における共通教育科目を開設し、実践スタンダード科目として全学で初年次教育に取り組を始めた。また、大学教育のありかた全般について検討を進めるための、大学教育研究センターを平成 22 年度より設置することとした。また、学部、大学院の改組、学生受入れ方法についても毎年点検し、見直しを行っている。

現代生活学科における点検・評価についても、本学全体の自己点検・評価と同様に辞ししていく。

2. 実施体制

(1) 大学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価を円滑に実施し、全体を総括するために、大学自己点検・評価委員会を置く。大学自己点検・評価委員会は次の事項を行う。

- ・ 大学自己点検・評価の基本事項（基本方針、実施の周期、点検項目等）の策定
- ・ 大学自己点検・評価運営委員会報告書の検証及び活用
- ・ 実践女子学園自己点検・評価委員会への報告、提案
- ・ その他大学自己点検・評価に関すること

(2) 大学自己点検・評価運営委員会

大学各学部、大学院各研究科の自己点検・評価の実施を統括するために大学自己点検・評価運営委員会を置く。大学自己点検・評価運営委員会は次の事項を行う。

- ・自己点検・評価の実施要領の策定
- ・各学部、大学院各研究科の自己点検・評価委員会への助言、連絡、調整
- ・各学部、大学院各研究科の自己点検・評価結果に基づく報告書の作成及び大学自己点検・評価委員会への提出
- ・その他自己点検・評価の実施に関すること

(3) 各学部、大学院各研究科自己点検・評価委員会

大学には自己点検・評価を実施するために、各学部、大学院各研究科に自己点検・評価委員会を置く。主な実施事項は次のとおりである。

- ・大学自己点検・評価運営委員会策定の自己点検・評価実施要領に基づく各学部の学科・課程・研究所の自己点検・評価の実施
- ・自己点検・評価結果の報告書の作成及び大学自己点検・評価運営委員会への提出
- ・自己点検・評価結果に基づく検証及び活用
- ・その他学部の自己点検・評価の実施に関すること

3. 結果の活用・公表及び評価項目

本学がこれまで実施してきた自己点検・評価に関する報告書の公表実績は次のとおりである。

本学では、平成 18 年度（2006 年度）に大学基準協会相互評価を受け、大学に対し提言された事項を中心に改革を行っている。特に教育課程、教育方法等については、見直しを行い是正すべき点は改善してきている。

これまでに発行された報告書は次のとおりである。

- ① 『実践女子大学の現状と課題（1999 年）』平成 11 年 11 月刊行
- ② 『実践女子大学の現状と課題』平成 16 年 3 月刊行
- ③ 『実践女子大学の点検・評価報告書 平成 18 年度』平成 19 年 4 月刊行

以上全学的な取組のほか、生活科学部では、毎年入学生及び卒業生に対して、入学時の動機、卒業時の満足度などについてアンケート調査を行い、学部独自の改善に役立てている。

4. 相互評価

本学は、平成 18 年度（2006 年度）に大学基準協会相互評価を受け、相互評価の結果並びに認証評価結果において「適格」と認定された。次回相互評価は、平成 25 年度（2013 年度）に受けることとしている。

X II 情報の公表

学校教育法第 113 条において、大学（短期大学を含む。）は「教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動の状況を公表するものとする。」と規定され、その教育情報や研究情報を積極的に公開・提供することとなった。

本学を設置する実践女子学園では、法に定める情報の公表を実施するために、「実践女子学園情報公開規程」を、平成 24 年（2012 年）2 月に制定した。

規程の制定後は、この規程に基づき刊行物への掲載、インターネットの利用その他適切な方法によって、当該情報を積極的に公表している。

(1) インターネットによる主な提供情報

大学に関する下記事項について、大学ホームページにて公開している。

ホームページURL (<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a07a10/a07a05a05>)

- イ. 教育理念、教育目標
- ロ. 教員紹介、教員の社会的活動の情報
- ハ. 教育課程、教育方針の特色
- ニ. 入試関連情報
- ホ. 卒業生の進路状況
- ヘ. 公開講座等の情報
- ト. 図書館サービス情報
- チ. 研究所の活動内容
- リ. 自己点検・評価報告書、外部評価の状況

(2) 紀要の作成

本学の各学部はそれぞれ研究紀要を発行しており、生活科学部においても「実践女子大学生生活科学部紀要」を刊行し、全国の大学や研究機関等に配布している。

(3) 学園要覧による情報提供

本学園では、平成 21 年度（2009 年度）から毎年『実践女子学園要覧』を作成し、本学園の教育理念、沿革などを記載し、関連機関、保護者、卒業生等に配布している。

X III 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学の教育内容及び授業方法等の改善と向上を目的として、全学的に取り組む FD 活動を推進するために、実践女子大学 FD 推進委員会を置き、専任教員の教育研究資質の維持・向上を図っている。

1. 組織・体制

FD 推進委員会は、各学部長、大学教育センター長、各学科・課程主任による委員により構成する。FD 推進委員会には、必要に応じて、部会を置くことができる。

FD 推進委員会では次の各号に掲げる活動を行う。

- イ FDの基本活動（活動方針、活動項目、活動予定の策定等）に関すること
- ロ FDに関する情報・資料の収集及び広報活動に関すること
- ハ FDに関する講演会、研修会等の開催に関すること
- ニ 学生による授業評価に関すること
- ホ その他教育の充実・向上のための諸施策、教育の改善及び教員の能力開発に関すること

2. FDに関する具体的活動

(1) 学生による授業評価

本学では、学生による授業評価アンケートを平成17年度より、学期末に（前期・後期）全授業科目で実施し、その結果を教員にフィードバックするとともに、科別に集計した結果をホームページに公開している。

(<http://www.jissen.ac.jp/sonoma/a04a11a03/a04a11a03/>)

また、平成21年度より初年次教育による授業科目を開設したので、その検証のためにも「実践入門セミナー」（入門ゼミ）の授業評価を行い、授業改善を行っている。

(2) FD 研修会

学士課程教育、初年次教育を考える上で、学外講師による研修会を開催してきた。

初年次教育導入の時期は、初年次教育に関する研修を中心としていたが、近年は大学の質保証に関することを学外講師の招へいした研修を実施したほか、学内における取組などを研修テーマとしている。

平成23年度

「授業評価から教育の質保証へ」

圓月 勝博氏（同志社大学 文学部教授）

平成24年度

「GPA制度の活用と課題」

飯田 良明教授（実践女子大学 人間社会学部）

XIV 社会的・職業的自立に関する指導及び体制

1. 教育課程内の取組について

本学では、大学在学期間を通じて、社会的・職業的自立に向けて学生が意識できるよう、平成21年度(2009年度)より実践スタンダード科目として「実践入門セミナー」「実践キャリアプランニング」をはじめとする授業科目を開設している。

「実践入門セミナー」は1年次必修として、1クラス約20人の少人数クラスによる演習科目とした。入門セミナーの中では、学園創業者である下田歌子先生に触れる講座を設け、

大学の教育理念である「品格」「高雅」「自立」「自営」、女性の生き方について学ぶ。また社会で活躍している卒業生による講座を設け、1年次のうちに社会に目をむけることとしている。

(1) 実践入門セミナー

1年次必修の「実践入門セミナー」は、20～30人の少人数制で「大学とはどのようなところか?」といった初歩的な講義からレポートの読み方・書き方、図書館での資料検索方法まで、高校とは違う目線での知識の習得・学習方法を学ばせる。キャリア教育については「自分の将来に向き合おう」「仕事ってなんだろう」といったテーマを設定し、将来に向け、大学で勉強するための目的を明確化し、自覚させる。

(2) 実践キャリアプランニング

「実践キャリアプランニング」は、2年次の前期に開設し、「実践入門セミナー」の内容を基に、より発展的に展開されるカリキュラムとしている。

(3) キャリア教育科目

共通教育科目には実践アドバンスト科目として、「キャリアデザイン」「グローバル・キャリアデザイン」「インターンシップ演習」「インターンシップ」「キャリア開発実践論」「キャリア実践演習」を置く。さらに、「国際理解とキャリア形成」「伝統文化の理解と実践」「女性と職業」の授業科目を加え、9科目となった。これらの科目を通して、どのように将来に備えていくか、働くことを社会、経済、雇用環境の観点から理解し、自らの働き方を考える力を学ぶ。

(4) インターンシップ

全学共通教育科目に「インターンシップ演習」と「インターンシップ」を置き、3年次に履修することとした。

これまでの「インターンシップ」では、企業での就業体験を通じて、大学で身につけた知識や技術を社会で活かし、自己を高め、社会の状況を理解することを目指す。インターンシップを履修する場合は、前期期間中に事前指導を行い、派遣先企業の調整、夏期休業期間中の実習、実習後指導の一環として報告会を行っている。

(5) 学科専門科目

現代生活学科では、独自の「キャリア形成」科目群を置いている。ビジネス・スキルや企業研究の学習を通じて、社会人としての将来像をイメージするところから、大学での学習を位置づけ、自身にとっての学習課題を認識するためのものである。

2. 教育課程外の取組について

教育課程外の指導は、キャリアセンターが中心になって行っている。平成21年度(2009年度)より実践スタンダード科目がスタートし、1年次、2年次を対象としていたキャリア支援プログラムの主な内容は正課の「実践キャリアプランニング」に移行された。キャリアセンターでは、正課の授業科目の内容と連携をとりながら、キャリア支援プログラムの実施や、3年次から始まる就職支援プログラムに移行できるようにしている。

キャリアセンターの主な取組は、キャリア支援プログラム、就職支援プログラム、プレ社会人プログラムなどがある。

(1) キャリア支援プログラム

様々な分野で活躍する卒業生等を学内に呼び、仕事を通じての経験を語ってもらうことにより、卒業生を一つのロールモデルとして、学生一人一人がそれぞれの目標を持ち、各自の人間力が高まるよう「キャリア塾」を開催している。

(2) 就職支援プログラム

キャリア支援プログラムを受け、3年次前期から、適職診断、自己発見等の試験やセミナーを実施している。また後期にはマナー講座や自己表現、企業探求などのセミナーを実施し、4年次から個別相談を中心にした対応を行う。

(3) プレ社会人プログラム

4年次の卒業直前にプレ社会人セミナーを開設し、社会人として第一歩を踏み出す際の心構え等を教えることとする。

(4) 『マナーの実践』

本学キャリアセンターでは、「品格」「高雅」にして「自立」「自営」しうる女性を目指した教育を行うサブテキストとなる『マナーの実践』を平成21年4月に刊行し、全学生に配付している。

『マナーの実践』は、「基礎編」(身だしなみ、表情、立ち居振る舞い、挨拶、言葉遣い)、「応用編」(状況に応じたマナー)で構成されている。

(5) 公務員試験対策講座

学内における公務員試験対策講座を開設し、基礎、発展、応用の3段階のプログラムを有機的に受講できる体制を整えるとともに、受講ができなかった学生に対して、インターネットを通じて講座内容を提供できるようにしている。

(5) 生涯学習センター

キャリアセンターでは、生涯学習センターと連携して就職支援の講座を実施している。教員採用試験対策は外部講師を招き、長期的な講座を展開している。また生涯学習センターではその他資格試験対策の講座も開設している。

3. 適切な体制の整備について

(1) 大学教育研究センターとの連携

本学では、大学の教育研究を中心に行うために大学教育研究センターを平成22年4月に設けた。大学教育研究センターにおいて、キャリア形成・教務部門会議を置き、初年次教育、キャリア教育、資格関連科目等の企画・運営及び教材・教授法の開発について検討する。キャリア形成・教務部門会議は、大学事務部・大学図書館・キャリアセンターとの緊密な連絡の下に運営している。

(2) キャリア教育担当教員

平成 22 年 4 月から、キャリア教育の充実のため、企業の人事部門で活躍してきた実務家を専任教員として採用し、「キャリアプランニング」等の授業科目を担当するとともに、キャリアセンターの協力し学生の職業的自立に向けた支援を行っており、さらに充実していく。

(3) 大学教育・学生支援推進事業

平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに、「初年次から取り組む卒業生参加型のキャリア形成・就職支援の展開」が採択された。この取組は、卒業生のネットワークを構築し、学生を含めたコミュニティを形成するとともに、初年次・キャリア教育、就職支援プログラムと接続するものである。学生にとって身近な卒業生ロールモデルを提示し、働くイメージの拡大やキャリア形成に向けてのアドバイスを行い、初年次からの学習意欲の向上とキャリア形成支援の充実を図る。

○学生と卒業生によるイベントの開催

ホームカミングデー等とも連携し、学生と卒業生による交流会、パネルディスカッション、各種のイベントを開催することで、学生が実社会で必要となる「主体的に行動する力」や「コミュニケーション能力」を養う。さらに、卒業生のピアサポートによるキャリア相談会や職場訪問などの就職支援策を展開する。

○Web 上のコミュニティを活用した卒業生支援

Web 上のコミュニティを導入し、Web を活用した卒業生のニーズに対応した情報提供、講演会の開催などを通じて生涯にわたるキャリア支援を行う。

資料 1

学則変更による収容定員の変更状況

変更前				変更後			
	入学 定員	編入 定員	収容 定員		入学 定員	編入 定員	収容 定員
文学部				文学部			
国文学科	110	9	458	国文学科	110	9	458
英文学科	110	9	458	英文学科	110	9	458
美学美術史学科	90	2	364	美学美術史学科	90	2	364
生活科学部				生活科学部			
食生活科学科 管理栄養士専攻	70	-	280	食生活科学科 管理栄養士専攻	70	-	280
食生活科学科 食物科学専攻	75	-	300	食生活科学科 食物科学専攻	75	-	300
食生活科学科 健康栄養専攻	40	-	160	食生活科学科 健康栄養専攻	40	-	160
生活環境学科	80	2	324	生活環境学科	80	2	324
生活文化学科 生活文化専攻	40	2	164	生活文化学科 生活文化専攻	40	2	164
生活文化学科 幼児保育専攻	45	-	180	生活文化学科 幼児保育専攻	45	-	180
人間社会学部				現代生活学科	60	-	240
人間社会学科	100	-	400	人間社会学部			
現代社会学科	100	-	400	人間社会学科	100	-	400
合計			3,488	現代社会学科	100	-	400
				合計			3,728

大学・短期大学 2012年度 都道府県別志願者・合格者数

地域・都道府県別	大学		短期大学	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
北海道	32	18	9	8
東北	青森県	26	15	10
	岩手県	29	14	4
	宮城県	42	12	5
	秋田県	31	17	12
	山形県	39	17	11
	福島県	133	67	32
	茨城県	241	138	36
関東	栃木県	111	57	27
	群馬県	135	79	31
	埼玉県	631	339	96
	千葉県	274	145	44
	東京都	1567	800	306
	神奈川県	460	206	101
	新潟県	209	106	45
中部	富山県	38	22	7
	石川県	13	8	1
	福井県	3	3	1
	山梨県	162	83	36
	長野県	157	76	38
	岐阜県	11	6	2
	静岡県	269	149	30
	愛知県	28	22	1

地域・都道府県別	大学		短期大学	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
近畿	三重県	10	3	3
	滋賀県	0	0	0
	京都府	2	1	0
	大阪府	6	1	2
	兵庫県	9	7	0
	奈良県	2	1	0
	和歌山県	1	1	0
	鳥取県	4	2	1
中国	島根県	5	4	1
	岡山県	10	5	2
	広島県	8	6	1
	山口県	2	1	0
四国	徳島県	11	5	2
	香川県	4	3	0
	愛媛県	0	0	0
	高知県	2	2	0
九州	福岡県	11	8	2
	佐賀県	2	2	0
	長崎県	2	2	3
	熊本県	8	6	1
	大分県	3	3	0
	宮崎県	3	1	0
	鹿児島県	6	2	1
	沖縄県	12	7	2
高卒認定	21	11	9	
外国	3	2	1	
在外認定	1	0	0	
合計	4789	2485	916	

22-18 都道府県別進学率と就職率 (平成23年)

都道府県	中 学 校			高 等 学 校				
	卒業者数	進学率 (%) 1)	就職率 (%)	卒業者数	進学率(%) 2)			就職率 (%)
					総 数	男	女	
全 国	1,176,923	98.2	0.4	1,061,564	53.9	51.9	55.9	16.3
北海道	48,701	98.8	0.2	46,701	40.4	41.4	39.4	19.7
青森	13,957	98.2	0.3	13,267	41.9	39.3	44.6	30.1
岩手	12,885	99.3	0.1	12,750	41.2	39.1	43.3	28.3
宮城	21,943	98.8	0.1	20,539	45.5	44.4	46.6	20.3
秋田	10,021	98.9	0.1	9,803	44.5	42.0	47.2	28.1
山形	11,343	99.3	0.1	11,254	46.3	44.2	48.5	25.8
福島	20,887	98.0	0.3	19,726	42.3	40.5	44.2	27.6
茨城	28,343	98.4	0.3	26,114	50.9	50.9	50.8	18.8
栃木	18,900	98.0	0.3	17,818	54.3	53.2	55.5	19.2
群馬	19,438	98.1	0.4	17,007	52.5	51.1	53.9	17.3
埼玉	64,231	98.4	0.5	54,160	57.1	56.9	57.3	12.3
千葉	53,963	98.1	0.3	45,990	54.8	54.4	55.2	11.5
東京都	102,110	98.1	0.4	97,284	65.5	61.6	69.2	5.6
神奈川県	75,994	98.4	0.3	60,440	60.8	59.2	62.3	7.5
新潟	21,943	99.4	0.1	20,756	47.3	48.1	46.5	16.7
富山	10,044	98.9	0.3	8,926	54.2	51.1	57.3	19.3
石川	11,087	99.1	0.2	10,283	54.8	53.7	56.0	20.1
福井	8,227	98.6	0.3	7,571	56.0	55.6	56.3	22.0
山梨	8,877	98.6	0.4	8,776	57.9	58.9	56.9	14.8
長野	21,252	98.7	0.2	19,403	49.6	45.7	53.5	14.3
岐阜	20,651	98.3	0.4	18,503	57.1	56.9	57.2	21.1
静岡県	35,163	97.8	0.7	31,883	54.1	54.6	53.5	21.0
愛知県	70,681	97.5	0.7	60,168	58.9	56.9	61.0	17.1
三重	17,948	98.5	0.5	16,366	52.2	50.7	53.9	24.6
滋賀	13,773	98.9	0.3	12,186	58.0	57.0	59.0	16.1
京都	23,421	99.0	0.2	22,529	66.1	63.7	68.5	8.2
大阪	80,638	98.0	0.5	69,633	58.7	56.8	60.7	10.6
兵庫県	52,899	98.2	0.4	45,518	59.9	56.7	63.2	13.6
奈良	13,715	98.4	0.3	12,167	58.1	56.2	60.2	11.0
和歌山	10,063	99.0	0.3	9,520	49.3	47.7	50.9	19.1
鳥取	5,568	98.7	0.3	5,468	43.9	40.6	47.3	22.2
島根	6,860	99.0	0.2	6,360	47.2	43.4	51.1	22.1
岡山	18,575	98.0	0.5	17,416	52.9	49.3	56.6	19.8
広島	27,016	97.8	0.4	23,865	61.1	59.5	62.7	13.5
山口	13,160	97.2	0.4	11,697	43.2	39.2	47.1	27.9
徳島	7,327	98.9	0.2	6,785	53.0	48.5	57.7	20.3
香川	9,111	97.7	0.6	8,359	51.1	46.9	55.4	16.8
愛媛	13,012	98.0	0.6	12,163	52.7	50.8	54.8	20.6
高知	7,057	98.1	0.2	6,743	45.4	38.1	52.9	16.3
福岡	47,402	97.4	0.4	42,155	53.3	50.2	56.5	16.8
佐賀	9,168	97.6	0.4	8,732	42.3	38.9	46.1	31.6
長崎	14,669	98.7	0.3	14,577	42.2	39.3	45.1	28.4
熊本	18,132	99.0	0.3	16,635	43.1	39.8	46.5	25.3
大分	11,147	98.6	0.5	10,662	47.4	42.7	52.1	26.0
宮崎	11,735	98.1	0.5	10,884	43.0	39.2	47.1	29.2
鹿児島	17,130	98.9	0.3	17,007	42.0	36.7	47.4	26.2
沖縄	16,756	95.8	0.5	15,015	36.7	34.9	38.5	14.3

「学校基本調査」のうち「卒業後の状況調査」(5月1日現在)による。平成23年3月卒業生。1) 高等学校・中等教育学校後期課程・特別支援学校高等部の本科・別科及び高等専門学校への進学率。2) 大学の学部・通信教育部・別科, 短期大学の本科・通信教育部・別科及び高等学校・特別支援学校高等部の専攻科への進学率。

資料 文部科学省生涯学習政策局調査企画課「学校基本調査報告書(初等中等教育機関 専修学校・各種学校編)」

学校法人実践女子学園 設置学校 入学定員・収容定員の移行

資料4

【実践女子大学】

学部	学科	専攻	備考	平成16年4月			平成23年4月			平成24年4月			平成25年4月			平成26年4月(計画)		
				入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
文学部	国文学科			120	15	510	110	15	470	110	15	470	110	9	458	110	9	458
	英文学科			120	15	510	110	15	470	110	15	470	110	9	458	110	9	458
	美学美術史学科			100	10	420	90	10	380	90	10	380	90	2	364	90	2	364
	計					1,440			1,320			1,320			1,280			1,280
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻		70	14	308	70	14	308	70	14	308	70	0	280	70	0	280
		食物科学専攻		75	5	310	75	5	310	75	5	310	75	0	300	75	0	300
		健康栄養専攻	(平成25年設置)										40	0	160	40	0	160
	生活環境学科			80	10	340	80	10	340	80	10	340	80	2	324	80	2	324
	生活文化学科	生活文化専攻	(平成19年まで各コース)	40	10	180	40	10	180	40	10	180	40	2	164	40	2	164
		幼児保育専攻		45	5	190	45	5	190	45	5	190	45	0	180	45	0	180
	現代生活学科		(平成26年設置予定)													60	0	240
計					1,328			1,328			1,328			1,408			1,648	
人間社会学部	人間社会学科			140	20	600	100	0	400	100	0	400	100	0	400	100	0	400
	現代社会学科		(平成23年設置)			0	100	0	400	100	0	400	100	0	400	100	0	400
	計					600			800			800			800			800
大学合計				790		3,368	820		3,448	820		3,448	860		3,488	920		3,728

【実践女子短期大学】

学科				平成16年4月		平成23年4月		平成24年4月		平成25年4月		平成26年4月(計画)	
				入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
日本語コミュニケーション学科				100	200	100	200	80	160	80	160	80	160
英語コミュニケーション学科				120	240	120	240	100	200	100	200	100	200
生活福祉学科				80	160	0	0	0	0	(平成23年4月学生募集停止)			
食物栄養学科				80	160	80	160	80	160	0	0	(平成25年4月学生募集停止)	
短大合計				380	760	300	600	260	520	180	360	180	360
実践女子大学・実践女子短期大学 収容定員合計				4,128		4,048		3,968		3,848		4,088	

実践女子大学入学者数 (2008年度～2012年度)

学部名	学科名		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
文学部	国文学科	志願者	649	599	645	696	673
		合格者	443	374	382	326	318
		入学者(A)	155	151	164	139	117
		入学定員(B)	120	120	120	110	110
	英文学科	志願者	570	580	663	710	725
		合格者	447	461	452	452	492
		入学者(A)	136	156	165	121	129
		入学定員(B)	120	120	120	110	110
	美学美術史学科	志願者	262	291	347	305	275
		合格者	199	234	280	243	228
		入学者(A)	93	107	113	109	92
		入学定員(B)	100	100	100	90	90
文学部合計		志願者	1,481	1,470	1,655	1,711	1,673
		合格者	1,089	1,069	1,114	1,021	1,038
		入学者(A)	384	414	442	369	338
		入学定員(B)	340	340	340	310	310
生活科学部	食生活科学科 管理栄養士専攻	志願者	531	844	734	775	609
		合格者	163	183	160	166	205
		入学者(A)	75	95	72	75	71
		入学定員(B)	70	70	70	70	70
	食生活科学科 食物科学専攻	志願者	328	339	358	388	372
		合格者	207	211	210	213	222
		入学者(A)	87	90	80	92	75
		入学定員(B)	75	75	75	75	75
	食生活科学科計	志願者	859	1,183	1,092	1,163	981
		合格者	370	394	370	379	427
		入学者(A)	162	185	152	167	146
		入学定員(B)	145	145	145	145	145
	生活環境学科	志願者	271	364	444	366	371
		合格者	210	244	206	192	200
		入学者(A)	70	104	113	95	91
		入学定員(B)	80	80	80	80	80
	生活文化学科 生活文化専攻	志願者	159	172	127	147	121
		合格者	113	108	102	115	113
		入学者(A)	44	57	59	49	49
		入学定員(B)	40	40	40	40	40
	生活文化学科 幼児保育専攻	志願者	274	248	273	281	382
		合格者	72	67	69	66	68
		入学者(A)	53	48	51	47	52
		入学定員(B)	45	45	45	45	45
生活文化学科計	志願者	433	420	400	428	503	
	合格者	185	175	171	181	181	
	入学者(A)	97	105	110	96	101	
	入学定員(B)	85	85	85	85	85	
生活科学部合計		志願者	1,563	1,967	1,936	1,957	1,855
		合格者	765	813	747	752	808
		入学者(A)	329	394	375	358	338
		入学定員(B)	310	310	310	310	310
学 人 間 社 会 部	人間社会学科 現代社会学科	志願者	619	921	1,015	1,017	1,261
		合格者	472	519	490	577	648
		入学者(A)	173	165	183	218	213
		入学定員(B)	140	140	140	200	200
人間社会学部合計		志願者	619	921	1,015	1,017	1,261
		合格者	472	519	490	577	648
		入学者(A)	173	165	183	218	213
		入学定員(B)	140	140	140	200	200
大 学 合 計		志願者	3,663	4,358	4,606	4,685	4,789
		合格者	2,326	2,401	2,351	2,350	2,494
		入学者(A)	886	973	1,000	945	889
		入学定員(B)	790	790	790	820	820

実践女子大学現代生活学科に関するアンケート結果

実施日 平成25年3月24日(日) 実践女子大学オープンキャンパス
 来場者 高校生 274名 回収数 148件 (回収率54%)

問1 あなたの現在(平成25年3月)の学年をお答えください。

1.高校1年生	19
2.高校2年生	107
3.高校3年生	16
4.その他	6

問2 あなたが通っている高校の種別をお答えください。

1.私立・共学	40
2.私立・女子校	30
3.公立・共学	70
4.公立・女子高	4
5.国立・共学	1
6.国立・女子高	0
7.その他(海外の学校、株式会社立など)	0

問3 高校卒業後に考えている進路をお答えください。(複数回答可)

1. 四年制大学	145
2. 短期大学	14
3. 専修学校・各種学校[10]	10
4. 就職	0
5. 家業・家事手伝い	0
6. その他	0

問4 あなたが進学を希望する学部・学科は何ですか。希望するもの最大3つまで選んでください。

1. 理工学分野(理学、工学等)	2
2. 医歯薬分野(医学、歯学、薬学等)	3
3. 看護・保健分野(看護、社会福祉等)	5
4. 人文科学分野(文学、史学、哲学等)	22
5. 社会科学分野(法学・政治学、商学・経済学、社会学等)	21
6. 教育・保育分野(教育、保育等)	31
7. 国際学・学際学分野(国際関係学、言語学、情報学、環境学等)	16
8. 生活科学分野(家政学、食物・栄養学、被服学、住居学、生活文化等)	87
9. 農学分野(農学、水産学、畜産学等)	3
10. 芸術(美術、音楽、デザイン等)	8
11. その他	1

問5 現代生活学科では、次のような人材の育成を目指します。あなたは、これらの人材について魅力を感じますか。魅力を感じるものを選択してください。(いくつでも)

1. 現代生活における諸問題(例:メディアと生活)を構造的に捉え、解決できる人材	38
2. 豊かな教養と社会や仕事に必要なスキルを身につけ、賢い生活者となる人材	69
3. 社会で働き続ける力を身につけ、社会の変化に対応していける人材	83
4. 変化の激しい時代において、自分で人生設計ができる人材	51
5. 将来の自分の生き方や働き方をデザインし、実践できる人材	90

問6 現代生活学科では、「自立社会と自立生活」、「環境と生活産業」、「メディアと生活」を教育の柱とします。それぞれについて、あなたは学んでみたいと思いますか。学んでみたいと思うものを選択してください。(いくつでも)

1. コミュニティについて、エネルギー、食料、安全などの切り口から検討する	61
2. 生活の中の新しいニーズの発掘と商品・サービスの創造を探る視点を学ぶ	55
3. 地域や地球の環境とその変化をとらえ、新たなビジネスを学ぶ	28
4. 環境の改善に役立つ解決法や、環境と調和した生活を学ぶ	48
5. 現代の生活や社会を情報ネットワークの側面から学ぶ	30
6. 進化する情報技術を用いた経営や新たなサービスの創造などを学ぶ	28

問7 現代生活学科では、次のような特色ある教育を行います。これらの教育方法について、あなたは魅力を感じますか。魅力を感じるものを選択してください。(いくつでも)

- | | |
|---|----|
| 1. 学生10名あたり1名の専任教員を配置する少人数教育 | 76 |
| 2. 考える力、発表する力、積極性などを養うためのディスカッション型授業の豊富な配置 | 54 |
| 3. 世界的な名著・古典を題材にして、物の見方や考え方を深めるグレート・ブックス授業 | 24 |
| 4. 企業と一緒に商品やサービスの企画等を行い、思考力、主体性、協働する力を養う演習型授業 | 65 |
| 5. 実際にプロジェクトを企画・運営するグループワーク | 44 |
| 6. 自分で設定したテーマを追求するフィールドリサーチ | 34 |
| 7. 生き方・働き方を考え、将来にわたり働き続けられる力を養うキャリア教育 | 77 |

問8 現代生活学科の授業科目は次のようなものがあります。あなたは、これらの授業科目に魅力を感じますか。魅力を感じるものを選択してください。(いくつでも)

- | | |
|--|-----|
| 1. 家庭経営(「食生活」「衣環境」「育児・介護」分野) | 110 |
| 2. 現代社会を読み解く(「政治と経済」「生活と産業」「文化と市場」「科学技術と社会」分野) | 26 |
| 3. 「地域文化形成論」、「コミュニティ経済」、「自立生活論」、「少子高齢化社会」、「グローバル社会」 | 30 |
| 4. 「生活産業創出論」、「環境マーケティング論」、「生活ビジネス」、「女性社会論」 | 34 |
| 5. 「メディア生活学」、「メディアアート論」、「映像制作演習」、「メディア生活経営論」、「広告とメディア」 | 35 |

問9 これまでの設問を踏まえ、総合的に考えて、実践女子大学の現代生活学科を志願先として考えたいと思いますか(高校3年生の場合は、進路検討時に現代生活学科があった場合を想像してお答えください)。

- | | |
|-------------------|----|
| 1. 志願先として考えたい | 31 |
| 2. やや志願先として考えたい | 55 |
| 3. あまり志願先としては考えない | 42 |
| 4. 志願先としては考えない | 16 |

問10 問9で「1.志願先として考えたい」または「2.やや志願先として考えたい」を選んだ方にうかがいます。もし現代生活学科に合格した場合、志望度はどのくらいですか。

- | | |
|-------------|----|
| 1. 第一志望としたい | 25 |
| 2. 第二志望としたい | 34 |
| 3. 第三志望としたい | 16 |
| 4. その他 | 9 |

現代生活学科に関するアンケート(Webアンケート)

資料7

[TABLE006]

Q1	本年(2013年)3月1日時点で通っていた高校の種類をお答えください。 単一回答	N	%
1	私立・共学	264	25.6
2	私立・女子校	131	12.7
3	公立・共学	586	56.9
4	公立・女子高	18	1.7
5	国立・共学	19	1.8
6	国立・女子高	0	0.0
7	その他(海外の学校、株式会社立など)	12	1.2
	全体	1030	100.0

[TABLE007]

Q2	高校卒業後に考えている進路をお答え下さい。(いくつでも) 高校3年生の場合は、決まっている進路をお答えください。 複数回答	N	%
1	四年制大学	659	64.0
2	短期大学	81	7.9
3	専修学校・各種学校	238	23.1
4	就職	99	9.6
5	家業・家事手伝い	15	1.5
6	その他(具体的に:【 】)	40	3.9
7	未だ考えていない/答えられない	56	5.4
	全体	1030	100.0

[TABLE008]

Q3	前問で「四年制大学」を選んだ方にうかがいます。 あなたが進学を希望する学部・学科は何ですか。希望するもの最大3つまで選んでください。 高校3年生の場合は、志願先として検討した学部・学科をお答えください。 複数回答	N	%
1	理工学分野(理学、工学 等)	85	12.9
2	医歯薬分野(医学、歯学、薬学 等)	61	9.3
3	看護・保健分野(看護、介護、社会福祉 等)	68	10.3
4	人文科学分野(文学、史学、哲学 等)	139	21.1
5	社会科学分野(法学・政治学、商学・経済学、社会学 等)	208	31.6
6	教育・保育分野(教育、保育 等)	70	10.6
7	国際学・学際学分野(国際関係学、言語学、情報学、環境学 等)	127	19.3
8	生活科学分野(家政学、食物・栄養学、被服学、住居学 等)	48	7.3
9	農学分野(農学、水産学、畜産学 等)	39	5.9
10	芸術(美術、音楽、デザイン 等)	82	12.4
11	その他	34	5.2
	全体	659	100.0

[TABLE009]

Q4	現代生活学科では、次のような人材の育成を目指します。あなたは、これらの人材について魅力を感じますか。 単一回答	全体	1	2	3	4
			魅力を感じる	やや魅力を感じる	あまり魅力を感じない	魅力を感じない
1	現代生活における諸問題(例:メディアと生活)を構造的に捉え、解決できる人材	1030 100.0	222 21.6	507 49.2	228 22.1	73 7.1
2	豊かな教養と社会や仕事で必要なスキルを身につけ、賢い生活者となれる人材	1030 100.0	318 30.9	505 49.0	142 13.8	65 6.3
3	社会で働き続ける力を身につけ、社会の変化に対応していける人材	1030 100.0	360 35.0	476 46.2	136 13.2	58 5.6
4	変化の激しい時代において、自分で人生設計ができる人材	1030 100.0	306 29.7	479 46.5	182 17.7	63 6.1
5	将来の自分の生き方や働き方をデザインし、実践できる人材	1030 100.0	356 34.6	486 47.2	135 13.1	53 5.1

[TABLE010]

Q5	現代生活学科では、「自立社会と自立生活」、「環境と生活産業」、「メディアと生活」を教育の柱とします。それぞれについて、あなたは学んでみたいと思えますか。 単一回答	全体	1	2	3	4
			学んでみたい	やや学んでみたい	あまり学んでみたくない	学んでみたくない
1	コミュニティについて、エネルギー、食料、安全などの切り口から検討する	1030 100.0	131 12.7	386 37.5	408 39.6	105 10.2
2	生活の中の新しいニーズの発掘と商品・サービスの創造を探る視点を学ぶ	1030 100.0	194 18.8	432 41.9	307 29.8	97 9.4
3	地域や地球の環境とその変化をとらえ、新たなビジネスを学ぶ	1030 100.0	148 14.4	388 37.7	386 37.5	108 10.5
4	環境の改善に役だつ解決法や、環境と調和した生活を学ぶ	1030 100.0	162 15.7	382 37.1	381 37.0	105 10.2
5	現代の生活や社会を情報ネットワークの側面から学ぶ	1030 100.0	195 18.9	415 40.3	316 30.7	104 10.1
6	進化する情報技術を用いた経営や新たなサービスの創造などを学ぶ	1030 100.0	219 21.3	421 40.9	297 28.8	93 9.0

[TABLE011]

Q6	現代生活学科では、次のような特色ある教育を行います。これらの教育方法について、あなたは魅力を感じますか。 単一回答	全体	1	2	3	4
			魅力を感じる	やや魅力を感じる	あまり魅力を感じない	魅力を感じない
1	学生10名あたり1名の専任教員を配置する少人数教育	1030 100.0	342 33.2	467 45.3	167 16.2	54 5.2
2	考える力、発表する力、積極性などを養うためのディスカッション型授業の豊富な配置	1030 100.0	257 25.0	445 43.2	257 25.0	71 6.9
3	世界的な名著・古典を題材にして、物の見方や考え方を深めるグレート・ブックス授業	1030 100.0	185 18.0	381 37.0	380 36.9	84 8.2
4	企業と一緒に商品やサービスの企画・開発を行い、思考力、主体性、協働する力を養う演習型授業	1030 100.0	375 36.4	411 39.9	184 17.9	60 5.8
5	実際にプロジェクトを企画・運営するグループワーク	1030 100.0	310 30.1	428 41.6	227 22.0	65 6.3
6	自分で設定したテーマを追求するフィールドリサーチ	1030 100.0	205 19.9	472 45.8	287 27.9	66 6.4
7	生き方・働き方を考え、将来にわたり働き続けられる力を養うキャリア教育	1030 100.0	278 27.0	495 48.1	204 19.8	53 5.1

[TABLE012]

Q7	現代生活学科の授業科目は次のようなものがあります。あなたは、これらの授業科目に魅力を感じますか。 単一回答	全体	1	2	3	4
			魅力を感じる	やや魅力を感じる	あまり魅力を感じない	魅力を感じない
1	「家庭経営」(「食生活」「衣環境」「育児・介護」分野)	1030 100.0	232 22.5	387 37.6	298 28.9	113 11.0
2	「現代社会を読み解く」(「政治と経済」「生活と産業」「文化と市場」「科学技術と社会」分野)	1030 100.0	151 14.7	390 37.9	386 37.5	103 10.0
3	「地域文化形成論」、「コミュニティ経済」、「自立生活論」、「少子高齢化社会」、「グローバル社会」	1030 100.0	178 17.3	358 34.8	375 36.4	119 11.6
4	「生活産業創出論」、「環境マーケティング論」、「生活ビジネス」、「女性社会論」	1030 100.0	159 15.4	388 37.7	361 35.0	122 11.8
5	「メディア生活学」、「メディアアート論」、「映像制作演習」、「メディア生活経営論」、「広告とメディア」	1030 100.0	240 23.3	385 37.4	311 30.2	94 9.1

[TABLE013]

Q8	これまでの設問を踏まえ、総合的に考えて、実践女子大学の現代生活学科を志願先として考えたいと思いますか。 (高校3年生の場合は、進路検討時に現代生活学科があった場合を想像してお答えください) 単一回答	N	%
1	志願先として考えたい(考えたと思う)	22	2.1
2	やや志願先として考えたい(やや考えたと思う)	164	15.9
3	あまり志願先としては考えない(あまり考えなかったと思う)	421	40.9
4	志願先としては考えない(考えなかったと思う)	423	41.1
全体		1030	100.0

[TABLE014]

Q9	前問で「志願先として考えたい(考えたと思う)」または「やや志願先として考えたい(やや考えたと思う)」を選んだ方にうかがいます。もし現代生活学科に合格した場合、志望度はどのくらいですか(高校3年生は、進路決定時を想像してお答えください)。 単一回答	N	%
1	第一志望としたい	16	8.6
2	第二志望としたい	61	32.8
3	第三志望としたい	59	31.7
4	第四志望またはそれ以下	50	26.9
全体		186	100.0

[TABLE015]

Q10	前問で「あまり志願先としては考えない(あまり考えなかったと思う)」または「志願先としては考えない(考えなかったと思う)」を選んだ方にうかがいます。そのような回答をされた理由をお答えください。(いくつでも) 複数回答	N	%
1	現代生活学科に魅力を感じないため	297	35.2
2	実践女子大学の入試の難易度が高いため	56	6.6
3	実践女子大学の入試の難易度が低いため	107	12.7
4	強く入学を希望する大学があり、その他の大学に興味を持てないため	358	42.4
5	進学先は共学しか考えていない(いなかった)ため	249	29.5
6	その他(具体的に:【 】)	93	11.0
全体		844	100.0

以下省略

資料 8

- 1 有識者インタビュー調査（調査概要）
 - 有識者インタビュー調査（女性や生活者を取り巻く環境変化）
 - 有識者インタビュー調査（新たな雇用機会や求められる能力）
 - 有識者インタビュー（コンセプト（仮説）と大学への期待）
- 2 株式会社三菱総合研究所

資料 9

- 1 企業インタビュー調査（調査概要）
 - 企業インタビュー調査（最近の新卒学生に関する評価）
 - 企業インタビュー調査（女子大や貴学卒業生に対する評価）
 - 企業インタビュー調査（企業が求める人材）
 - 企業インタビュー調査（大学に対する期待・要望）
- 2 株式会社三菱総合研究所

現代生活学科の学びのかたち		技術	豊富な演習授業で自分のものに	発想力	生活価値の文化学で本質から	実践力	プロジェクト経験を通じた自信
1年次		2年次		3年次		4年次	
「生活」の意味を考え、新しい社会と人間像を構想する		「生活」を考える3つのコンセプトを学ぶ		新しい「生活」と社会の問題解決を実践的に考える		本当の「生活の豊かさ」の実現に向け基盤の完成を目指す	
現代社会において「生活」の持つ意味を深く考えながら、新しい社会、新しい人間像を構想します。そして、自分自身の力で生きていくために必要な、メディア、環境、社会についての、基本的な知識と技術を学びます。		現代の「生活」を考える3つのコンセプト「メディア、環境、自立」：情報技術を学び、ネットワーク社会を自由に生きる力を養い、環境と共生する産業と社会を研究し、自立的な社会づくり、自立した生活を構想します。		ゼミナールに所属し、仲間とともに自分の基盤を固めます。学んできた生活の価値と社会の問題（メディア、環境、自立）にもとづき、これからのビジネスや社会づくりに向けたプロジェクト型授業への参加経験も積みまます。		4年間の集大成となる卒業研究に取り組みます。本当の「生活の豊かさ」を人にもたらず社会、持続可能な産業と生活を目指して自分の研究をまとめ、社会人、家庭人、生活者としての自分の人生を支える基盤を完成させます。	
専門総合科目		問題を発見し、解決に向けて知識や技術を総合し、チームでものごとを進めることを実践的に学ぶ					
ゼミナール				ゼミナール		ファイナルプロジェクト	
		少人数のゼミナールでは、ともに学ぶ仲間たちと、自分の専門領域の研究を深めながら、協働プロジェクトにも参加します。					
プロジェクト研究		ビジネスプランニング		プロジェクト演習a 現代生活学		プロジェクト演習b	
		問題を発見し、解決法を考え、計画し実行する。プロジェクト型のものごとの進め方を体験します。チームで課題に取り組む「楽しさ」と「達成感」を実感します。					
Great Books Seminar		グレートブックスセミナー1		グレートブックスセミナー2a グレートブックスセミナー2b			
		古典に基づいて討議をしながら、論理的に考え、自分の意見を述べる経験を重ねます。Great Books Seminarは、グローバル人材とともに、文化的な価値を柱とした地域リーダーを育成する、歴史ある教育プログラムです。					
キャリア形成科目		社会人として活躍する将来像をイメージしながら、何をどのように学ぶべきか、自分の問題として考える					
キャリア形成		単に就職活動のための知識ではなく、ビジネスの立場から自分を見る視線を育てます。		ビジネス・スキルa ライフ・プランニング		企業研究a ビジネス・マナー	
				企業研究b		ビジネス・スキルb	
教職関連科目		家庭経営論		衣料学 住居学 看護学		衣料学演習 栄養学	
				衣服制作実習a 食物学 調理学及び実習 家族関係論 保育学 育児学		衣服制作実習b 衣服制作実習c 家庭工学	
		家庭科教員免許取得のための科目					
専門教育科目		学科の3つのコンセプトにそってバランス良く、深い理論・知識と実践的な技術、そして自由な発想を学ぶ					
自立社会と自立生活		生活の基本は自立 自立社会はそれを支える基盤				地域エネルギー論演習 地域食料論演習	
		エネルギーと食糧の地産地消を本気で考える時代。そのためには、社会を自立的なものにつくりなおさなければなりません。もちろん自分自身の生活も。レジャーや教育も自分たちの問題です。個人、家族、地域社会、都市、国家、そして人類社会まで、様々な視点で考え、自分のスケールでの自立のかたちへと結びつけましょう。		地域エネルギー論 コミュニティ経済論演習 地域食料論		自立生活論a（健康） 少子高齢化社会	
				(前) 地域文化形成論		自立生活論b（消費者） 自立生活論c（安全と保障） グローバル社会	
環境と生活産業		環境社会は、美しく楽しい生活を考えることから		生活産業創出論		環境思想a 環境思想b 女性社会論a	
		「エコ」は、自然環境を大事にするライフスタイルとともに、他の人々を大切にすることを意味しています。自然との共生はもちろん、いろんな文化や風土を理解し、互いに助け合う共同の関係を社会として実現することを目指す姿勢です。				環境思想演習 エコビジネス演習 女性社会論b	
		何が大切なことなのかを考える、そのことを基盤としてビジネスや社会的実践を構想しつくりあげ、本当に美しく楽しい社会づくりを考えることが、環境と社会の問題を解決する道です。		生活ビジネスa（グリーンビジネス） 生活ビジネスb（コミュニティビジネス）		環境マーケティング論a 環境マーケティング論b 環境工学及び調査 環境経済学	
				(前) 環境マーケティング演習a 環境マーケティング演習b 生活ビジネスc（マイクロビジネス） 環境マネジメント論		* * 生活産業史 社会責任論	
		企業の問題解決に取り組んでみましょう。 (担当者、コンサルになったつもりで研究します) 「生活ビジネス」の発想を豊かにします。 グリーン、コミュニティ、マイクロ、生活価値から問題発見					
メディアと生活		作品づくりの楽しさ & ものごとが見えてゆく驚き				メディア生活経営論a メディア生活経営論演習a メディア生活経営論b	
		情報技術(メディアテクノロジー)は、個人や小さな組織に大きな力をもたらします。本当に役立つ技術、自分をより自由にしてくれる表現力身につけます。				* * メディア生活経営論b	
		情報技術は単なる手段ではありません。社会の構造、組織のかたち、人の生き方を変えてゆきます。「メディア」の意味と働きについて、科学・思想・文化・社会の各面から学びます。		メディアテクノロジー演習a(web) メディアテクノロジー演習b(データ) メディアテクノロジー演習c(開発) 情報セキュリティ社会		(前) メディアアート論a メディアアート論b メディア生活学b 広告とメディア	
		* 企業・行政、NPO/NGOなどのコラボレーションによるプロジェクト型の演習授業					
専門基礎科目		学科が目指す「新しい生活学」の基礎を学ぶ					
生活技術		家庭経営a(食生活) 家庭経営b(衣環境) 基礎メディア技術 プレゼンテーション技法		家庭経営c(育児・介護) フィールドリサーチ 統計とモデリング		「生活科学」の基本を学びましょう。 情報技術とプレゼンテーションの技法は現代社会の基本、数理的なセンスは説得力を増します。	
生活教養		現代社会を読み解くa(政治と経済) 現代社会を読み解くb(生活と産業)		現代社会を読み解くc(文化と市場) 現代社会を読み解くd(科学技術と社会)		「新しい生活学」が、ここからはじまります。	
生活教養基礎		環境科学概論		コミュニティ概論 メディア社会概論		「新しい生活学」を目指す4年間の学習の柱となる、「メディア」「環境」「自立」の3つのコンセプトを学びます。	
共通教育科目		実践女子大学の歴史ある幅広い女子教育プログラムに学ぶ【実践スタンダード科目、実践アドバンスト科目、教養教育科目】					
外国語		インテグレートッド・イングリッシュ		外国語教育			
情報基礎		情報リテラシー基礎a		情報リテラシー基礎b		情報リテラシー教育	
基礎教養		実践入門セミナー 実践キャリアプランニング		「女性の生き方」、「人間の文化」、「生活と社会」、「自然と数理」、「健康スポーツ科学」「オープン講座」 キャリア教育		実践女子大学の幅広い教養科目から 女子大ならではのきめ細かなキャリア支援	

履修モデルA (現代生活学科・自立社会と自立生活)

	1年次				2年次				3年次				4年次				標準 修得 単位	
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
専門 総合科目			ビジネスプランニング ^g	②			現代生活学 プロジェクト演習a	② 2	ゼミナール		ゼミナール	④	ファイナルプロジェクト		ファイナルプロジェクト	④	14 (12)	
専門 基礎科目	環境科学概論	②	コミュニティ概論	②	家庭経営b(衣環境)	2	統計とモデリング ^g	2									26 (6)	
	家庭経営a(食生活)	2	メディア社会概論	②														
	基礎メディア技術	2	フィールドリサーチ	2														
	プレゼンテーション技法	2	現代社会を読み解く ^d	2														
	現代社会を読み解く ^b	2																
	グレートブックスセミナー1	②											グレートブックスセミナー2a	2			4 (2)	
専門 教育科目					自立生活論a(健康)	2	地域文化形成論	2	コミュニティ経済演習	2	グローバル社会	2	環境思想a	2	環境思想b	2	36	
					少子高齢化社会	2	自立生活論b(消費者)	2	地域食料論	2	地域エネルギー論演習	2			生活産業史	2		
					地域エネルギー論	2			生活産業創出論	2	地域食料論演習	2						
									環境マーケティング論 ^a	2	環境マーケティング論演習 ^a	2						
											環境マネジメント論	2						
											広告とメディア	2						
キャリア 形成					ライフ・プランニング ^g	②	ビジネスマナー	2	企業研究b		②	ビジネス・スキルb	②				12 (10)	
					ビジネス・スキルa	②	企業研究a	②										
共通 教育科目	実践入門セミナー	②	情報リテラシー基礎b	1	実践キャリアプランニング	②	伝統文化の精神と実践	2	生物の世界	2							36	
	情報リテラシー基礎a	①	情報リテラシー応用b	2	リーディング・スキルズ	1	実践プロジェクト	2										
	インテグレートッド・イングリッシュ	②	社会思想史b	2	国際理解とキャリア形成	2	教育学b	2										
	情報リテラシー応用a	2	スポーツ文化論	2	教育学a	2	法と生活	2										
	社会思想史a	2	基礎スポーツ実習a	1	地理学	1												
合計		21		18		21		22		12		18		4		8	124	

* ○数字は必修科目を表す

履修モデルB（現代生活学科・環境と生活産業）

	1年次				2年次				3年次				4年次				標準 修得 単位		
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期				
専門総合科目			ビジネスプランニング ^②				現代生活学 プロジェクト演習a ^②	2	ゼミナール		ゼミナール		④	ファイナルプロジェクト		ファイナルプロジェクト	④	14 (12)	
専門基礎科目	環境科学概論 ^②		コミュニティ概論 ^②		家庭経営b(衣環境) ²		統計とモデリング ²											22 (6)	
	家庭経営c(育児・介護) ²		メディア社会概論 ^②																
	基礎メディア技術 ²		フィールドリサーチ ²															4 (2)	
	プレゼンテーション技法 ²		現代社会を読み解くc ²																
	現代社会を読み解くb ²																		
	グレートブックスセミナー1 ^②													グレートブックスセミナー2a ²					
専門教育科目					生活ビジネスa ²		生活ビジネスc ²		環境思想a ²		環境思想演習 ²		メディア生活学a ²		女性社会論b ²			36	
					生活産業創出論 ²		生活産業史 ²		環境思想b ²		環境マーケティング演習a ²				メディア生活経営論b ²				
					環境マーケティング論a ²				環境工学及び調査 地域エネルギー論 ²		社会責任論 ²								
											自立生活論b ²								
											グローバル社会 広告とメディア ²								
キャリア形成					ライフ・プランニング ^②		ビジネスマナー ^②		企業研究b ^②		ビジネス・スキルb ^②							12 (10)	
					ビジネス・スキルa ^②		企業研究a ^②												
共通教育科目	実践入門セミナー ^②		情報リテラシー基礎b ¹		実践キャリアプランニング ^②		伝統文化の精神と実践 ²		日本国憲法 ²									36	
	情報リテラシー基礎a ^①		情報リテラシー応用b ²		リーディング・スキルズ ¹		実践プロジェクト ²												
	インテグレートッド・イングリッシュ ^②		社会思想史b ²		国際理解とキャリア形成 ²		環境と産業技術b ²												
	情報リテラシー応用a ²		スポーツ文化論 ²		環境と産業技術a ²		食文化論 ²												
	社会思想史a ²		基礎スポーツ実習a ¹		文学概論 ²														
合計		21		18		21		22		12		18		4		8	124		

* ○数字は必修科目を表す

履修モデルC（現代生活学科・メディアと生活）

	1年次				2年次				3年次				4年次				標準 修得 単位
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期		
専門 総合科目			ビジネスプランニング ^②				現代生活学 プロジェクト演習a ^②	2	ゼミナール		ゼミナール プロジェクト演習b ^④	2	ファイナルプロジェクト		ファイナルプロジェクト ^④	16 (12)	
専門 基礎科目	環境科学概論 ^②		コミュニティ概論 ^②		家庭経営b(衣環境) ²		統計とモデリング ²									22 (6)	
	現代社会を読み解くa ²		メディア社会概論 ^②														
	基礎メディア技術 ²		家庭経営a ²														
	プレゼンテーション技法 ²		現代社会を読み解くd ²														
	家庭経営論 ²																
	グレートブックスセミナー1 ^②												グレートブックスセミナー2a ²			4 (2)	
専門 教育科目					メディア生活学a ²		メディア生活学b ²		映像制作演習a ²		メディアアート論a ²		コミュニティ経済演習 ²		地域文化形成論 ²	34	
					情報セキュリティ社会 ²		広告とメディア ²		メディア生活経営論a ²		メディアアート論b ²		環境経済学 ²				
					メディアテクノロジー演習a ²				メディアテクノロジー演習c ²		メディア生活経営論b ²						
									生活ビジネスb ²		メディア生活経営論演習a ²						
											生活産業史 ²						
キャリア 形成					ライフ・プランニング ^②		ビジネスマナー ^②		企業研究b ²		ビジネス・スキルb ^②					12 (10)	
					ビジネス・スキルa ^②		企業研究a ^②										
共通 教育科目	実践入門セミナー ^②		情報リテラシー基礎b ¹		実践キャリアプランニング ^②		伝統文化の精神と実践 ²		心理学概論 ²							36	
	情報リテラシー基礎a ^①		情報リテラシー応用b ²		リーディング・スキルズ ¹		世界の美術 ²										
	インテグレートッド・イングリッシュ ^②		社会思想史b ²		女性と職業 ²		政治学b ²										
	情報リテラシー応用a ²		スポーツ文化論 ²		哲学入門a ²		生命と環境 ²										
	社会思想史a ²		基礎スポーツ実習a ¹		児童文学論a ²												
合計		21		18		21		22		12		18		6		6	124

* ○数字は必修科目を表す

以下省略

資料 1 2

- 1 マスタープラン
- 2 明豊ファシリティークラス

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
	学長	タジマ マコト 田島 眞 <平成25年4月>		農学博士		実践女子大学 学長 (平成25年4月) 実践女子大学 生活科学部教授 (平成3年4月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第3号（その2の1）

教 員 の 氏 名 等

(生活科学部現代生活学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担当 単 位 数	年間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
1	専	教授 (学科主任)	イヌカ ジュンイチロウ 大塚 潤一郎 <平成26.4>		博士(学術情 報学)		実践入門セミナー 現代生活学 ゼミナール ファイナルプロジェクト グレートワークセミナー1 グレートワークセミナー2a 環境マーケティング論a 環境マーケティング論演習a 環境思想a 環境思想b 環境思想演習 メディアアート論a メディアアート論b 映像制作演習a メディア生活経営論a メディア生活経営論演習a	1前 2後 3 4 1前 2.3.4前 2・3前 2・3後 3前 3前 3後 2・3後 2・3後 2・3前 3前 3後	2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1(隔年) 1(隔年) 1 1(隔年) 1(隔年) 1(隔年) 1 1	実践女子大学生生活科学部 教授 (平成20.4)	5日	
2	専	教授	スガ エキコ 須賀 由紀子 <平成26年4月>		体育学修士		実践入門セミナー ゼミナール ファイナルプロジェクト 現代社会を読み解くc(文化と 市場) コミュニティ概論 グレートワークセミナー1 グレートワークセミナー2b 地域文化形成論 自立生活論a(健康) 少子高齢化社会 生活産業創出論 女性社会論a 比較文化論a 比較文化論b	1前 3 4 1後 1後 1前 2・3・4後 2・3後 2・3前 2・3前 2前 3前 1前 1後	2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学生生活科学部 准教授 (平成19.4)	5日	
3	専	教授	ウキネ マチ 行実 洋一 <平成26年4月>		博士(情報社会 学)		実践入門セミナー ビジネスプランニング プロジェクト演習a プロジェクト演習b ゼミナール ファイナルプロジェクト グローバル社会 生活ビジネスb(コミュニティ ビジネス) 生活ビジネスc(マイクロビ ジネス) メディア生活学a メディアテクノロジー演習b (ゼミナール) メディア生活経営論b メディア生活経営論演習b 広告とメディア	1前 1後 2後 3後 3 4 4 2・3後 2・3前 2・3後 2・3前 2 2 3後 4前 2・3後	2 2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	TBSテレビ情報制作部 プロデューサー (平成11年4月) 株式会社ブルームロン 代表取締役 (平成24年3月)	5日	
4	専	准教授	ノツ タシ 野津 喬 <平成26年4月>		博士(公共政 策分析)		実践入門セミナー プロジェクト演習a プロジェクト演習b ゼミナール ファイナルプロジェクト 現代社会を読み解くb (生活と産業) コミュニティ経済演習 自立生活論b(消費者) 地域食料論 地域食料論演習 環境経済学 生活産業史 女性社会論b	1前 2後 3後 3 4 4 1前 2・3前 2・3後 2・3前 3後 2・3前 2・3後 3後 3後	2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	農林水産省 食料産業局 課長補佐 (平成23年9月)	5日	
5	専	准教授	スガノ モトキ 菅野 元行 <平成26年4月>		博士(工学)		実践入門セミナー ビジネスプランニング プロジェクト演習a プロジェクト演習b ゼミナール ファイナルプロジェクト フィールドリサーチ 現代社会を読み解くd (科学技術と社会) 環境科学概論 地域エネルギー論 地域エネルギー論演習 エコビジネス演習 環境工学及び調査 生活ビジネスa(グリーンビ ジネス)	1前 1後 2後 3後 3 4 4 1後 1後 1後 1前 2・3前 2・3後 3後 3後 2・3前 2・3前 2・3前	2 2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本工学院専門学校 非常勤講師 (平成25年4月) 東京バイオテクノロジー専門学校 非常勤講師 (平成25年4月)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
6	専	講師	カワイ ノブアキ 河井 延晃		修士(学際情 報学)		実践入門セミナー プロジェクト演習a プロジェクト演習b ゼミナール ファイナルプロジェクト 基礎メディア技術 プレゼンテーション技法 フィールドリサーチ 1後 1後 統計とモデリング メディア社会概論 メディア生活学b メディアテクノロジー演習 a(Web) 情報セキュリティ社会	1前 2後 2後 3後 3 4 4 1前 1前 1後 1後 1後 2・3後 2・3前 2・3前	2 2 2 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 生活科学部 講師 (平成21年4月)	5日
7	兼任	教授	カネダ ハジメ 金田 肇 <平成26年4月>		経済学士		実践キャリアプランニング	2前・後	4	2	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成22年4月)	
8	兼任	教授	ブルック、ユージン Bulach, Juergen <平成26年4月>		教育学修士		インテグレートド・インクリュー スビネキング・スキルズ	1前 1前・後	4 4	4 4	実践女子大学 文学部 教授 (平成23年4月)	
9	兼任	教授	ウエノ エイコ 上野 英子 <平成26年4月>		文学修士		文学概論	1前	2	1	実践女子大学 文学部 教授 (平成20年4月)	
10	兼任	教授	カナダ テルヨシ 棚田 輝嘉 <平成26年4月>		文学修士※		女性と文学	1後	2	1	実践女子大学 文学部 教授 (平成12年4月)	
11	兼任	教授	オホノ ミノル 乙訓 稔 <平成26年4月>		文学博士		教育史a 教育史b	1前 1後	2 2	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成1年4月)	
12	兼任	教授	トミタ ヨウゾウ 富田 洋三 <平成26年4月>		経済学修士		経済学a 経済学b 日本経済論a 日本経済論b 現代社会を読み解くa (政治と経済)	1前 1後 1前 1後 1前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (昭和63年4月)	
13	兼任	教授	ヤマザキ タケシ 山崎 壮 <平成26年4月>		博士(薬学)		化学の世界a 化学の世界b	1後 2前	2 2	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成24年4月)	
14	兼任	教授	ヤマザキ カズヒロ 山崎 和彦 <平成26年4月>		医学博士		環境科学	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成10年4月)	
15	兼任	教授	ヤマタ シゲル 山田 茂 <平成26年4月>		博士(理学)		身体運動の科学a 基礎スポーツ実習c スポーツ基礎科学実習b	1前 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2	1 2 2 2	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成22年4月)	
16	兼任	教授	イノウエ チエコ 井上 千枝子 <平成26年4月>		体育学学士		健康運動実習a 健康運動実習b 基礎スポーツ実習b 健康体力科学演習	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2	2 2 2 2	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成24年4月)	
17	兼任	教授	カチバナ ヒロシ 橋 弘志 <平成26年4月>		博士(工学)		住居学	2前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成23年4月)	
18	兼任	教授	ホンマ ヨウコ 本間 洋子 <平成26年4月>		博士(医学)		育児学	3前・後	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成20年4月)	
19	兼任	教授	フルカワ ススム 古川 漸 <平成26年4月>		医学博士		栄養学	2後	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成20年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週あたり 平均日数
20	兼任	准教授	フリハタ ヨシヒコ 降旗 芳彦 <平成26年4月>		文学修士※		哲学入門a 哲学入門b 倫理学入門a 倫理学入門b 西洋思想史a 西洋思想史b	1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	実践女子大学 文学部 准教授 (平成26年4月)	
21	兼任	准教授	オカワ トモコ 大川 知子 <平成26年4月>		博士(経営学)		衣文化論	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 (平成25年4月)	
22	兼任	准教授	サトウ タケシ 佐藤 健 <平成26年4月>		博士(工学)		くらしの人間工学 健康運動実習a 健康運動実習b スポーツ基礎科学実習a	1後 1前 1後 1前・後	2 1 1 2	1 1 1 2	実践女子大学 生活科学部 准教授 (平成19年4月)	
23	兼任	准教授	サトウ サチコ 佐藤 幸子 <平成26年4月>		博士(食物栄養学)		食物学 調理学及び実習	3前 3前	2 2	1 1	実践女子大学 生活科学部 准教授 (平成25年4月)	
24	兼任	講師	シュニッケル・ジエコブ Schnickel, Jacob <平成26年4月>		Master of arts		インテグレート・イングリッシュ スピーキング・スキルズ	1後 1前・後	2 2	1 2	実践女子大学 文学部 講師 (平成24年4月)	
25	兼任	講師	カナツ ケン 金津 謙 <平成26年4月>		修士(法学)		日本国憲法	1前・後	2	1	実践女子大学 人間社会学部 講師 (平成21年4月)	
26	兼任	講師	イチゲ ヨシコ 市毛 洋子 <平成23年4月>		Master's degree in TESOL (米国)		インテグレート・イングリッシュ リーディング・スキルズ リスニング・スキルズ	1後 1前 1前・後	1 1 2	1 1 2	実践女子大学 兼任講師 (平成18年9月)	
27	兼任	講師	ツネミ ヨウヘイ 常見 陽平 <平成23年4月>		商学士		実践キャリアデザイン キャリアデザイン グローバルキャリアデザイン ライフプランニング	2前・後 3前 3後 2前	4 2 2 2	2 1 1 1	株式会社 クオリティ・オブ・ライフ チーフプランナー (平成21年2月)	
28	兼任	講師	ナガイ トモコ 永井 ともこ <平成23年4月>		短期大学卒業		伝統文化の精神と実践	2後	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成22年4月)	
29	兼任	講師	ヤマヤ マナ 山谷 真名 <平成23年4月>		修士(家庭経営学)		女性と職業	2前・後	4	2	実践女子大学 兼任講師 (平成23年4月)	
30	兼任	講師	クロサキ シノブ 黒崎 紫乃 <平成23年4月>		Master of Science in Education (米国)		インテグレート・イングリッシュ	1前	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成19年4月)	
31	兼任	講師	ヤナセ ミカ 柳瀬 実佳 <平成26年4月>		Master of Education (米国)		リスニング・スキルズ	1前・後	2	2	実践女子大学 兼任講師 (平成18年4月)	
32	兼任	講師	フジワラ マサミチ 藤原 正道 <平成26年4月>		修士(教育学)		インテグレート・イングリッシュ ビジネス・イングリッシュ	1前 2後	2 1	1 1	実践女子短期大学 英語コミュニケーション学科 准教授 (平成12年4月)	
33	兼任	講師	ツチヤ ヨウスケ 土屋 陽介 <平成26年4月>		博士(工学)		情報リテラシー基礎a 情報リテラシー基礎b	1前 1後	1 1	1 1	産業技術大学院大学 産業技術研究科 助教 (平成18年7月)	
34	兼任	講師	カムラ タイチ 中村 太一 <平成26年4月>		Ph. D. (英国)		リーディング・スキルズ TOEICリーディング	1前 2後	2 2	2 2	専修大学 経営学部 教授 (平成19年4月)	
35	兼任	講師	ヨシノ ヤスコ 吉野 康子 <平成26年4月>		国際学修士		リーディング・スキルズ TOEICリーディング	1前 2後	2 2	2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成21年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
36	兼任	講師	ワハヤシ クニコ 若林 邦子 <平成23年4月>		修士 (英文学)		リーディング・スキル TOEICリーディング	1前 2後	2 2	2 2	2 2	実践女子大学 兼任講師 (昭和53年4月)	
37	兼任	講師	イムラ キョウコ 今村 京子 <平成26年4月>		修士 (文学)		リスニング・スキル TOEICリスニング	1前 2後	2 2	2 2	2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成16年4月)	
38	兼任	講師	タマル ユミ 田丸 由美子 <平成23年4月>		文学修士※		リスニング・スキル TOEICリスニング	1前 2後	2 2	2 2	2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成8年7月)	
39	兼任	講師	カウシイ サチ 唐牛 幸子 <平成26年4月>		文学修士		フランス語1a フランス語1b フランス語2a フランス語2b フランス文学a フランス文学b	1前 1後 2前 2後 1前 1後	1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成13年4月)	
40	兼任	講師	タケノ シホ 武田 志保子 <平成26年4月>		文学修士		フランス語1a フランス語1b	1前 1後	1 1	1 1	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成7年4月)	
41	兼任	講師	フジイ ヨウコ 藤井 陽子 <平成26年4月>		博士(文学)		フランス語1a フランス語1b	1前 1後	1 1	1 1	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成23年4月)	
42	兼任	講師	オノワ タカシ 小澤 直 <平成23年4月>		文学修士※		ドイツ語1a ドイツ語1b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
43	兼任	講師	ミツイ ユウコ 満井 裕子 <平成23年4月>		Doktor der Philosophie (独逸)		ドイツ語1a ドイツ語1b ドイツ語2a ドイツ語2b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成18年10月)	
44	兼任	講師	ササキ シゲル 佐々木 滋 <平成23年4月>		文学修士		ドイツ語1a ドイツ語1b ドイツ文学a ドイツ文学b	1前 1後 1前 1後	1 1 2 2	1 1 1 1	1 1 1 1	明星大学 文学部 教授 (平成15年4月)	
45	兼任	講師	タナカ アミ 田中 亜美 <平成26年4月>		修士(文学)		ドイツ語1a ドイツ語1b	1前 1後	1 1	1 1	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成23年4月)	
46	兼任	講師	サイキョウケン 蔡 曉軍 <平成23年4月>		修士※ (文学)		中国語1a 中国語1b 中国語2a 中国語2b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成12年4月)	
47	兼任	講師	ヨシエト 楊 英華 <平成26年4月>		文学博士		中国語1a 中国語1b 中国語2a 中国語2b	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成13年4月)	
48	兼任	講師	リュウ ソエイ 劉 素英 <平成26年4月>		文学修士		中国語1a 中国語1b 中国語2a 中国語2b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成6年4月)	
49	兼任	講師	ハク キョウ 朴 校熙 <平成26年4月>		教育学博士		コリア語1a コリア語1b コリア語2a コリア語2b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成19年4月)	
50	兼任	講師	タナカ ヨシアキ 田井中 承昭 <平成26年4月>		美術修士		情報リテラシー応用a	2前・後	2	2	2	実践女子大学 兼任講師 (平成12年9月)	
51	兼任	講師	アマカサ クニカズ 天笠 邦一 <平成26年4月>		博士(政策・ メディア)		情報リテラシー応用b	1後	2	2	2	実践女子大学 兼任講師 (平成24年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
52	兼任	講師	イカダ リマ 池田 徳正 <平成26年4月>		修士(学術情 報学)		情報リテラシー応用c 情報リテラシー実践c	1後	2	2	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
53	兼任	講師	カネ テツジ 金子 徹治 <平成26年4月>		修士(生物統 計学)		情報リテラシー実践a	2前・後	1	1	実践女子大学 兼任講師 (平成24年9月)	
54	兼任	講師	カイ ヒロミ 金井 宏水 <平成26年4月>		芸術学士		情報リテラシー実践b	1後	2	2	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
55	兼任	講師	アノカ カリ 安中 隆徳 <平成26年4月>		文学修士※		哲学入門a 哲学入門b 現代倫理学a 現代倫理学b 社会思想史a 社会思想史b	1前 1後 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成12年4月)	
56	兼任	講師	オカベ ヒデオ 岡部 英男 <平成26年4月>		文学修士※		現代の哲学a 現代の哲学b 倫理学入門a 倫理学入門b	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	東京音楽大学 音楽学部 専任講師 (平成3年4月)	
57	兼任	講師	ヒカサ カツ 樋笠 勝士 <平成26年4月>		文学修士		美学a 美学b	1前 1後	2 2	1 1	上智大学 文学部 教授 (平成16年4月)	
58	兼任	講師	カトヤ アキヒロ 角屋 明彦 <平成26年4月>		学術修士※		中国の思想a 中国の思想b	1前 1後	4 4	2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成3年4月)	
59	兼任	講師	ミヅカミ マサヨ 水上 文義 <平成26年4月>		博士(仏教 学)		仏教思想史a 仏教思想史b	2前 2後	2 2	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成24年4月)	
60	兼任	講師	コバヤシ マチコ 小林 真知子 <平成26年4月>		学術博士		初級教概論a 初級教概論b 比較文学a 比較文学b	2前 2後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成2年4月)	
61	兼任	講師	ハヤシ ユウコ 林 悠子 <平成26年4月>		修士(文学)		日本の文学a 日本の文学b	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
62	兼任	講師	エチゴ ケイコ 越後 敬子 <平成26年4月>		修士(文学)		日本の文学c 日本の文学d	1前 1後	2 2	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成22年4月)	
63	兼任	講師	チバ ミキオ 千葉 幹夫 <平成23年4月>		法学士		児童文学論a 児童文学論b	1前 1後	2 2	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成21年4月)	
64	兼任	講師	イハラ アヤ 井原 あや <平成26年4月>		博士(文学)		女性と文学	1前	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
65	兼任	講師	アイハラ カズキ 合原 勝之 <平成26年4月>		芸術学士		生活文化論b 映像制作演習b メディアテクノロジー演習c(開 発) ビジネススキルa ビジネススキルb	1後 2・3前 2・3前 2前 3後	2 2 2 2 2	1 1(隔年) 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成24年4月)	
66	兼任	講師	テラモト(ヤマウチ) ミチコ 寺本(山内) 美奈子 <平成26年4月>		修士 (造形)		出版文化論a 出版文化論b	1前 3後	2 2	1 1	凸版印刷株式会社 印刷博物館 学芸員 (平成10年9月)	
67	兼任	講師	モリヤ アキコ 守屋 亜記子 <平成26年4月>		博士(文学)		食文化論	1前 1後	2 2	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
68	兼任	講師	シマキ ユウコ 島崎 裕子 <平成26年4月>		博士(国際関 係学)		文化人類学a 文化人類学b	1前 1後	2 2	1 1	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成24年4月)	
69	兼任	講師	オホボ リョウ 大久保 遼 <平成26年4月>		修士(学術)		メディア論a メディア論b	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
70	兼任	講師	オホクラ キョウスケ 大倉 恭輔 <平成26年4月>		修士(文学)		メディア論a メディア論b	1前 1後	2 2	1 1	1 1	実践女子短期大学 准教授 (平成19年4月)	
71	兼任	講師	カワハタ ミキ 川端 美樹 <平成26年4月>		社会学修士		情報文化論a 情報文化論b	1前 1後	2 2	1 1	1 1	目白大学 社会学部 准教授 (平成12年4月)	
72	兼任	講師	ヌイ カズミ 貫井 一美 <平成26年4月>		文学修士		世界の美術	1前	2	1	1	実践女子大学 兼任講師 (平成16年4月)	
73	兼任	講師	カナ ヒデトシ 金谷 英俊 <平成26年4月>		修士(心理 学)		心理学概論	1前・後	2	1	1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
74	兼任	講師	ヨムリ トモキ 余村 朋樹 <平成26年4月>		修士(人間科 学)		心理学概論	1前・後	2	1	1	実践女子大学 兼任講師 (平成24年9月)	
75	兼任	講師	オカダ ヒロシ 岡田 斉 <平成26年4月>		文学修士※		心理学a 心理学b	1前 1後	2 2	1 1	1 1	文教大学 人間科学部 教授 (平成11年4月)	
76	兼任	講師	スガノ タカシ 菅沼 崇 <平成26年4月>		修士※ (教育学)		心理学a 心理学b	1前・後 1前 3前	2 2 2	1 1 1	1 1 1	相模女子大学 人間社会学部 教授 (平成24年4月)	
77	兼任	講師	サトウ エミ 佐藤 恵美 <平成26年4月>		博士 (心理学)		発達心理学a 発達心理学b	1前 1後	4 4	2 2	2 2	東京富士大学 経営学部 准教授 (平成24年4月)	
78	兼任	講師	アキ ヒデオ 青木 秀雄 <平成26年4月>		教育学 修士※		教育学a 教育学b	2前 2後	2 2	1 1	1 1	明星大学 教育学部 教授 (平成15年4月)	
79	兼任	講師	サイトウ タカシ 斎藤 孝 <平成26年4月>		法学修士		日本国憲法 法学 政治学a 政治学b	1前・後 1前 1前 1後	4 2 2 2	2 1 1 1	2 1 1 1	岐阜聖徳学園大学 教育学部 教授 (平成16年4月)	
80	兼任	講師	シズキ ヨイ 清水 弥生 <平成26年4月>		修士(法律 学)		法と生活	2前・後	2	1	1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
81	兼任	講師	チモト ヒデキ 千本 秀樹 <平成26年4月>		博士 (文学)		日本史a 日本史b	1前 1後	4 4	2 2	2 2	筑波大学 大学院人文社会科学研究科 教授 (昭和62年9月)	
82	兼任	講師	アキヤマ チエ 秋山 千恵 <平成26年4月>		修士 (史学)		西洋史a 西洋史b	1前 1後	4 4	2 2	2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成17年4月)	
83	兼任	講師	クマガイ シゲゾウ 熊谷 滋三 <平成26年4月>		文学修士※		東洋史a 東洋史b	1前 1後	4 4	2 2	2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成23年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
84	兼任	講師	タハヤシ カズヒロ 竹林 和彦 <平成26年4月>		修士※ (教育学)		地理学	1前	2	1	1	渋谷教育学園 渋谷中学高等学校 教諭 (平成18年4月)	
85	兼任	講師	ハシハラ アキヒロ 林原 玲洋 <平成26年4月>		博士 (社会学)		社会学a 社会学b	1前 1後	2 2	1 1	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成23年4月)	
86	兼任	講師	イノ トモ 飯野 智子 <平成26年4月>		社会学修士※		ジェンダー論a	1前	2	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成16年4月)	
87	兼任	講師	モリヤマ タカシ 森山 至貴 <平成26年4月>		博士(学術)		ジェンダー論b	1後	2	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
88	兼任	講師	フクダ サチオ 福田 幸夫 <平成26年4月>		文学修士		社会保障論	2前	2	2	1	いわき明星大学 人文学部 准教授 (平成20.4)	
89	兼任	講師	サトウ ヨシタカ 佐藤 義隆 <平成26年4月>		理学修士		数学の世界	1前	2	2	1	芝浦工業大学 デザイン工学部 教授 (平成22年4月)	
90	兼任	講師	カツノ ケイコ 勝野 恵子 <平成26年4月>		Ph. D. (英国)		統計の世界	1後	2	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成4年4月)	
91	兼任	講師	オホシ リユキ 大下 範幸 <平成26年4月>		理学博士		物理の世界	1前 1後	2 2	2 2	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成22年4月)	
92	兼任	講師	テラカ オサム 寺坂 治 <平成26年4月>		理学博士		生物の世界	1前	2	2	1	東京慈恵会医科大学 医学部 教授 (平成12年8月)	
93	兼任	講師	アジリ テイゾウ 阿尻 貞三 <平成26年4月>		医学博士		生命と環境	1前	2	2	1	実践女子短期大学 食物栄養学科 教授 (平成15年4月)	
94	兼任	講師	サイノウ ヒロフミ 斎藤 宏文 <平成26年4月>		博士(学術)		科学思想史	2前 1後	2 2	2 2	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
95	兼任	講師	キミヅカ ヨシテル 君塚 芳輝 <平成26年4月>		農学修士		環境と産業技術a 環境と産業技術b フィールドリサーチ 環境マネジメント論	1前 1後 1後 2・3後	2 2 2 2	2 2 2 2	1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成18年4月)	
96	兼任	講師	ワカヅマ アキラ 我妻 玲 <平成26年4月>		博士(運動生 化学)		身体運動の科学b	1後	2	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
97	兼任	講師	ナミ ヒデキ 南 英樹 <平成26年4月>		体育学修士※		スポーツ文化論 健康運動実習a 健康運動実習b	1前 1前・後 1前・後	2 2 2	2 2 2	1 2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成18年4月)	
98	兼任	講師	カワガ ミホ 河田 美保 <平成26年4月>		修士 (体育学)		健康運動実習b 基礎スポーツ実習c ヘルスプロモーション実践実習a ヘルスプロモーション実践実習b	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2	2 2 2 2	2 2 2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成19年4月)	
99	兼任	講師	タカハシ エイイチ 高橋 英一 <平成26年4月>		体育学士		基礎スポーツ実習a 基礎スポーツ実習b	1前・後 1前・後	2 2	2 2	2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成24年4月)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の 職務に 従事する 週当たり 平均日数
100	兼任	講師	ススキジュン 鈴木 淳也 <平成26年4月>		修士 (教育学)		基礎実習c 応用科学実習	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	1 1 6 2 2	1 1 6 2 2	1 1 6 2 2	実践女子大学 兼任講師 (平成22年4月)	
101	兼任	講師	カハラ タカ 笠原 武子 <平成26年4月>		体育学士		基礎実習d	1前・後 1前・後	1 1	1 1	1 1	筑波大学附属 桐が丘養護学校 (平成19.3まで)	
102	兼任	講師	シヲ ミ 白尾 美佳 <平成26年4月>		博士(医学)		家庭経営a(食生活)	1前	2	1	1	実践女子短期大学 教授 (平成21年4月)	
103	兼任	講師	ヨシムラ ムミ 吉村 真由美 <平成26年4月>		博士(学術)		家庭経営b(衣環境) 衣服製作実習b	1前 3後	2 1	1 1	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成25年4月)	
104	兼任	講師	マツダ リコ 松田 典子 <平成26年4月>		修士(家政 学)		家庭経営c(育児・介 護) 家庭経営論	1後 1後	2 2	1 1	1 1	文教大学 教育学部 専任講師 (平成25年4月)	
105	兼任	講師	オオハシ リアキ 大場 紀章 <平成26年4月>		修士(理学)		自立生活論c(安全と保 障)	2・3後	2	2	1	(株)テクノバ 調査研究部 研究員	
106	兼任	講師	タノグチ コウジ 谷口 浩二 <平成26年4月>		MBA		環境マーケティング論b 環境マーケティング論演習b 社会責任論 ビジネス・スキルa ビジネス・スキルb 企業研究a 企業研究b	2・3前 2・3後 2・3後 2前 2後 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成23年4月)	
107	兼任	講師	ナカムラ リツコ 中村 立子 <平成26年4月>		工学博士		衣料学 衣料学演習	2前 2後	2 2	2 2	1 1	実践女子大学 兼任講師 (平成18年4月)	
108	兼任	講師	マツオカ クミコ 松岡 久美子 <平成26年4月>		修士(家政 学)		衣服製作実習a	3前	1	1	1	実践女子大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
109	兼任	講師	フジムラ アキコ 藤村 明子 <平成26年4月>		修士(家政 学)		衣服製作実習c	3後	2	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成16年4月)	
110	兼任	講師	ゴトリ カツヲ 後藤 桂子 <平成26年4月>		看護学修士		看護学	2前・後	4	4	2	埼玉県立大学 保健医療福祉学部 准教授 (平成25年4月)	
111	兼任	講師	カアゲ ヒサコ 攪上 久子 <平成26年4月>		家政学士		保育学	2前	4	4	2	実践女子大学 兼任講師 (平成22年4月)	
112	兼任	講師	オノエ マサキ 尾上 正行 <平成26年4月>		工学士		家庭工学	2前・後	2	2	1	実践女子大学 兼任講師 (平成22年4月)	